

佐賀市文化財調査報告書第49集

む た より
牟 田 寄 遺 跡

平成5年3月

佐賀市教育委員会



E 2 区 貝層周辺 No 1 トレンチ設定状況



E 3 区 343



E 3 区 354



E 3 区 434



E 3 区 354



E 3 区 203



E 3 区 206

発刊にあたって

兵庫地区の農業基盤整備事業は平成元年に開始され、本年度で4年目をむかえます。この地区の農業基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成元年の牟田寄遺跡（A～D地区）の調査に始まり、今年度までに瓦町遺跡・千住遺跡・牟田寄遺跡（F地区）を調査しました。

本書は、平成3年度に発掘調査を実施した牟田寄遺跡（E地区）の調査報告書です。調査の結果、弥生時代後期から中世にかけての遺物遺構を検出しました。今回の調査では弥生時代後期の掘立柱建物群が注目されるものと思われます。この建築物の柱穴は、まず葦状の植物を敷きつめ、その上に割り込みを入れた横木を置き、柱を立てています。佐賀平野南部域の軟弱地盤を克服するための先人の知恵であります。佐賀市域南部では原始・古代の建物はその調査例が無く、近接する千代田町・諸富町にもほとんどその例を見ません。今回の調査は市域南部における原始・古代建築物の研究の緒についたものと位置付けられます。

今回の調査で得られた貴重な資料を市民の皆さんの歴史学習や考古学の研究資料として有効に活用していく所存です。

最後になりましたが、調査に御指導・御協力いただきました、佐賀県教育委員会、佐賀県農林部、佐賀市土地改良課、兵庫土地改良区や地元のみなさんに深く感謝するしだいです。

平成5年3月

佐賀市教育委員会
教育長 野 口 健

例 言

1. 本書は農業基盤整備事業に伴い平成3年度に発掘調査を実施した牟田寄遺跡（E地区）の発掘調査報告書である。
2. 調査は国庫補助金、佐賀県委託金を受けて佐賀市教育委員会が実施した。
3. 調査地の所在及び規模などは以下のとおり。

遺跡登録番号	2094・3110・4030	遺 跡 略 号	MTY-E 1～3
調 査 地	佐賀市兵庫町大字瓦町字牟田寄	開 発 面 積	26,000m ²
調査対象面積	4,875m ²	調査実施面積	4,875m ²
遺跡調査番号	9108	調 査 期 間	平成3年6月24日～平成3年12月26日

4. 発掘作業・整理作業・報告書作成の分担は次の通り。

表土除去 山豊建設株式会社
空中写真 有限会社 空中写真企画
遺構実測 (有)若楠測量設計
福田義彦・松永清子
遺構写真 福田義彦
遺物写真 福田義彦
遺物復元 吉田典子・横尾ますよ・式町幸子・新郷クニ子
遺物実測 横尾ますよ・式町幸子・新郷クニ子・島京子・前山光子
製 図 島京子・前山光子

5. 調査記録及び出土遺物は、佐賀市文化財資料館（本庄町大字本庄1121番地）で一括保管している。巻末の収蔵品目録を参照されたい。
6. 本書の執筆はIV-5を前田、他は福田が担当した。編集は福田が行った。

本文目次

	ページ
I. 序 説	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査の組織	1
II. 遺跡の位置と環境	2
1. 遺跡の位置	2
2. 歴史的環境	2
III. 調査の概要	4
IV. 牟田寄遺跡の記録	6
1. 弥生時代の遺物と遺構	6
(1)土壌	6
(2)井戸	20
(3)掘立柱建物	37
(4)溝	49
(5)その他の遺物	59
2. 古墳時代の遺物と遺構	61
(1)土壌	61
(2)掘立柱建物	62
(3)その他の出土遺物	67
3. 奈良～平安時代の遺物と遺構	68
(1)井戸	68
(2)土壌	70
4. 中世の遺物と遺構	75
(1)井戸	75
(2)土壌	77
5. 貝層付近の調査	79
6. 小結	101

挿図目次

	ページ				
Fig. 1	遺跡分布図	3	Fig. 31	SE021井戸出土遺物実測図(2)	27
Fig. 2	遺跡周辺見取り図	5	Fig. 32	SE028井戸実測図	28
Fig. 3	SK001土壌実測図	6	Fig. 33	SE028井戸出土遺物実測図(1)	29
Fig. 4	SK001土壌出土遺物実測図(1)	8	Fig. 34	SE028井戸出土遺物実測図(2)	30
Fig. 5	SK001土壌出土遺物実測図(2)	9	Fig. 35	SE034井戸実測図	31
Fig. 6	SK001土壌出土遺物実測図(3)	10	Fig. 36	SE034井戸出土遺物実測図(1)	32
Fig. 7	SK004・5土壌実測図	11	Fig. 37	SE034井戸出土遺物実測図(2)	33
Fig. 8	SK004・5土壌出土遺物実測図	11	Fig. 38	SE240井戸実測図	34
Fig. 9	SK017土壌実測図	12	Fig. 39	SE240井戸出土遺物実測図	35
Fig. 10	SK017土壌出土遺物実測図	12	Fig. 40	SE335井戸実測図	36
Fig. 11	SK018土壌実測図	12	Fig. 41	SE335井戸出土遺物実測図	36
Fig. 12	SK018土壌出土遺物実測図	12	Fig. 42	横木模式図	37
Fig. 13	SK318土壌実測図	13	Fig. 43	柱穴模式図	37
Fig. 14	SK318土壌出土遺物実測図	13	Fig. 44	E2柱穴群配置図	38
Fig. 15	SK321土壌実測図	13	Fig. 45	E3柱穴群配置図	39
Fig. 16	SK321土壌出土遺物実測図	14	Fig. 46	SB401掘立柱建物	39
Fig. 17	SK333土壌実測図	15	Fig. 47	SB402掘立柱建物	40
Fig. 18	SK333土壌出土遺物実測図	16	Fig. 48	SB403掘立柱建物	40
Fig. 19	SK334土壌実測図	16	Fig. 49	柱穴個別実測図(1)	42
Fig. 20	SK334土壌出土遺物実測図	17	Fig. 50	柱穴個別実測図(2)	43
Fig. 21	SK344土壌実測図	18	Fig. 51	柱穴個別実測図(3)	44
Fig. 22	SK344土壌出土遺物実測図	19	Fig. 52	柱穴個別実測図(4)	45
Fig. 23	SE003井戸実測図	20	Fig. 53	横木実測図	46
Fig. 24	SE003井戸出土遺物実測図(1)	21	Fig. 54	柱穴群出土遺物実測図(1)	48
Fig. 25	SE003井戸出土遺物実測図(2)	22	Fig. 55	柱穴群出土遺物実測図(2)	48
Fig. 26	SE016井戸実測図	23	Fig. 56	SD041溝出土遺物実測図	49
Fig. 27	SE016井戸出土遺物実測図(1)	24	Fig. 57	SD046溝出土遺物実測図	50
Fig. 28	SE016井戸出土遺物実測図(2)	25	Fig. 58	SD241溝出土遺物実測図(1)	50
Fig. 29	SE021井戸実測図	26	Fig. 59	SD241溝出土遺物実測図(2)	52
Fig. 30	SE021井戸出土遺物実測図(1)	26	Fig. 60	SD241溝出土遺物実測図(3)	53
			Fig. 61	SD322溝出土遺物実測図	55

Fig. 62	SD340溝出土遺物実測図	56	Fig. 93	SE309井戸実測図	76
Fig. 63	SD341溝出土遺物実測図	56	Fig. 94	SE309井戸出土遺物実測図	76
Fig. 64	SD032溝出土遺物実測図	57	Fig. 95	SE356井戸実測図	76
Fig. 65	SD045溝出土遺物実測図	57	Fig. 96	SE356井戸出土遺物実測図	76
Fig. 66	遺構検出面出土遺物実測図(1)	58	Fig. 97	SK342土壙出土遺物実測図	77
Fig. 67	埋土下層・遺構検出面出土遺物実測図(2)	60	Fig. 98	SX 円形周溝状遺構実測図	78
Fig. 68	SK338土壙実測図	61	Fig. 99	牟田寄遺跡調査区位置図	79
Fig. 69	SK338土壙出土遺物実測図	62	Fig. 100	貝層付近見取図	80
Fig. 70	SB014掘立柱建物実測図	63	Fig. 101	E2区貝層付近土層図	81
Fig. 71	SB359掘立柱建物実測図	64	Fig. 102	貝層付近 NO. 1 トレンチ検出遺物実測図(1)	82
Fig. 72	SB360掘立柱建物実測図	65	Fig. 103	貝層付近 NO. 1 トレンチ検出遺物実測図(2)	84
Fig. 73	SB361掘立柱建物実測図	66	Fig. 104	貝層付近 NO. 1 トレンチ検出遺物実測図(3)	85
Fig. 74	SB362掘立柱建物出土遺物実測図	67	Fig. 105	貝層付近 NO. 1 トレンチ検出遺物実測図(4)	86
Fig. 75	遺構検出面出土遺物実測図	67	Fig. 106	貝層付近 NO. 2 トレンチ検出遺物実測図(1)	87
Fig. 76	SE307井戸実測図	69	Fig. 107	貝層付近 NO. 2 トレンチ検出遺物実測図(2)	88
Fig. 77	SE307井戸出土遺物実測図	69	Fig. 108	貝層付近 NO. 3 トレンチ検出遺物実測図(1)	90
Fig. 78	SE310井戸実測図	69	Fig. 109	貝層付近 NO. 3 トレンチ検出遺物実測図(2)	91
Fig. 79	SE310井戸出土遺物実測図	69	Fig. 110	貝層 1 区検出遺物実測図	93
Fig. 80	SE311井戸実測図	70	Fig. 111	貝層 2 区検出遺物実測図	94
Fig. 81	SE311井戸出土遺物実測図	70	Fig. 112	貝層 3 区検出遺物実測図	95
Fig. 82	SK317土壙実測図	70	Fig. 113	貝層 4 区検出遺物実測図	97
Fig. 83	SK317土壙出土遺物実測図	71	Fig. 114	貝層 4 区南検出遺物実測	99
Fig. 84	SK320土壙実測図	72	Fig. 115	牟田寄遺跡遺構配置図(1)	103
Fig. 85	SK320土壙出土遺物実測図	72	Fig. 116	牟田寄遺跡遺構配置図(2)	104
Fig. 86	SK323土壙実測図	73	Fig. 117	牟田寄遺跡遺構配置図(3)	105
Fig. 87	SK323土壙出土遺物実測図	73			
Fig. 88	SE302井戸実測図	74			
Fig. 89	SE302井戸出土遺物実測図	74			
Fig. 90	SD302溝出土遺物実測図	74			
Fig. 91	SE301井戸実測図	75			
Fig. 92	SE301井戸出土遺物実測図	75			

凡 例

1. 遺構については略号を用いる。調査区毎に重複しない番号をつけ、番号の前に遺構分類記号をつけた。分類は以下のとおり。

S B：掘立柱建物	S D：溝	S E：井戸	S K：土壇
P：柱穴	S X：不明遺構		

2. 原則として、遺構の測定値はm単位、遺物のそれはcm単位とした。
3. 表示した方位は、すべて座標化（G，N）である。
4. 土器類の実測図のうち、須恵器断面は黒ヌキ、その他は白ヌキとした。
5. 出土遺物の保存状況の表現は、『完存』を破損の認められないものとし、『完形』を破片の復元によって完形状態になるものとした。
6. 原則として、遺物の実測図は縮尺1／4としている。
7. 遺物写真は、目録番号―挿図内連番号を入れ、実測図と対照できるようにした。

1. 調査に至る経過

I. 序 説

1. 調査に至る経過

平成3年度の兵庫南部地区における県営干拓地等農地整備事業は26haが計画され、同地区に県営幹線排水事業・焼原川河川改修事業も併せて計画されていた。これに先立ち、平成2年11月に埋蔵文化財の確認調査を実施した。調査は掘削計画にある水路部分を中心に行なった。試掘抗は基本的には掘削機で設定し、掘削機搬入不可箇所は人力によった。この調査の結果96,837㎡の範囲で遺跡を確認した。この調査結果を基に佐賀県農林部、佐賀市土地改良課、兵庫南部地区土地改良区、佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会の5者で埋蔵文化財の保存について協議を行なった。その結果遺跡部分96,873㎡中、掘削計画にある23,000㎡を平成3年度に発掘調査を実施してくれるよう、開発部局から依頼があった。しかし、佐賀市教育委員会の調査体制ではこの調査面積を消化できないので、事業計画の変更を開発部局に申し入れた。その後開発部局の事業計画の見直しにより、本調査面積は9,095㎡となり、5者間で合意した。

発掘調査は県営干拓地等農地整備事業・県営幹線排水事業部分を平成3年6月から11月まで、焼原川河川改修事業部分を平成3年12月から平成4年3月まで実施する計画にあった。しかし、焼原川河川改修事業部分が所在する地区の地元調整が難航し、同事業が延期されることとなった。そのため、平成3年度の発掘調査面積は4,875㎡となった。

平成3年度の発掘調査地区をE地区とし、北からE1・E2・E3区と呼称した。発掘調査は平成3年7月15日から開始し12月27日に終了した。出土遺物の整理作業及び発掘調査報告書作成は佐賀市文化財資料館で行なった。

2. 調査の組織

	[平成3年度]	[平成4年度]
調査主体	佐賀市教育委員会	
事務局	教育委員会 文化課	事務局 教育委員会 文化課
文化課長	中野和彦	文化課長 中野和彦
文化係長	野口義通（庶務担当）	文化係長 野口義通（庶務担当）
事務吏員	甲木亮一（庶務担当）	事務吏員 増田耕輔（庶務担当）
文化財係長	福田義彦（試掘・調査担当）	文化財係長 福田義彦（報告書担当）
発掘作業員	松永清子、久富妙子、千住菊江、松永フジエ、柴田和子、武藤伝一、西村トメ子、福井桂子、深川房子、詫間正子、真崎イサコ、江口まさみ、篠木美枝子、後藤信子、伊東ノリ子、詫間テル子、吉浦末子、真崎章江、宮地安栄、伊東昌子、真崎明代、公門幹枝、田中広子、中島サツ子、井田英子、井田フミ子、古賀マサ、原口京子	
調査協力	地元各位、佐賀中部農林事務所、兵庫南部土地改良区、佐賀県教育委員会	

II. 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置

佐賀市は佐賀県の南東部に位置し、東は神埼・千代田・諸富町、西は大和町と接している。市の北部は脊振山地の山麓に接し、南は有明海の海岸線が1.6kmにわたる。筑後川や嘉瀬川の沖積作用により形成された佐賀平野の中心に位置する。このため市域南半の地盤は軟弱であり、有明海に面しては低平な干拓地が広がる。

牟田寄遺跡は佐賀市の東部にあって、平均標高3.5mを測る水田下に所在する。遺跡は牟田寄・千住集落間に広がっており、その中間に焼原川が南北に流れる。今次調査区は焼原川の東岸にあり南北に長い調査区を設定した。

2. 歴史的環境

佐賀市の遺跡分布状況を概観すれば、北部が高密度であり、南下するに従い遺跡は疎となる向にある。牟田寄遺跡の所在する兵庫町は、遺跡の分布が少ない市域南半の中では比較的遺跡密度は高い地域である。時期的には弥生時代以降の遺跡に限定される。

ここでは Fig. 1 内の地域を中心に周辺遺跡の概要を簡単に述べることにする。

牟田寄遺跡の広がりの中に牟田寄貝塚がある。佐賀県遺跡地図^{注1}にはその範囲を想定してあるが、今次調査結果から判断すれば検討の余地があるものとする。牟田寄遺跡の北部に接して千住遺跡がある。平成3年度の確認調査結果では弥生時代から中世に及ぶ遺物・遺構を検出した。また、遺跡北西1kmには瓦町遺跡^{注2}がある。弥生時代中期を中心とした集落遺跡の一部を平成2年度に発掘調査を実施した。貯蔵穴群・大溝等を検出し、そこから大量の弥生土器のほか鋤・鋏・杵等の木製品を得ることができた。このほか発掘調査は実施されていないが、(伝)阿弥陀寺跡^{注3}、(伝)光明寺跡^{注4}、殿野遺跡^{注5}、平尾遺跡^{注6}が隣接する。また、平成3年度の農業基盤整備事業に伴う埋蔵文化財確認調査では、牟田寄遺跡北方500mに中世から近世にかけてのものとして推定される忠兵衛屋敷遺跡を新たに発見した。同地区での新発見の遺跡は瓦町遺跡につづいて2件目である。今後の確認調査で遺跡はさらに増加して行くものとする。

注1 佐賀県教育委員会 昭和53年

注2 佐賀市教育委員会 佐賀市文化財調査報告書第41集 平成3年

注3～6 注1による。

1. 遺跡の位置

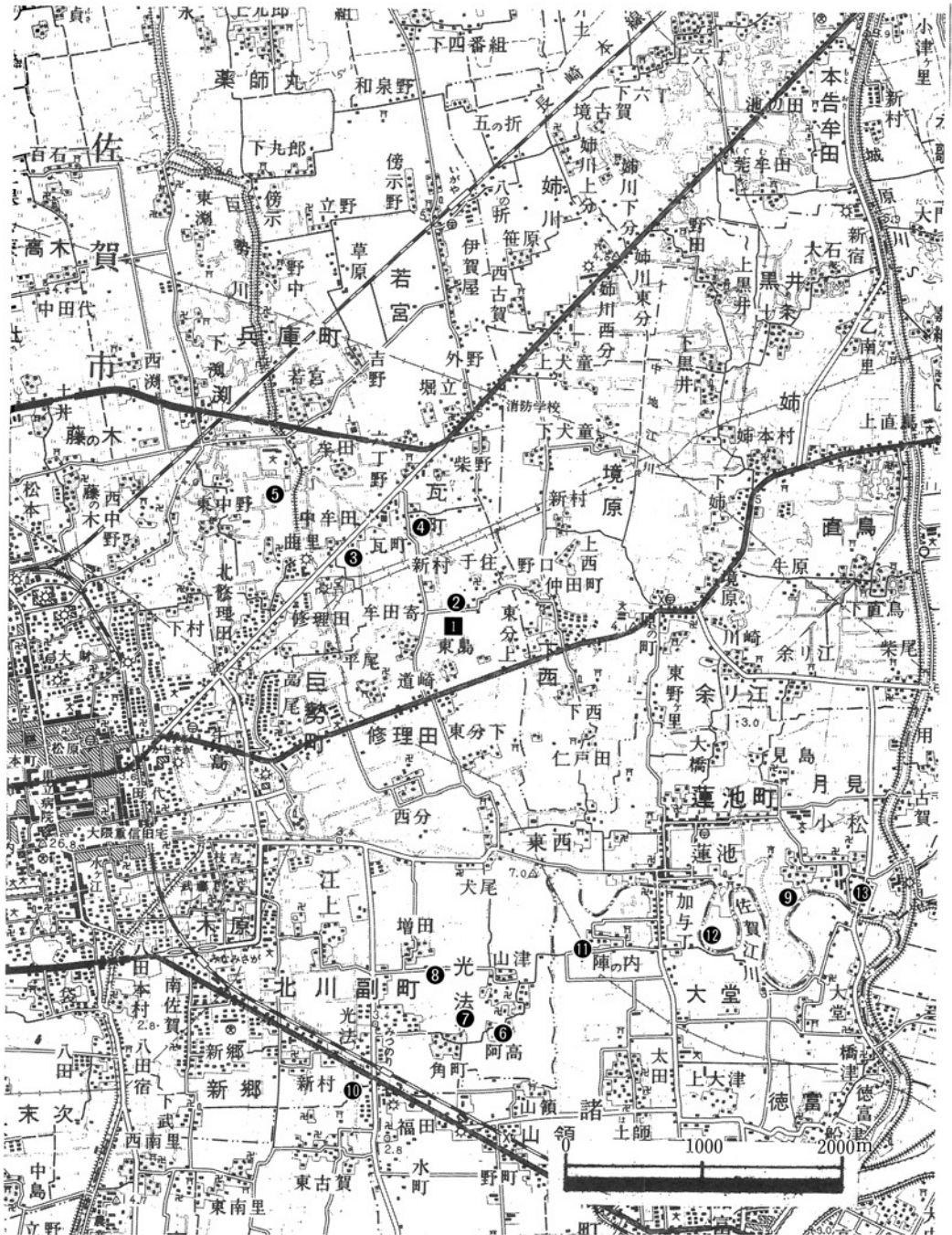


Fig. 1 遺跡分布図 (S = 1/50000)

- 牟田寄遺跡 ② 千住遺跡 ③ 瓦町遺跡 ④ 忠兵衛遺跡
- ⑤ 淵遺跡 ⑥ 阿高遺跡 ⑦ 寺裏遺跡 ⑧ 蓮池上天神遺跡
- ⑩ 観音遺跡 ⑪ 唐人廟遺跡 ⑫ 加与丁野村遺跡
- ⑬ 村中角遺跡

III. 調査の概要

1. 調査区の名称

牟田寄遺跡の発掘調査は平成元年度に3,000m²を対象に実施し、A～Dの調査区を設定している。本年度はE地区とし、その中で東西水路部分（県営干拓地等農地整備事業分）をE1区、南北水路部分（県営かん排事業分）を北半E2、南半E3区と細分した。

2. 調査の方法

発掘調査は、遺構上面の埋土除去作業から開始した。埋土除去及び運搬はバック・フォー、ブルドーザーの機械力によった。埋土除去はE1区から開始したが、進むにつれて遺構検出面までの深さが増し、排土を再度遠方に除去する必要が生じこの作業は難航した。

埋土除去後、人力による掘削作業及び記録作業に入った。この作業の開始時期が夏季であったためせっかく検出した遺構掘り込み面も乾燥のため不明瞭になることが多かった。これを防ぐため、1日の遺構検出作業分量程度の面積に散水しその上にビニールシートを掛け1～2日間水分を遺構検出面に馴染ませてから検出作業にかかった。この作業は一見冗長に思えるが、市域南部の粘土質地盤での遺構検出作業には非常に効果的であった。

遺構の記録方法は全体測量では国土座標第II系を基準として5m方眼の測量杭を設定した。この5m方眼の区画は遺構の記録保存の基本となるもので1/200の遺構略図、1/20の全体図の基準となり、また遺物取り上げの単位とした。方眼の名称は調査区東端部から東西方向にアルファベット、南北方向に算用数字を用いた。ただし、調査年度毎の任意のグリッド設定であるため、牟田寄遺跡全体を表すには不適であるので将来的には全地区共通となるよう再度呼称設定の必要があろう。

3. E地区の層序

この地区の基本土層は耕作土→茶褐色土→淡茶褐色土→淡黒褐色土となり基盤層（遺構検出面）に至る。遺構検出面までの深さは地点により若干の差異はあるが、概ね地表下60cmで遺構検出面に至る。遺構検出面はいわゆる黄色粘土系の地山ではなく、二次的な堆積層であり遺構埋土の色調によってはその掘り込み面の識別が困難であった部分もある。

4. 調査成果の概要

遺構は弥生時代後期後半のものが大半を占め、古墳時代以降のものは散見する程度であった。弥生時代のものには掘立柱建物・溝・土壇・井戸等がある。これらの中で掘立柱建物の柱穴については、柱穴内に樹皮又は草状繊維を敷きその上に刳込みを入れた横木を据えてあるものや大規模な掘り方を有するものの存在など新知見を得ることができた。また、E2区南端部にはアサリ・カキ等の貝層を検出した。これらの貝に混在して弥生時代後期から中世にかけての土器類を多数検出した。

1. 遺跡の位置

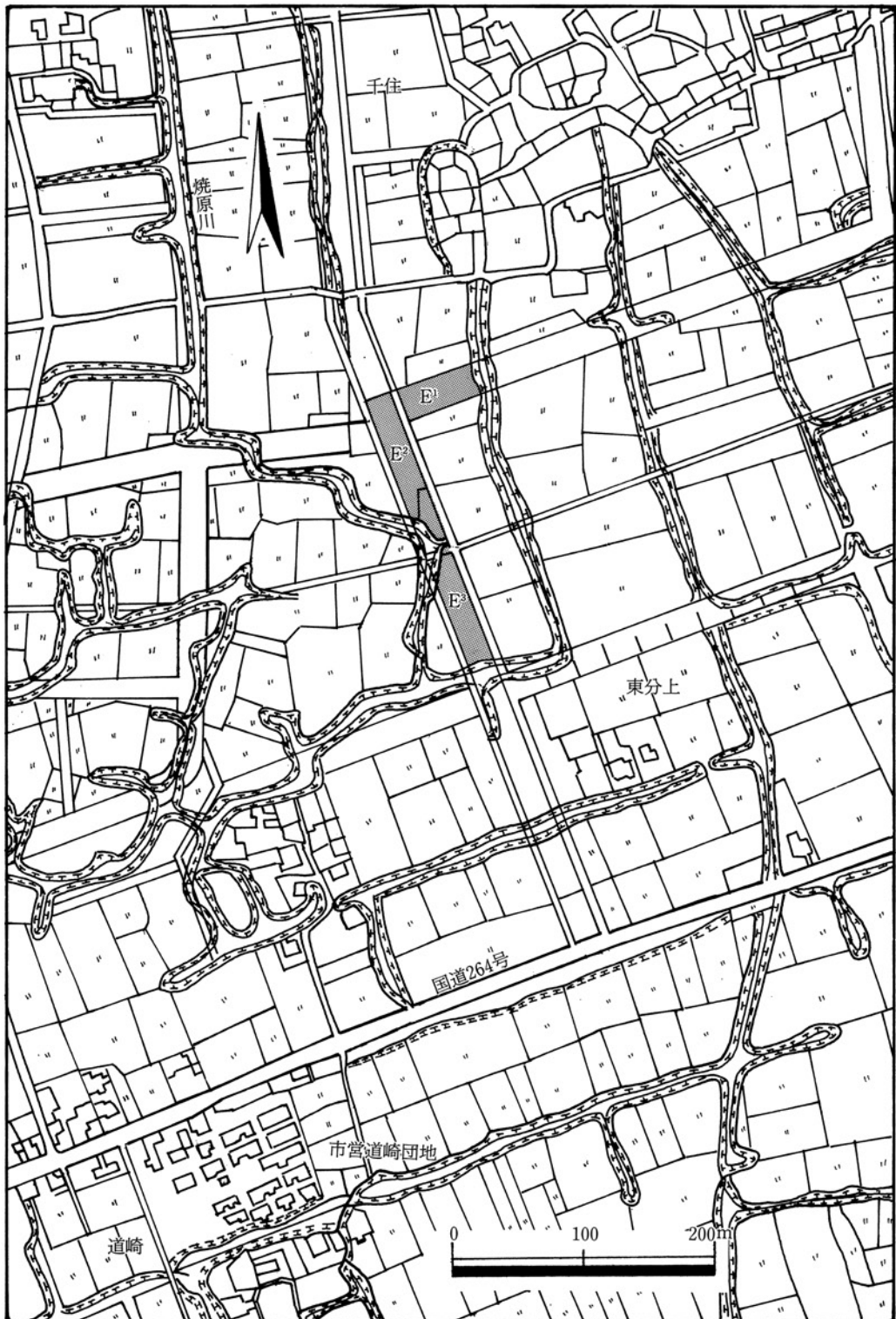


Fig. 2 遺跡周辺見取図 (S = 1/5000)

IV. 牟田寄遺跡の記録

1. 弥生時代の遺物と遺構

(1) 土壇と出土遺物

調査区全域で検出した。上面の平面形は、円形・隅丸長方形・不定型のものがある。この時期のもの埋土上層の色調は、茶褐色を基調とするものが多く、井戸埋土上層に見る黒褐色のものは少ない。井戸との識別はこの埋土色調・断面形態により判断したが、中には識別困難なものもあった。

S K 001土壇 (Fig. 3)

E 1区F～I・4～6グリッドにわたっている。上面の平面形は不定型を呈し、南端部が調査区外に及んでいる。遺構の切り会い関係は、S K 007・S E 020がこの遺構を切っていることは明確であったが、遺構内部にある小穴・土壇との新旧関係又はこの遺構に伴うかどうか明確にできなかった。掘り込み面で、東西8.85m、南北6.85m、深さは中心部で0.18mを測る。底

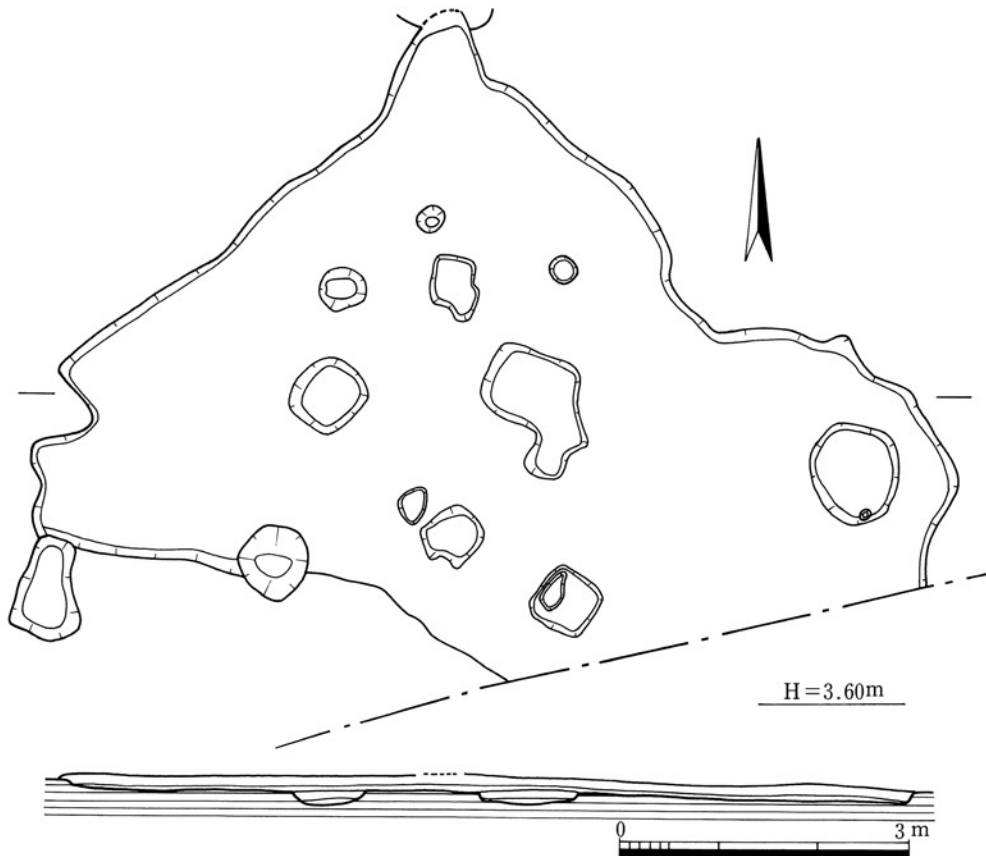


Fig. 3 S K 001土壇実測図 (S = 1/80)

1. 弥生時代の遺物と遺構

面は比較的平坦であり、壁はやや角度をもって立ち上がる。埋土は淡茶褐色土を基調とするものであり、検出当初は単なるレンズ状の窪みに堆積していったものとの判断で掘り進んで行ったが、比較的しっかりとした底面を検出するに至り、遺構と判断した。また、遺構中央部南端ではわずかではあるが、カーボンを観察した。

出土遺物には弥生土器（甕・高杯・鉢・器台）、石器（くぼみ石）、青銅製品（鋤先か）等がある。

S K 001土壌出土遺物(1) (Fig. 4)

1～3は高杯の杯部。1は口径31.6cm、残存器高8cmを測る。大きく外反する口縁をもつ。調整は内外面共ナデ・ハケ目を基調とする。口縁部外面のハケ目がやや内面のものに比べて細かい。2は口径32cm、残存器高8cm。1に比して体部が直線的にのび、口縁は角度をもって短く立ち上がる。調整は1同様であるが、内面のハケ目は観察できない。3は口径22.2cm、残存器高4.4cmを測る。口縁部は短く直線的に立ち上がり、口唇部上面は平坦になっている。4～7は高杯の脚部。裾部・残存器高はそれぞれ15・12.6cm、15.8・13cm、17.2・16cm、不明・14.8cmを測る。調整は4個体共摩耗が進んでおり、図化できないが概ねナデ・ハケ目を基調とするものである。8は台付き鉢。口径22cm、器高17.5cm、脚径12.6cmを測る。方量の割には器壁が厚い。体部は直線的にのび、口縁部は短く外反する。調整は主としてハケ目・ナデによる。全体的に摩耗が進んでいる。鉢部内面と脚部外面の一部に黒斑がある。9は鉢。口径12cm、残存器高8cm。摩耗が著しい。体部外面の一部に黒斑がある。10は壺の口縁部。口径14.8cm残存器高8.1cm。調整は主としてハケ目・ヨコナデ。

S K 001土壌出土遺物(2) (Fig. 5)

11・12は杵形器台。11で脚径11.6cm、器高9.5cm、上端部孔径2cm。調整は指頭圧・ナデによる。全体的に摩耗が進んでいる。12は脚径10cm、器高10cm、上端部孔径1.8cm。調整は11とほぼ同様。外面上端部と脚部の一部に黒斑がある。14は口径10.7cm、残存器高11cm。調整は摩耗のため明確ではないが、主として、ヨコナデ・ナデによる。口縁部内面をのぞいて黒斑部分が点在する。15は口径13.7cm、残存器高15cm。調整は口縁部内外面をヨコナデ、体部内面をナデ、外面をハケ目による。16は口径17.3cm、残存器高11.3cm。最大径を胴部に有するタイプ。調整は主としてナデ。内外面の一部に指頭圧痕が観察できる。17は口径15cm、残存器高12.3cm。頸部に一重の断面三角形の突帯を有する。全体的に摩耗が進んでいるが、主な調整はナデ、ヨコナデによる。18は口径17cm、残存器高13.7cm。17に比べやや胴が細くなるタイプか。調整はハケ目、ナデ、ヨコナデによる。19・20は甕の底部。19で底径77.4cm残存器高9.6cm。底面はわずかに上げ底気味になっている。調整はナデ・ヨコナデ・指頭圧による。外面は摩耗が進んでおり明確ではないが、わずかにハケ目が観察できる。20は底径7cm、残存器高5.3cm。調整は19と同様。摩耗が進んでいる。

IV. 牟田寄遺跡の記録

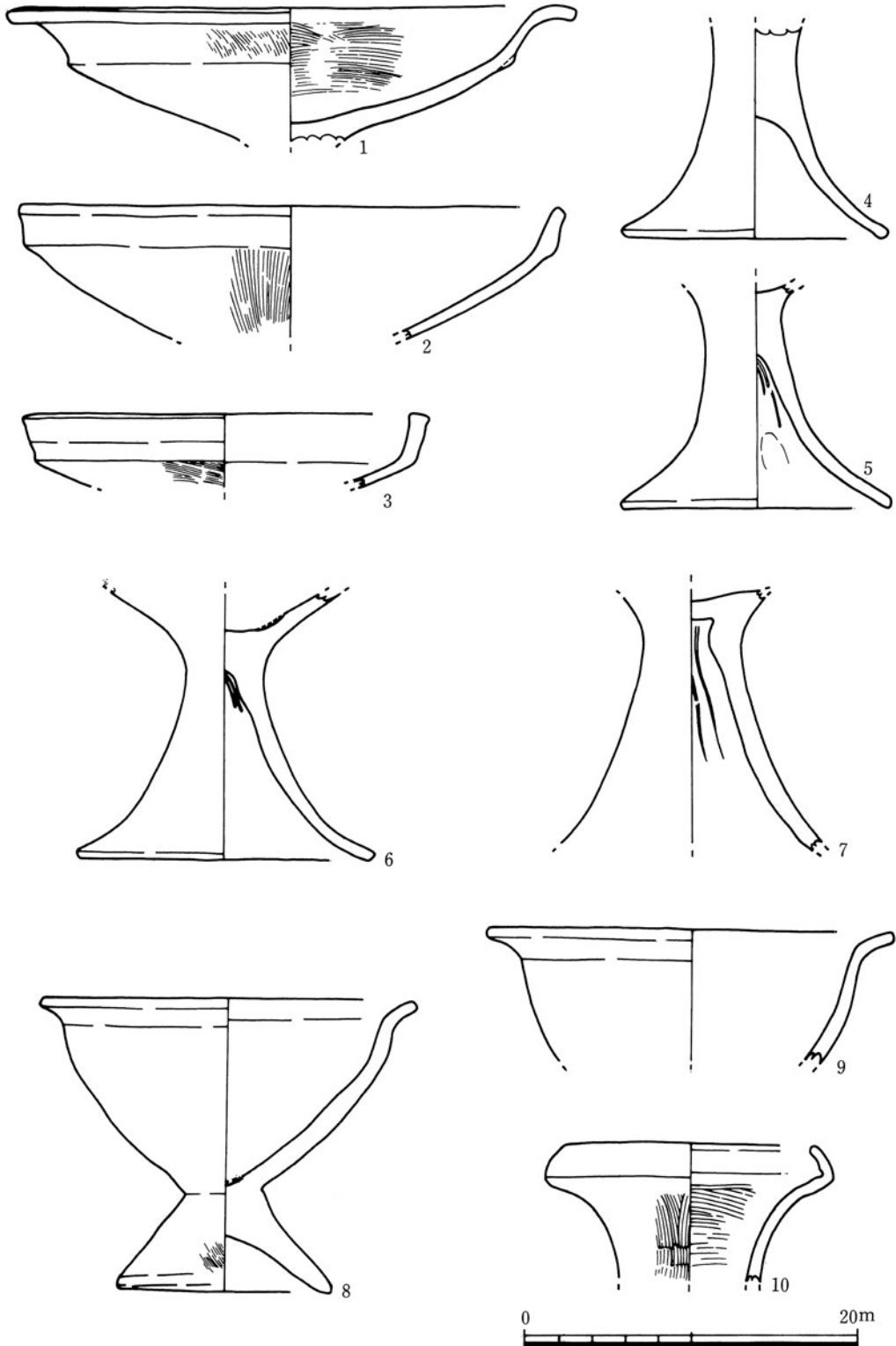


Fig. 4 S K001土壌出土遺物実測図 (S=1/4)(1)

1. 弥生時代の遺物と遺構

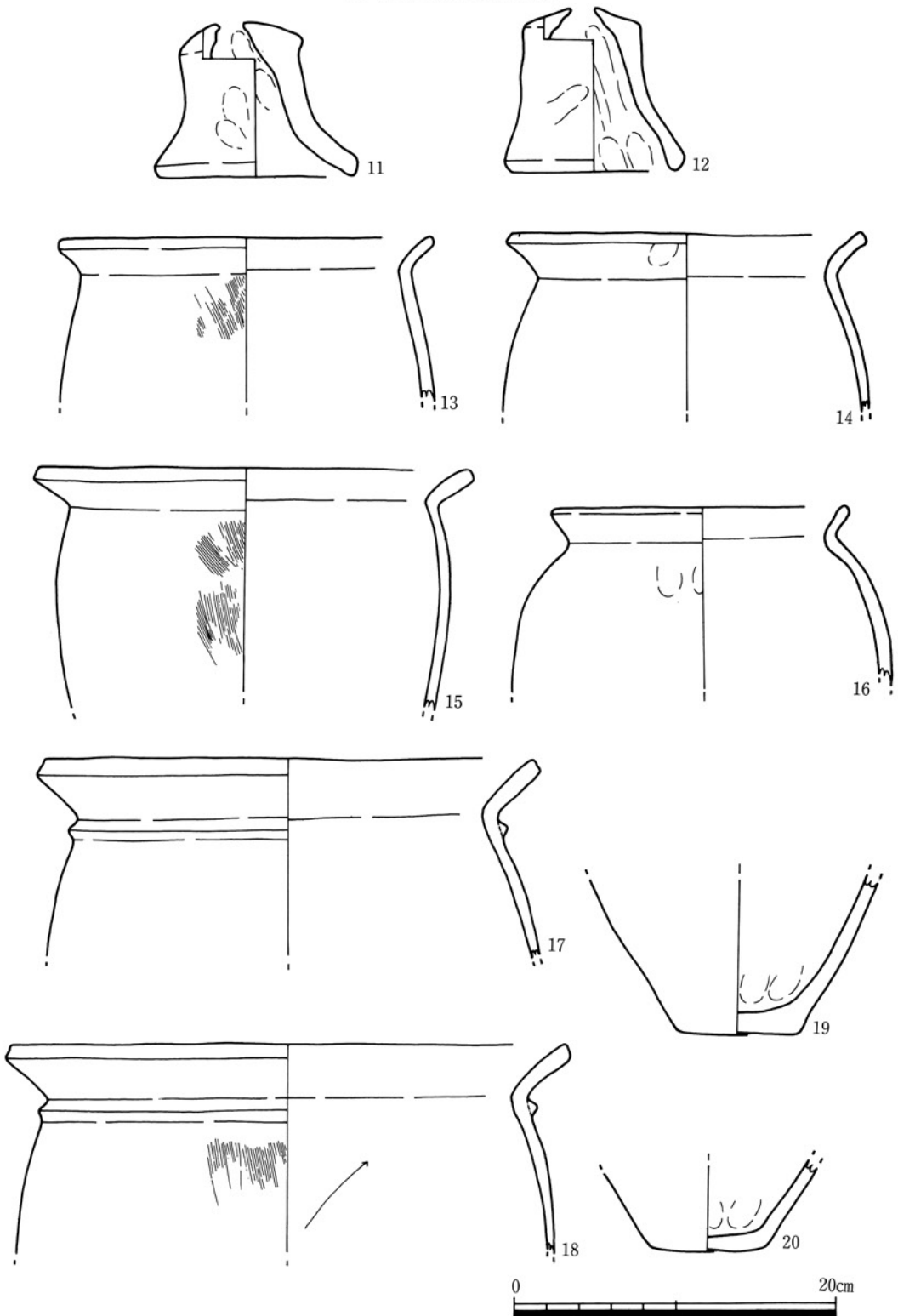


Fig. 5 S K001土壇出土遺物実測図 (S=1/4)(2)

IV. 牟田寄遺跡の記録

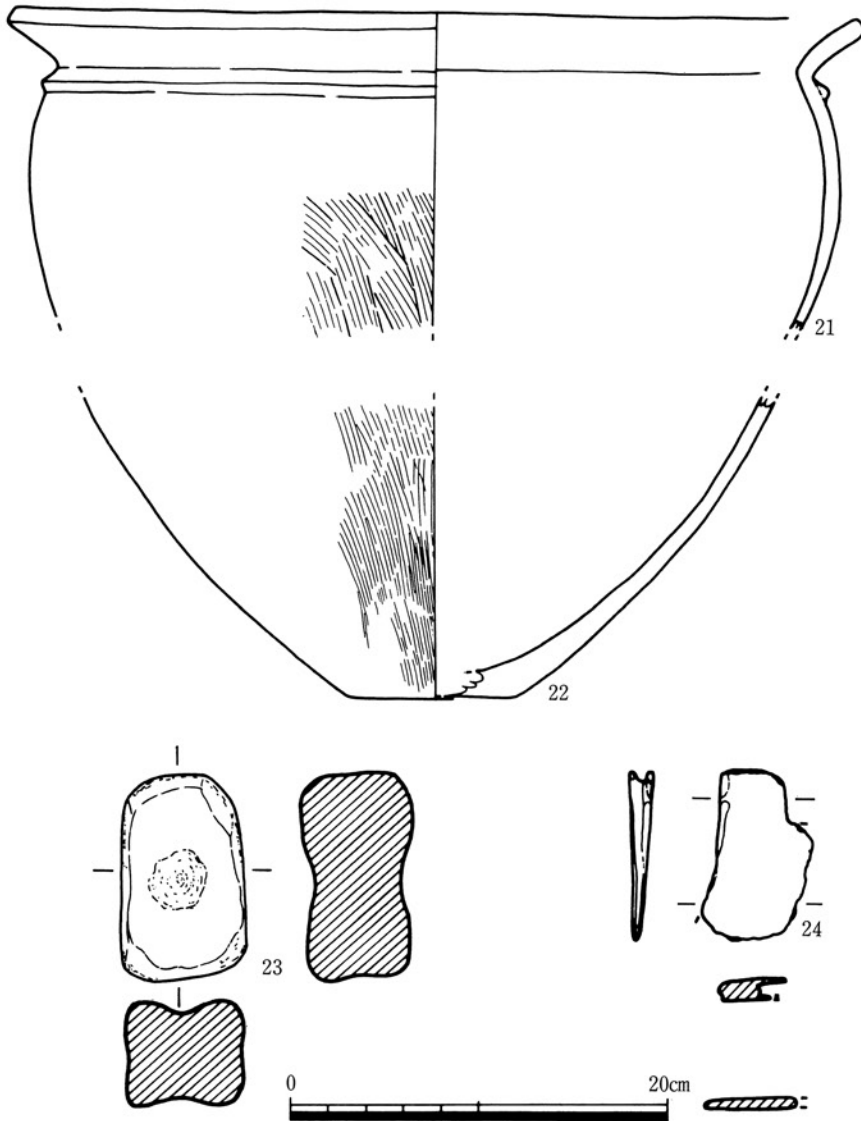


Fig. 6 S K 001土壙出土遺物実測図 (S = 1/4)(3)

S K 001土壙出土遺物(3) (Fig. 6)

21・22は甕。同一個体かどうかはその接点を得られなかったので不明であるが、調整や胎土・器形から考えて同一である可能性が高い。21で口径44.6cm、残存器高16.5cm、22で底径19cm、残存器高15.5cm。調整は21・22共ヨコナデ・ナデ・ハケ目による。双方とも外面の一部に黒斑部分がある。23はいわゆるくぼみ石。最大長10.8cm、最大幅6.6cm、最大厚5.5cmを測る。4面を使用している。24は青銅製品。鋤先か。最大長8.9cm、最大幅5cm、最大厚1.1cm。形状から見て約半分を失欠している。刃部の先端部は残存していない。前面に緑青を帯びている。

1. 弥生時代の遺物と遺構

S K 004・005土壙 (Fig. 7)

E-4グリッドに所在する。S K 004がS K 005を切っている。S K 004は上面の平面形が隅丸長方形を呈し、長軸方向は東西を示す。中心部で東西0.586m、南北0.65m、深さ0.34mを測る。底面は概ね平坦であるが、西半部が僅かに低くなっている。壁は四方共比較的角度をもって立ち上がる。埋土は3層に分層できる。上部から黒褐色土・淡黒色土・黄褐色粘土からなっている。出土遺物は弥生土器を少量検出したが完存するのは図中にある鉢のみである。

S K 005は中心部で東西0.83m、南北1.05m（推定値）、深さ0.35mを測る。底面は小さな起伏があり、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。埋土は淡黒褐色土を基調とするものである。出土遺物は弥生土器を少量検出したが、何れも細片であり図化できなかった。

S K 004土壙出土遺物 (Fig. 8)

25は弥生土器の鉢。口径21.1cm、器高11.8cm、底径6.6cm。底部は平底様を呈するが、わずかに丸味を帯びる。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部で大きく外反する。調整はヨコナデ・ナデ・ハケ目による。全体的に摩耗が進んでいる。外面胴部の一部に黒斑部分がある。

S K 017土壙 (Fig. 9)

F-4・5グリッドにある。上面の平面形はカギ型を呈するが、底面の状況から判断すると北側の突出部は別遺構の可能性が高い。また、東南隅にも別遺構との切りあいの痕跡がわずかに見られたが明確にはできなかった。掘り込み面での遺構切り合い関係は明確にできなかった。中心部で南北2.08m、東西1.32m、深さ0.46mを測る。底面は僅かに舟底様を呈する。壁は四方共角度をもって立ち上がる。

埋土は4層に大別でき、上層から淡黒褐色・淡黄褐色・淡茶褐色・淡黄灰色となっている。出土遺物は弥生土器を少量検出したが細片が多い。

S K 017土壙出土遺物 (Fig. 10)

26は鉢。口径17.9cm、器高7.9cm、底径4.4cmを測る。底部は丸味を僅かに帯びるものの概ね平底。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がり、口縁部は短く外反する。調整は摩耗が器面全

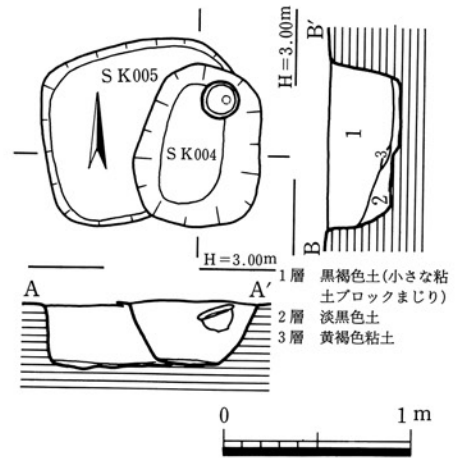


Fig. 7 S K 004・S K 005土壙実測図 (S=1/4)

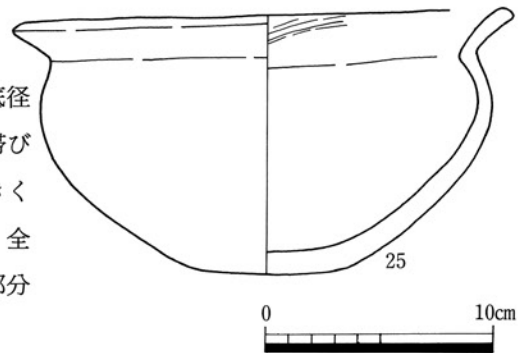


Fig. 8 S K 004土壙出土遺物実測図 (S=1/4)

IV. 牟田寄遺跡の記録

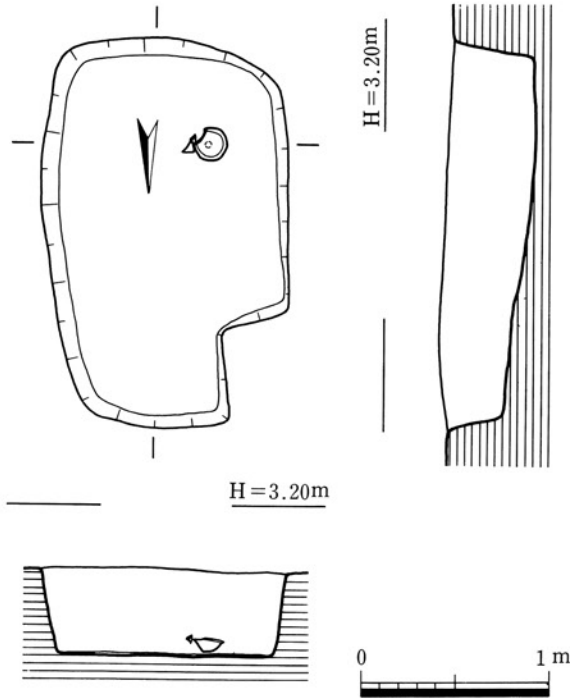


Fig. 9 SK017土坑実測図 (S=1/40)

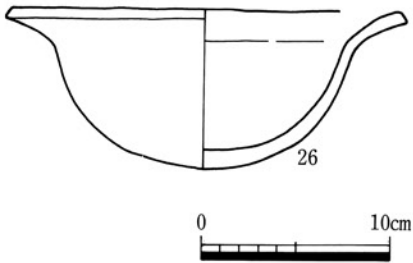


Fig. 10 SK017土坑出土遺物実測図 (S=1/4)

体に及び不明。残存状況は90%程度。

SK018土坑 (Fig. 11)

E-4グリッドにある。上面の平面形は不定型を呈するが、別遺構2基と切り合っている。切り合い関係は明確にはできなかった。遺構本体の方量は中心部で、東西1.05m、南北1.1m、深さ0.63mを測る。底面は緩やかな起伏がある。壁は角度をもって立ち上がる。埋土は3層に大別でき、上層から淡黒褐色・淡茶褐色・灰褐色となっている。出土遺物は弥生土器を少量検出した。図中にある鉢は2層からの検出である。

SK018土坑出土遺物 (Fig. 12)

27は鉢。口径20.2cm、器高8.4cm。底部は丸底。体部は緩やかに湾曲しながら立ち上がり、口

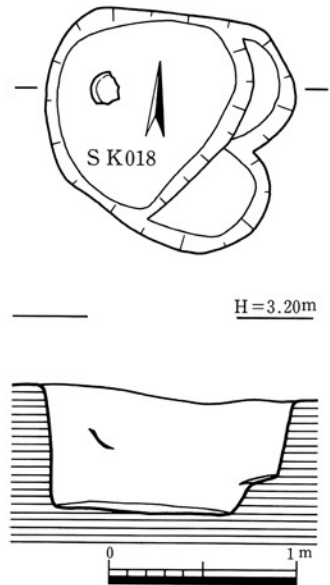


Fig. 11 SK018土坑実測図 (S=1/40)

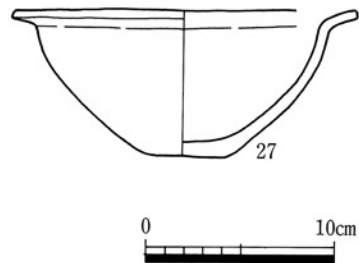


Fig. 12 SK018土坑出土遺物実測図 (S=1/4)

1. 弥生時代の遺物と遺構

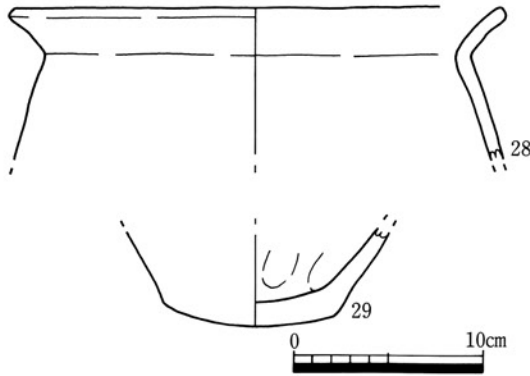


Fig. 14 S K 318土壙出土遺物実測図 (S = 1/4)

縁部は外反する。色調は明褐色を基調とし、一部橙褐色を呈する。また、口縁部内面に黒斑がある。調整は全体的に摩耗が進んでいるため図化できなかつたが、僅かにヨコナデが観察できる。

S K 318土壙 (Fig. 13)

G-35グリッドにある。上面の平面形は楕円形を基調とするが、ややいびつ。別遺構との切り合い関係を有し、当遺構が新。中心部で東西0.83m、南北0.75m、深さ0.95mを測る。底面は僅かに舟底状を呈し、壁は四方ともほとんど垂直に立ち上がる。

埋土は2層に大別でき、上層が茶褐色、下層が灰褐色を呈する。出土遺物は弥生土器を少量検出した。図化できるのは図中にあるもののみ。

S K 318土壙出土遺物 (Fig. 14)

28・29は甕。28で口径25.5cm、残存器高8cm。体部は直線的にのび、口縁部は短く外反する。調整は器面全体摩耗が進んでいるため明確ではないが、僅かにヨコナデが観察できる。体部外面の一部に炭化物が付着している。29は甕の底部。底径9.8cm、残存器高5cm。底部は丸味を帯びた平底。調整は主としてナデ・ハケ目・指頭圧による。

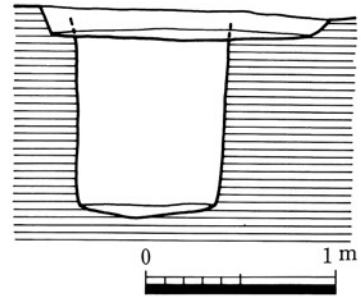
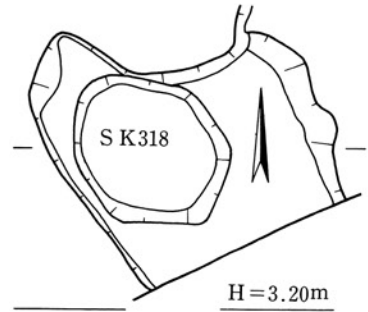


Fig. 13 S K 318土壙実測図 (S = 1/40)

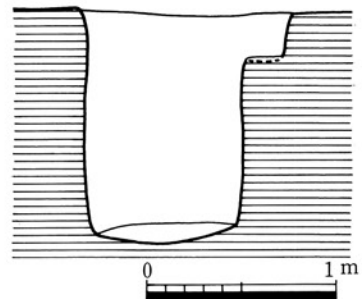
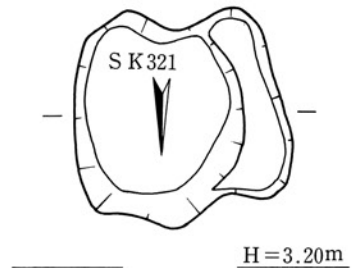
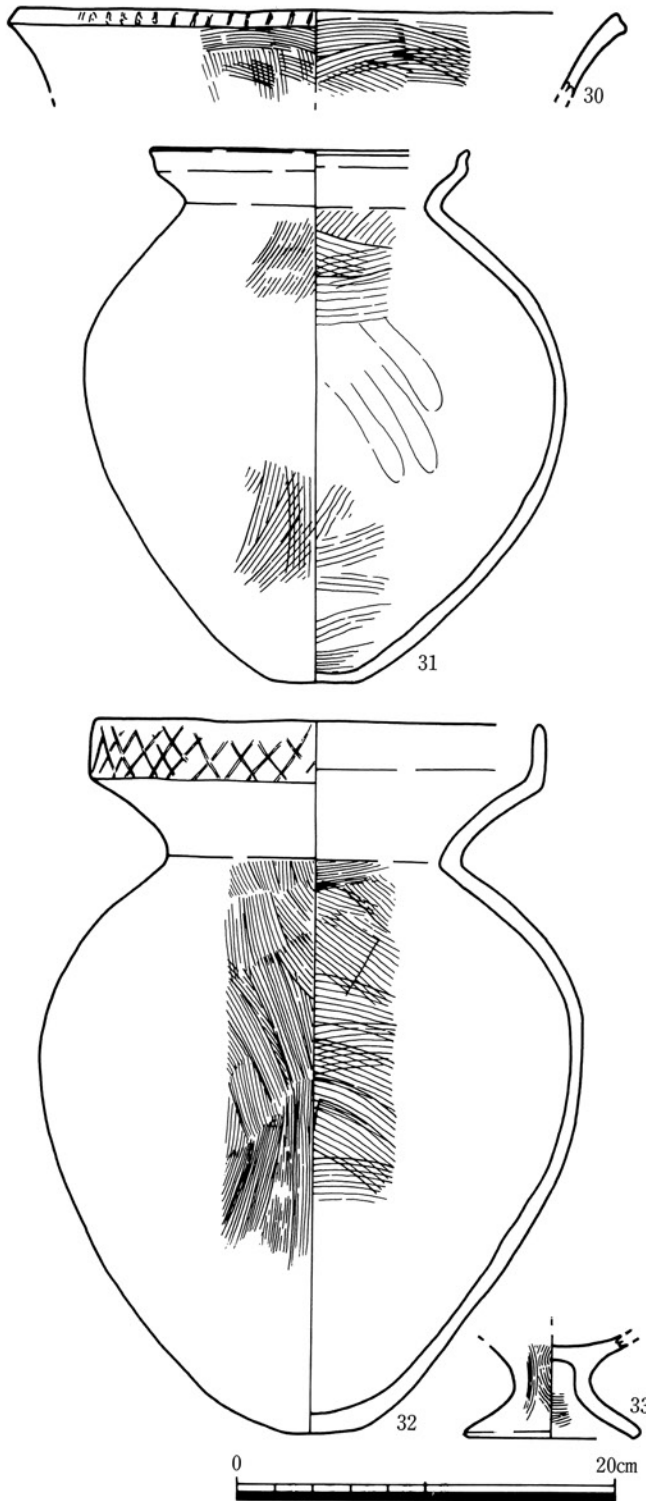


Fig. 15 S K 321土壙実測図 (S = 1/40)



S K 321土壙 (Fig. 15)

F-33グリッドにある。上面の平面形は不定型を呈する。東側にある細長いテラス状の部分は他遺構との切り合いの可能性もあるが、上面では明確にできなかった。中心部で東西1.13m、南北1.15m、深さ1.23mを測る。底面は舟底状を呈し壁は垂直に近い角度で立ち上がる。断面の形態からすると井戸の可能性もあるがやや浅い。

埋土は3層に大別でき、上層から淡黒褐色・淡褐色・灰褐色を呈する。出土遺物には甕・壺等がある。

S K 321土壙出土遺物 (Fig. 16)

30は甕の口縁部か。口径29.4cm、残存器高4.3cm。口唇部外面には刺突文があり一周する。調整は外面が立て方向のハケのあと単位の細かい横方向のハケ目、内面が粗い横方向のハケ目が施されている。31は二重口縁の壺。口径16.4cm、器高28.2cm、底径3.7cm。底部は丸味を帯びた平底。体部は内湾しながら立ち上がり口縁部に至る。口縁部は僅か

Fig. 16 S K 321土壙出土遺物実測図 (S=1/4)

1. 弥生時代の遺物と遺構

に外反いながら立ち上がり、短い口唇部に至る。調整は上部から、外面がヨコナデ・ナデ・ハケ目、内面がヨコナデ・ハケ目・指頭による強いナデ・ハケ目となっている。32も壺。口径23.2cm、器高37.6cm。底部は僅かに平坦な部分を確認できるが丸底の範疇に入るものとする。底部はやや厚い器壁を持ち、体部は内湾しながら立ち上がり、頸部へと至る。口縁部は直立気味で口唇部は丸味を帯びる。調整は口縁部外面にヘラ状工具による文様、頸部がナデ、胴部は縦方向のハケ目・ナデ、内面は口縁部はヨコナデ、頸部はナデ、胴部は横方向のハケ目・ナデ・指頭による強いナデとなっている。33は鉢か甕の台。脚径8.7cm、残存器高5.4cm。調整は主としてナデ・ヨコナデ・ハケ目による。

S K 333土壌 (Fig. 17)

G-30グリッドにある。上面の平面形は南北に長い楕円形を基調とする。中心部で南北1.17m、東西0.93m、深さ1.6mを測る。この遺構のこの遺構の断面形態からだけ判断すると井戸と考えられるが、Fig. 17にあるように植物繊維が層をなしており、井戸とは違う用途であった可能性が考えられたので土壌とした。底面は僅かに舟底状を呈し、壁はやや湾曲しながら垂直に近い角度で立ち上がる。

S K 333土壌出土遺物 (Fig. 18)

34~37は鉢。34は手捏の鉢。口径6.2cm、器高4.6cm、底径5.3cm。器壁が厚く、口唇部は丸味を帯びる。調整は指頭圧とハケによっている。35は口径12.6cm、器高6.6cm。底部は丸底。調整は外面がナデ・ヘラ状工具によるナデ、内面がナデ・ハケ目となっている。36は口径10cm、器

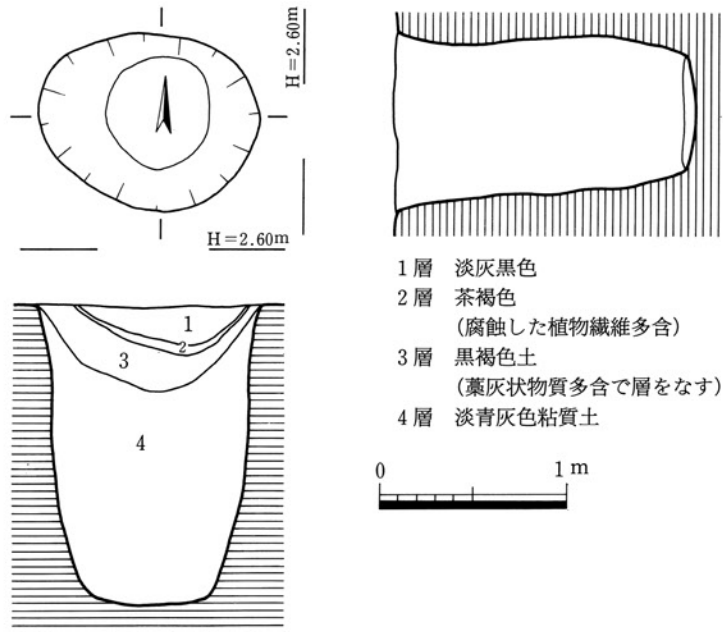


Fig. 17 S K 333土壌実測図 (S = 1/40)

IV. 牟田寄遺跡の記録

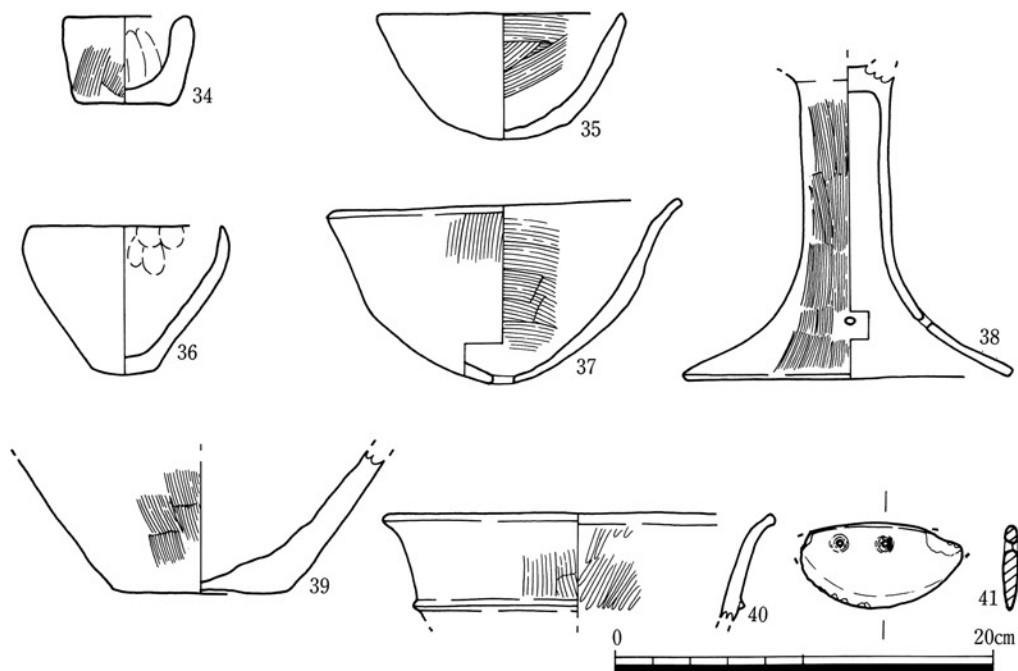
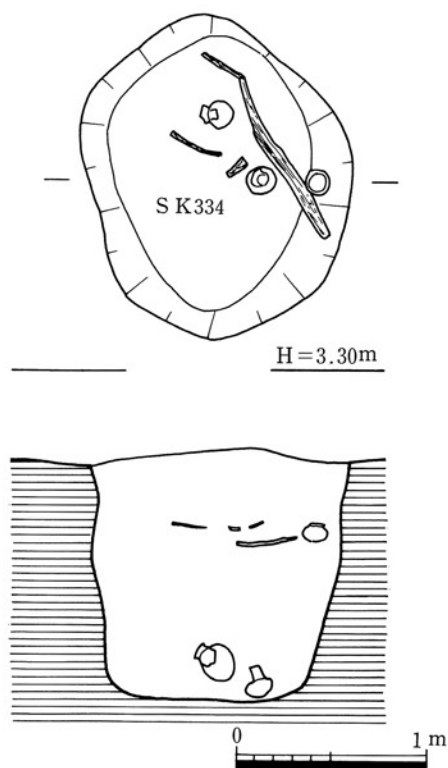


Fig. 18 S K333土壌出土遺物実測図 (S=1/4)



高7.8cm、底径3.4cm。丸味を帯びた平底。体部は直線的にのび、口唇部は先鋭化する。主たる調整はナデ。37は口径18cm、器高9.4cm。底部には径1cmの焼成後の穿孔がある。甕的用途か。口縁部は僅かに外反する。調整は口縁部と穿孔部がヨコナデ、体部がハケ目となっている。38は高杯の脚部。脚径17.4cm、残存器高16.4cm。裾上部に焼成後の穿孔が一箇所にある。調整は器面の摩耗が進んでいるため明確ではないが、僅かにハケ目が観察できる。39は甕の底部。底径9.3cm、残存器高7cm。底部は外面中央部がやや上げ底状になっている。調整はナデ・ハケ目を主体とする。40は壺の口縁部か。口径20cm、残存器高5.6cm。口縁部下部に断面三角形の突帯を有する。口唇部は僅かに外反する。調整はヨコナデ・ハケ目を主体とする。また、口縁部内面には暗紋が観察できる。41は石包丁。両端部を欠く。長さ4.5cm、幅8.4cm、厚さ0.7cm。

Fig. 19 S K334土壌実測図 (S=1/40) — 16 —

1. 弥生時代の遺物と遺構

S K 334土壙 (Fig. 19)

F-36グリッドにある。上面の平面形は南北にやや長い楕円形を呈する。遺構の切り合い関係は北・南側掘り込みで柱穴・土壙を切っている。中心部で東西1.39m、南北1.75m、深さ1.3mを測る。底面はほぼ平坦であり、壁はややカーブを描きながら垂直に近い角度で立ち上がる。埋土は2層に大別でき、黒褐色土・淡黒灰色からなる。出土遺物には高杯・鉢・壺等がある。

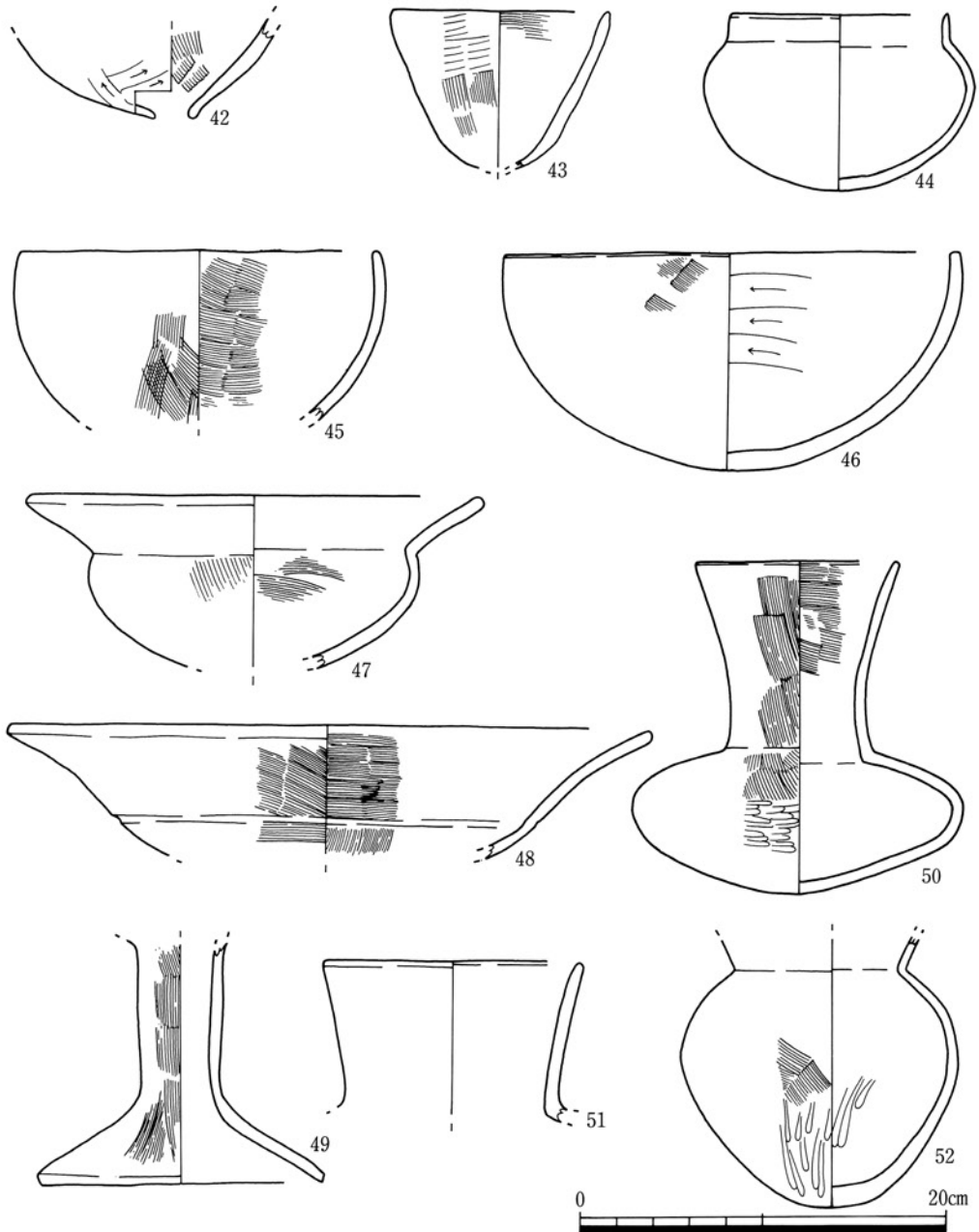


Fig. 20 S K 334土壙出土遺物実測図 (S = 1/4)

IV. 牟田寄遺跡の記録

これらの土器類のほか掘り込み下0.5m程度から薄い木片を検出したが、遺存状況がきわめて悪く加工したものか樹皮か不明である。

S K 334土壙出土遺物 (Fig. 20)

42・43は底部に穿孔をもつ鉢。42は孔径2cm、残存器高4.6cm。調整は主として外面が篋状工具によるナデ、内面がハケによる。43は口径11.7、残存器高8.6cm。孔径は不明。調整は外面上半部が叩き、下半部がハケ目、内面がナデ・ハケによっている。44は短頸壺。口径11.8cm、器高9.7cm。底部は丸底。ほぼ完存する。調整はナデ・ヨコナデによる。45・46は鉢。45で口径19.2cm、残存器高9.3cm。調整は内外面共にハケによる。46は口径24.3cm、器高12cm。ほぼ完存する。調整は主として工具によるナデ、ハケによっている。47は鉢か。口径24.4cm、残存器高9.4cm。底部は丸底か。口縁部は外傾しながら直線的にのびる。調整は口縁部内外面がヨコナデ、体部内外面がナデのあとハケ目となっている。48は高杯の杯部。口径34.6cm、残存器高7.1cm。体部と口縁部のくびれが少なく口縁部は緩やかに外反しながらのびる。調整は主としてハケによる。49は高杯の脚部。48との接点は見いだせなかった。脚径15.3cm、残存器高13.1cm。調整は主としてナデ・ハケによっている。50は長頸壺・口径10.8cm、器高18.1cm。調整は外面が、口縁部から肩部にかけてハケ目、以下がヘラミガキ、内面が口縁部上半部と底部付近がハケ目、その間がナデによっている。外面の最大径を有する付近に黒斑がある。51は壺の口縁部。口径13.8cm、残存器高8cm。調整は主としてヨコナデによる。52は壺。残存器高15.6cm、底径3.7

cm。底部は丸味を帯びる。調整は外面がヨコナデ・ナデ・ハケ目工具によるナデ、内面がヨコナデ・ナデ・工具によるナデとなっている。

S K 344土壙 (Fig. 21)

H-27グリッドにある。上面の平面形は南北に長い長方形を基調とする。中心部で南北0.73m、東西1.09m、深さ1.05m。P-206と切り合い関係を持ち、当遺構が新しい。底面は舟底状を呈し、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。

埋土は2層に大別でき淡褐色土・灰褐色土からなる。出土遺物には高杯・甕などがある。

S K 344土壙出土遺物 (Fig. 22)

53は高杯の杯部。口径23.3cm、残存器高6.8cm。体部は内湾しながらのび、口縁部は口縁部は外傾しながら直線的にのびる。調整は主としてヨコナデ・ハケ目・ナデによる。なた内外面に暗紋が施されてい

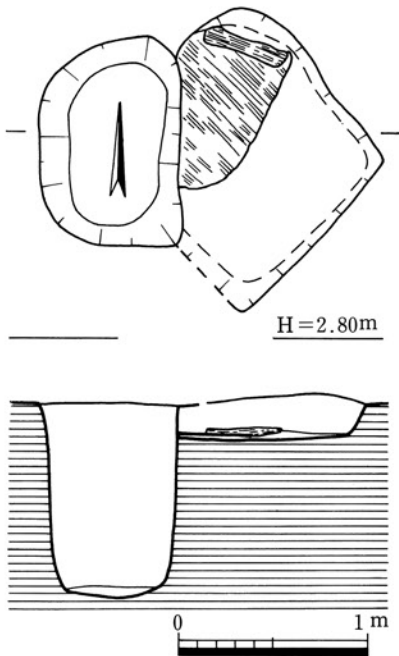


Fig. 21 S K 344土壙実測図
(S=1/40)

1. 弥生時代の遺物と遺構

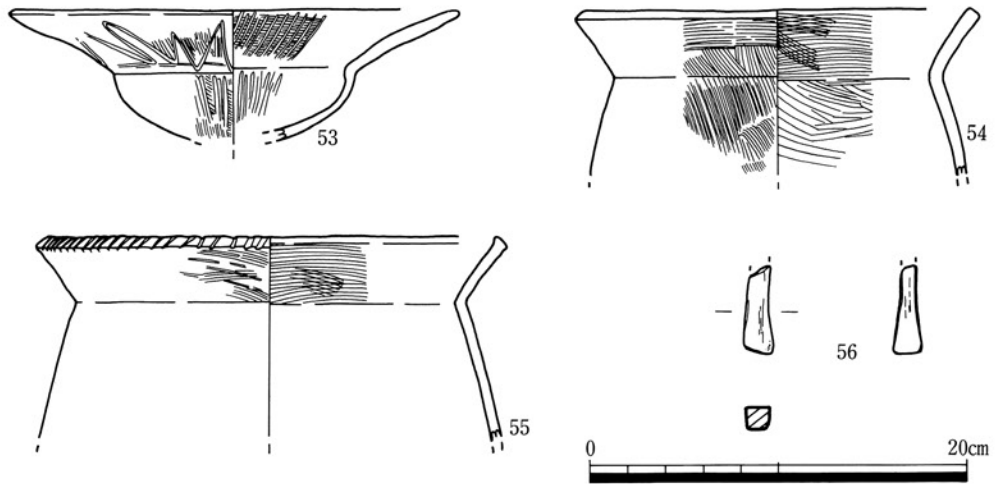


Fig. 22 S K344土壙出土遺物実測図 (S = 1/4)

る。54・55は甕。54は口径20.2cm、残存器高8.7cm。口縁部はくの字状に外反する。調整は主としてハケによるが、外面口縁下部が縦方向に対して他は横方向のハケ目調整がなされている。55は口径23.4cm、残存器高10.5cm。口縁部は43同様であるが、口唇部が摘み上げられている様相を呈する。また、口唇部には篋状工具による刺突文が配されている。調整は外面がハケ目、内面が口縁部がハケ目、体部が工具によるナデ。外面には煤が付着している。56は砥石。4面使用している。残存長4.6cm、最大幅1.5cm、最大厚1.2cm。石材は砂岩系か。

IV. 牟田寄遺跡の記録

(2) 井戸と出土遺物

調査区全域に点在する。上面の平面形は円形を基調とするものが多い。検出したものの全てが素掘りのものである。掘り方は一段掘りを基本とする。埋土は土壌に比べてやや黒味を増す。出土遺物は甕・壺・高杯・鉢等があり、完形品や完存するものも多い。

SE003井戸 (Fig. 23)

E-4・5グリッドにある。上面の平面形は円形を基調とするが、南北がやや長い。中心部で東西0.9m、南北0.96m、深さ1.07mを測る。底面には僅かな起伏があり、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。

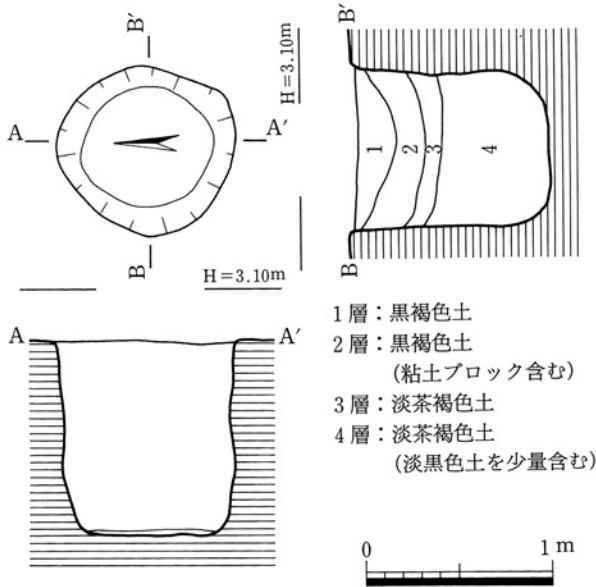


Fig. 23 SE003井戸実測図 (S=1/40)

埋土は4層に識別でき、黒褐色土・黒褐色土(粘土ブロック含む)・淡茶褐色・淡茶褐色(淡黒色土を少量含む)の順となっている。出土遺物は埋土全域から壺・高杯・甕等を検出した。

SE003井戸出土遺物(1) (Fig. 24)

57は高杯の杯部。口径25cm、残存器高5.8cm。杯部底部から角度をもって立ち上がり口縁部は外傾し、端部は丸味を帯びる。調整は内外面共にヨコナデ・ハケを主体とする。口縁部の一部に黒斑部分がある。58は甕底部の状況が不明確。口径22.6cm、残存器高23.3cm。底部の器壁が比較的厚く、体部は緩やかなカーブを描きながら立ち上がる。頸部と口縁部の境界が不明瞭。調整は外面がヨコナデ・ハケ目、内面がヨコナデ・ハケ目・ナデによっている。59は壺。口径16.2cm、残存器高16.4cm。調整はハケ目とヨコナデを主体とする。肩部の一部に黒斑がある。60は壺の胴部。最大径を中央の突帯部に有し、37.2cmを測る。調整は突帯付近がヨコナデ、他は主としてハケによる。

SE003井戸出土遺物(2) (Fig. 25)

61・62は壺。61で口径20.8cm、器高30.2cm。底部を欠失するが丸底か。肩部から口縁部にかけて器壁が厚い。調整はハケを主体とし、一部ナデ・ヨコナデが施されている。外面胴部に黒斑部分がある。62は口径30.5cm、器高42cm、底径5.4cm。底部は丸味をもつ平底。頸部に断面三角形の突帯を一条有する。口唇部はやや肥大化し外面に刺突文を配する。調整は外面が上半部ハケ目・ヨコナデ、下半部がナデ、内面が底部ナデ、他はハケ目によっている。外面胴部中央

1. 弥生時代の遺物と遺構

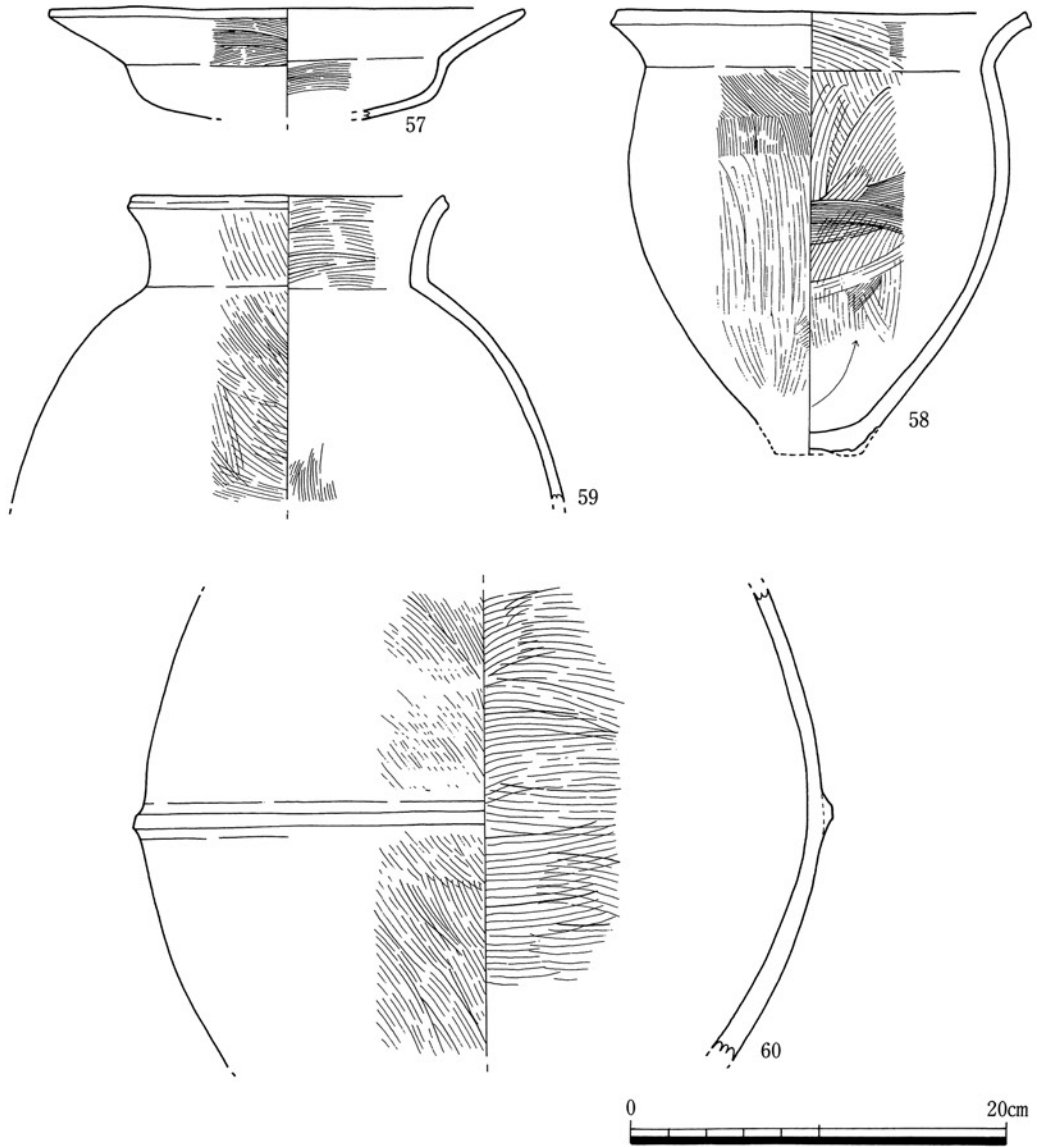


Fig. 24 S E 003井戸出土遺物実測図(1) (S = 1/4)

付近に黒斑部分がある。

IV. 牟田寄遺跡の記録

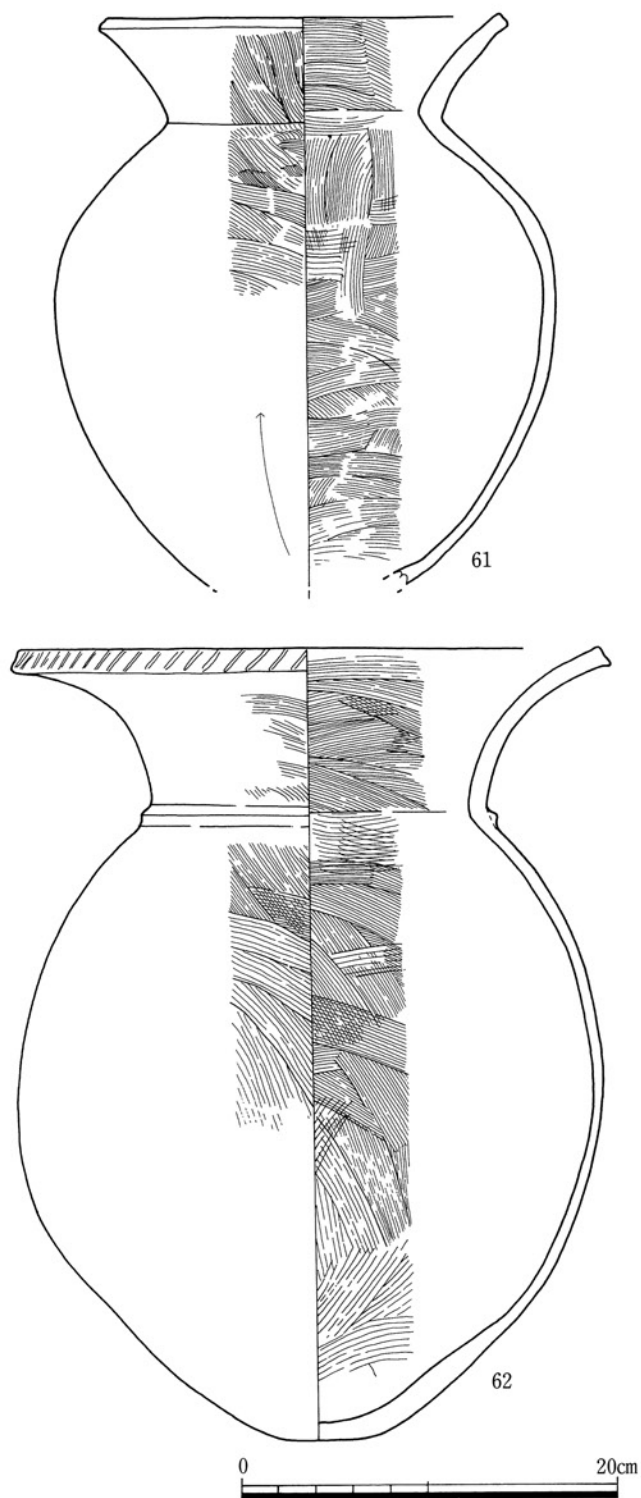


Fig. 25 S E 003井戸出土遺物実測図(2) (S = 1/4)

1. 弥生時代の遺物と遺構

S E 016井戸 (Fig. 26)

H-4・5グリッドにある。上面の平面形は元来は円形を基調としていたものとする。北西部掘り込み付近は他遺構と切り合っている。切り合い関係は明確にできなかった。中心部で東西1.5m、南北1.5m、深さ1.93mを測る。底面は舟底状を呈し、壁は内側に湾曲しながら立ち上がる。中央付近に稜を有する。

埋土は4層に大別でき、上層から淡黒色土・黒褐色土・黄褐色土・暗青灰色の順になっている。出土遺物は主として3・4層から多く検出したが、残存状況が良好で一括性のあるのは図中にある4層出土のもの。検出遺物には壺・甕・杯・石包丁等がある。

S E 016井戸出土遺物(1) (Fig. 27)

63~67は壺。63は口径13.5cm、器高24.8cm、底径5.4cm。底部は丸味を帯びる。頸部のくびれが殆どなく、口縁部は外反しながら立ち上がる。調整は外面が口縁部ヨコナデ・ハケ目、胴部上半ハケ目・タタキ、下半部ハケ目、内面ハケ目となっている。底部外面に黒斑部分がある。64は残存器高18.3cm。底部は丸底。方量の割りには厚い器壁をもつ。調整は工具によるナデ・いわゆるナデによっている。底部付近に黒斑部分あり。65は長頸壺の口縁部か。口径10.2cm、残存器高11.7cm。調整はハケとヨコナデによる。66は壺の口縁部。口径16.8cm、残存器高6.2cm。調整はハケとヨコナデによる。67は口径20.2cm、器高37cm。底部は丸底。中央部に径2cm程度の穿孔がある。焼成後の穿孔である。口唇部には刺突文が配されている。調整は外面がハケ、ナデ、内面がヨコナデ・ハケ目を主体としている。肩部外面に黒斑部分有り。

S E 016井戸出土遺物(2) (Fig. 28)

68~70・72・73は壺。68は口径18.6cm、残存器高7.7cm。口縁部は緩やかに外反する。調整は外面ハケ、内面ヨコナデ・ハケ・ナデを主体としている。69は口径19.2cm、残存器高6.7cm。口縁部は直線的にのびる。調整は主としてナデ・ハケ目・工具によるナデによっている。70は口径16.8cm、残存器高14cm。頸部のくびれが少ない。調整は摩耗が進んでいるため明確ではないが、主としてハケによっている。71は甕。口径26cm、残存器高14.8cm。頸部内面には明瞭な稜

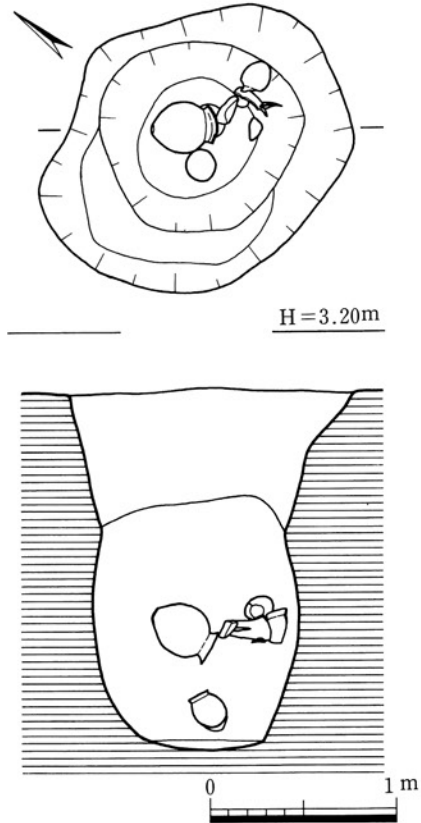


Fig. 26 S E 016井戸実測図 (S=1/40)

IV. 牟田寄遺跡の記録

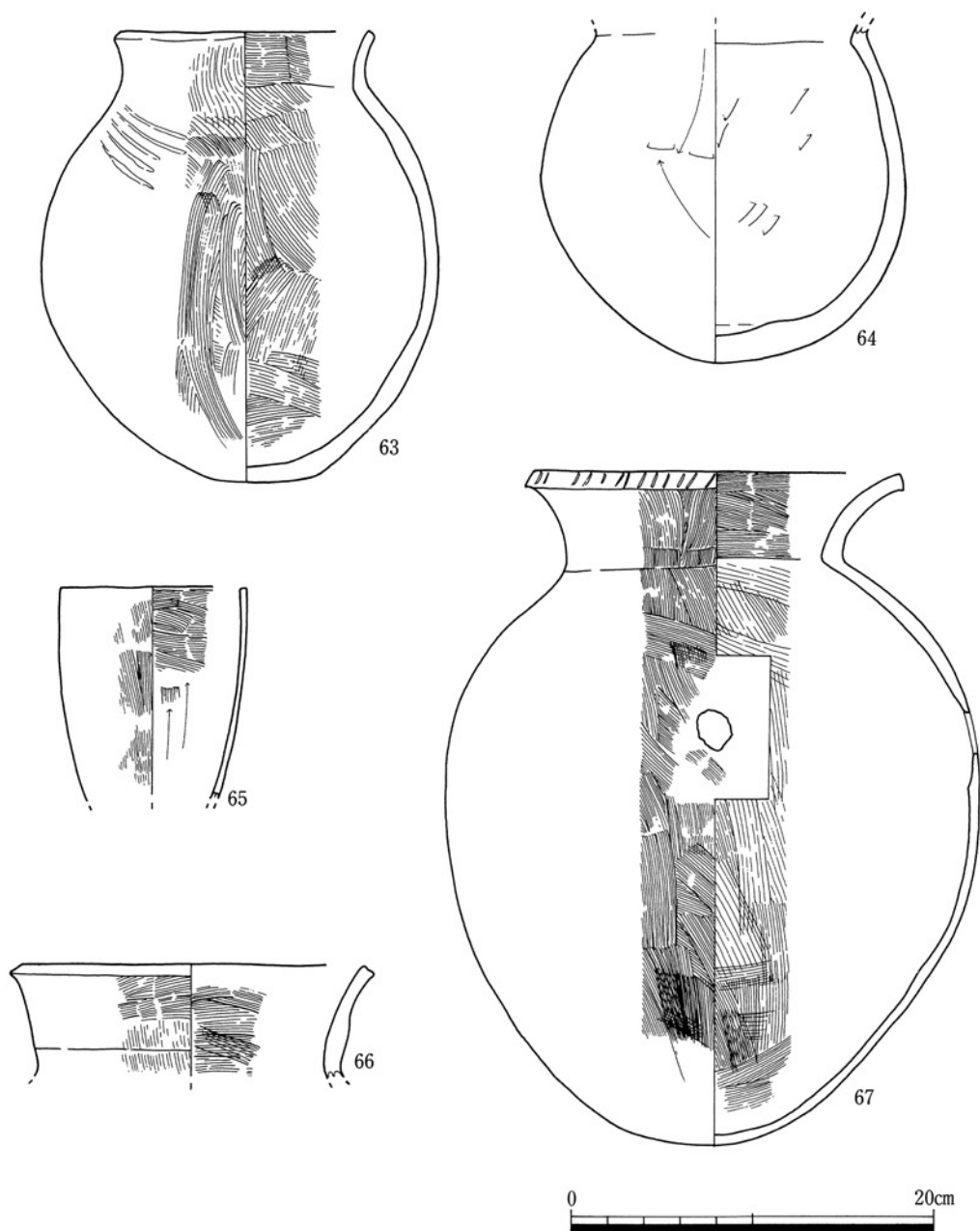


Fig. 27 S E016井戸(4層)出土遺物実測図(1) (S=1/4)

を有する。調整は口縁部内外面がハケの後ヨコナデ、他は主としてハケによる。内面下半部に煤が付着している。72は口径12.1cm、器高19.4cm。ほぼ完存する。底部は平底。調整は外面がハケ・ナデ、内面がハケ・指頭圧による強いナデとなっている。73は口径19.4cm、器高35.3cm、底径5.2cm。底部は丸味を帯びる。調整は外面が口縁部ヨコナデ・ハケ目、胴部上半粗いハケ

1. 弥生時代の遺物と遺構

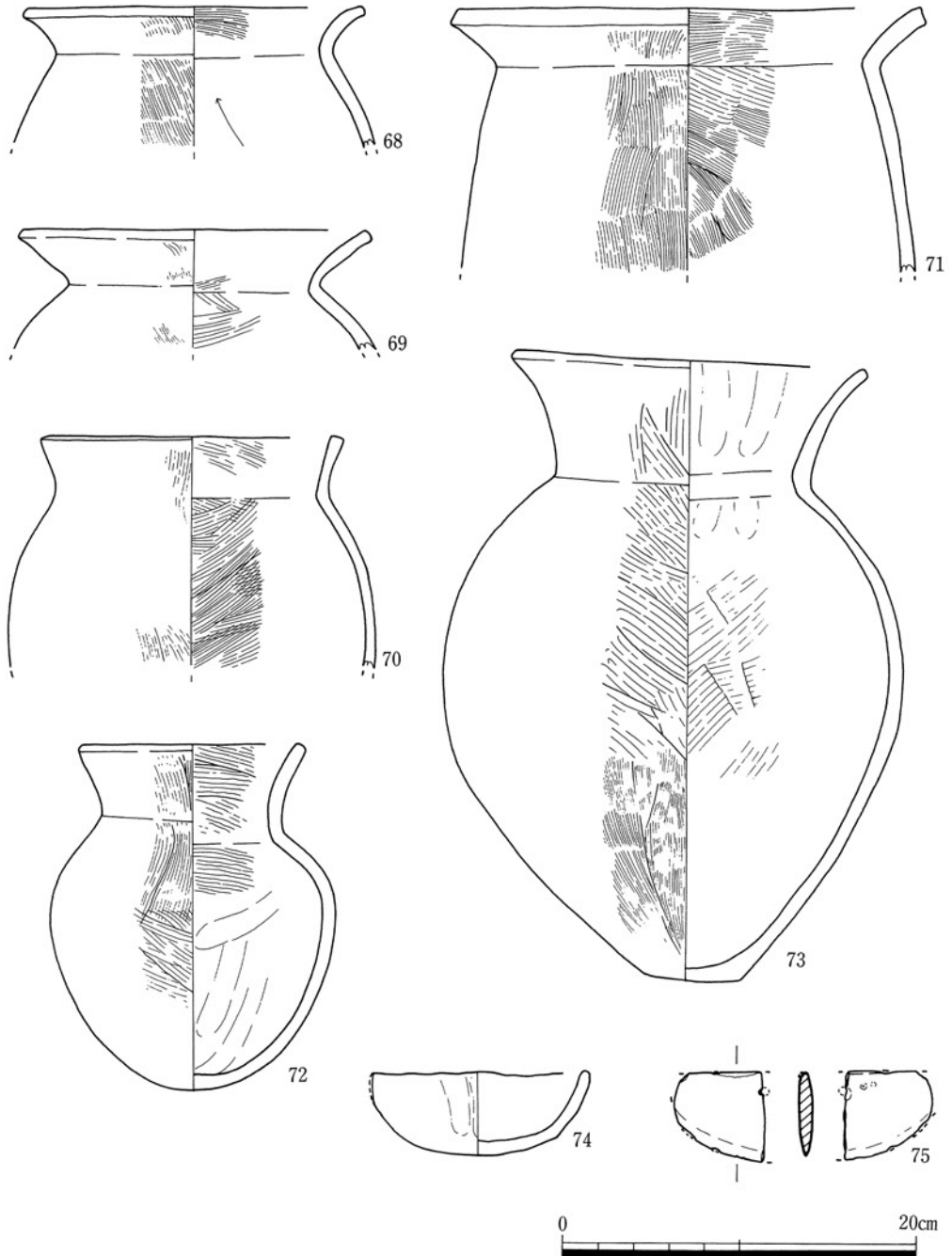


Fig. 28 S E016井戸出土遺物実測図(2) (S=1/4)

目、下半細かいハケ目、内面が口縁部ハケのあとナデ、体部がナデ・ハケ目によっている。74は杯。口径12.1cm、器高4.7cm。調整は主としてナデによっている。75は石包丁。残存長5cm、最大厚0.7cm、最大幅5cm。

IV. 牟田寄遺跡の記録

SE021井戸 (Fig. 29)

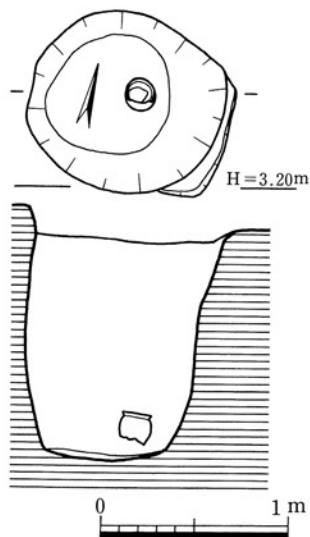


Fig. 29 SE021井戸実測図 (S=1/40)

H-4・5グリッドにある。上面の平面形は円形を基調とするものであるが、東西にやや長い。東部掘り込み付近で他遺構と切り合っており、当遺構が新。中心部で東西1.03m、南北0.96m、深さ1.4mを測る。底面は舟底状を呈し、壁は湾曲しながら垂直に近い角度で立ち上がる。

埋土は3層に大別でき淡黒褐色土・褐色土・淡灰褐色土からなる。出土遺物は埋土全域から検出したが、1・3層のものがより良好な残存状況であった。器種には杯・鉢・壺・甕等がある。

SE021井戸出土遺物(1) (Fig. 30)

77は壺の口縁部。口径38.6cm、残存器高4.6cm。口唇部外面には刺突文が配されている。調整は主としてハケ目・ナデに

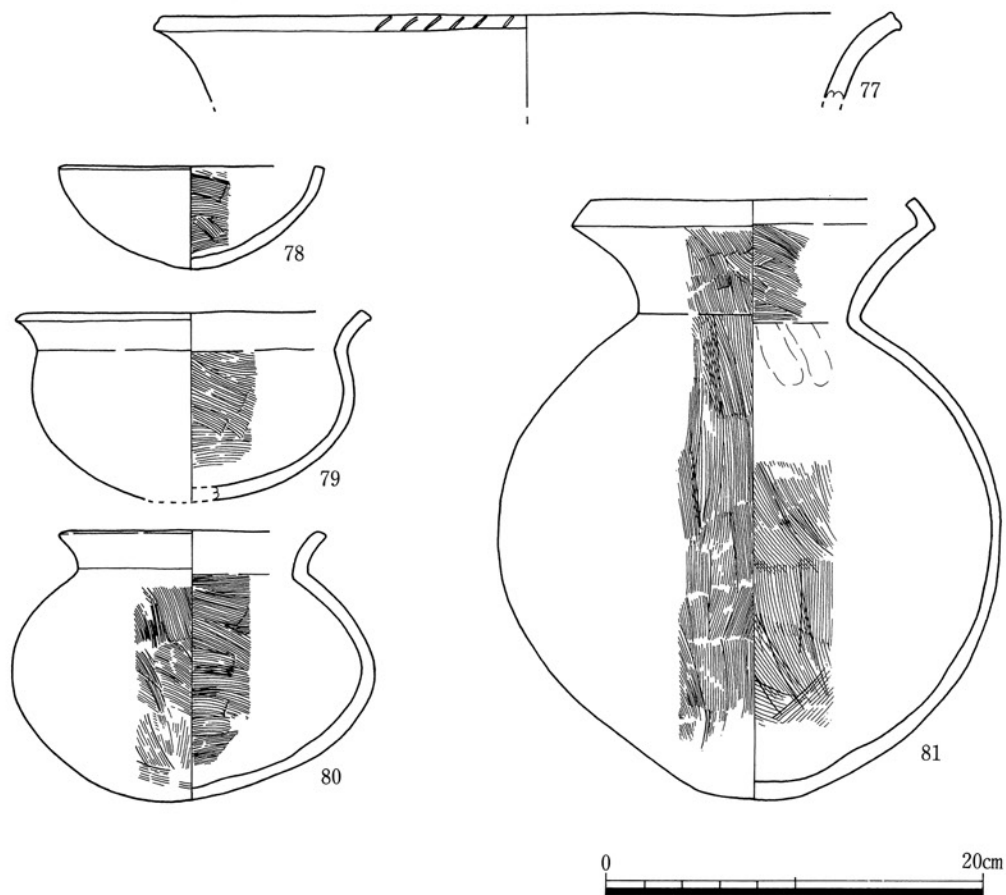


Fig. 30 SE021井戸(3層)出土遺物実測図(1) (S=1/4)

1. 弥生時代の遺物と遺構

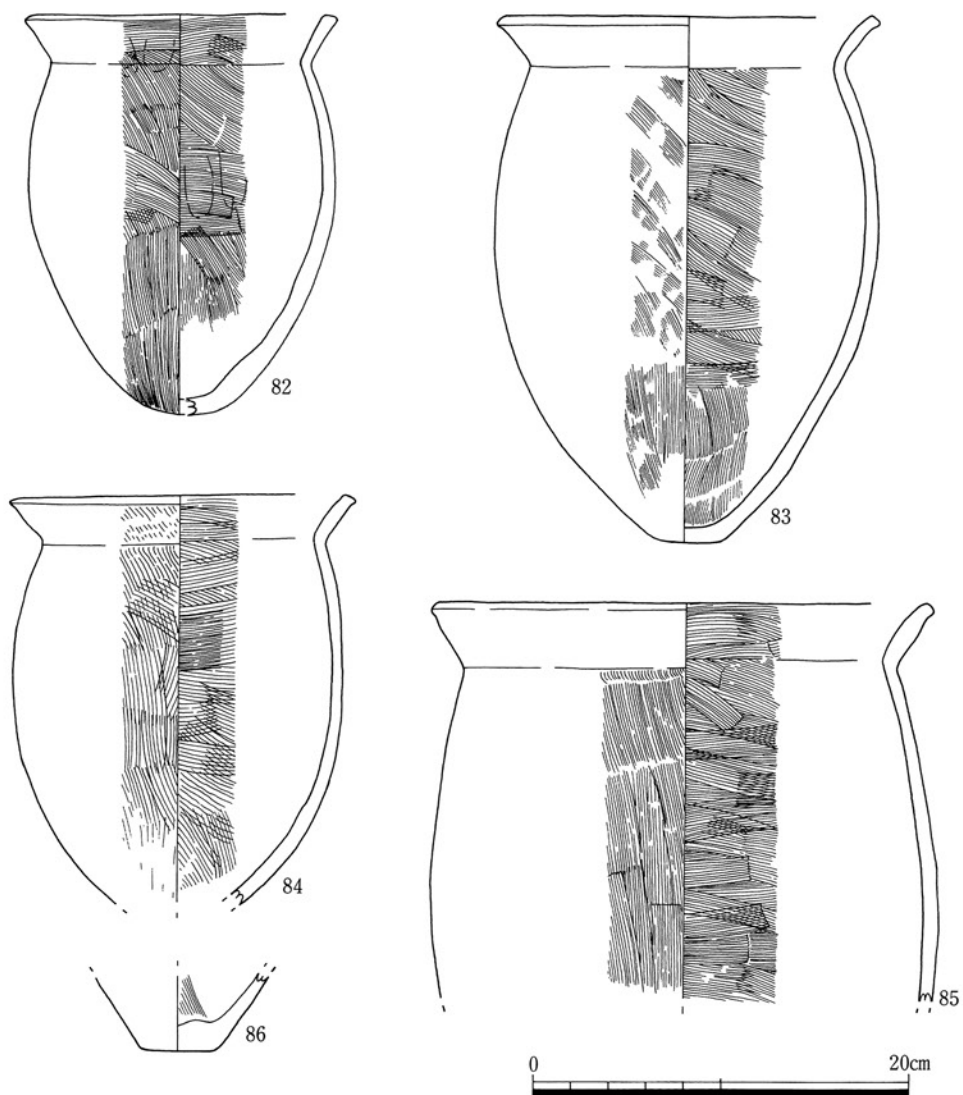


Fig. 31 S E021井戸(3層)出土遺物実測図(2) (S=1/4)

よっている。78は鉢。口径13.1cm、器高5.5cm。調整は外面は摩耗が進んでいるため不明。内面は主としてハケ目よっている。79も鉢。口径19.6cm、残存器高10.1cm。調整は78と同様。79も鉢。口径13cm、器高14.4cm。底部は丸底である。口縁部は短く外反する。調整は口縁部がヨコナデ、胴部がハケ目、底部がナデとなっている。外面底部付近に黒斑部分あり。81は二重口縁の壺。口径16.9cm、器高31.8cm。底部は丸底と判断した。調整は外面が口縁部ヨコナデ、頸部から胴下半部までがハケ目、内面が口縁部ヨコナデ・ハケ目、頸部指頭圧によるナデ、胴部ハケ目、底部ナデよっている。

IV. 牟田寄遺跡の記録

SE021井戸出土遺物(2) (Fig. 31)

82~86は甕。82は口径15.3cm、器高21cm。底部は丸味を帯びる。調整は外面がハケ目、内面がハケ目と指頭圧による強いナデ、いわゆるナデによっている。83は口径19.4cm、器高27.7cm、底径3.7cm。底部は丸味を帯びる。調整は82と同様。84は口径17.1cm、残存器高21.6cm。82・83に比して粗いハケ目調整である。85は口径25.2cm、残存器高21cm。外面の口唇部と頸部のヨコナデによりその間がやや厚くなっている。調整は基本的には82・83と同じ。86は甕の底部。底径4cm、残存器高4cm。調整は主としてハケ目・ナデによる。

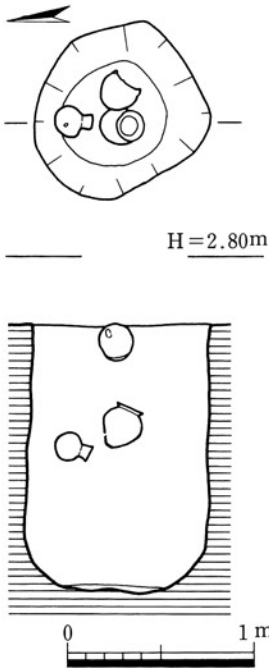


Fig. 32 SE028井戸実測図 (S=1/40)

SE028井戸 (Fig. 32)

L-3・4グリッドにある。上面の平面形は円形を基調とするが、やや歪となっている。中心部で東西0.94m、南北0.9m、深さ1.43mを測る。底面には細かな起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。

埋土は3層に大別できる。上層から淡黒褐色土・褐色土・淡灰褐色土の順になっている。出土遺物は埋土全域から検出し、その種類には鉢・壺等がある。

SE028井戸出土遺物(1) (Fig. 33)

87は鉢。口径16.2cm、器高8.1cm、底径3.4cm。体部は内湾気味に立ち上がる。調整は外面がハケ目・工具によるナデ、内面がハケ目によっている。88は甕。口径23.3cm、残存器高7.6cm。口縁部はわずかに外傾する。調整は口縁部ヨコナデ・ハケ目、体部ハケ目となっている。外面に煤が付着している。89は甕。口径34.8cm、残存器高8.3cm。頸部外面に断面三角形の突帯を有する。また、口唇部には刺突文が配されている。調整は外面がハケ目ヨコナデ、内面がヨコナデ工具によるナデによる。90はミニチュアの甕型土器。口径7.6cm、器高9.4cm。底部は先鋭化しており、体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部は短く外反する。胴部外面にはクシ状工具による文様が配されている。調整は細かいハケと丁寧なナデによる。91は壺。口径10.2cm、器

1. 弥生時代の遺物と遺構

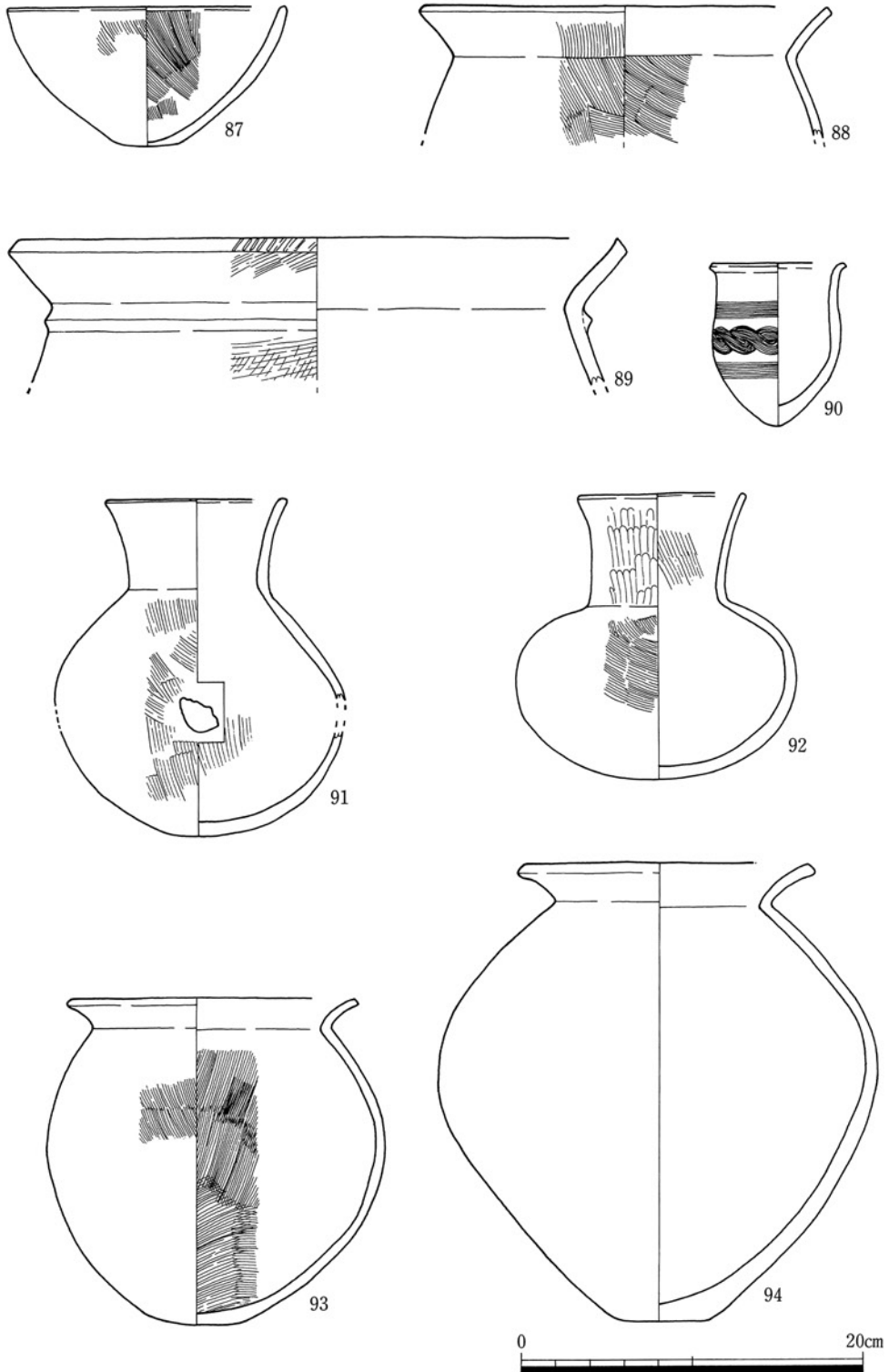


Fig. 33 S E028井戸出土遺物実測図(1) (S = 1/4)

IV. 牟田寄遺跡の記録

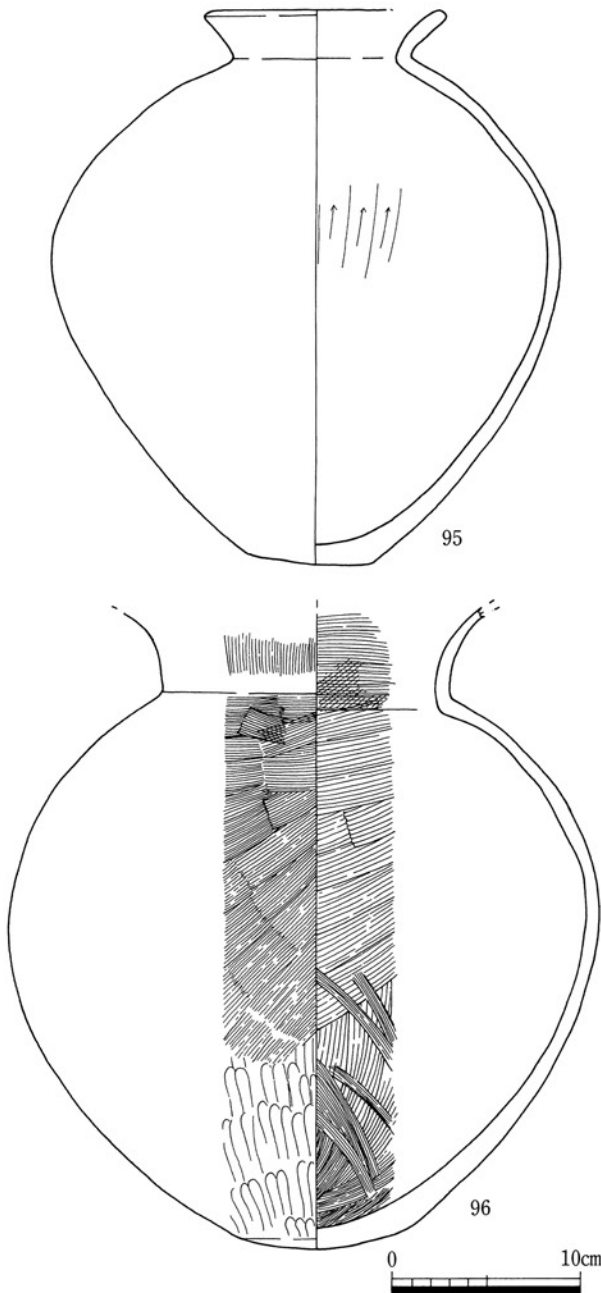


Fig. 34 S E 028井戸出土遺物実測図(2) (S=1/4)

95・96は壺。95は口径11.9cm、器高29.4cm、底径6.3cm。底部は丸味を帯びる。胴部は球状を呈し、口縁部は大きく外反する。調整は外面が上半部ハケ目、下半部ヘラミガキ、内面が口縁部ハケ目・ヨコナデ、胴部ハケ目を主体としている。

高19.5cm。底部は丸底。胴部中央に径2cm程度の、焼成後の穿孔がある。調整は外面が口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目、内面がナデ・ハケ目によっている。92は口径9.4cm、器高16.5cm。調整は外面が口縁部ヘラミガキ、胴部上半がハケ目、下半がナデ、内面が口縁部ヨコナデ・ハケ目、体部ナデによっている。93は口径16.4cm、器高19cm、底径5.7cm。調整は口縁部内外面ヨコナデ胴部ハケ目。ナデを主体としている。94は口径16.3cm、器高26.6cm、底径5cm。算盤だま状の胴部を有し、口縁部は「く」の字状を呈する。調整は口縁部内外面がヨコナデ。胴部はナデによっている。肩部外面の一部に黒斑有り。完存する。

S E 028井戸出土遺物(2)
(Fig. 34)

95・96は壺。95は口径11.9cm、器高29.4cm、底径6.3cm。底部は丸味を帯び胴部は大きくカーブし口縁部は短く外反する。調整は口縁部内外面がヨコナデ、胴部外面がナデ、内面が工具によるナデによっている。ほぼ完存する。96は残存器高33.7cm、底径8.7cm。

1. 弥生時代の遺物と遺構

S E 034井戸 (Fig. 35)

I-5グリッドにある。上面の平面形は不定型を呈するが、元来円形を基調としたものと考える。中心部で東西0.97m、南北0.96m、深さ1.65mを測る。底面には僅かな起伏があり、壁は湾曲しながらほぼ垂直に立ち上がる。下半部は壁が一部崩落していた。

埋土は3層に大別でき、上層から黒褐色土・淡褐色土・淡灰褐色土の順になっている。遺物は2・3層からがより多く検出した。器種には壺・長頸壺・台付き壺等がある。検出遺物に占める壺類の割合が大きい。

S E 034井戸出土遺物(1) (Fig. 36)

97は甕の台部か。脚径16.6cm、残存器高8.3cm。調整は主としてヨコナデ・ハケ目によっている。98はミニチュアの壺型土器。口径7.5cm、残存器高6.6cm。調整はヨコナデ・ナデによっている。99は台付き壺。頸部は長頸となるものか。脚径5cm、残存器高10cm。調整は外面がハケ目・ナデ、内面がナデとなっている。外面全体に赤色顔料が認められ

る。内面は全体的に黒色を呈する。100は長頸壺。口径10.8cm、器高17.8cm。ほぼ完存する。調整は外面が口縁部が縦方向のハケ目、胴部上半が横方向のハケ目、下半が工具によるナデ、内面が口縁部斜め方向のハケ目、胴部がナデ・ハケによっている。101は口径17.3cm、残存器高16.6cm、口縁部は短く外反する。調整は口縁部内外面をヨコナデ、胴部上半をハケ目、下半部をナデによっている。102は口径16cm、器高19.7cm。101に比べて粗いハケ目調整である。103は口径15.1cm、残存器高3.6cm。104は口径13cm、器高16.9cm、底径4.5cm。丸味を帯びた平底。ほぼ完形品。105は口径16.6cm、器高22.2cm、底径5.5cm。調整は102・104に同じ。

S E 034井戸出土遺物(2) (Fig. 37)

106は口径17cm、器高34.5cm、底径6.1cm。丸味を帯びた平底。口縁部は大きく外反する。調整は口縁部上端内外面をヨコナデ、他はハケ目を主体としている。ほぼ完存する。107は壺の底部か。底径8.9cm、残存器高26.1cm。調整は全体的に不明瞭であるがハケ目・ナデを観察できる。底部は丸味を帯びた平底。

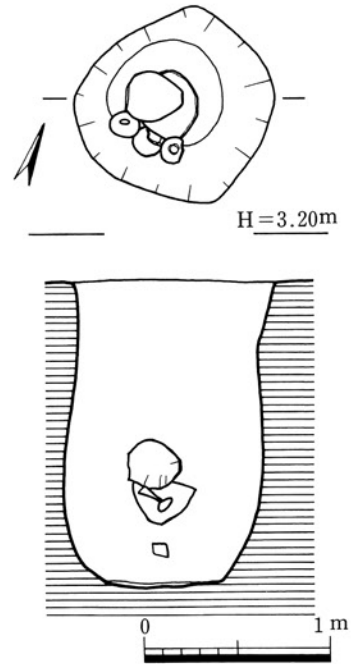


Fig. 35 S E 034井戸実測図
(S=1/40)

IV. 牟田寄遺跡の記録

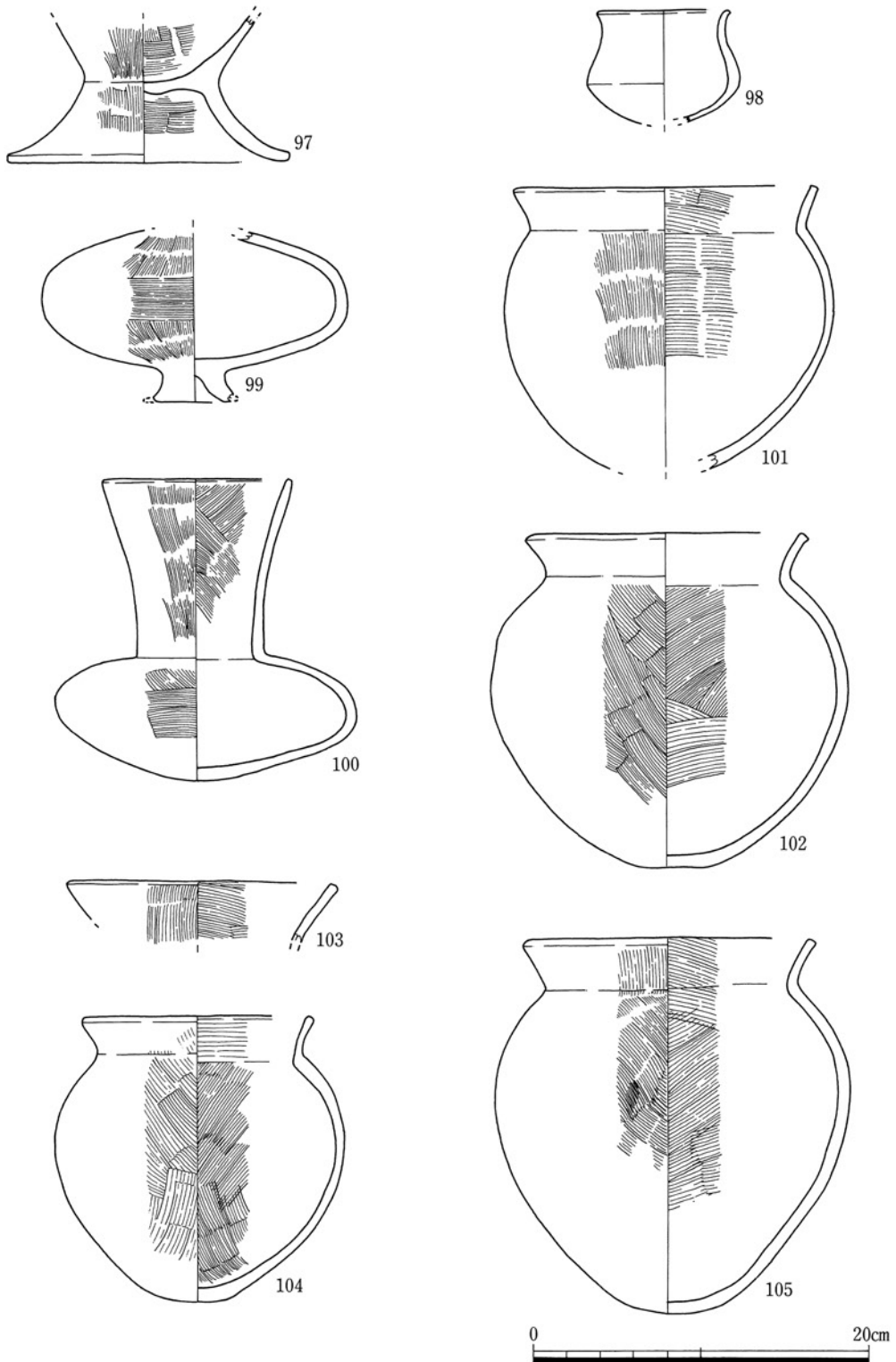


Fig. 36 S E 034井戸出土遺物実測図(1) (S = 1/4)

1. 弥生時代の遺物と遺構

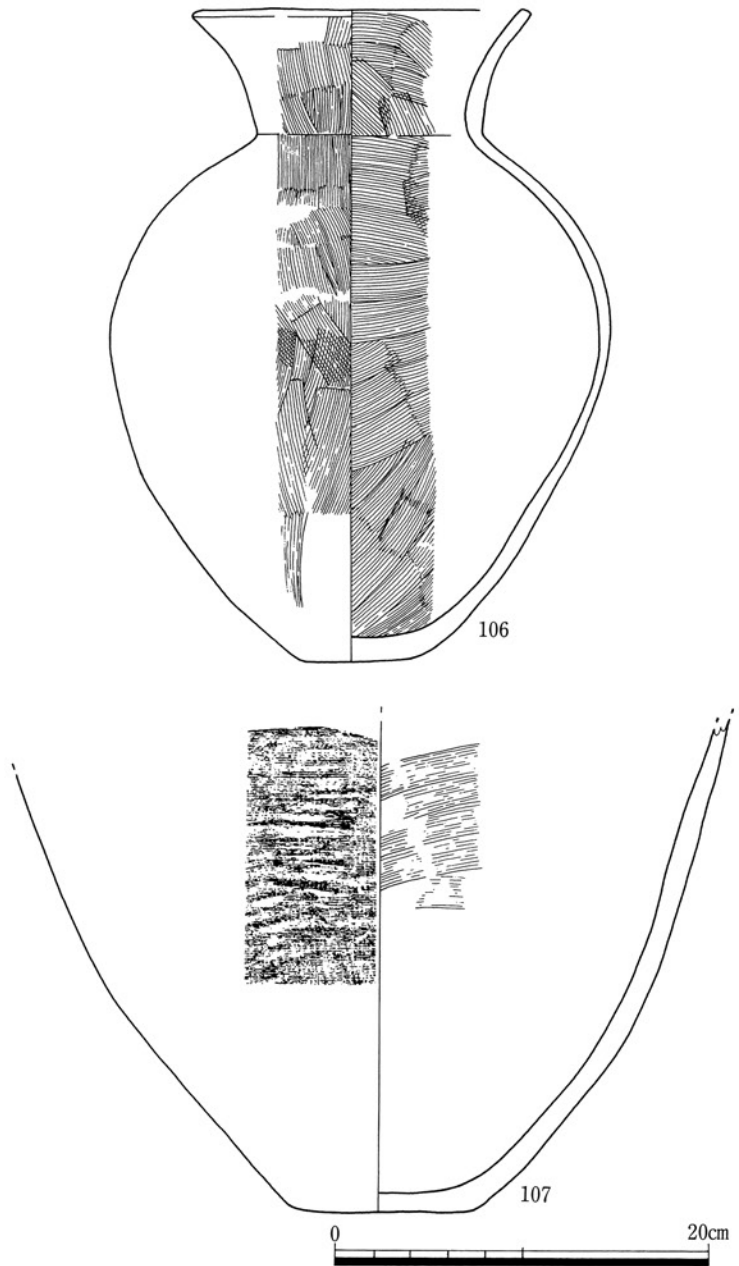


Fig. 37 S E 034井戸出土遺物実測図(2) (S = 1/4)

S E 240井戸 (Fig. 38)

O・P-12・13グリッドにある。上面の平面形は元来円形を基調としていたものと考えられるが南北にやや長い楕円形を呈している。中心部で東西1.03m、南北1.1mを測る。深さは約2m程度と考える。壁は垂直に立ち上がる。

IV. 牟田寄遺跡の記録

埋土は4層に識別できた。上層から、黒褐色土・暗褐色土・藁状繊維層・暗灰黒色粘土の順となっている。出土遺物は埋土下半部から多く検出した。器種には甕・壺等がある。

S E 240井戸出土遺物 (Fig. 39)

108は甕の口縁部。口径47.6cm、残存器高8.5cm。頸部に断面三角形の突帯を有する。口縁端部はヨコナデの際つまみあげられた状況を呈する。また、口唇部外面には刺突文がある。調整は主として、ヨコナデ・ハケ目によっている。109は高杯の口縁部。口径37.2cm。調整は主としてハケ目。内外面に暗紋を有する。110は壺。口径22.6cm、残存器高5.8cm。調整は外面がヨコナデ・ハケ目、内面がヨコナデ、篋状工具によるナデによっている。111は台付き鉢か。残存器高5.7cm。脚部外面にヘラミガキを施している。112は壺。口径12.1cm、器高10.3cm。丸底である。調整は口縁部内外面をハケ・ヨコナデ、他はハケを主体としている。113は壺。口径10.8cm、器高25cm。底部

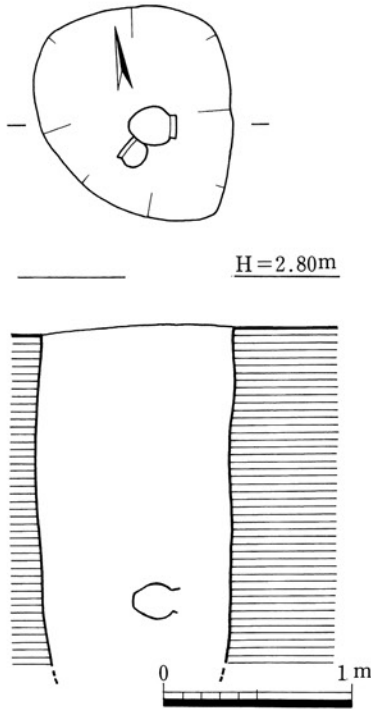


Fig. 38 S E 240井戸実測図
(S=1/40)

は丸底。調整はハケを主体としている。

S E 335井戸 (Fig. 40)

F-36・37グリッドにある。上面の平面形は東西にやや長い楕円形を基調とする。中心部で東西1.07m、南北0.72m、深さ1.48mを測る。底面部分はほぼ平坦で、壁は角度をもって立ち上がる。掘り込み下0.3mの間は壁が一部崩落している。

埋土は2層に大別でき、上層淡黒褐色土、下層淡黒灰色からなる。出土遺物には杯・壺・甕等があり主として下層から検出した。

S E 335井戸出土遺物 (Fig. 41)

114は杯。口径9.3cm、残存器高3.5cm。調整は主としてヨコナデ。115は壺。口径14.3cm、残存器高16.9cm。底部は丸底。口縁部は直線的にのび外傾する。調整は外面が口縁部縦方向のハケ目、ヨコナデ、胴部がハケ目・ナデ、内面が口縁部横方向のハケ目・ヨコナデ、胴部がハケ目によっている。116は壺。口径14cm、器高30.9cm、底径9.2cm。底部は丸底気味で器壁は厚い。口縁部は外反する。調整は外面が口縁部縦方向のハケ目、胴部上半横方向を主体とするハケ目、下半部工具によるナデ、内面がハケ目を主体としている。117・118は甕。117で口径28.1cm、残存器高8.7cm。口縁端部に刺突文をめぐらす。調整は主としてヨコナデ・ハケ目による。118で口径26.6cm、残存器高9.1cm。口縁端部の状況や調整は117に同じ。

1. 弥生時代の遺物と遺構

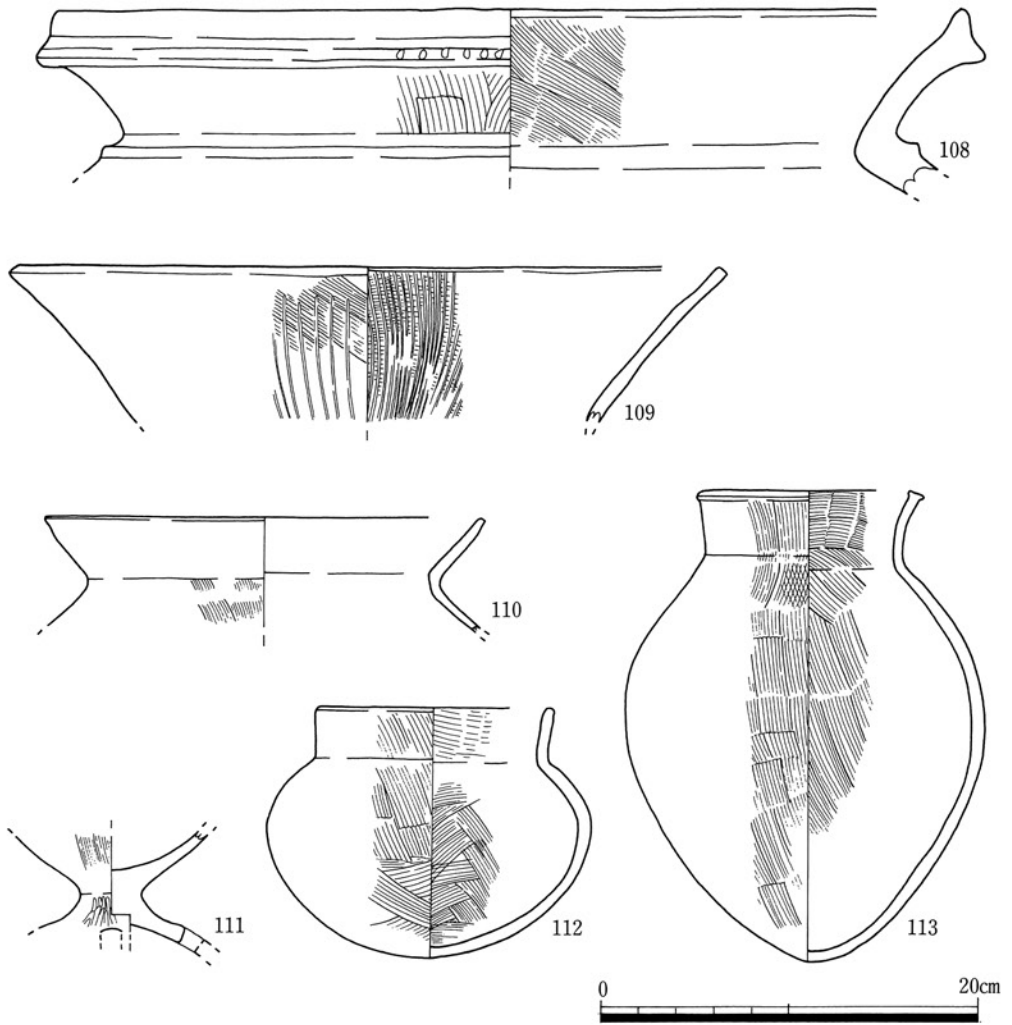


Fig. 39 S E240井戸出土遺物実測図 (S=1/4)

IV. 牟田寄遺跡の記録

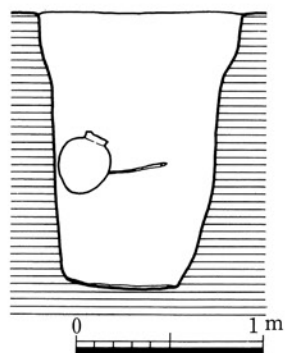
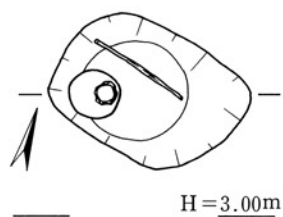


Fig. 40 S E 335井戸実測図 (S = 1/40)

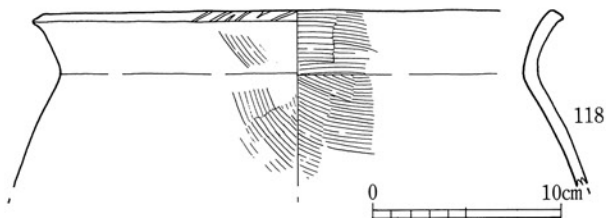
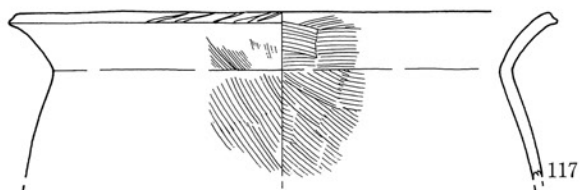
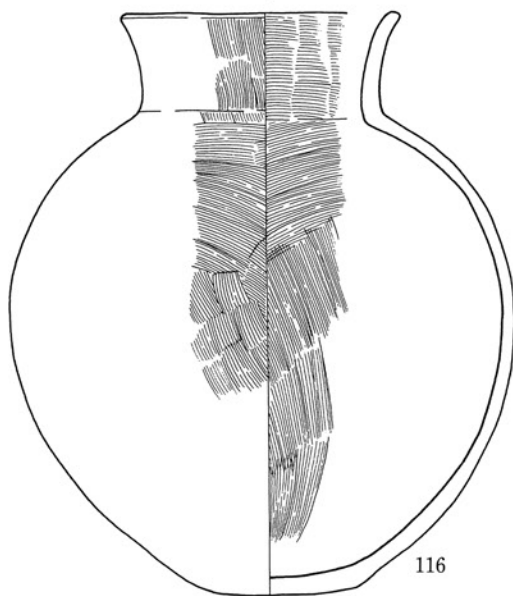
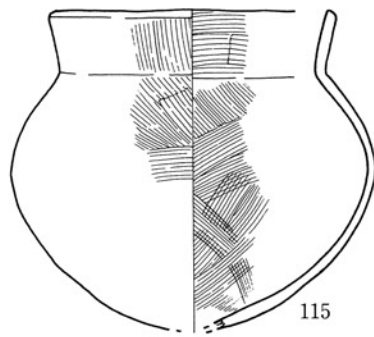


Fig. 41 S E 335土壌出土遺物実測図 (S = 1/4)

1. 弥生時代の遺物と遺構

(3) 掘立柱建物と出土遺物

E1～3区すべてで検出したが部分的に集中傾向にある。柱穴検出標高は2.5～3mを測る。柱穴は淡茶褐色の土壤に掘り込まれ、その埋土が黒褐色のものは検出が比較的容易であった。しかし淡茶褐色の埋土のものは検出が難しく、調査は難航した。この時期の柱穴は、そのほとんどが隅丸方形又は円形を基調とした穴を掘り、底面に葦もしくは木皮状のものを敷きつめ、その中央に横木を置き、その上に柱を立てている。佐賀市域南部の軟弱地盤を克服するためのものである。

この柱穴群は切り合い関係が甚だしく、調査時にはその相関関係がつかめなかった。そのため机上で柱穴の規模・形状、横木の規模・形状・上面までのレベル・方向性等を検討し、建物規模の復元を試みた。復元するにあたっての最低必要条件を、横木のレベル差が10cm以内とした。その理由としては以下断面見透し図にあるように、横木部分は最初から検出時のレベルにあったものとしたら、20cm以上のレベル差でも柱の上部を切り揃えればことたりるが、実際は沈下していったものである。それぞれの柱が均等に沈下していったものとは限らないが、多少差異があるにしても10cm内外ではなかろうか。今回はこれを基準に作業を進めてみた。また、平成4年度発掘調査でこの地区のすぐ北側に接する千住遺跡(平成5年度報告書作成予定)で1間×2間の建物が明確に認定できたのでこれも参考にした。これによると横木や葦・木皮状繊維の方向は桁・梁の方向とは必ずしも一致しないようである。しかし、確実な掘立柱建物の明確な認定例が1例であるため、この部分については今後さらに検討する必要がある。

また、今回柱間の繋がりが認定できないものでも、それらの中で特徴的なものを抽出し、以下に紹介する。柱穴の呼称は検出時には土壌と取り扱っているものもおおく、掘削途中で柱穴と認定したものもある。しかしナンバーは通し番号を用いているので、番号のみを冠し説明することもある。横木は下図のように分類できる。柱穴個別実測の表現は下図略図による。

形状 分類	平面略図	断面略図
A		
B		
C		
D		

Fig. 42 ●本模式図

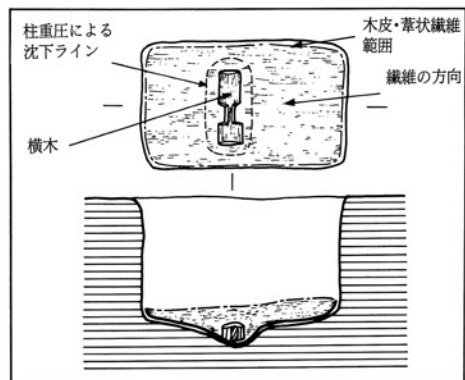


Fig. 43 柱穴模式図

IV. 牟田寄遺跡の記録



Fig. 44 E²区柱穴群配置図 (S=1/60)

1. 弥生時代の遺物と遺構

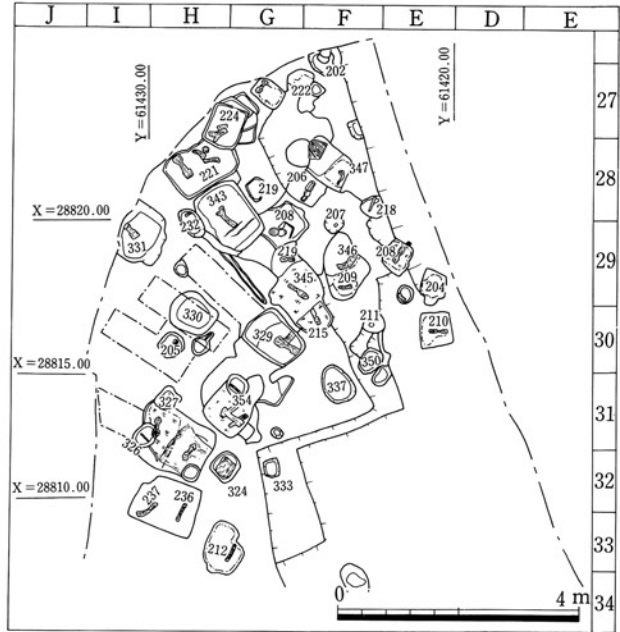


Fig. 45 E 3区柱穴群配置図 (S=1/160)

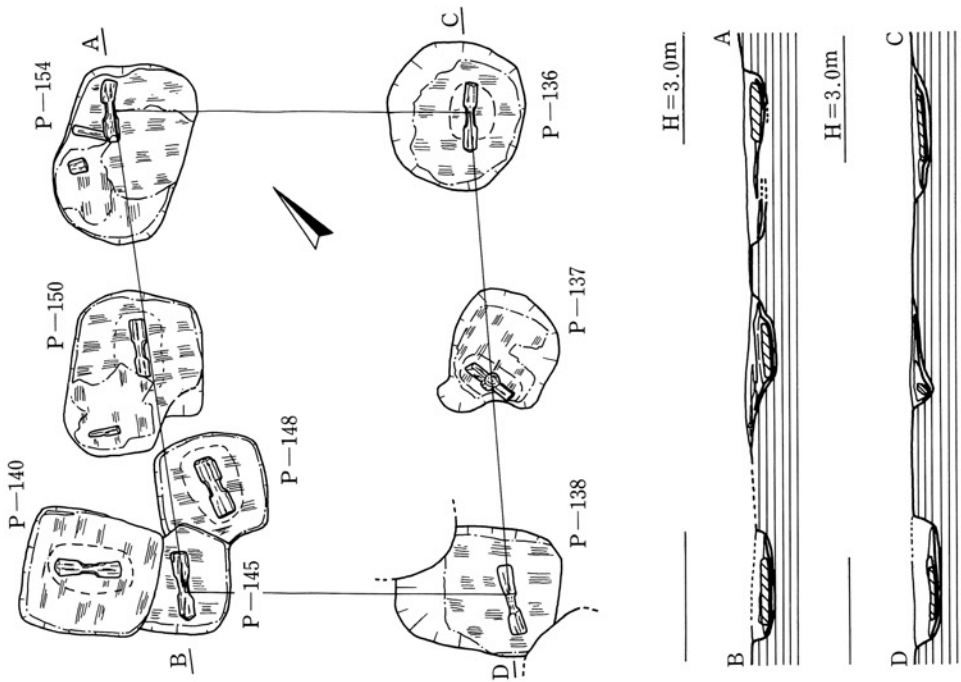


Fig. 46 S B401掘立柱建物実測図 (S=1/80)

S B401掘立柱建物 (Fig. 46)

E-2区のP・Q-8~10グリッドにある。他の5基以上の柱穴と切り合い関係をもつ。柱

IV. 牟田寄遺跡の記録

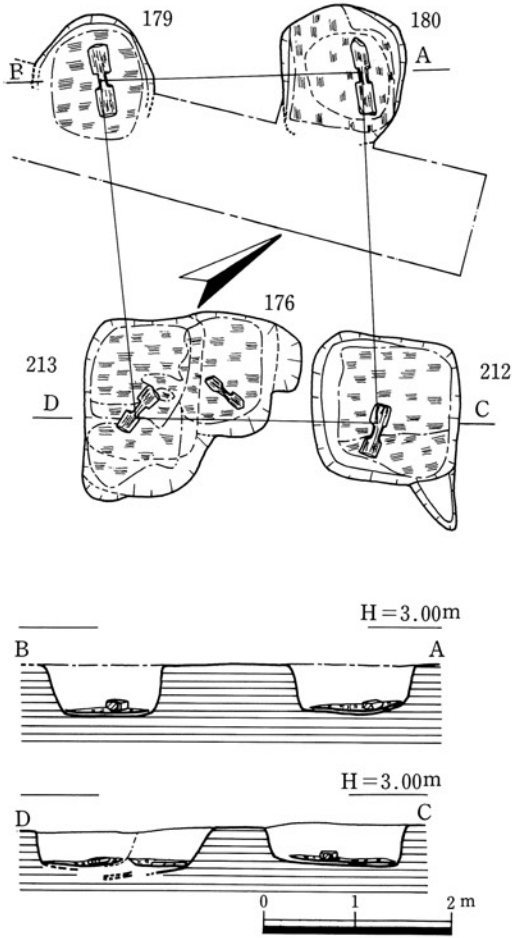


Fig. 47 S B402掘立柱建物実測図(S = 1/80)

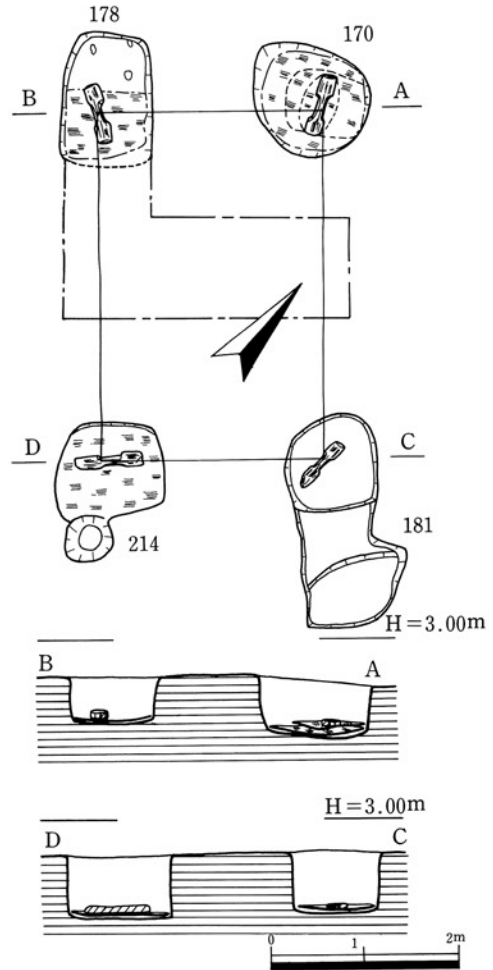


Fig. 48 S B403掘立柱建物実測図(S = 1/80)

穴掘り方の平面形は隅丸長方形を基調としているが、後世の削平によって円形・不定型を呈するものもある。柱穴規模はP-154を最大とし、長軸1.92m、短軸1.28m、深さ0.22mを測る。建物規模は1間×2間、桁行5.14m、梁行3.78mを測る。長軸は北東方向にとる。柱穴の呼称は北西部の桁行で西からP-145・150・154、南西部でP138・137・136とした。すべての柱穴で木皮状繊維・横木を検出した。またP-137では横木に組み入れられ状況にある柱最下部を検出した。この横木周辺は柱の重圧により最大10cm程度沈下している。横木の方向と木皮状繊維の敷きつめられている方向は、概ね交叉関係にある。

S B402掘立柱建物 (Fig. 47)

E-2区のO・N-13・14グリッドにある。図中のサブトレンチ設定によって柱間の相関関係を確定した。柱穴呼称は西部から時計まわりにP-179・180・212・176とした。3基以上の

1. 弥生時代の遺物と遺構

柱穴との切り合い関係をもつ。建物規模は1間×1間で、桁行3.85m、梁行2.8mを測る。建物の長軸方向は北西-南東方向。柱穴の上面の平面形は隅丸長方形を基調とするが、規模は一樣ではない。最も良好な状態で検出したP-212で長軸1.58m、短軸1.52、深さ0.5mを測る。全ての柱穴で横木・木皮状繊維を検出した。179と180、213と212のそれぞれの横木の方向は概ね同一である。

S B403掘立柱建物 (Fig. 48)

E-2区のO・N-12・13グリッドにある。これも図中のサブトレンチ設定によって柱間の相関関係を確定した。柱穴呼称は北西部のP-178を起点にして時計まわりに170・181・214としている。他遺構との切り合い関係はあまりなく、214・181が小穴、土壌と切り合っている程度である。建物規模は1間×1間で桁行3.7m、梁行2.28mを測る。建物の長軸方向は北西-南東方向。柱穴の上面の平面形は隅丸長方形を基調とし、その規模はたいして差がない。他遺構との切り合い関係の無い170で長軸1.3m、短軸1.14m、深さ0.6mを測る。178・170・214で横木・木皮状繊維を検出した。170では木皮状繊維層が2重になっているが、他地点で検出した柱穴の中にも同様の例がある。偶然に先行する柱穴に切り込んでいるものではないものとする。

柱穴測定値一覧

柱穴番号	柱穴長軸長	柱穴短軸長	横木上面標高	検出グリッド	備考
328	1.55 推	1.25 推	1.95	H-29	
353	1.7	1.2 推	1.98	H-29	328を切る
329	1.47	1.35 推	1.45	H-28	
345	1.4	1.3	1.85	H-28	
209	1.6 推	1.4	1.55	H・I-28	
331	—————	1.75 推	1.68	H-27・28	
343	2.28	1.6	1.8	H-27・28	
208	—————	—————	1.77	H-27・28	柱残存
206	—————	—————	1.92	G-27	柱残存
347	1.4 推	1.3	—————	G-27	横木無し
215	—————	—————	1.78	G-28	
214	—————	1.15	1.85	M-30	
345	1.62 推	1.48 推	1.15	H-G-28	
221	1.48	1.42	1.17	H-28	
222	1.38	1.15	2.06	H-27	柱残存
165	1.18	1.0	1.97	R-10	
160	1.25	—————	1.96	R-9	
143	1.33 推	0.97	2.27	R-10	
147	1.0	0.93	2.03	Q-10	
156	1.75 推	1.57	2.15	R-9	柱残存
163	1.28 推	1.2	2.01	Q-10	

IV. 牟田寄遺跡の記録

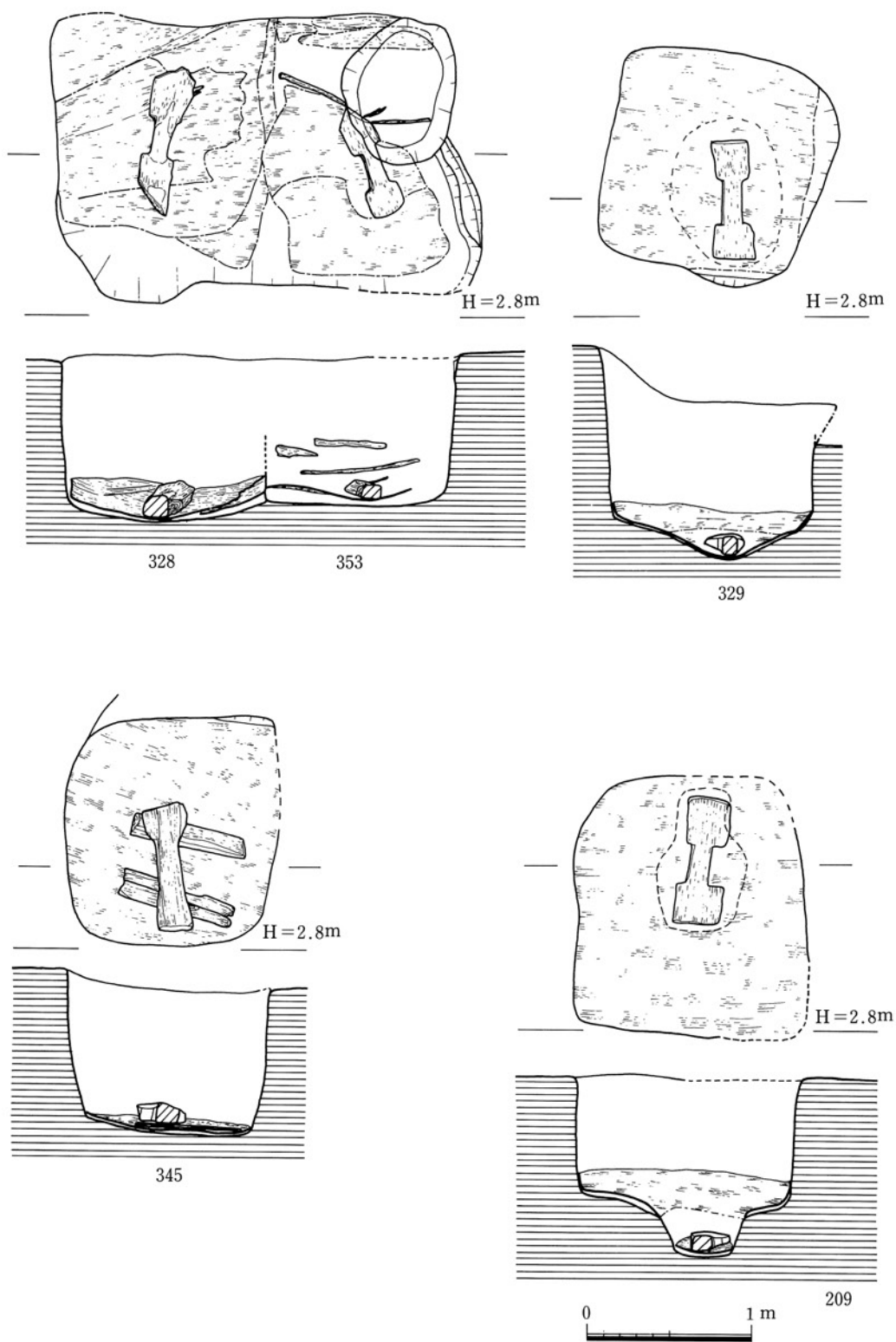


Fig. 49 柱穴個別実測図(1) (S = 1/40)

1. 弥生時代の遺物と遺構

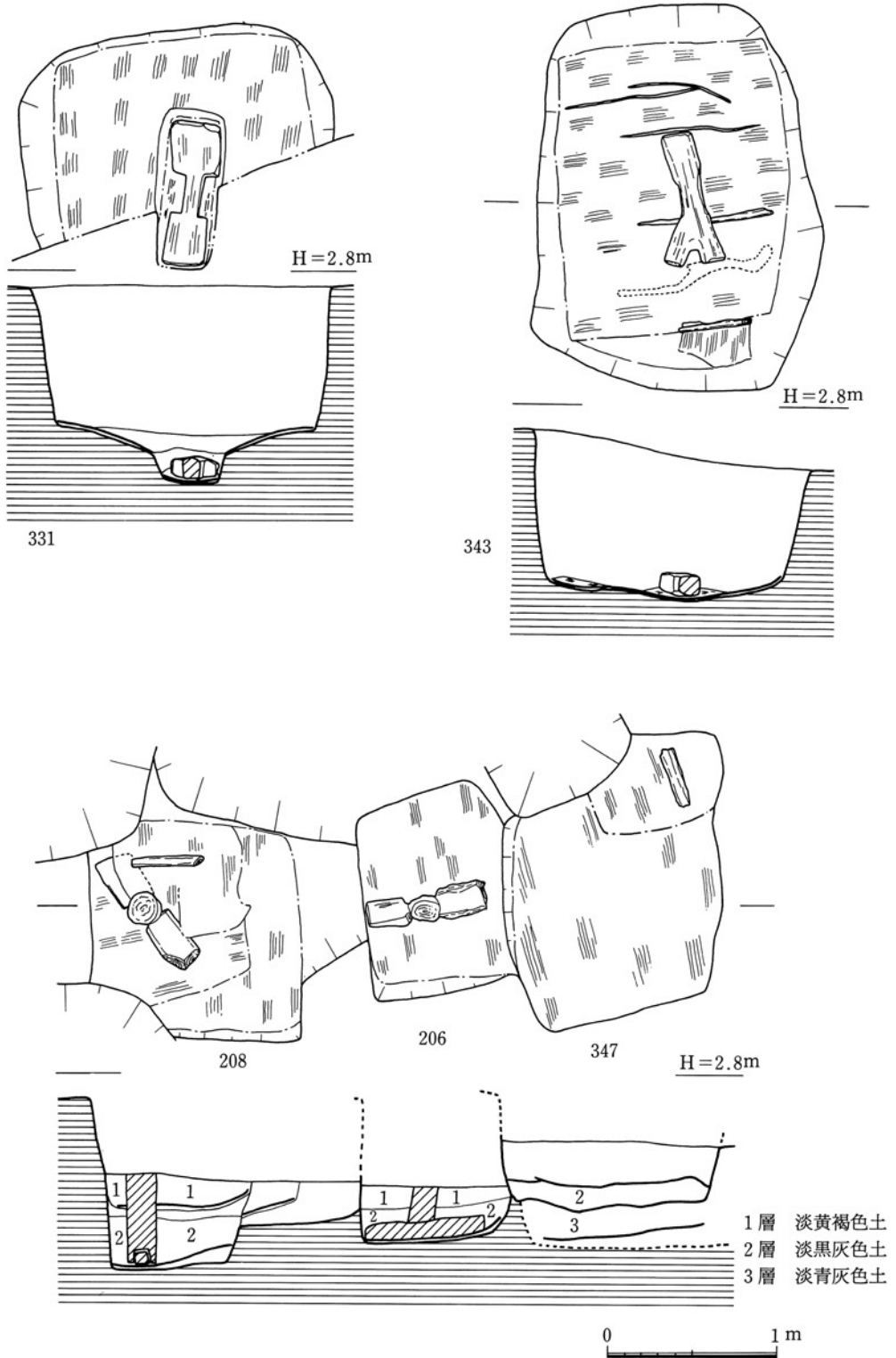


Fig. 50 柱穴個別実測図(2) (S=1/40)

IV. 牟田寄遺跡の記録

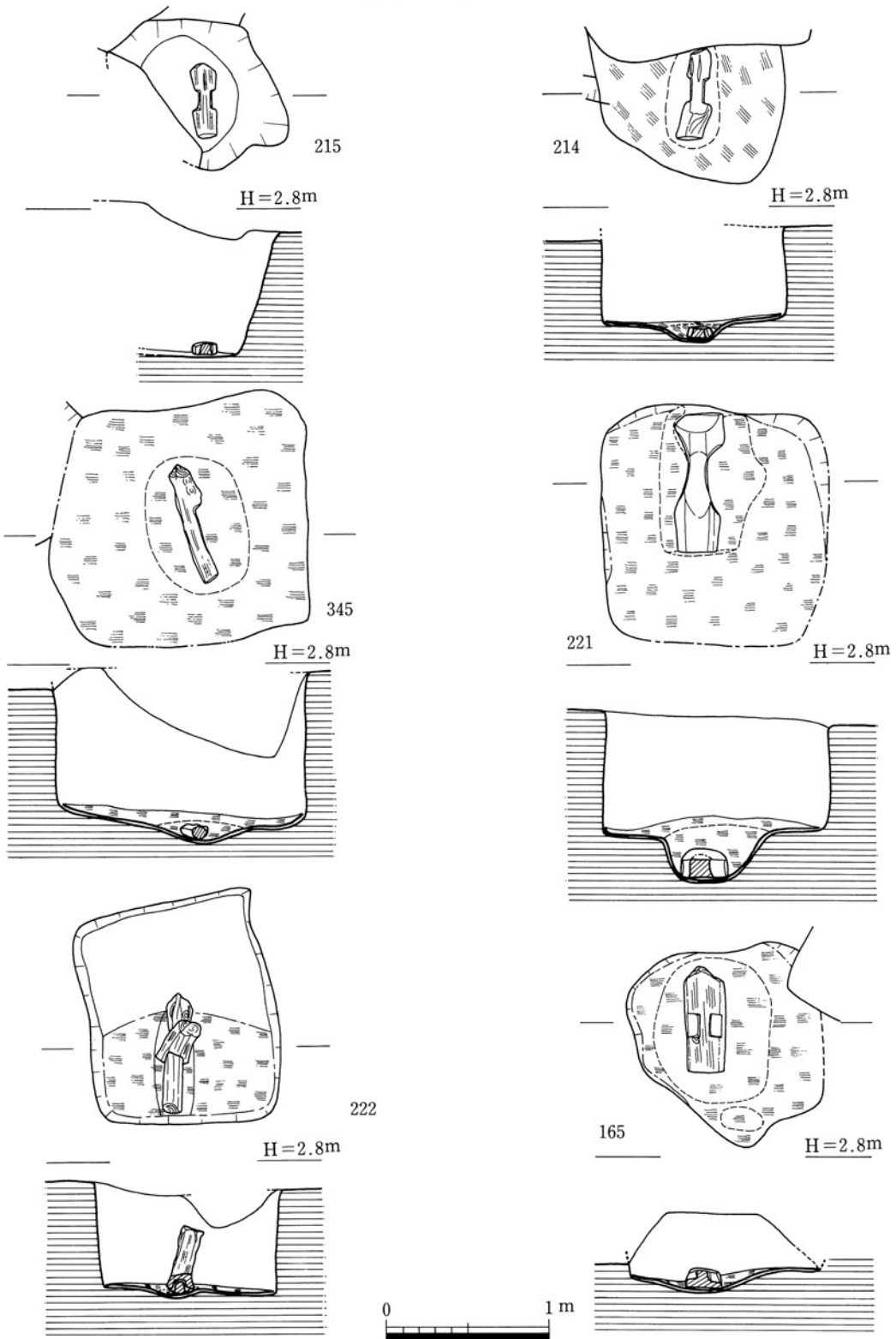


Fig. 51 柱穴個別実測図(3) (S=1/40)

1. 弥生時代の遺物と遺構

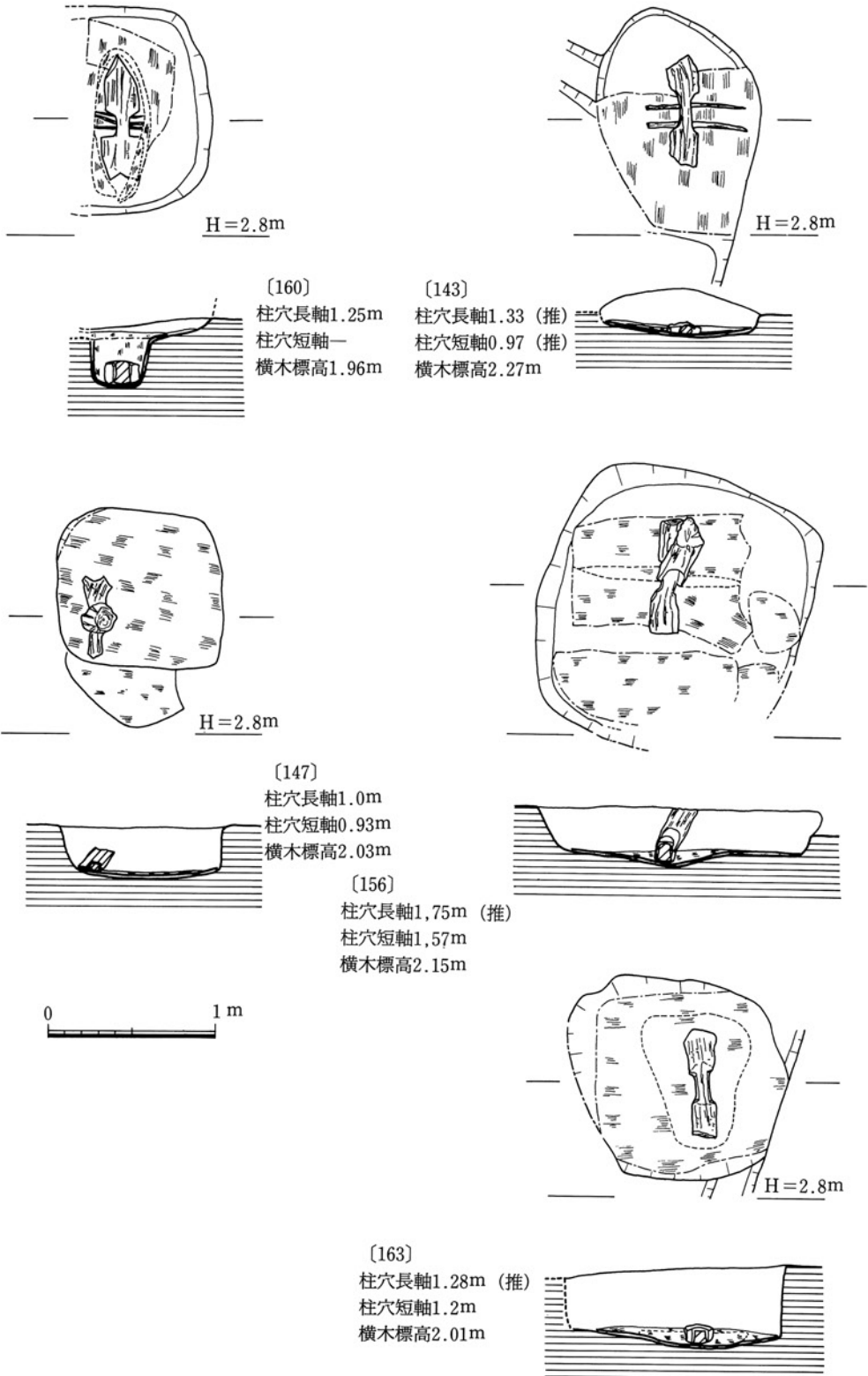


Fig. 52 柱穴個別実測図(4) (S=1/40)

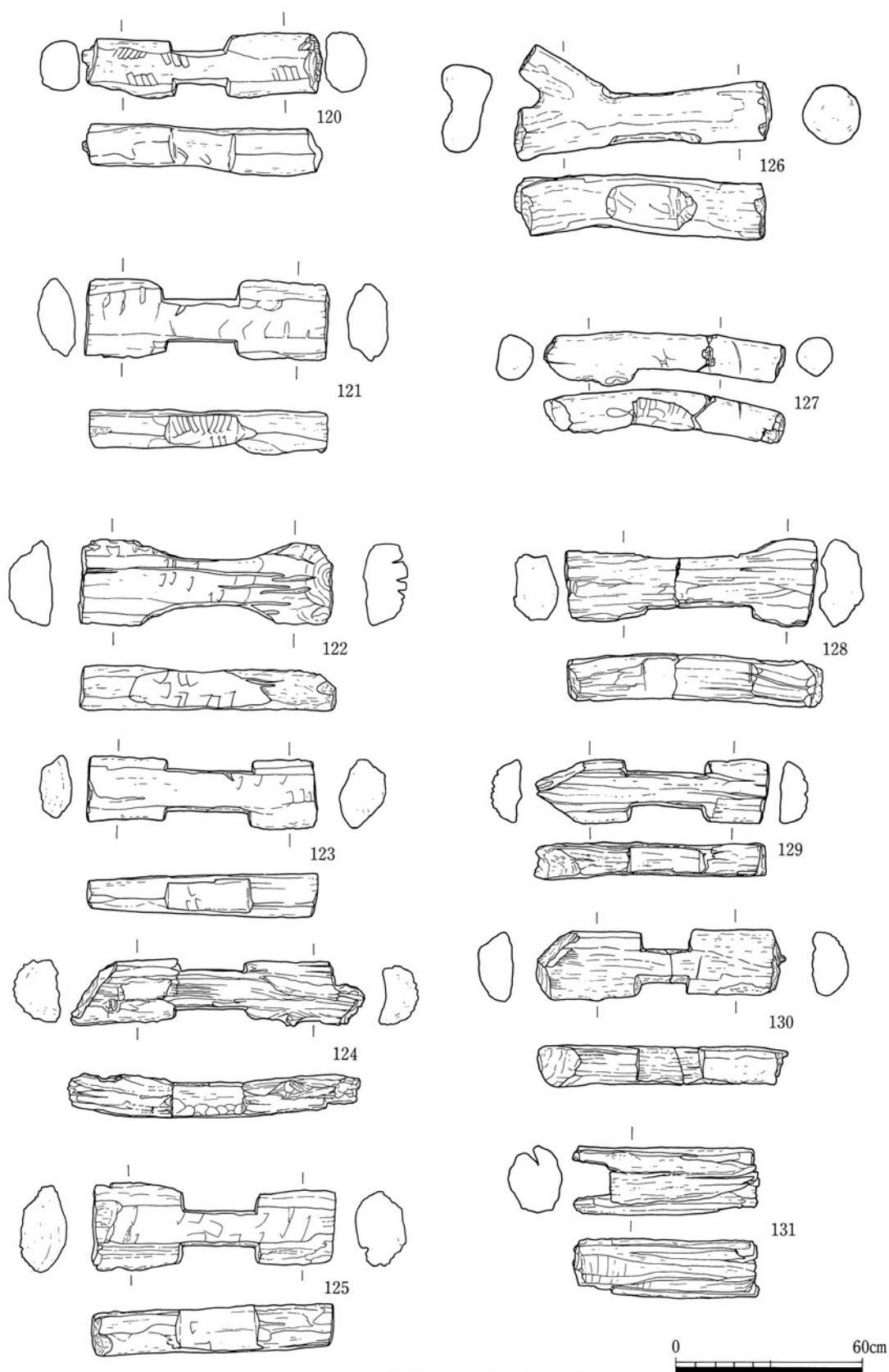


Fig. 53 柱穴横木実測図 (S = 1/20)

1. 弥生時代の遺物と遺構

柱穴横木 (Fig. 53)

120はP-206検出。長さ75.2cm、最大幅19.8cm、最大厚13.1cm。刳込部は幅11cm、長さ18cm。横木上面は幅5cm程度で面取がなされている。その一部には加工痕が観察できる。接地部には加工は施されていない。未加工部分には樹皮は残存していない。A類に分類できる。121はP-209検出。長さ97.3cm、最大幅24.7cm、最大厚12.3cm。丸木を縦割りにしてその半分を使用している。刳込部幅14cm、長さ25cm。刳込部は直角に近い角度で作られている。横木上面は幅14cm平均で面取がなされている。接地部は全面が平坦である。未加工部にはわずかに樹皮を観察できる。A類に分類できる。122はP-221検出。長さ82.7cm、最大幅26.6cm、最大厚13.2cm。これも丸木を縦割りにして使用している。上面の樹皮は端部にわずかに観察できる。上面は面取がなされているがその範囲はあまり明確ではない。刳込は角度を付けず湾曲している。B類に分類できる。123はP-328検出。長さ73.6cm、最大幅22cm、最大厚14.1cm。横木上面は10cm幅で面取がなされている。この横木も縦割りにしたものを使用している。刳込部は他の横木に比べて浅く4cm程度であり、その部分の幅18cm、長さ30cmを測る。表面に樹皮は観察できない。124はP-329検出。長さ87.8cm、最大幅20.3cm、最大厚13.7cm。丸木を縦割りにしたものを使用しているが、端部は雑に裁断されている。刳込部は幅13cm、長さ23cm上面はこの横木の遺存状況が不良のため明確ではないが、わずかに面取がなされている様子が観察できる。125はP-331検出。長さ75.7cm、最大幅27.6cm、最大厚15.1cm。刳込部の状況は121に近い様相を呈する。刳込部は幅11.6cm、長さ25cmを測る。上面の面取は幅10~11cmでなされている。加工部分以外に樹皮が観察できる。A類に分類できる。126はP-343検出。長さ89.8cm、最大幅28cm。最大厚18.2cm。自然木をほとんど加工しないで使用している。C類に分類できる。遺存状況は良好で全面に樹皮が観察できる。127はP-345検出。これも加工部分が少ない横木である。刳込ぶは片面の様相を呈するが他の面もわずかに加工がなされている。長さ78.9cm、最大幅28cm、最大厚13.5cm。刳込部分以外には元来樹皮があったと推定されるが、検出時には腐食ですでになくなっており観察できない。C類に分類できる。128はP-345のもう一本の横木。これも丸木を縦割りにして横木としている。長さ75.4cm、最大幅16cm、最大厚10.9cm。遺存状況があまり良好でないため面取は明確ではないが、断面から判断すると確実に加工しているのがわかる。B類に分類できる。129はP-353検出。これも丸木を縦割りにし、なおかつ片方の先端を削りによって先鋭化させている。横木に使用するため先鋭化させたのか、他の建築部材からの転用かは不明。長さ73.5cm、最大幅20cm、最大厚9.6cm。刳込部分は幅11cm、長さ24cm。腐食が進んでおり上面の面取範囲は明確でない。樹皮は上面の一部でわずかに残存しているのが観察できる。B類に分類できる。130はP-208検出。これも端部は雑な作り。建築部材からの転用の可能性もある。丸木を縦割りにして使用している。長さ77.5cm、最大幅20.3cm、最大厚11.2cm。刳込部は幅12cm、長さ17cm。横木上面の面取は幅8cm程度であるが均一ではない。加工部分以

IV. 牟田寄遺跡の記録

外には比較的明瞭に樹皮が観察できる。B類に分類できる。131はP208の柱残存部分。表面は削器で削られているが四角角に加工しようとした意図は見受けられない。もっとも、上部はこの段階では判断できない。横木との接合部は削器により丁寧に加工されている。

柱穴群出土遺物 (Fig. 54) (1)

132は杯。口径11cm、器高4.8cm。調整は主としてナデ、ヨコナデ、ハケ目によっている。ほぼ完形である。133は瓶の口縁部。口径13.9cm、残存器高2.9cm。調整は主としてハケ目、ヨコナデヨコナデによる。134は高杯の杯部。口径28cm、残存器高3.7cm。口縁部は大きく外反する。調整は摩耗のため明瞭ではないが、わずかにヨコナデ・ナデが観察できる。135は土玉。径1.8cm、から1.2cm。完形品である。136は甕の底部。底径9cm、残存器高5cm。調整は内面のナデが観察できるが外面は摩耗のため不明。137は甕。口径20.4cm、残存器高5.4cm。調整は内外面ともにハケ目・ナデを主体としている。外面の一部に黒斑部分がある。

柱穴群出土遺物 (Fig. 55) (2)

P-232出土の青銅製鏃である。埋土上層からの出土であり、当遺構に確実に伴うものかどうかは確定できない。長さ3cm。幅0.6cm、厚さ0.3cm。ほぼ完形であるが、かえりの片方と先端部分がわずかに欠失する。表面全体に緑青が及んでいる。

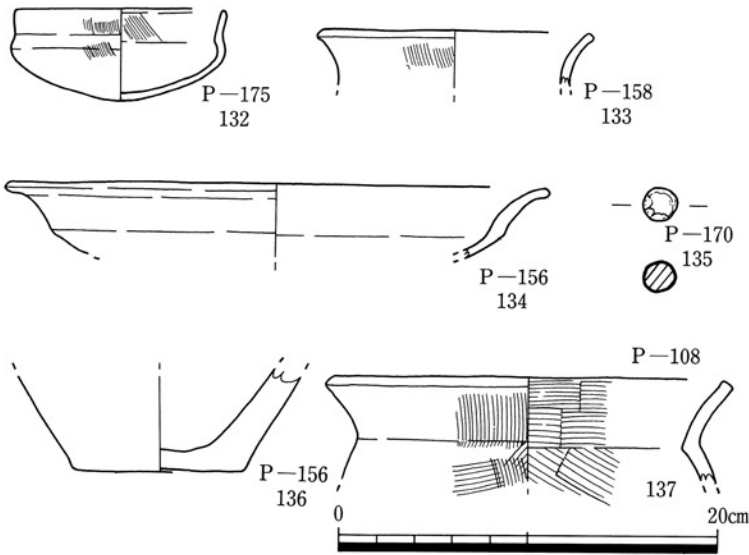


Fig. 54 柱穴群出土遺物実測図 (S = 1/4) (1)

Fig. 55 P-232出土遺物実測図 (S = 1/2) (2)

1. 弥生時代の遺物と遺構

溝と出土遺物

弥生時代の溝はE 1～3区で検出している。その全てが調査区外に及んでおりその全容は把握できていない。また、今回検出した同時代の溝はその壁面が明確ではなく底面もはっきりとは確定できなかった。同地区の遺構が堆積層に掘り込まれているためであろう。ちなみに埋土は淡茶褐色を主体とし、夏期の乾燥時には全く識別できなくなる。溝の深さは概ね0.1～0.2mであった。今回はこれらの溝から検出した遺物を中心に報告する。

S D041溝出土遺物 (Fig. 56)

139は甕。口径31.6cm、残存器高18.3cm。口縁部は大きく外反し頸部外面には断面三角形の突帯を1条有する。調整は内外面共に摩耗が進んでいるため明確ではないが、わずかにナデ・ヨコナデを観察できる。色調は橙褐色を主体とする。

140は甕。口径24.2cm、残存器高8.5cm。口縁部は短く、緩やかに外反する。内面の口縁部と胴部の境は明瞭な稜をゆうする。内外面とも摩耗が著しく、調整は明確ではないが口縁部付近のヨコナデがわずかに観察できる。

141は壺の底部か。底径7.2cm、残存器高5.7cm。底部は平底の様相を呈するが、わずかに丸味を帯びている。

142は壺。口縁部は袋状を呈するが、外面の稜は明確ではなく丸味を帯びる。調整は内外面共にナデ・ヨコナデを主体としている。頸部外面の一部に黒斑部分がある。143は石包丁。6割方欠失している。残存長4.8cm、厚さ0.6cmを測る。

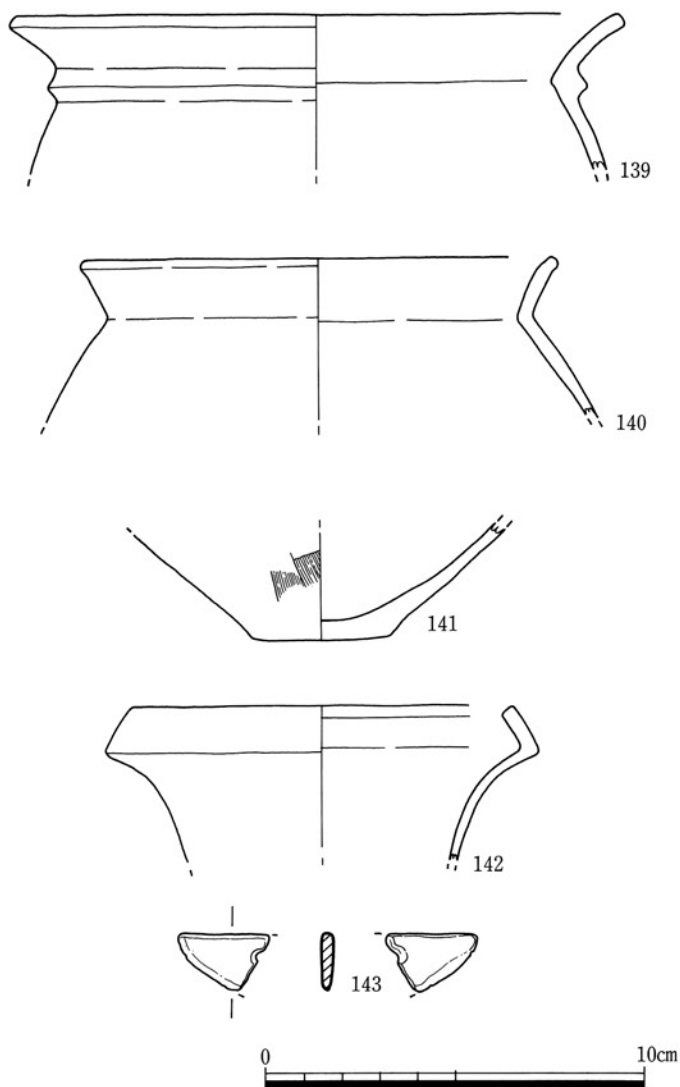


Fig. 56 S D041溝出土遺物実測図 (S = 1/4)

IV. 牟田寄遺跡の記録

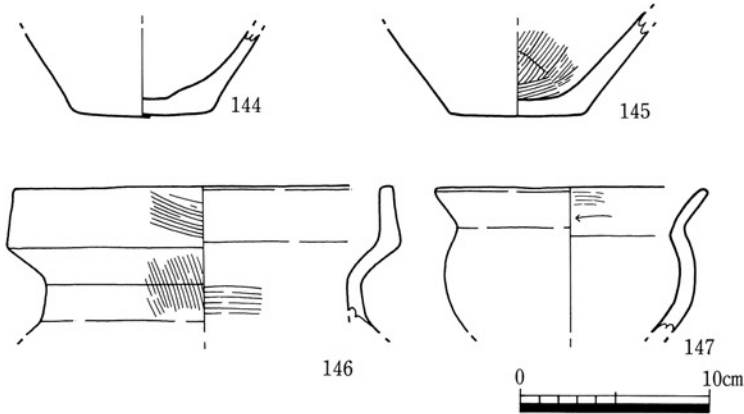


Fig. 57 S D046溝出土遺物実測図 (S = 1/4)

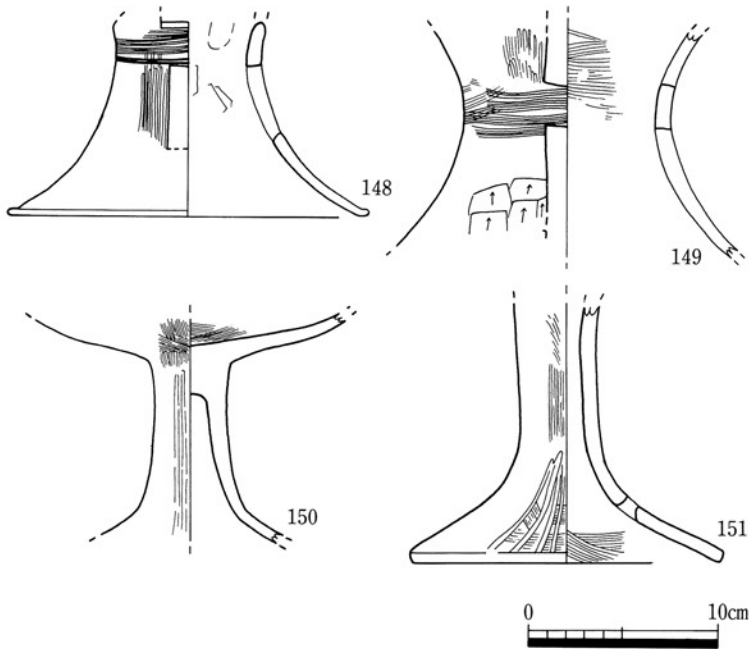


Fig. 58 S D241溝出土遺物実測図(2) (S = 1/4)

S D046溝出土遺物 (Fig. 57)

144は甕の底部。底径7.4cm、残存器高4.3cm。底部はわずかに丸味を帯びた平底。調整は内外面共にナデによっている。145も甕の底部。底径7cm、残存器高4.5cm。調整は内面がハケ目、外面がナデによっている。146は二重口縁の壺。口径29cm、残存器高7.7cm。調整は内面が口縁部付近ヨコナデ、頸部が横方向のハケ目、外面が口縁部付近斜め方向のハケ目、頸部が縦方向のハケ目となっている。147は壺。口径14cm、残存器高7.5cm。口縁部は短く外反する。調整は

1. 弥生時代の遺物と遺構

内面が口縁部ヨコナデ・ハケ目、胴部がナデ、外面が口縁部ヨコナデ、胴部がナデを主体としている。

S D 241 溝出土遺物(1) (Fig. 58)

148・149は器台。148で裾径19cm、残存器高10.3cm。裾先端部は丸味を帯びわずかに上方に湾曲する。透かし孔はこの遺物が完形でないため不明であるが、径から判断すれば3箇所にあるものか。また透かし孔は上下二段に作られている。調整は主としてナデ・ヨコナデによっている。透かし孔上部に沈線9本観察できるが、全部一巡するかどうかは不明。色調は淡黄褐色を基調とする。149は受部・裾部共に欠失している。残存器高11.3cmを測る。調整は外面がヘラミガキ・ナデ、内面がハケ目・ナデを主体としている。透かし孔は148と同様。外面中心部に沈線が一巡するが、148のものに比して浅い。本数は10本程度である。色調は赤褐色を基調とする。150・151は高杯。150は受部・裾部共に欠失する。残存器高11.4cm。調整は外面脚部がハケ目・ヘラミガキ、受部内面がハケ目を主体としている。受部内面の一部に黒斑部分がある。151は裾部径15.2cm、残存器高13.7cm。調整は外面がハケ目・暗紋、内面がハケ目を主体としている。また、脚部には焼成前の穿孔が3箇所配されている。色調は淡橙褐色を基調としている。

S D 241 溝出土遺物(2) (Fig. 59)

152～155は甕。152で口径25.6cm、器高41.5cm、底径5.4cm。底部は丸味を帯びた平底。長い胴部を有し、口縁部は短く外反する。調整は口縁部内外面のヨコナデ、胴部内外面のハケ目を基調とする。ハケ目方向は内面が横、外面が縦方向となっている。153は口径20.1cm、残存器高12.3cm。器形・調整は152とほぼ同様。ただし、ハケ目方向が内外面共に斜めとなっている。154は口径18cm、残存器高14.6cm。器形・調整は153と同様。外面の一部に煤が付着している。155は154と同一個体の可能性があるが接点が残存していない。底径4cm、残存器高13.3cm。調整はハケ目を主体とするが、外面底部付近には篋状工具によるナデが施されている。156は壺。口径13.5cm、残存器高9.9cm。口縁部は短く外反する。調整は口縁部内外面がヨコナデ、胴部内外面がハケ目を主体としている。頸部付近に1条の沈線があるが、同個体が破片のため一巡するかどうかは不明。157は壺。口径14cm、残存器高9.6cm。口縁部は外反し端部は丸味を帯びる。外面の一部に黒斑部分あり。調整は外面が口縁部付近ヨコナデ、胴部タタキ、内面が口縁部ヨコナデ、胴部ナデとなっている。158は壺。口径10.3cm、残存器高8.6cm。口縁部は直立し端部は丸味を帯びる。調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ・ナデを主体としている。159は二重口縁の壺。口径17.5cm、残存器高3.3cm。調整はヨコナデ。160は壺の胴部。残存器高5.2cm。調整は外面がヘラミガキ、内面が工具によるナデ・ハケ目・ヨコナデを主体としている。161は杯。口径12cm、器高4.7cm。調整は外面が上半部ヨコナデ・下半部ナデ、内面が底部付近工具によるナデ・口縁部ヨコナデ。

IV. 牟田寄遺跡の記録

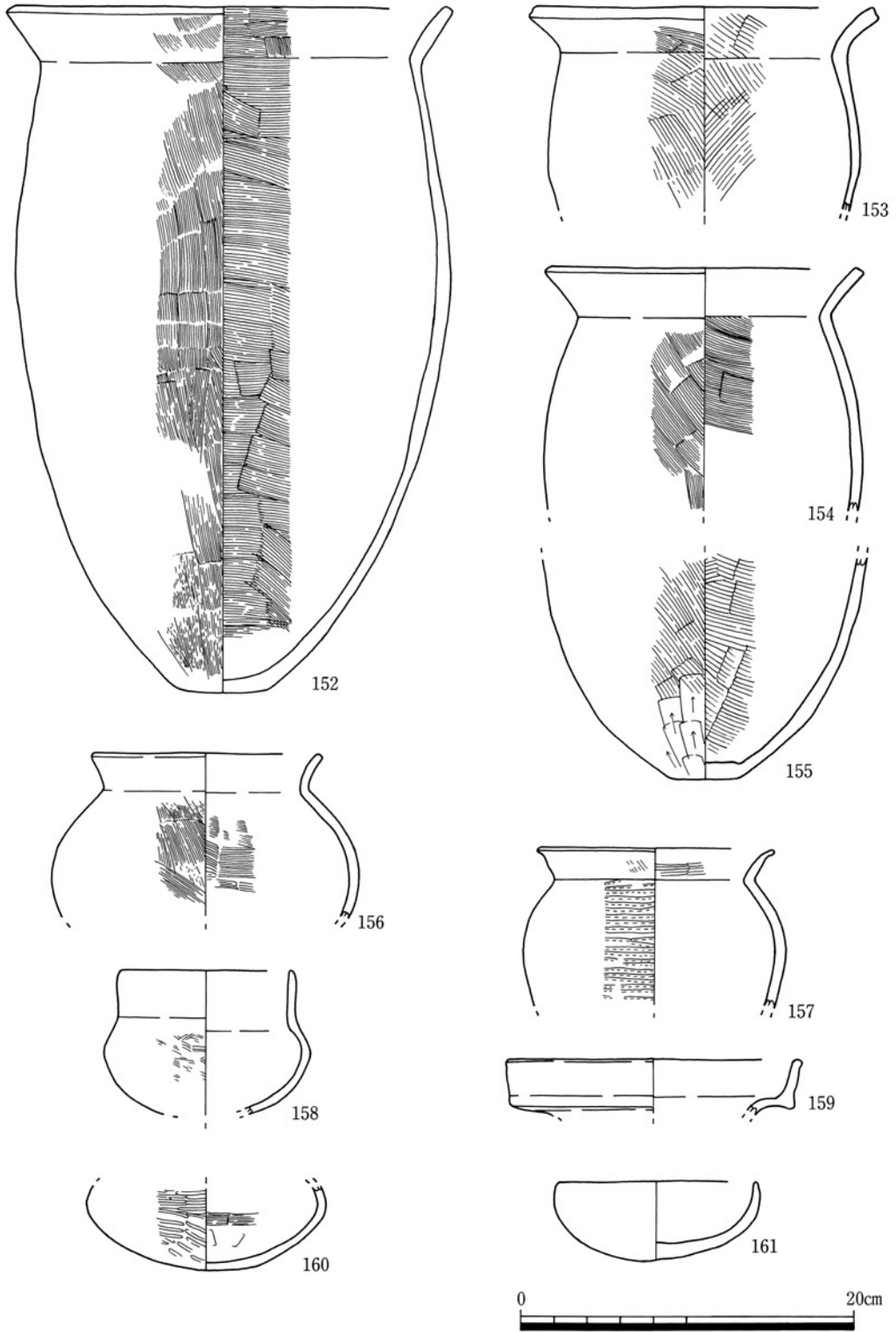


Fig. 59 S D241溝出土遺物実測図(2) (S=1/4)

1. 弥生時代の遺物と遺構

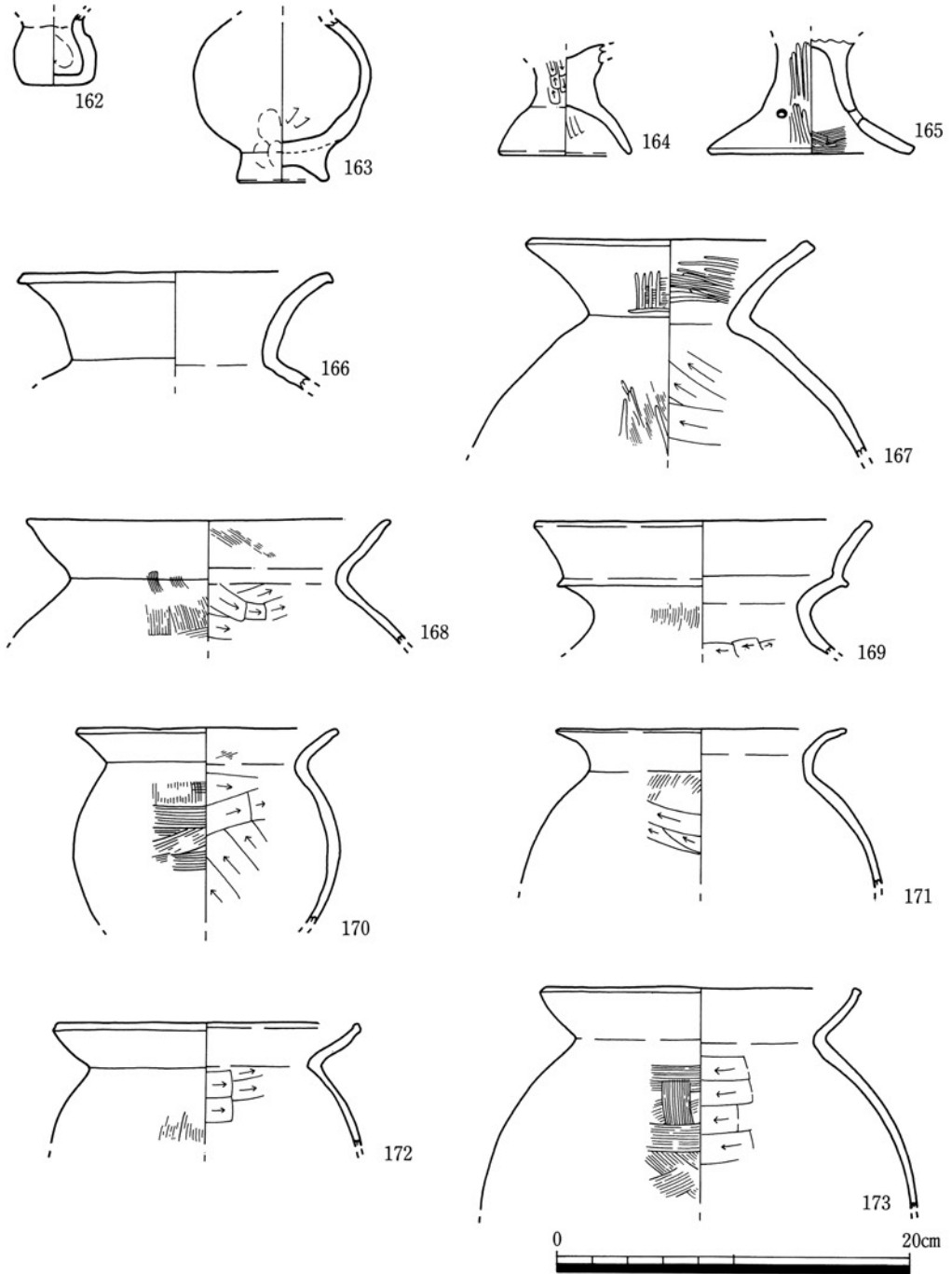


Fig. 60 S D241出土遺物実測図(3) (S = 1 / 4)

S D241溝出土遺物(3) (Fig. 60)

この図版にある遺物は古墳時代に属するものである。これはこの溝が存在する地点が貝層お

IV. 牟田寄遺跡の記録

よびそれと混在して多量の出土遺物が検出された所であるため、溝埋土直上にあったものの可能性が高い。

162は手捏の壺か。底径3.8cm、残存器高3.8cm。調整は指頭圧・ナデによる。163は台付の壺か。底部径5cm、残存器高9.1cm。調整は主としてナデによる。色調は外面が橙褐色、内面が黒色を基調としている。164は高杯の脚部か。脚部径7.2cm、残存器高6.2cm。調整は外面脚柱部ヘラケズリ、脚部ナデ、内面が脚部篋状工具によるナデ、杯部がナデによっている。165も高杯の脚部。焼成前の穿孔が脚部3箇所にある。脚部径11.4cm、残存器高6.2cm。調整は外面がヘラミガキ、内面がハケ目・篋状工具によるナデを主体としている。166・167・169は壺、168・170～173は甕。166は口径17cm、残存器高6.1cm。調整は摩耗が著しいため明確ではないがヨコナデが観察できる。口縁部内面と頸部外面に黒斑部分がある。167は口径15.4cm、残存器高12cm。調整は外面口縁部付近ヨコナデ・ヘラミガキ、胴部ナデ・ヘラミガキ、内面口縁部付近ヨコナデ・ヘラミガキ、胴部ヘラケズリを主体としている。外面の一部に赤色顔料が残存している。168は口径20.3cm、残存器高6.7cm。口縁端部はわずかに外反する。調整は外面口縁部付近ヨコナデ、胴部ハケ目、内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリによっている。169は口径18.8cm、残存器高7.2cm。調整は外面がヨコナデ、ハケ目、内面がヨコナデナデ、また、頸部以下がヘラケズリによっている。170は口径14.5cm、残存器高11cm。口縁部はわずかに外反する。調整は外面口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目、内面口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリによっている。胴部外面の一部に煤が付着している。171は口径15.7cm残存器高8.7cm。口縁部と頸部の境が不明瞭。調整は外面口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目工具による強いナデ、内面が口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリによっている。外面口縁部付近に煤が付着している。172は口径16.8cm、残存器高6.8cm。口唇部は上方に摘みあげられている。調整は外面口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目、内面口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリによっている。173は口径17.4cm、残存器高12.5cm。口縁部は大きく内湾する。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ハケ目、内面ヘラケズリによっている。

S D332溝出土遺物 (Fig. 61)

174は杯。口径8.6cm、器高3.7cm。口径の割りには厚い器壁をもつ。調整はナデ・指頭圧・ハケ目によっている。ほぼ完形品。175は壺。口径8.8cm、器高8.8cm。調整はヨコナデ・ナデを主体としている。外面の一部に黒斑部分がある。176は高杯。杯部径17cm、残存器高6.6cm。調整は主としてナデ・ハケ目によっている。内面の摩耗が著しい。177は器台。残存器高6.4cm。透かし孔が上下2段にある透かし孔との間には12～14本の沈線がある。調整は主としてナデによっている。178は器台受け部は平坦であり中央部には穿孔を有する。調整は明瞭ではないが外面タタキ、内面ナデによっている。179も器台。受け部径16.8cm、残存器高14cm。受け部は大きく外反する。調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ、工具によるナデ、ハケ目によっている。180～182は甕。180は口径16cm、残存器高7.5cm。短い口縁部をもちわずかに外反する。調整は

1. 弥生時代の遺物と遺構

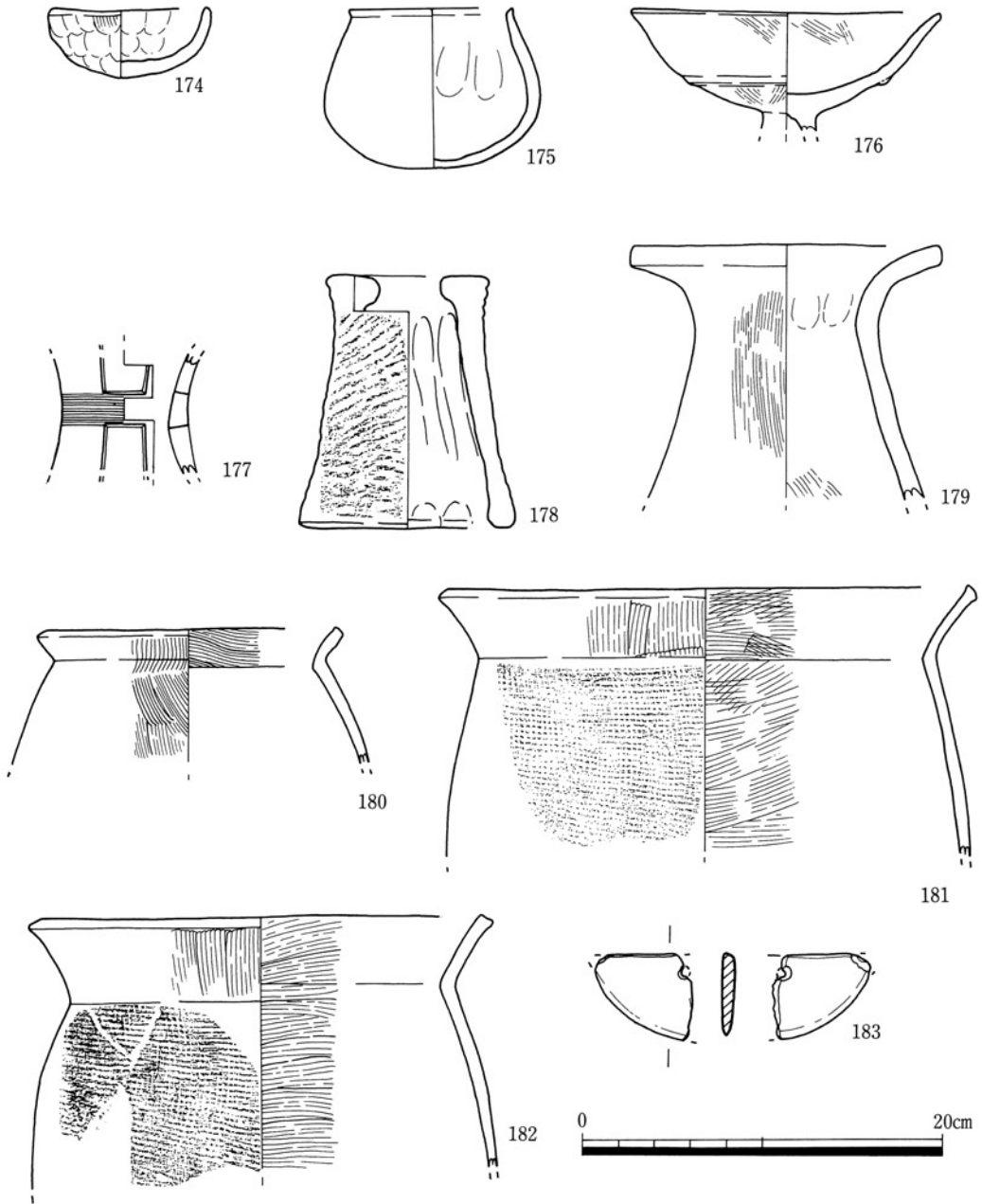


Fig. 61 S D322溝出土遺物実測図 (S=1/4)

主としてハケ目によっている。181は口径28.6cm、残存器高15cm。口縁部は「く」の字状を呈し、端部は上方に摘みあげられている。調整は外面口縁部ハケ目、胴部タタキ、内面が横方向のハケ目を主体としている。182は口径24.6cm、残存器高15cm。調整および形状はほぼ181に同じ。183は石包丁。6割方欠失している。残存長5.1cm、幅4.6cm、厚さ0.6cm。

IV. 牟田寄遺跡の記録

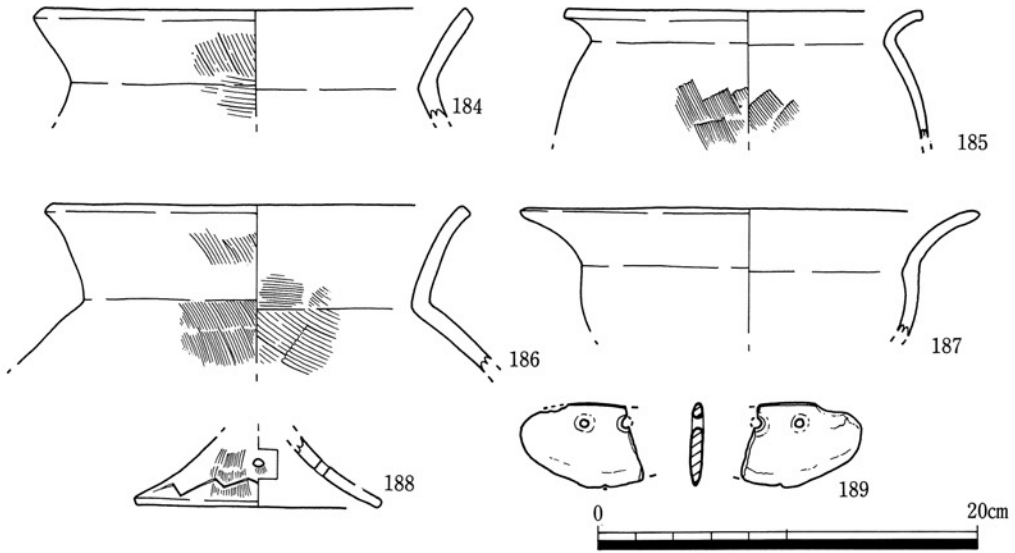


Fig. 62 S D340溝出土遺物実測図 (S = 1/4)

S D340溝出土遺物 (Fig. 62)

184は甕。口径21.9cm、残存器高5.7cm。比較的厚い器壁をもつ。調整は外面がハケ目、内面が工具によるナデを主体としている。185は甕。口径17.9cm、残存器高6.5cm。口縁部は短く外反する。調整は口縁部がヨコナデ、胴部がハケ目によっている。186は甕。口径21.4cm、残存器高8.5cm。調整はヨコナデ・ハケ目を主体としている。181は鉢。口径23.3cm、残存器高6.6cm。調整は主としてナデ・ヨコナデのよっている。188は高杯の脚部か。脚径12.9cm、残存器高3.6cm。調整は主としてハケ目による。189は石包丁。残存長4.3cm、幅5.8cm、厚さ0.6cm。3割方を欠失する。

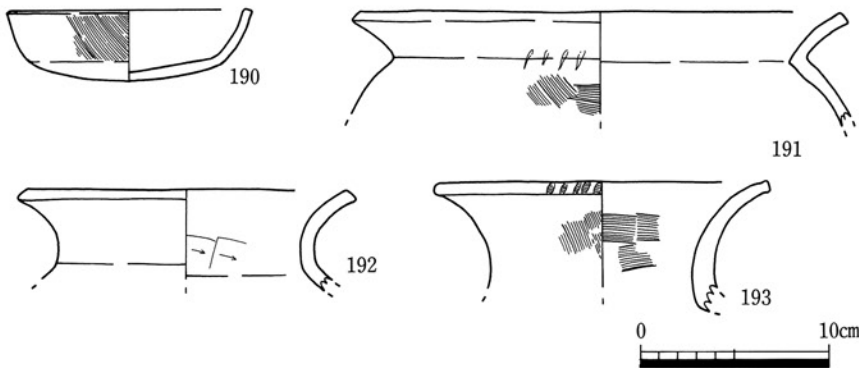


Fig. 63 S D341溝出土遺物実測図 (S = 1/4)

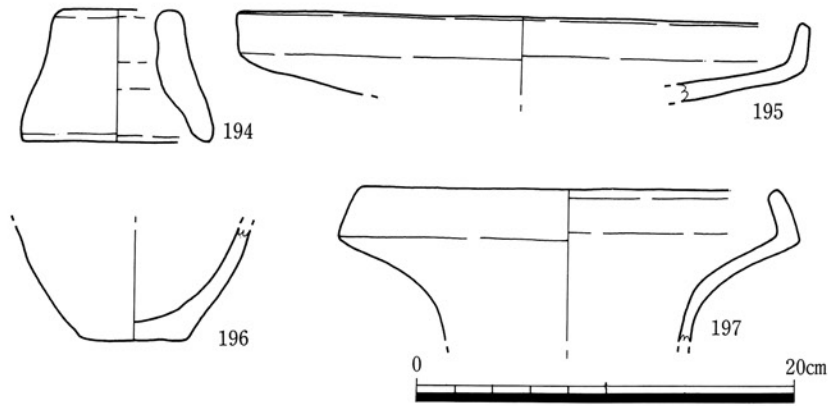


Fig. 64 S D032溝出土遺物実測図 (S = 1/4)

S D341溝出土遺物 (Fig. 63)

190は杯。口径12.9cm、器高3.7cm。調整は主としてナデ・ハケ目による。191は甕。口径25.2cm、残存器高5.5cm。口縁部は「く」の字状を呈し、内面頸部には稜を有する。また、頸部外面には指突紋を有する。調整は口縁部がヨコナデ、胴部外面がハケ目を施している。192は壺。口径16.7cm、残存器高4.7cm。口縁部は大きく外反する。調整は外面がヨコナデ内面がヨコナデ・工具によるナデを主体としている。193は壺。口径17.2cm、残存器高5.6cm。口縁部は大きく外反し、器壁は比較的厚い。口唇部外面に櫛状工具による指突紋を有する。調整はハケ目・ヨコナデを主体としている。

S D032溝出土遺物 (Fig. 64)

194は器台。受部径5.6cm、器高6.9cm裾部径9.6cm。調整は主としてナデによっている。195は高杯の杯部。口径30cm、残存器高4.2cm。摩耗が進んでいるため調整は明確ではないが、ヨコナデ・ナデがわずかに観察できる。196は甕の底部。底径5.8cm、残存器高6cm。底部はわずかに丸味を帯びる。調整は主としてナデによる。197は壺。口径21.8cm、残存器高8.1cm。調整は主としてヨコナデ。外面の摩耗が進んでいる。

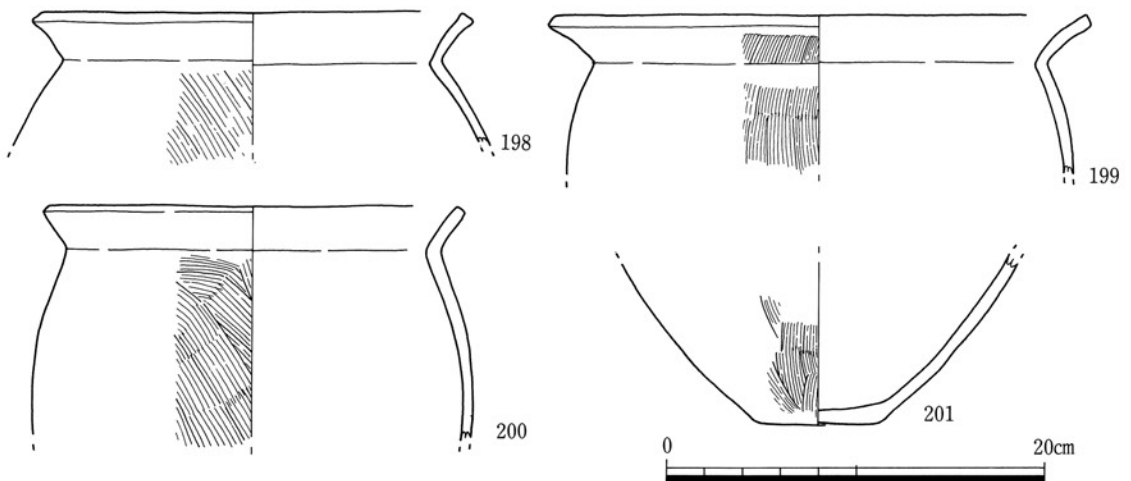


Fig. 65 S D045溝出土遺物実測図 (S = 1/4)

IV. 牟田寄遺跡の記録

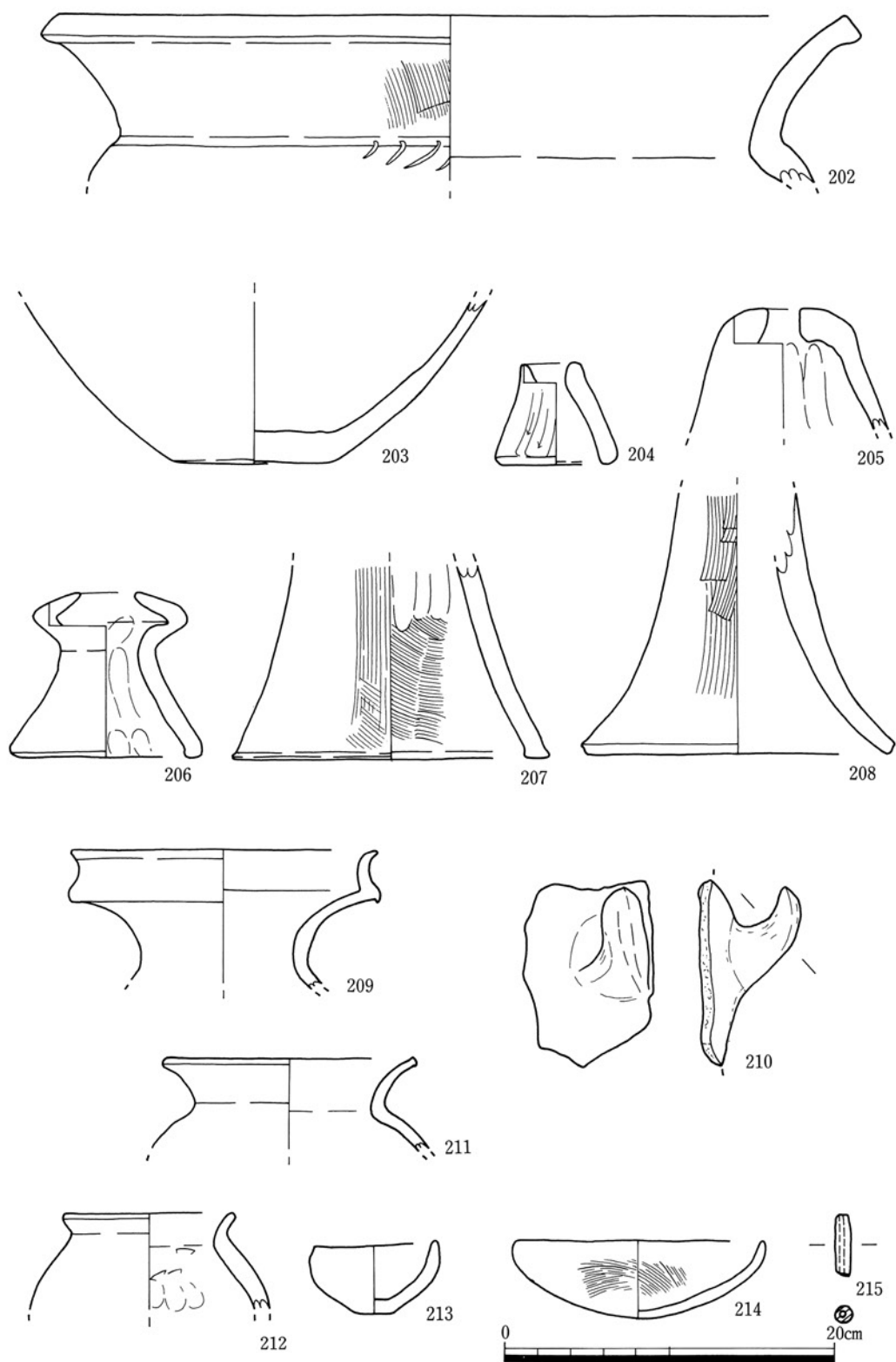


Fig. 66 遺構検出面出土遺物実測図(1) (S = 1/4) (2)

1. 弥生時代の遺物と遺構

S D045溝出土遺物 (Fig. 65)

198～201は甕。198で口径22cm、残存器高7.1cm。調整は外面が口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目、内面が口縁部ヨコナデ、胴部ナデによっている。口縁部はわずかに外反する。199は口径28cm、残存器高8.4cm。口縁部は大きく外反する。調整は口縁部ヨコナデ、胴部外面ハケ目、内面ナデによる。200は口径21.4cm、残存器高11.2cm、口縁部は短くわずかに外反する。調整は199に同じ。201は底径6.6cm、残存器高8.5cm。底部は丸味を帯び、わずかに上げ底状を呈する。調整は外面がハケ目、内面がナデによっている。

5. その他の出土遺物

この牟田寄遺跡の埋土中には、地点によっては多量の遺物が埋土中に包含されていた。また、遺構検出面で採集したものの内、出土遺構が特定できなかったものも多数ある。その大半は細片であったが、中には残存状況が良好なものもあったのでそれらを選別し掲載する。

遺構検出面土遺物 (Fig. 66)

202は甕。口径47.4cm、残存器高10.1cm。調整は外面がハケのあとナデ、内面がヨコナデ。外面頸部に刺突文がある。203は底径9.5cm、残存器高9.8cm。底部は丸味を帯びる。調整は内外面ともに工具によるナデ。204～208は器台。204は受部径3.1cm、器高6.2cm、裾径6.2cm。調整は指頭によるナデ・工具によるナデを主体としている。205は受部径4cm残存器高7.4cm。調整は外面がナデ、内面が指頭による強いナデ。206は受部が袋状になっているタイプ。受部径3.6cm、器高10.1cm、裾径10.6cm。調整は外面がナデ、内面が指頭による押しえ。裾部外面の一部に黒斑部分がある。207は残存器高11.7cm、脚径19cm。調整は外面が縦方向のナデ、内面下半部ナナメ方向のナデ、上半部指頭による強いナデ。208は残存器高15.8cm、脚径18.3cm。調整は外面がナデ、内面がナデ、指頭による強いナデ。209は二重口縁壺。口径18.3cm、残存器高7.7cm。口唇部と口縁部外面下部が先鋭化している。調整は主としてナデ・ヨコナデによっている。210は土師器の甕。調整は主としてナデ。211は土師器壺。口径14.8cm、残存器高5.6cm。口縁部は大きく外反する。調整は摩耗のため不明。212は土師器壺。口径10cm、残存器高5.8cm。口縁部は短く外反する。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ナデ、内面ヘラケズリによっている。213は手捏。口径7.4cm、器高4.4cm、底径2.1cm。内面と底部外面の一部に黒斑部分がある。214は杯。口径14.8cm、器高4.6cm。調整は口縁部内外面ヨコナデ、その他は主としてハケ目を施している。215は土錘か。長さ3.7cm、幅1cm。

IV. 牟田寄遺跡の記録

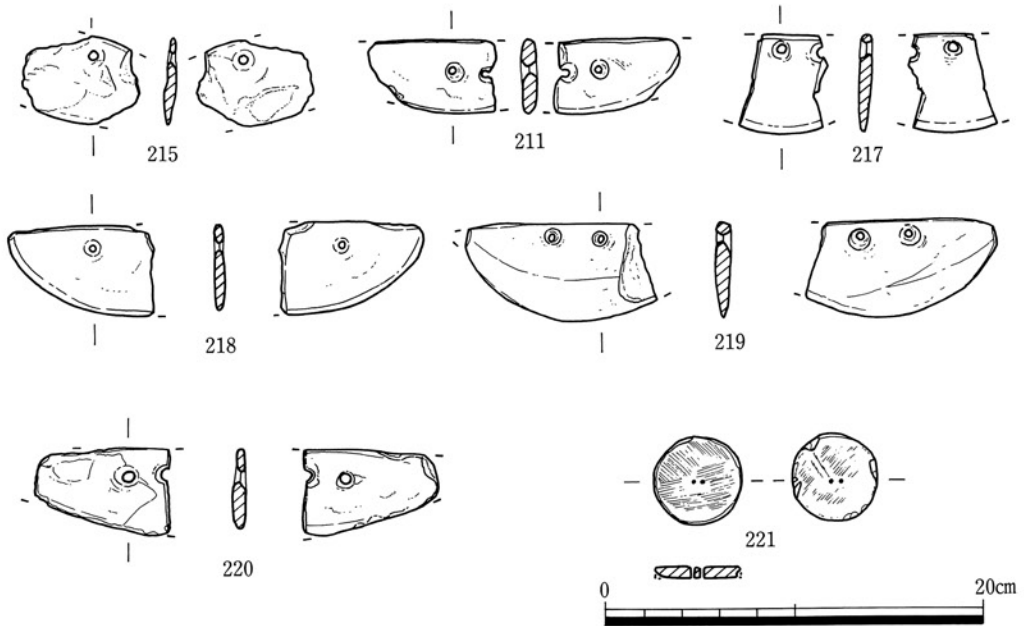


Fig. 67 表採，遺構検出遺物実測図(2) (S = 1/4)

遺構検出面・埋土下層出土遺物 (Fig. 67)

216～221は石包丁。216で残存長6cm、最大幅4.6cm、厚さ0.6cm。摩耗が著しい。217で残存長6.6cm、最大幅3.85cm、厚さ0.8cm。218は残存長4.5cm、幅5.1cm、厚さ0.65cm両端部を欠失する。219は残存長7.6cm、幅4.8cm、厚さ0.6cm。220は残存長9.2cm、幅5cm、厚さ0.8cm。3割方欠失する。221は残存長7cm、幅4.5cm、厚さ0.7cm。222は有孔円盤。径4.4cm、厚さ0.6cm、重さ25g。

2. 古墳時代の遺物と遺構

2. 古墳時代の遺物と遺構

今回の調査ではこの時代の遺物・遺構が最も少なく、E1区・3区に点在していた。これは元来同地区が古墳時代にはあまり広い範囲で集落が営まれなかったことの確定的な要素ではない。ちなみに、小片ではあるが埋土中からも全域から土器が出土している。今後の調査地点によっては同時代の遺物・遺構が集中することが想定される。

(1) 土 壙

検出地点は弥生時代後期の遺構が集中している地点であり、古墳時代の遺構埋土上層の色調があまり明確なものではなく、検出が難航した。明確に古墳時代と断定できる土壌で遺物検出状況が良好なものは以下に記すもののみである。

S K 338土壙 (Fig. 68)

G-3 1グリッドで検出した。この地点は弥生時代後期の遺物を中心に、多量の出土遺物が埋土下層から遺構検出面までにあったところである。この部分については幅5~7m程度の溝が存在したともと考えて調査を進めていたが、その程度の幅をもつ溝は確認できず、結局は谷地形の部分に遺物が堆積していったものと考えざるを得なくなった。本遺構はこのような状況のなかで検出したものである。そのため、遺構掘り込み上面での検出はできず、下半部に止まっている。

遺構は東西方向に長い隅丸長方形を基調としている。中心部で東西長2.94m、南北1.1m、深さ0.13mを測る。底面には緩やかな起伏があり、壁はやや角度をもって立ち上がる様相を呈する。

埋土は灰褐色土を基調としていた。出土遺物には須恵器杯がある。底面直上の検出ではないが、何らかの意図をもって埋納されている様相を呈する。須恵器の遺存状況も良好であり、完形・完存もある。

S K 338土壙出土遺物 (Fig. 69)

222~225は須恵器蓋、226~230は須恵器杯。222は口径12cm、器高4.5cm。天井部外面はヘラケズリが観察できるこれは他のもの全てに共通している。約5割を欠失する。233は口径12cm、器高5.1cm。色調は暗灰色を呈する。完存する。224は口径12.7cm、器高5cm。約2割を欠失す

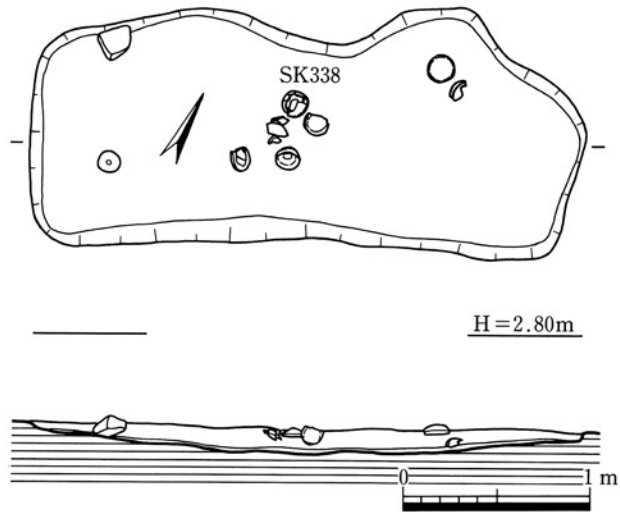


Fig. 68 SK338土壙実測図 (S = 1/40)

IV. 牟田寄遺跡の記録

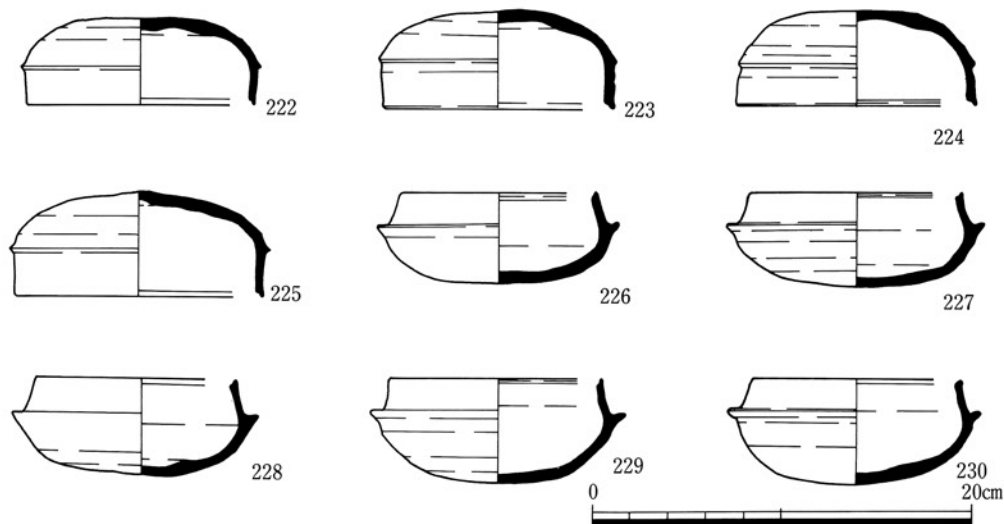


Fig. 69 SK338土壌出土遺物実測図 (S = 1 / 4)

る。225は口径13cm、器高4.5cm。約4割を欠失する。226は口径10.2cm、器高4.7cm。外面底部付近に煤状の物質が付着している。約2割を欠失する。227は口径11.1cm、器高4.9cm。ほぼ完形品。228は口径10.4cm、器高5.1cm。完存する。底部外面に篋記を有する。229は口径11cm、器高5.4cm。ほぼ完形品。230は口径10.9cm、器高5.6cm。約2割を欠失する外面底部に篋記号を有する。

(2) 掘立柱建物

E1・E3区で検出した。E3区では北東から南西方向に列をなして5棟以上存在する。あまりにも方向性が同一であるため、もっと新しい時代の所産とも考えたが、微量ではあるが柱穴から出土した遺物によってこの時代と想定した。また、弥生時代後期の所産である一連の柱穴群にみられるような横木・樹皮状繊維を用いた地盤沈下対策は施されていない。今回掲載するものはすべて2間×2間の総柱のものである。

S B 014掘立柱建物 (Fig. 70)

E1区の東寄りに位置する。当初この建物の規模がさらに北方にのび、2間×3間の規模を想定していたが、柱の方向性・距離等に整合性が見いだせず、2間×2間総柱のものと断定した。南北軸は座標北からやや西にずれる。建物規模は柱穴NO. 1～NO. 7の間で2.76m、柱穴NO. 1～NO. 3の間で2.79mを測る。柱穴規模は径0.3～0.6m、深さ0.5～0.6mを測る。柱穴NO. 2は他の遺構と切りあっているものとする。全ての柱穴で柱痕跡を確認し、その径は10～12cm程度であった。

S B 359掘立柱建物 (Fig. 71)

F-35グリッドに所在する。2間×2間の総柱の建物である。建物規模は柱穴NO. 9～N

2. 古墳時代の遺物と遺構

S B014柱穴土層観察

[No. 1]

- 1層：淡黒灰色土
- 2層：淡黒褐色土
- 3層：淡灰褐色土

[No. 2]

- 1層：黒褐色土
- 2層：淡黄褐色土
- 3層：淡黒灰色土

[No. 3]

- 1層：黒褐色土
- 2層：淡黄灰色土

[No. 4]

- 1層：黒灰色土
- 2層：淡黒褐色土
- 3層：淡灰褐色土

[No. 5]

- 1層：淡黒灰色土
- 2層：淡黄灰色土
- 3層：淡灰褐色土

[No. 6]

- 1層：淡黒灰色土
- 2層：淡灰色土

[No. 7]

- 1層：淡黒灰色土
- 2層：淡黄灰色土

[No. 8]

- 1層：淡黒灰色土
- 2層：淡茶褐色土
- 3層：淡灰褐色土

[No. 9]

- 1層：淡黒灰色土
- 2層：淡黄灰色土

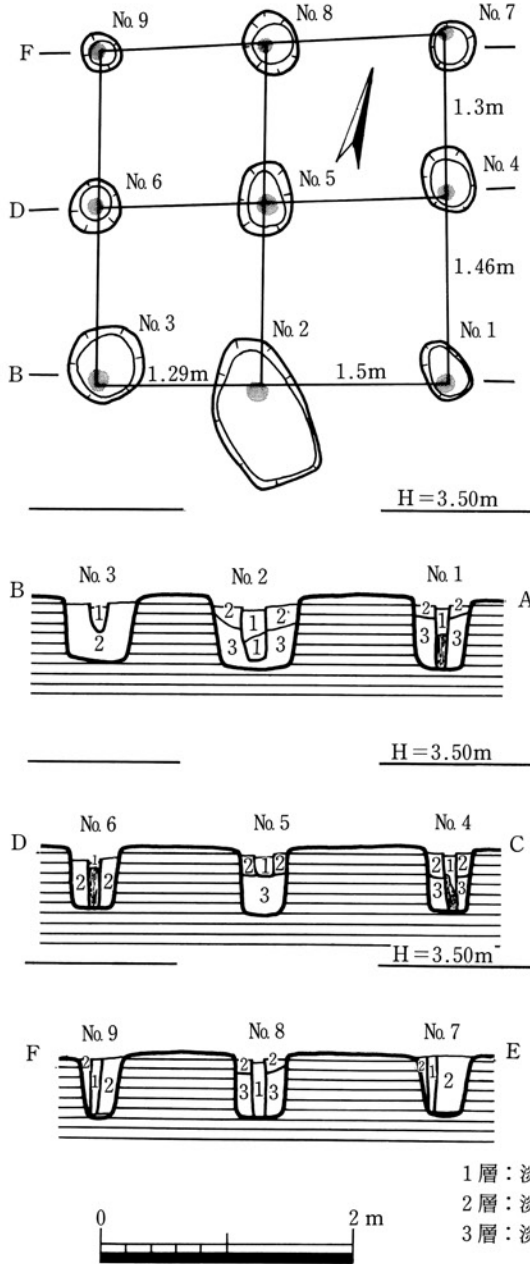
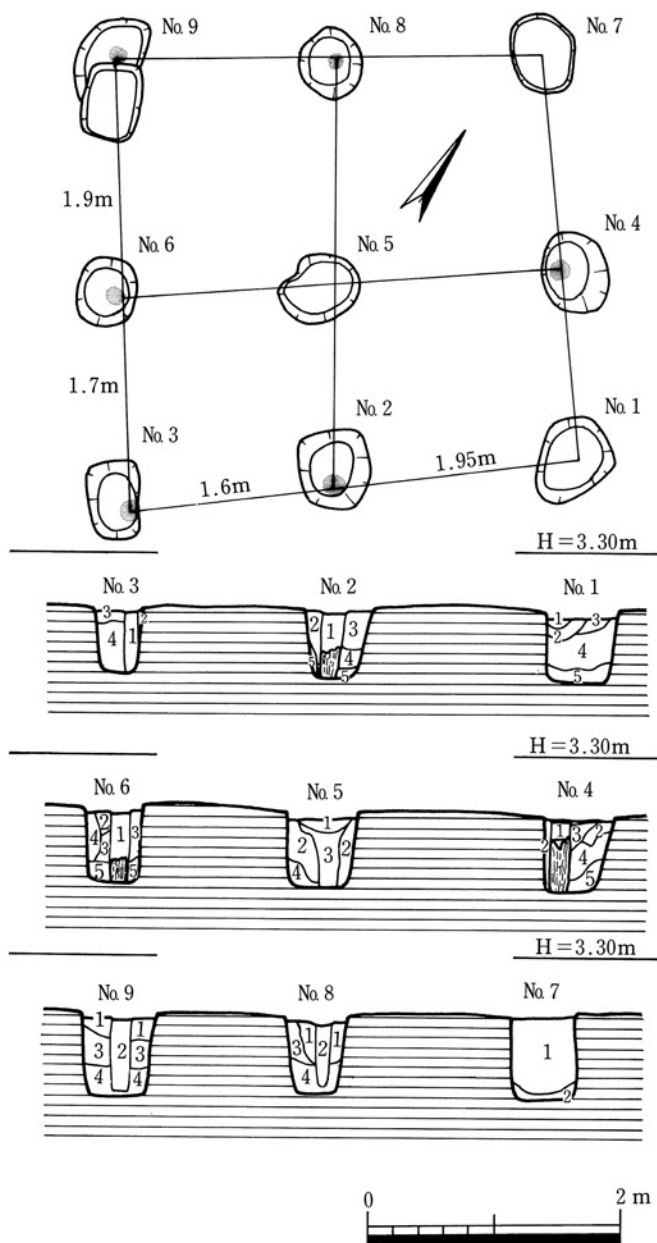


Fig. 70 SB014堀立柱建物実測図 (S = 1/60)

O. 3の間で3.6m、柱穴NO. 3～NO. 1の間で3.55mを測る。建物の南北軸は座標北からほぼ45°西に振れている。柱穴上面の平面形は概ね楕円・円形を基調とするもので、径0.45～0.6m、深さ0.5～0.65mを測る。NO. 1・5・7柱穴以外は柱痕跡が確認できた。また、4 NO. 4・6・8では下層に木質が残存していた。埋土は上層が淡黒褐色を基調として

IV. 牟田寄遺跡の記録



S B 359柱穴土層観察

[No. 1]

- 1層：明茶褐色土
- 2層：黒褐色土
- 3層：淡黒褐色土
- 4層：淡黄灰色土
- 5層：淡灰褐色土

[No. 2]

- 1層：黒褐色土
- 2層：淡黒褐色土
- 3層：茶褐色土
- 4層：淡黄灰色土
- 5層：淡灰褐色土

[No. 3]

- 1層：淡黒灰色土
- 2層：黒灰色土
- 3層：淡黒灰褐色土
- 4層：淡茶褐色土

[No. 4]

- 1層：灰褐色土
- 2層：淡黒褐色土
- 3層：淡黄褐色土
- 4層：淡黄灰色土
- 5層：黄灰色土

[No. 5]

- 1層：黒褐色土
- 2層：黄灰褐色土
- 3層：黒灰色土
- 4層：淡黄灰色土

[No. 6]

- 1層：淡黒灰色土
- 2層：黒褐色土
- 3層：淡黒褐色土
- 4層：黄褐色土
- 5層：淡黄褐色土

[No. 7]

- 1層：淡黒褐色土
- 2層：淡黒灰色土

[No. 8]

- 1層：淡黄灰色土
- 2層：黒灰色土
- 3層：淡茶褐色土
- 4層：淡黄灰色土

[No. 9]

- 1層：淡黒灰色土
- 2層：黒灰色土
- 3層：淡灰褐色土
- 4層：淡黄灰色土

Fig. 71 SB359掘立柱建物実測図 (S-1/60)

いたので、検出は比較的容易であった。

S B 360掘立柱建物 (Fig. 72)

F・G-35グリッドに所在する。2間×2間の総柱の建物である。建物規模は柱穴NO. 1～7の間で3.45m、柱穴NO. 7～9の間で3.6mを測る。柱穴上面の平面形は楕円形を基調とするものが多く、短径0.35～0.45m、長径0.55～0.75m、深さ0.65mを測る。この建物の南西

2. 古墳時代の遺物と遺構

S B360柱穴土層観察

[No. 1]

- 1層：茶褐色土
- 2層：淡黒褐色土
- 3層：黒灰色土

[No. 2]

- 1層：黒褐色土
- 2層：淡黄褐色土
- 3層：明茶褐色土
- 4層：淡黄茶褐色土

[No. 3]

欠

[No. 4]

- 1層：淡黒褐色土
- 2層：暗黄褐色土

[No. 5]

- 1層：黒褐色土
- 2層：淡黒褐色土

[No. 6]

- 1層：黒褐色土
- 2層：淡茶褐色土
- 3層：淡黒灰色土

[No. 7]

- 1層：淡黒褐色土
- 2層：淡灰褐色土

[No. 8]

- 1層：黒褐色土
- 2層：淡黄褐色土
- 3層：淡明茶褐色土
- 4層：淡灰褐色土

[No. 9]

- 1層：淡黒灰色土
- 2層：淡黒褐色土
- 3層：淡灰褐色土

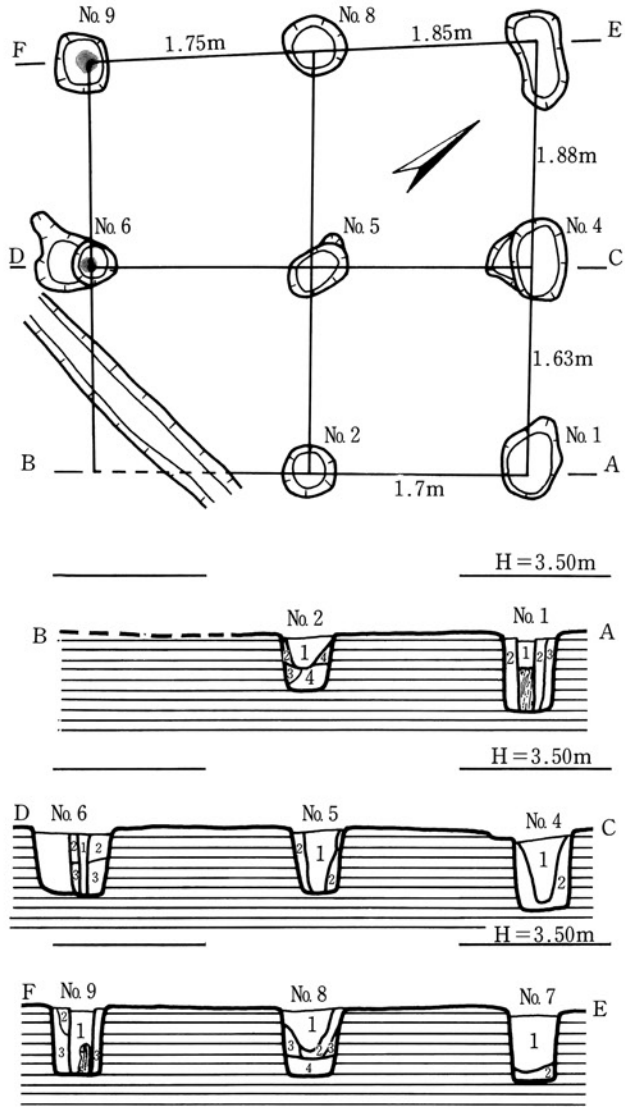
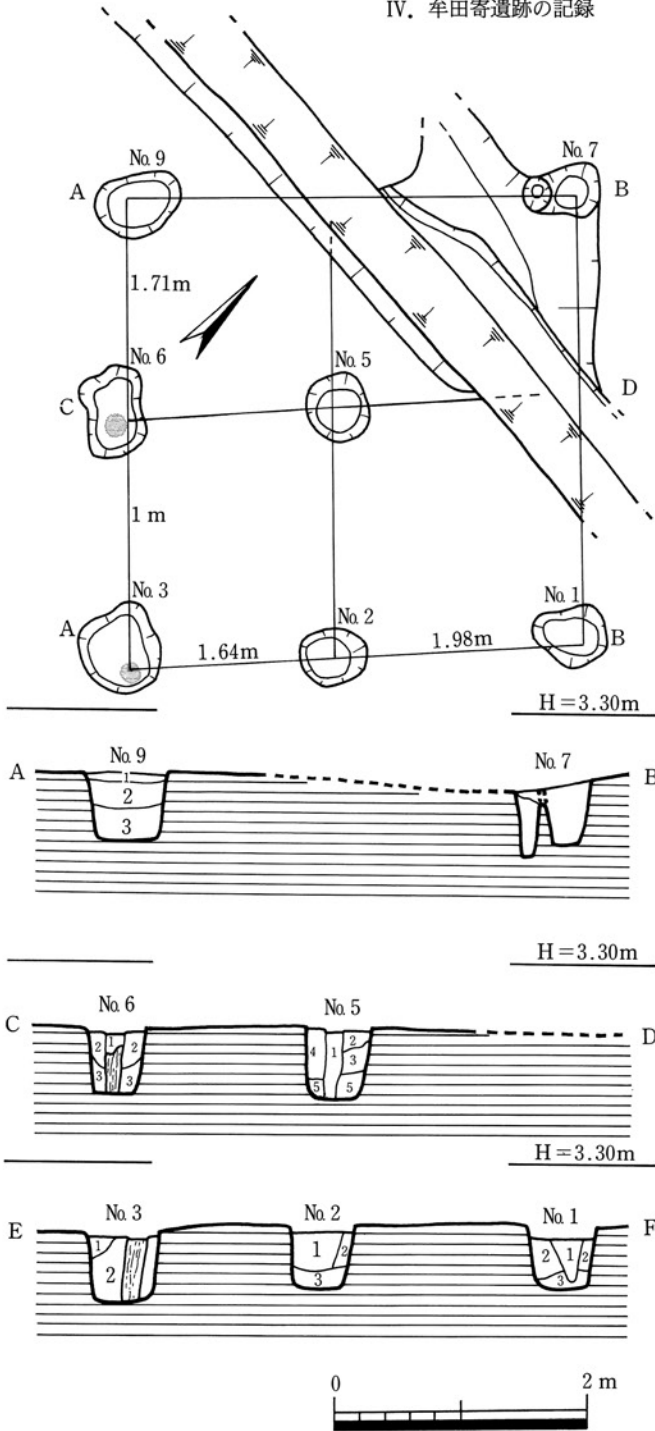


Fig. 72 SB360堀立柱建物実測図 (S = 1/60)

隅にあたる部分はき水田耕作の際の暗渠排水管設置工事によって削平されていた。柱痕跡はこの建物では確認が難航し、NO. 1・6・9柱穴で確認できたに過ぎない。建物の南北方向の軸は座標北から西へ約45°振れる。

IV. 牟田寄遺跡の記録



S B 361柱穴土層観察

[No. 1]

- 1層：黒褐色土
- 2層：淡黒褐色土
- 3層：淡黄灰色土

[No. 2]

- 1層：黒褐色土
- 2層：黄褐色土
- 3層：灰黒色土

[No. 3]

- 1層：明茶褐色土
- 2層：淡灰黒色土

[No. 4]

欠

[No. 5]

- 1層：淡黒灰色土
- 2層：淡黒灰色土
- 3層：淡灰褐色土
- 4層：淡黄褐色土
- 5層：淡灰褐色土

[No. 6]

- 1層：黒灰色土
- 2層：淡黒褐色土
- 3層：淡灰褐色土

[No. 7]

観察不能

[No. 8]

欠

[No. 9]

- 1層：黒褐色土
- 2層：淡褐色土
- 3層：淡灰褐色土

Fig. 73 SB361掘立柱建物実測図 (S = 1/60)

S B 361掘立柱建物 (Fig. 73)

G・H-36グリッドに所在する。2間×2間の総柱の建物である。建物規模は柱穴NO. 1

2. 古墳時代の遺物と遺構

～3の間で3.62m、柱穴NO. 3～9の間で3.75mを測る。柱穴上面の平面形は円形を基調とし、径0.45～0.7m、深さ0.5～0.6mを測る。この建物もSB360同様水田耕作のための配水管設置工事によって北東部の柱穴の一部または全部を削平されている。柱痕跡はNO. 3・6柱穴で確認し、その下部には木質残存も確認できた。

S B 362掘立柱建物出土遺物 (Fig. 74)

今回の報告では割愛しているが、S B 359～361に連続してその南西側の並ぶ建物がS B 062であるが、約半分が調査区外に所在する。出土遺物についてはS B 359～361の柱穴からもわずかではあるが検出している。しかし、図化に耐え得るものはなかった。

231は土師器の甕。口径は細片のため復元できない。残存器高7cm。調整は口縁部内外面ヨコナデ、胴部内面ヘラケズリ、外面は摩耗が進んでいるため明確ではないが、ナデによるものか。地基调は暗茶褐色を基調とする。

(3) その他の出土遺物

古墳時代の遺物は弥生時代のそれに比べると今回の調査では量的には少なかった。この図版に掲載しているのはすべてE 3区出土のそれである。新しい時期のものも含まれているがこの章で紹介する。

遺構検出面出土遺物 (Fig. 75)

232は須恵器杯身。口径10.6cm、残存器高4.3cm。口唇部は上方へ摘み上げられ先鋭化する。

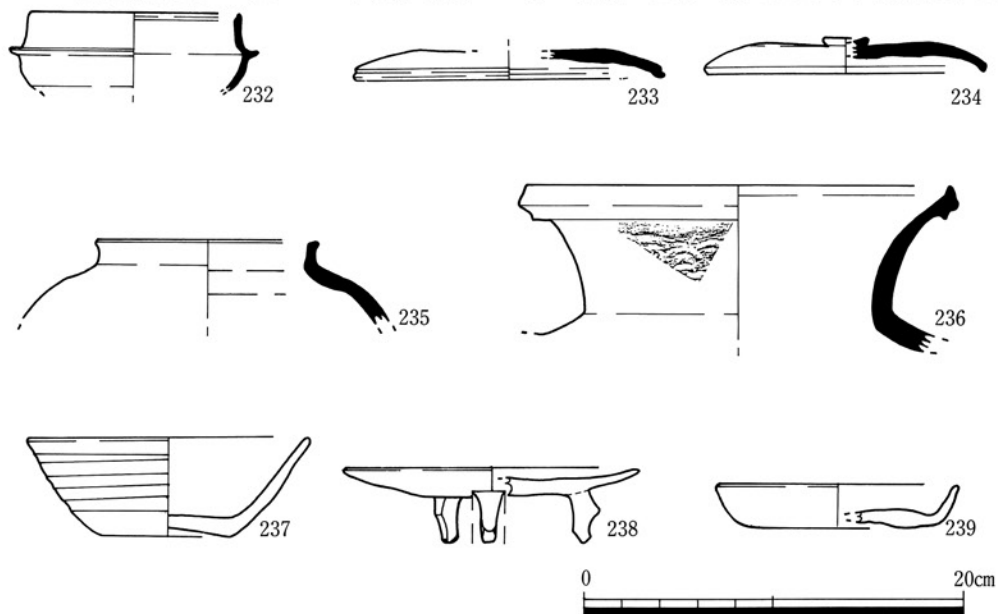


Fig. 75 遺構検出面出土遺物実測図 (S = 1 / 4) (3)

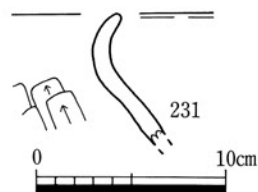


Fig. 74 SB362掘立柱出土遺物実測図 (S = 1 / 4)

IV. 牟田寄遺跡の記録

調整は主として回転ヨコナデ、外面底部の回転ヘラケズリによる。233は須恵器杯蓋。口径16.2cm、残存器高1.6cm。調整は主として回転ヨコナデ。234は須恵器杯蓋。扁平な擬宝珠つまみをもつ。口径14.6cm、残存器高1.85cm。調整は主として回転ヨコナデによる。235は須恵器短頸壺。口径11.4cm、残存器高4.2cm。調整はしゅとして回転ヨコナデ。236は須恵器甕。口径22cm、残存器高8.8cm。調整は口縁部内外面回転ヨコナデ、胴部内面同心円状の叩きによる。口縁部外面には自然釉がかかる。237は土師器杯。口径14.7cm、器高5.2cm、底径6.9cm。調整は主として回転ヨコナデであるが、その際篋状の工具も使用している。238は獣脚付きのさ杯。3脚を有する。口径15.3cm、器高3.9cm。調整は口縁部内外面がヨコナデ、その他は主としてナデにしている。239は瓦器皿。口径12.5cm器高2.3cm、底径10.4cm。

3. 奈良・平安時代の遺物と遺構

調査区全域に点在している。検出遺構数としては、古墳時代のそれよりもやや多い。この時期のものは、平成元年度発掘調査地のC区で土師器・須恵器（墨書土器を含む）等を検出している。今回は数的には下回るが、遺物・遺構ともに比較的良好な遺存状況で検出した。

(1) 井戸

E3区南半に点在している。遺構規模は径1m前後、1～1.35mを測り、遺構埋土上面は黒褐色を基調としていたので、検出は比較的容易であった。同遺跡は低湿地に所在するため、湧水レベルは比較的高く、遺構検出面下約1m程度となっている。

SE307井戸 (Fig. 76)

F-39・40グリッドに所在する。上面の平面形は円形を基調とするが、掘り込み面の崩落により、ややいびつになっている。素掘りの一段掘りの井戸である。中心部で東西0.78m、南北0.76m、深さ1.33mを測る。底面は舟底状を呈し、壁はわずかに湾曲しながら垂直に近い角度で立ち上がる。

埋土は3層に大別でき、上層から黒褐色土、淡黒褐色土、淡灰黒色土となっている。出土遺物には土師器（杯）・須恵器（壺）等がある。

SE307井戸出土遺物 (Fig. 77)

240は土師器壺。口径5.7cm、器高5.3cm。胴部は球形を呈し、口唇部は僅かに外反する。調整は口縁部内外面がヨコナデ、胴部内面上半部ハケ目、下半部ナデ、外面ヨコナデを基調としている。ほぼ完存する。241は土師器杯。口径12.1cm、器高3.1cm、底径7.1cm。調整は口縁部回転ナデ、底部内面ナデとなっている。底部外面にはヘラ切痕・板目を有する。242は須恵器の壺か。高台径9cm、残存器高6cm。調整は回転ナデとナデを基調とする。内面底部のナデは強くなされている。

SE310井戸 (Fig. 78)

E-39グリッドに所在する。上面の平面形は南北に長い楕円形を呈する。南北径8.4m、東西

3. 奈良・平安時代の遺物と遺構

6.8m、深さ1.13mを測る。底面はほぼ平坦であり、壁は角度をもって立ち上がる。

埋土は基本的には3層に大別でき上層から黒褐色土、淡黒灰色、淡青灰色からなる。出土遺物は1・2層から検出した。出土遺物には土師器(杯)、須恵器(高台付き碗)等がある。

SE310井戸出土遺物 (Fig. 79)

24は土師器杯。口径12.8cm、器高4.6cm、底径7.8cm。内外面ともに剝離・摩耗が著しく、調整は不明瞭であるが、回転ナデ、ナデを基調としている。244は須恵器杯。口径12.6cm、器高4.6cm、高台径6.7cm。調整は回転ナデとナデによる。245は須恵器杯。口径16cm、器高6.1cm、高台径8.4cm。9割方残存する。

SE311井戸 (Fig. 80)

F-38・39グリッドに所在する。上面の平面形は、円形を基調とするが東西方向にやや長い楕円形を呈する。中心部で南北8m、東西8.3m、深さ1.02mを測る。底面には僅かな起伏があり、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。

埋土は3層に大別でき、上層から黒褐色土、淡黒灰色土、淡青灰色土からなっている。出土遺物の中には流れ込みによる弥生土も検出した。図化に耐え得る遺物が少なく掲載した1点のみである。出土遺物は土師器のみであり細片が多かった。

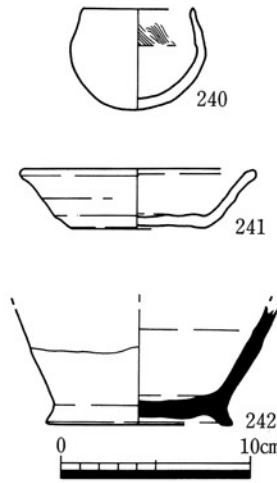


Fig. 77 SE307井戸
出土遺物実測図
(S = 1/4)

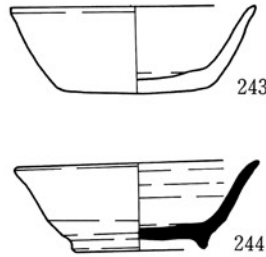


Fig. 79 SE310井戸
出土遺物実測図
(S = 1/4)

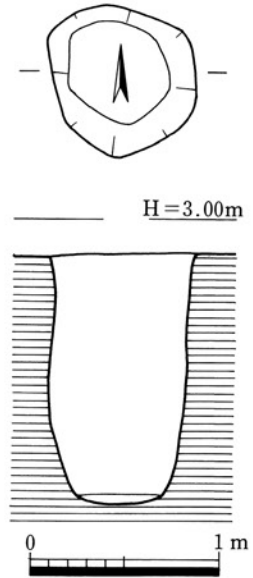


Fig. 76 SE307井戸
実測図 (S = 1/40)

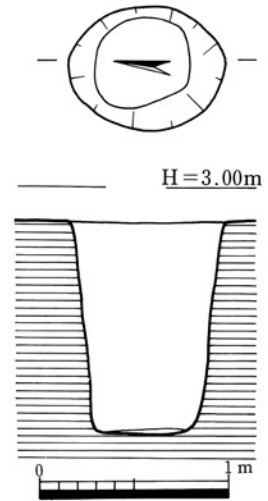


Fig. 78 SE310井戸
実測図 (S = 1/40)

IV. 牟田寄遺跡の記録

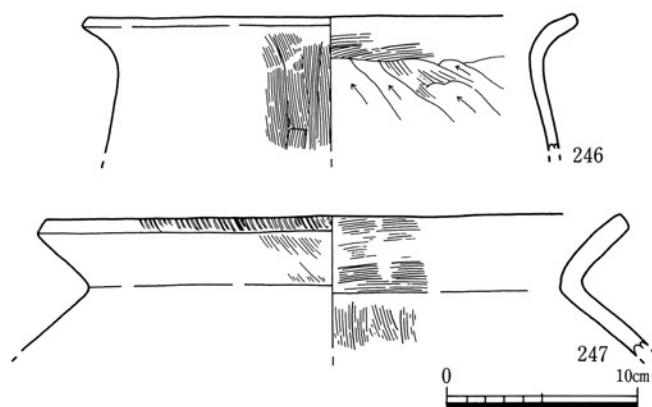


Fig. 81 SE311井戸出土遺物実測図 (S = 1/4)

SE311井戸出土遺物 (Fig. 81)

246は土師器甕。口径25.4cm、残存器高7.2cm。口縁部は緩やかに外反する。調整は口縁部内外面がヨコナデ、胴部内面ヘラケズリ、外面ハケ目による。一部に煤が付着している。249は流れ込みの遺物。弥生土器の甕。口径30cm、残存器高7cm。調整は主としてナデ、ヨコナデ、ハケ目による。口唇部に刺突文が配されている。

(2) 土 壙

井戸と同様にこの時期の遺構も少ない。2・3区に点在する。性格を明らかにできたものはないが、井戸である可能性のあるものも含む。埋土上層は井戸のそれと同じ黒褐色系の色調を呈する。

SK317土壙 (Fig. 82)

H-34・35グリッドに所在する。上面の平面形は、元来円形を基調としたものであろうが崩落により不定型を呈する。また、西側の掘り込みが調査区外にわたっている。中心部

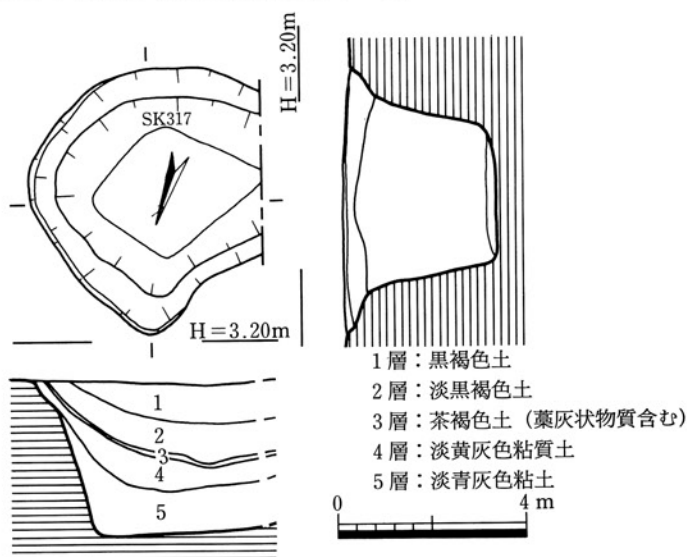


Fig. 82 SK317土壙実測図 (S = 1/80)

で南北長2.84m、深さ1.62mを測る。底面には僅かな起伏があり、壁は一度角度をもって立ち上がり、掘り込み下0.2m付近で平坦部を形成しそこから再度掘り込み面へ立ち上がる。

埋土は5層に分層できる。上層の黒褐色土から下層になるに従い淡色となり、最下層は青灰色となる。出土遺物には比較的恵まれているが、細片が多かった。土師器(甕・杯)、須恵器(高

3. 奈良・平安時代の遺物と遺構

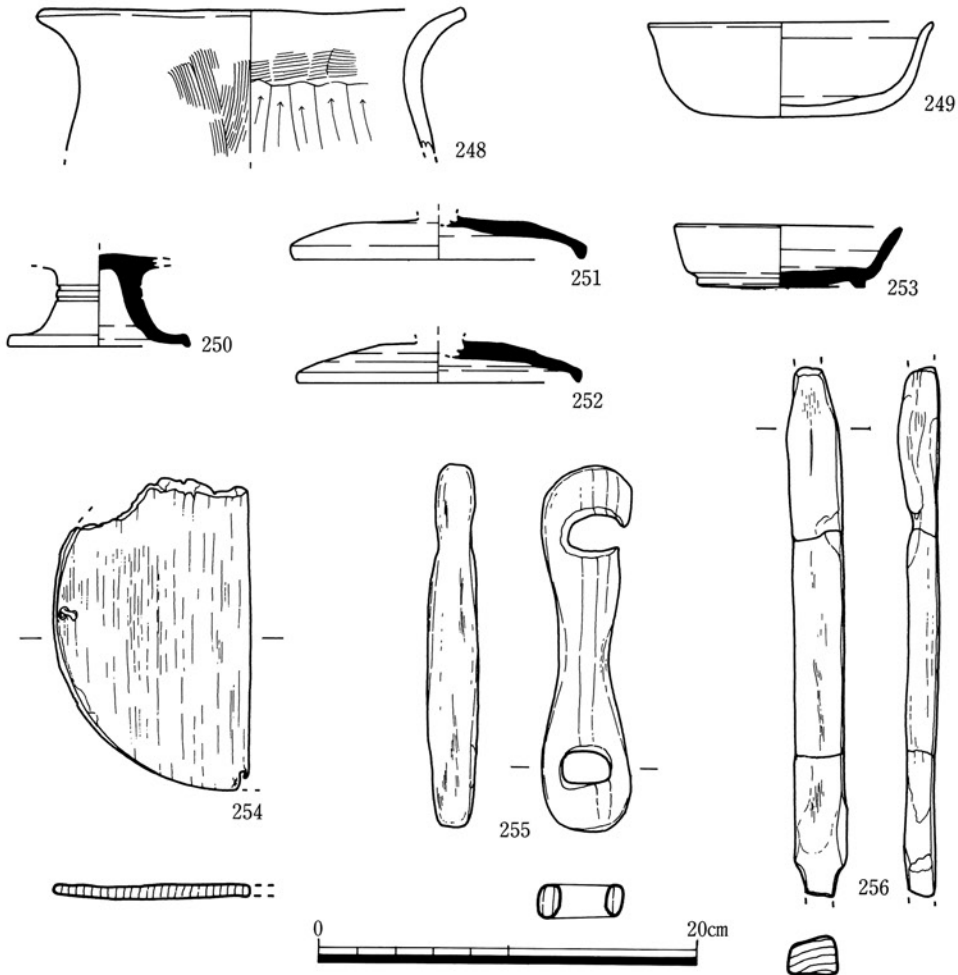


Fig. 83 SK317土壙出土遺物実測図 (S = 1/4)

杯・杯)、木製品等がある。この土壙は井戸の可能性もある。

SK317土壙出土遺物 (Fig. 83)

248は土師器甕。口径22cm、残存器高7.5cm。調整は口縁部内外面がヨコナデ、胴部外面ハケ目、内面ヘラケズリを主体としている。249は土師器杯。口径14cm、器高5cm、底径9.8cm。調整は主としてヨコナデ・ナデによっている。外面の摩耗が進んでいる。250は高杯の脚部。脚径9.3cm、残存器高5cm。脚部外面に2条の沈線を有する。調整は主として回転ナデ・ナデによる。251は須恵器杯の蓋。口径15cm、残存器高2.3cm。擬宝珠を有するものである。252も須恵器杯蓋。口径14.8cm、残存器高2.2cm。反りは丸味を帯びる。調整は主として回転ナデとナデ。253は須恵器杯。口径11.8cm、器高3.2cm、高台径8.6cm。調整は主として回転ナデ、内面見込のナデ。9割方残存する。254~256は木製品。254は曲げものの底板か。厚さ0.7cm、復元径17cm。

IV. 牟田寄遺跡の記録

径0.5cm程度の穿孔を2箇所に有する。255は不明木器。形態から考えると、自在鉤の部品の様相を呈する。長さ19.2cm、最大幅4.5cm。256も不明木製品。農工具の柄か。最大長27.8cm、最大幅2.8cm。

S K 320土壙 (Fig. 84)

G～F-33・34グリッドで検出した。上面の平面形は、南北に長い楕円形を基調としている。南寄りに、中心部で東西径1.45m、南北径1.2m、深さ1.0mの掘り方があるが、これは形態から考えると別遺構とみるのが妥当であろう。この遺構の本体は中心部で南北長4.05m、東西長2.4m、深さ0.2mを測る。底面には緩やかな起伏があり、壁は比較的角度をもって立ち上がる。埋土は2層に大別でき、上層灰褐色土、下層淡灰褐色土からなる。出土遺物は細片が多く、図化できたのは2点のみ。土師器・須恵器(杯・甕)等を検出した。

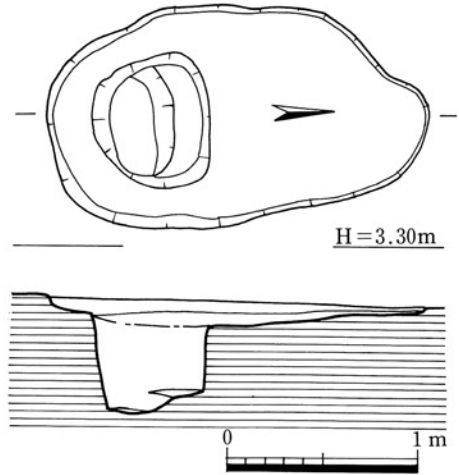


Fig. 84 SK320土壙実測図 (S = 1/40)

S K 320土壙出土遺物 (Fig. 85)

257は須恵器杯。口径14.8cm、器高2.5cm、底径11.6cm。調整は回転ナデ。底面は篋切り離しの痕跡が観察できる。口縁部は外反する。258は須恵器甕。口径16.4cm、残存器高4.2cm。口縁部内外面は回転ナデ。外面口縁部下部の沈線状表現しているのは工具による調整の際にできた痕跡。内面頸部には指頭圧の痕跡が残る。

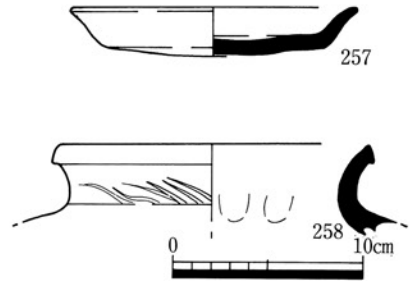


Fig. 85 SK320土壙出土遺物実測図 (S = 1/4)

S K 323土壙 (Fig. 86)

I-32グリッドに所在する。上面の平面形は不定型を呈するが、元来円形を基調としていたものと考えられる。中心部で南北径1.4m、東西1.23m、深さ0.98mを測る。底面は概ね平坦であり、壁は比較的角度をもって立ち上がる。

埋土は基本的には2層に大別でき、上層黒褐色土、下層淡褐色土からなる。遺物は埋土全域から検出した。出土遺物には土師器(甕・杯)、土製品(鏡)、須恵器(杯・鉢)等がある。

S K 323土壙出土遺物 (Fig. 87)

259は土師器甕。口径21.4cm、残存器高7.6cm。口縁部は大きく外反する。調整は口縁部内外面がヨコナデ、胴部内面がヘラケズリ、胴部外面がナデを主体としている。260は土製鏡。この

3. 奈良・平安時代の遺物と遺構

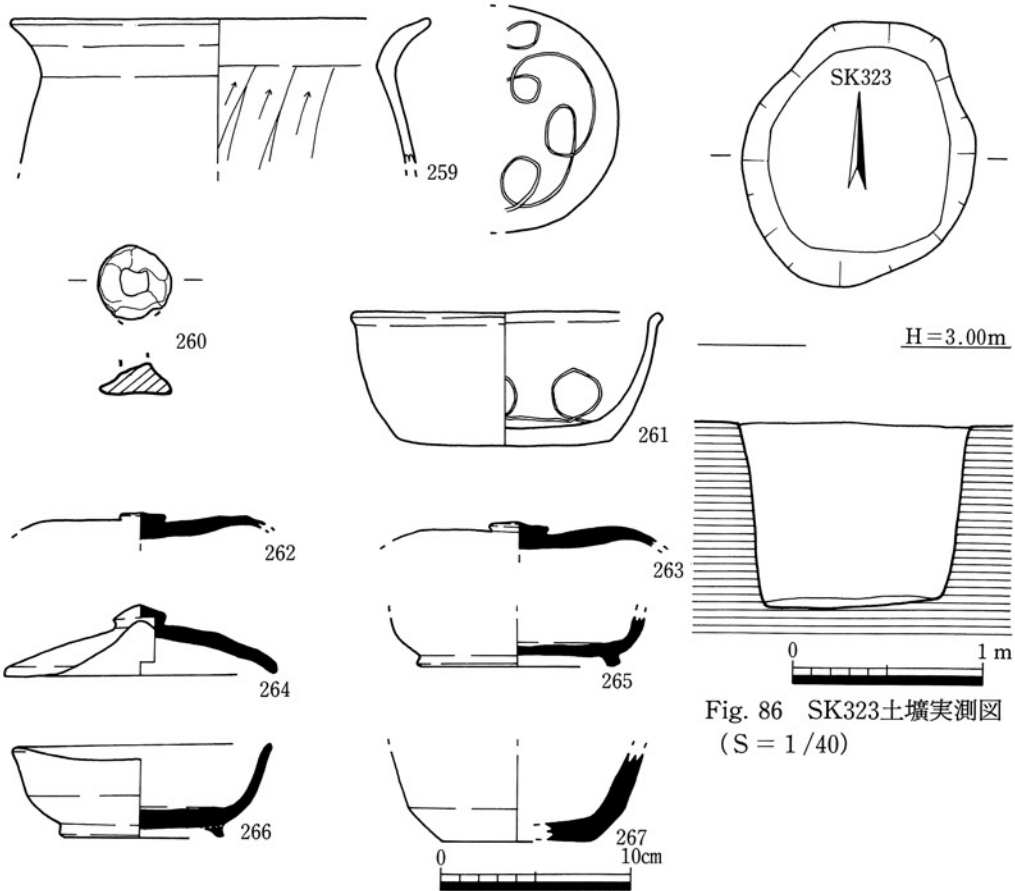


Fig. 87 323土壌出土遺物実測図 (S = 1/4)

遺物は他遺跡では5世紀ごろの遺物と供伴している。このことを考えると他遺構からの流れ込みの可能性もある。長さ3.9cm、幅3.8cm残存厚1.6cm。261は土師器鉢。口径16cm、器高7cm、底径11cm。内面には螺旋状の暗紋を有する。底部は平底で、口唇部は短く外反する。調整は回転ナデを主体としている。262～263は須恵器杯蓋。262で残存器高0.7cm。調整は回転ヘラ・ナデを基調としている。263は残存器高1.2cm。調整は262と同様。264は口径14.1cm、器高3.7cm。外面には自然釉がかかる。端部の反りがわずかに認められる。265・266は須恵器杯・265で底径10cm、残存器高2.5cm。調整は回転ナデを基調とする。267は鉢か。底径8cm、残存器高4.6cm。胴部内外面回転ナデ、底部外面ナデによっている。

SE302井戸 (Fig. 88)

H-42グリッドに所在する。上面の平面形は元来円形を基調としたものであるが、検出時では東西方向にやや長い。中心部で東西径0.75m、南北径0.72m、深さ1.16mを測る。底面は平底状を呈し、壁は直立に近い角度で立ち上がる。

IV. 牟田寄遺跡の記録

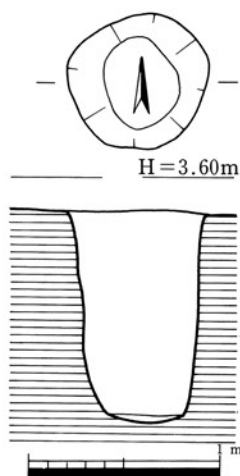


Fig. 88 SE302井戸
実測図 (S = 1/40)

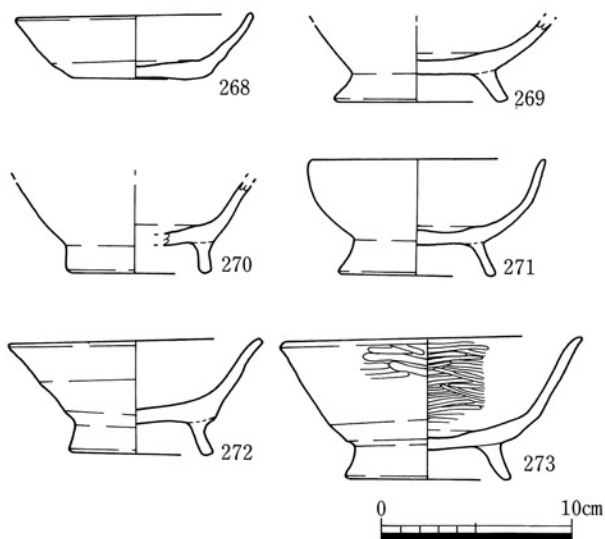


Fig. 89 SE302井戸出土遺物実測図 (S = 1/4)

埋土は基本的には3層に大別でき、上層から淡黒色土・暗褐色土・暗灰褐色土からなっている。遺物は埋土上層下部から中層にかけて検出した。検出遺物には土師器(杯・碗)、黒色土器(碗)等がある。

S E 302井戸出土遺物 (Fig. 89)

268は土師器杯。口径12.2cm、器高3.5cm、底径6.6cm。底面は糸切り、板目が観察できる。269は土師器碗。残存器高4cm、高台径8.5cm。270は土師器碗。残存器高4.7cm、高台径7cm。271は黒色土器。内黒タイプ。調整は回転ナデ・ナデ。272は土師器碗。口径13.2cm、器高6.1cm、高台径7cm。内面底部のナデは強い調子でなされている。273は黒色土器。口径15.6cm、器高7.5cm、高台径8.2cm。内面口縁部は丁寧にヘラミガキがなされている。内黒タイプ。

(3) 溝

この時期の溝はE1区で検出したSD023のみである。同遺構はE1区北東隅にあって、幅0.2m、深さ0.1m程度を測り、調査区外にのびているためその全容は不明。

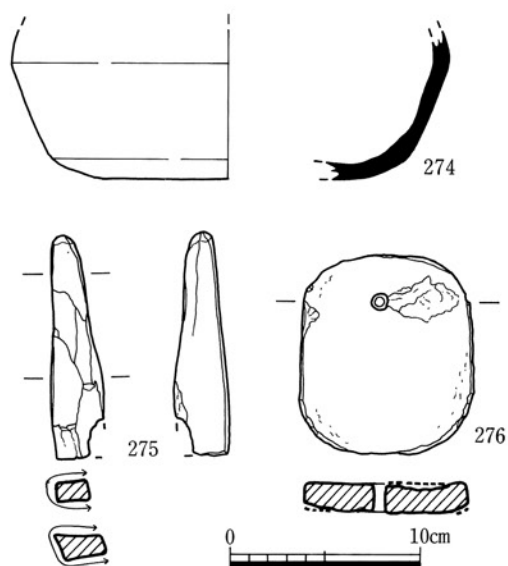


Fig. 90 SD023溝出土遺物実測図
(S = 1/4)

4. 中世の遺物と遺構

S D023溝出土遺物 (Fig. 90)

274は須恵器壺か。底径14cm、残存器高7.8cm。調整は回転ナデを主体としている。275は砥石。最大長11.8cm、最大幅2.6cm、厚さ1.3cm。3面使用している。276は石製品。用途は不明であるが、分銅的な用途があったものか。最大長10.3cm、最大幅8.7cm、厚さ1.3cm。径0.5cm程度の穿孔を有する。石質は滑石。

4. 中世の遺物と遺構

中世と認定できるほとんどの遺構が井戸であった。土壌も若干検出したが、検出状況や出土遺物等があまり良好ではなかったので割愛し、井戸中心に記述する。

(1) 井戸

E 3区で検出したが、南半部に比較的集中している傾向がある。すべて素掘りのものである。この時期のものも径0.7~0.9m程度と小振のものが多。埋土の色調は古墳時代のもののそれと似通っており、黒褐色土を基調としている。

S E301井戸 (Fig. 91)

E-42グリッドに所在する。上面の平面形は円形を基調とするが、やや南北に長い。中心部で東西径0.73m、南北0.85m、深さ1.6mを測る。一連の井戸の中では最も深いものである。底面は舟底状を呈し壁は湾曲しながら垂直に近い角度で立ち上がる。

埋土は3層に大別でき、上層から黒褐色土・淡黒褐色土・灰褐色土からなっている。出土遺物は非常に少なく土器類はすべて細片であった。このほか滑石製石鍋等を検出した。

S E301井戸出土遺物 (Fig. 92)

277は滑石製石鍋。口径30cm、残存器高11cm。残存状況は口縁部の25%程度。調整は外面が工具によるケズリ、内面がミガキ。外面には炭化物が付着している。278は滑石製石鍋の転用品。元来は把手部分か。径0.3cm程度の穿孔を有する。用途は不明。残存長10.5cm、幅8.7cm、厚さ3.1cm。

S E309井戸 (Fig. 93)

E-40グリッドに所在する。上面の平面形は円形を基調とするが東西にやや長い。中心部で東西0.84m、南北0.77m、深さ0.95mを測る。底面はほぼ平坦であり壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は基本的には3層に大別でき、上層から淡黒褐色土・暗褐色土・暗灰褐色土からなり、出土遺物は主として上層下部~中層上部で検出した。検出遺物には土師器(杯)、瓦器(碗)等

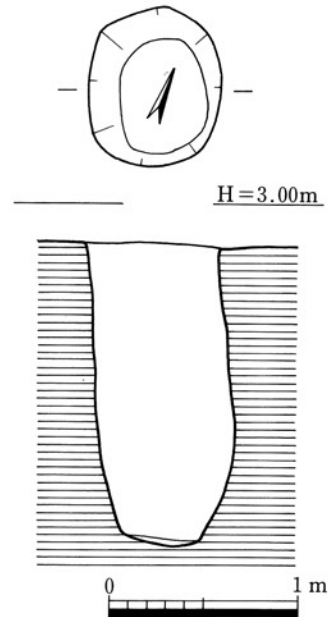


Fig. 91 SE301井戸
実測図 (S = 1/40)

IV. 牟田寄遺跡の記録

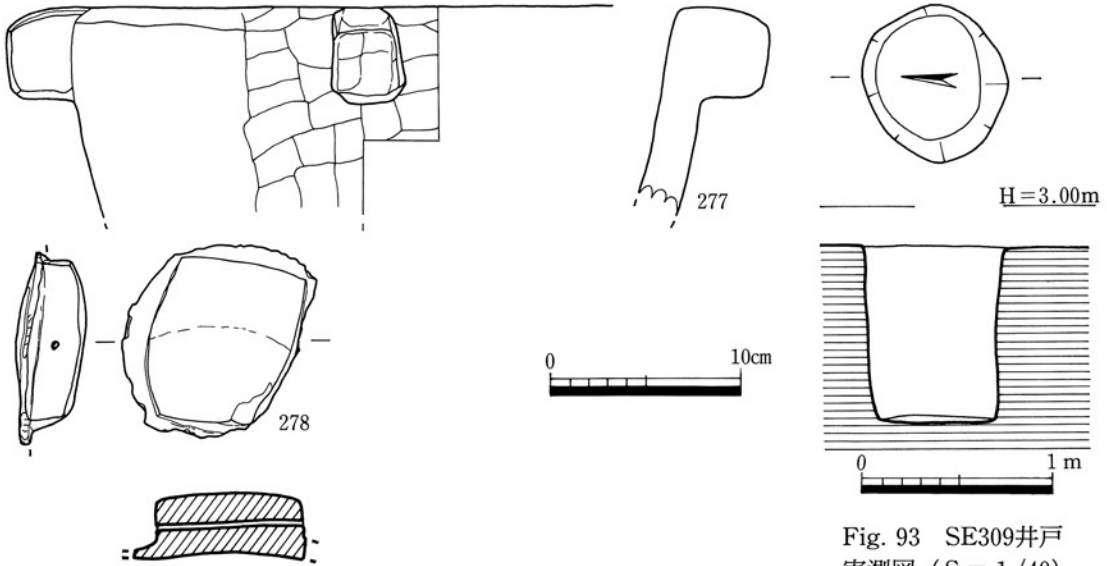


Fig. 92 SE301井戸出土遺物実測図 (S = 1/4)

がある。

SE309井戸出土遺物 (Fig. 94)

279は瓦器碗。残存器高1.6cm、高台径7.3cm。内面底部付近はヘラミガキが施されている。280は瓦器碗。残存器高3.6cm、高台径7.4cm。調整は内面がヘラミガキ、外面碗部回転ナデ。底部外面には板目が観察できる。

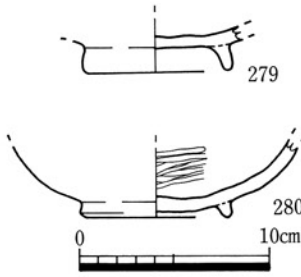


Fig. 94 SE309井戸出土遺物実測図 (S = 1/4)

SE356井戸 (Fig. 95)

E-40グリッドに所在する。上面の平面形は元来円形を基調としているが、検出時はややいびつな状況であった。南東部のフロアは弥生時代の遺構の残存部である。中心部で東西径0.98m、南北径0.9m程度、深さ1.28mを測る。底面はほぼ平坦であり壁はほぼ垂直に近い角度で立ち上がる。

埋土は2層に大別でき、上層淡黒色土、下層灰褐色土からなる。

出土遺物は土師器(杯等)を検出したが細片が多く、図化できたのは2点のみ。

SE356井戸出土遺物 (Fig. 96)

281は土師器杯。口径12.4cm、器高5.7cm、底径6.4cm。口唇部はわずかに外反する。底部はほとんど残存しておらず、切り離し状況は不明。282は土師器杯。口径13.4cm、器高4.2cm、底径

4. 中世の遺物と遺構

8 cm。外面底部には糸切り痕が観察できる。

(2) その他の遺物・遺構

時期不明のもの、遺構の状況が明確ではないが遺物は比較的良好な状況で検出したもの等を抽出しその概要を以下に記す。

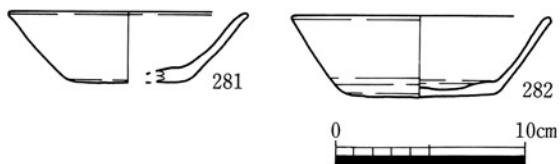


Fig. 96 SK356土壇出土遺物実測図 (S = 1 / 4)

S E 342土壇出土遺物 (Fig. 97)

E 3 区南端で検出した。この付近は弥生時代の柱穴群が比較的集中している部分で、遺構掘り込み面と遺構埋土の色調がほとんど識別できず、遺構下部まで掘り下げて初めて柱穴群等の遺構が確認できた地点である。その掘削作業の際以下に記す遺物も検出したが遺構の明確な広がり確認できなかった。おそらくは土壇であったものとする。283～286は土師器碗。289で残存器高2.1cm。284は残存器高3.4cm、高台径7.4cm。285は残存器高2.5cm。286は残存器高4.3cm。287は磁器碗。口径10.8cm、器高4cm、高台径4.4cm。高台部はわずかに上げ底状を呈する。外面には淡緑色の釉がかかる。底部外面には糸切り痕が観察できる。288は磁器碗。口径14.7cm、器高6cm、高台径6cm。畳付き部は幅1cm程度。口縁部はわずかに外反する。釉は淡茶褐色系。289は砥石。長さ9.6cm、幅7cm、厚さ2.5cm。4面を使用しており、石質は砂岩系か。

S X 363円形周溝状遺構 (Fig. 98)

D～G-37～39グリッドに所在する。溝に囲まれた内部の広さは中心部で南北9.6m、東西9m。溝幅は東部1m、西部0.9m、南部3.7m、北部0.9m程度を測る。溝の深さは0.15～0.20m

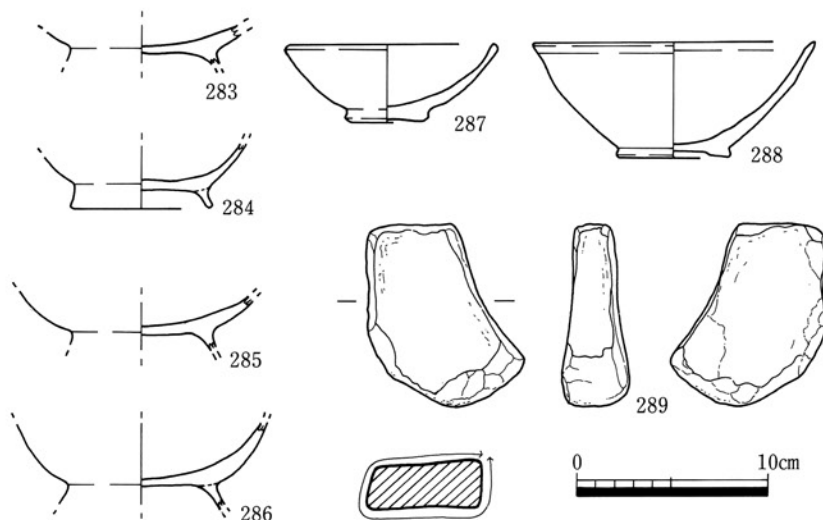


Fig. 97 SK342土壇出土遺物実測図 (S = 1 / 4)

IV. 牟田寄遺跡の記録

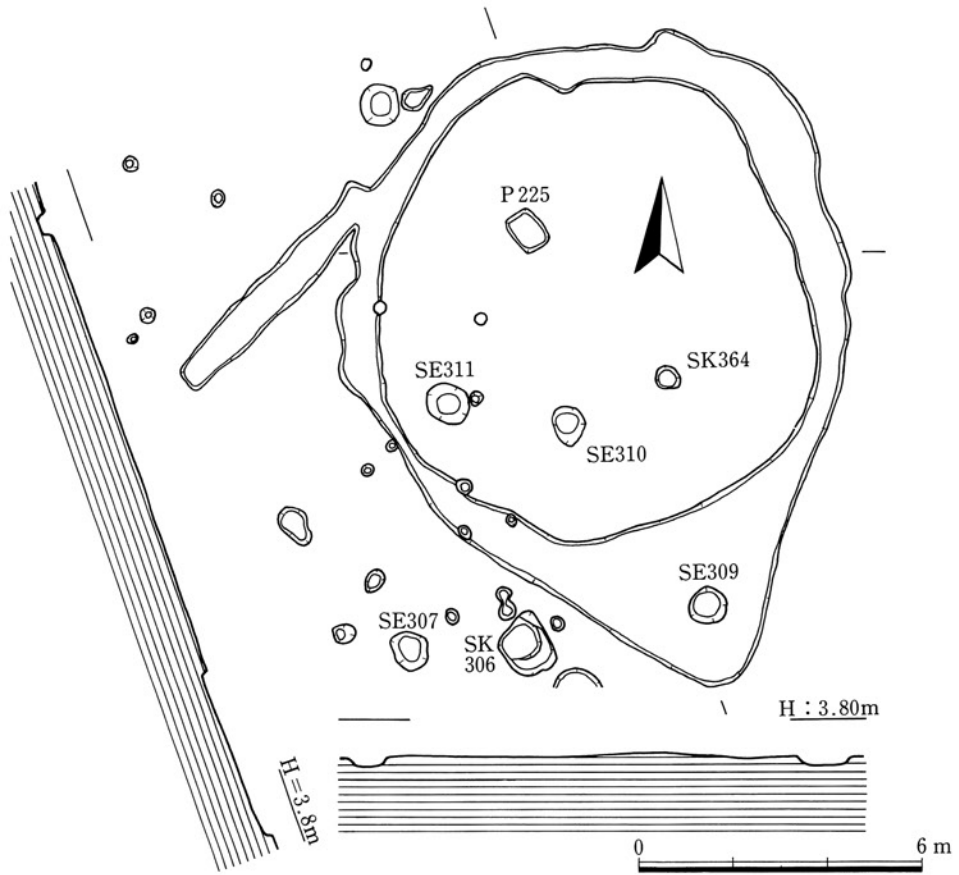


Fig. 98 円形周溝状遺構 (S = 1/160)

程度。北西部の条溝は別遺構。南部の突出部はサブトレンチを設定してみたが切り合い関係を示す土層は観察できなかった。

埋土は淡褐色土を基調としたもので周辺にある井戸の調査を行なう際には全くその掘り込みが識別できず、調査後半の雨上り時にやっと掘り込み面の線引ができたような状況であった。出土遺物は全く得られなかった。この遺構をどの章で掲載するかの指標はないが、周辺の遺構の時期や平成元年度に調査を実施した牟田寄遺跡A地区の方形周溝状遺構の時期を参考にしてこの章で紹介する。この円形周状遺構は金立・久保泉地区の発掘調査で近年多数検出されているが、それと形態は似通っているが埋土の状況から考えると現段階では同一視はできがたい。同地区周辺の検出例の増加をまち判断していきたい。

5. 貝層付近の調査

5. 貝層付近の調査

(1) 層序の状況

牟田寄遺跡は古くから貝塚の存在が想定されていた。それは、湯水期のクリーク壁面及び底面付近に多量の土器片と貝類の観察ができることによる。佐賀県遺跡地図にも、牟田寄貝塚と周知されている。しかしながら、貝塚の正確な位置・規模はわかっていない。

今回の発掘調査では確かにE2区で貝層とその中に混在している多量の土器片等を検出したが、貝層の範囲・規模から考えてはたして貝塚の名称が使用できるものかどうか疑問であったので貝層という名称を使用した。検出地点は調査区のほぼ中央にあり焼原川と接している。検出面の埋土色調は黒褐色を呈し、掘立柱建物や溝・土壇等を検出した南側や北側の検出面色調とは明らかな色調差が認められた。

この部分の調査着手前には単なる低湿地に自然堆積していった部分であろうとの見解をもっていたが、中央部に十字形のトレンチを設定するに至って貝層の存在を認識した。

この部分の調査手順は次のように行った。まず十字トレンチを設定し、土層観察を行う。次にトレンチ交差部分から見て北東部を1区、北西部を2区、南西部を3区、南東部を4区とし、調査を行った。遺物の取り上げに当たっては層位毎に取り上げるべく部分的なブロックサンプリングを試みたが、その部分では良好な資料は得られなかった。

貝層の平面的な広がりにはFig.100にある破線の部分である。厚さについて10~20cmを測る。3区から4区にかけての密度が高い。

トレンチの基本土層をFig.101に示した。トレンチの交差部分ではなんとか土層の整合性が認められたが端部にいたるに従い、複雑なものとなっている。おそらくは焼原川の氾濫・堆積作用に起因するものであろう。堆積が明瞭に観察できる部分では、西から東への微妙な傾斜を認められる部分もあるが、基本的には不整合な(ブロック状の)水平堆積である。この土層断面の観察結果から、人為的な埋没の過程を想定できる可能性はあるが、

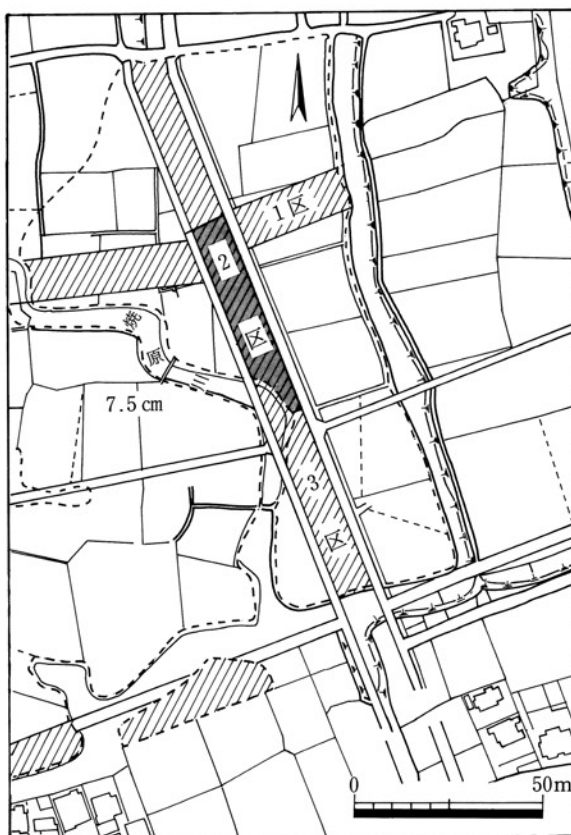


Fig. 99 牟田寄遺跡調査区位置図(S = 1 / 2,000)

IV. 牟田寄遺跡の記録

今回の調査では水平面での土層の分布状況が不明であり、よくわからない。

検出遺物には貝類・獣骨・魚骨、土器、鉄器、青銅製品、木器等がある。貝類は牡蠣がその大半を占め、赤貝、アサリ等を若干検出した。獣骨・魚骨についてはその綿密な鑑定をしていないので断定できないが、獣骨には猪系統のもの、魚骨にはマグロまたはカツオ系の大型魚の可能性のあるものを検出した。土器には弥生土器（後期～終末）、土師器（4～8世紀）、須恵器（5～6世紀）等がある。鉄器には鎌がある。青銅製品名称不明のものがある。木器には鋏、鋤、杓の柄の一部と思われるものを検出した。

これらの検出遺物についてはその主要なものを以下掲載しているが、層位的な取り上げがすべてにわたってはできかねたので、基本的には古いものから順に紹介している。

今回の調査でこの地点は弥生時代後期頃から自然的堆積をしていく中で、人為的な貝殻・土

器等を投棄していき現況レベルまで堆積が進んでいったものと考え。ちなみに、この部分の上面から切り込んだ遺構はなく、少なくとも水田が形成されて行く中世までは湿地であったものと推察できる。

(2) 貝層付近出土遺物

No.1 トレンチ検出遺物

(Fig.102～105)

弥生土器甕 (290～293)

290・291は長胴甕の口縁部破片である。290は復元口径26.0cm、口縁端部にはヘラによる細い刻み目、頸部の屈曲外面にはヘラによる太い刻み目をもつ貼付けの山形突帯を有する。口縁端部はきつい横ナデでゆるく沈線状に凹みがまわり、外面は粗い縦方向のハケ目で下部には横方向のハケ目を加え、内面は粗い横方

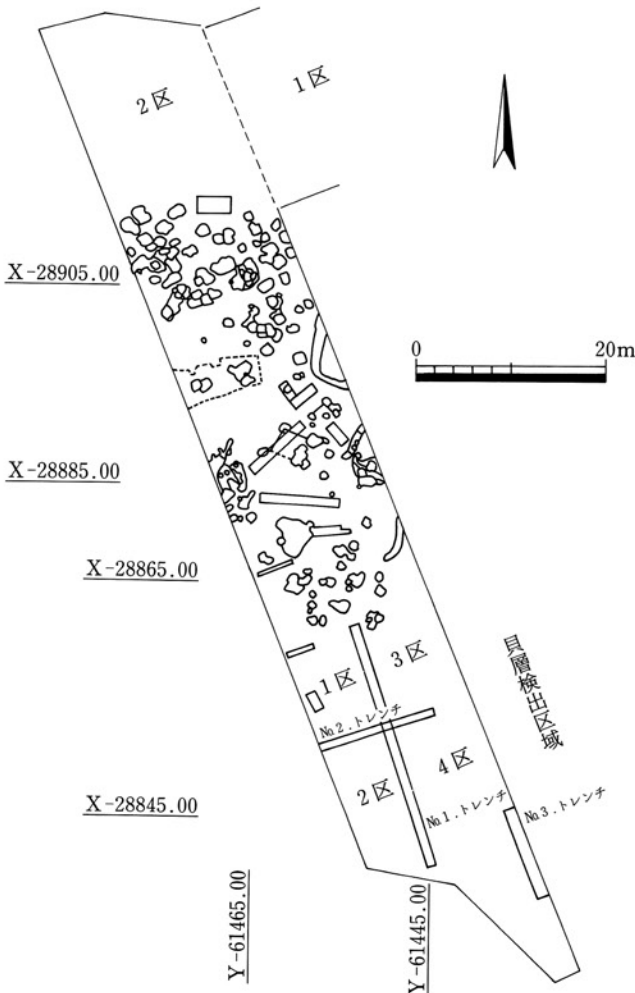


Fig. 100 貝層付之見取図 (S = 1/400)

5. 貝層付近の調査

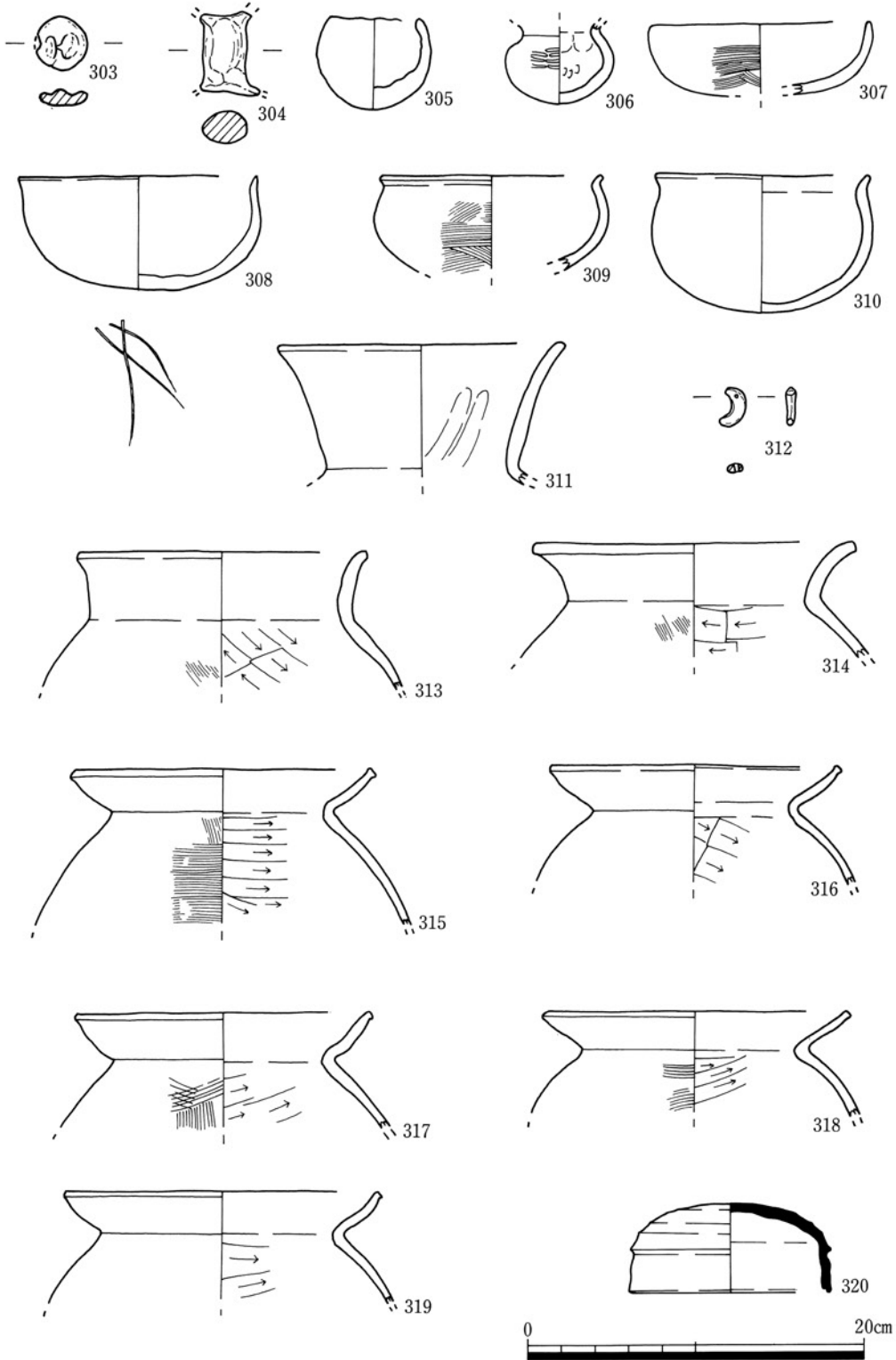


Fig. 101 E 2 区貝層付近土層図 (S = 1 / 40)

IV. 牟田寄遺跡の記録

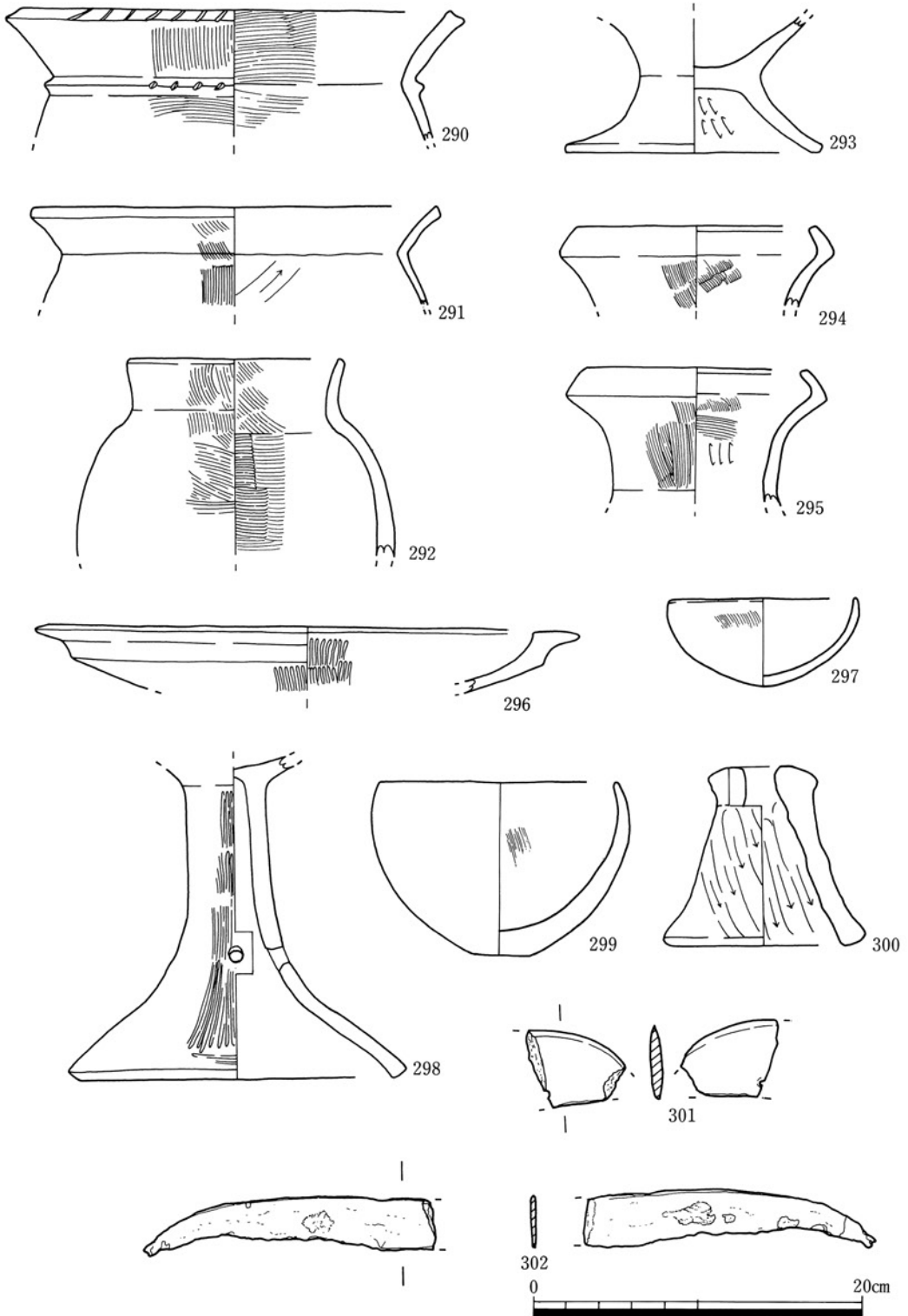


Fig. 102 貝層付近No.1 トレンチ検出遺物実測図(1) (S = 1/4)

5. 貝層付近の調査

向のハケ目を施している。外面には煤が厚く付着する。291は復元口径24.3cm、口縁部内外面は横ナデ、屈曲部下位の外面は細かい縦方向のハケ目、屈曲部下位の内面はきついナデを加えている。292は長胴の甕の破片になるものと思われる、復元口径12.6cm、口縁端部は横ナデ、口縁外面は粗い縦方向のハケ目、肩部～胴部外面は粗い横～斜方向のハケ目、口縁内面は粗い斜方向のハケ目、肩部～胴部内面は粗い横方向のハケ目の後にナデを加えている。胴部外面には煤が付着する。293は台付甕の台部破片で、底径15.3cm、台端部内外面は横ナデ、外面は縦方向のナデ、台部内面はヘラ状工具の擦過痕が残り、甕部内面はナデを施す。

弥生土器壺 (294・295) 袋状口縁壺の口縁部破片である。294は復元口径14.4cm、口縁部内外面は横ナデ、頸部外面は細かい縦方向のハケ目、頸部内面は細かい斜～縦方向のハケ目を施す。295は復元口径13.2cm、口縁部内外面は横ナデ、頸部外面は細かい縦～斜方向のハケ目、頸部内面は細かい横～斜方向のハケ目が残る。

弥生土器高杯 (296・298)

296は杯部破片で、吉備系のものか。復元口径30.2cm、口縁部上面から外面の屈曲部までは横ナデ、外面下位は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のヘラミガキを施す。298は脚部破片で、4方向に径1.1cmの円形透かしを有する。底径19.0cm、脚端部内外面は横ナデ、外面は縦方向のヘラミガキ、内面は下位で斜方向のヘラミガキで上位はナデを施す。外面に黒班が観察できる。

弥生土器鉢 (297・299) 297は破片資料であるが、底部はやや尖り気味の丸底で、復元口径11.1cm、器高5.3cm、口縁内外面は横ナデ、内外面に研磨を施すが、外面一部に細かい斜方向のハケ目が残る。299はほぼ完形の資料で、口径14.3cm・器高10.6cm・底径2.5cm、口縁部内外面は横ナデ、外面はヘラ状工具の擦過痕が残り、内面はハケ目をナデ消している。

弥生土器器台 (300) 完形資料で、内外面を指押さえて仕上げている。

石包丁 (301) 黒灰色の石材を用い、穿孔は鉄器の回転によるものと思われる。

鉄製品 (302) 保存状態はかなりよく、鉄鎌かと思われるが、先端から下半にかけて欠損している。基部に折り返しがある。

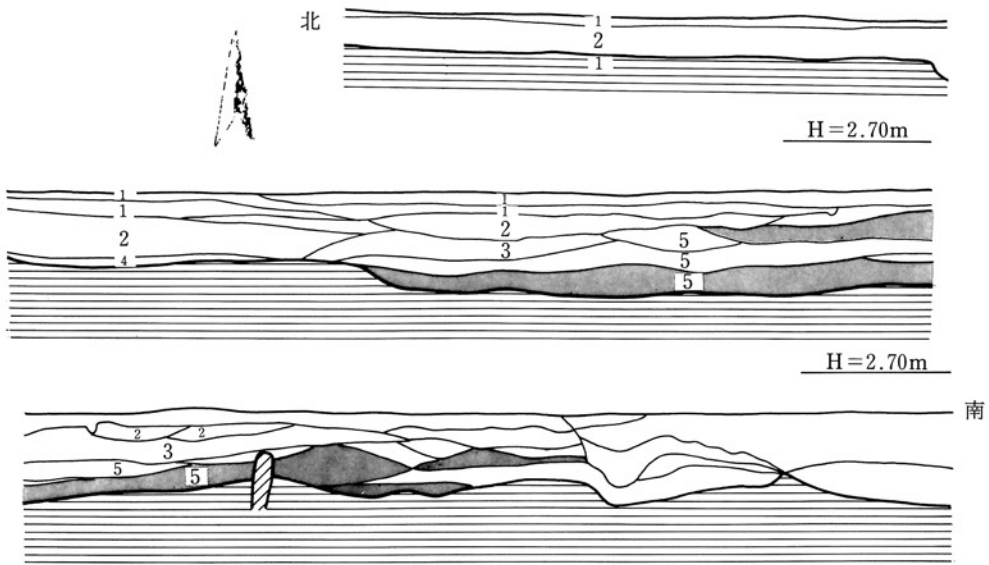
土製品 (303・304) 303はいわゆる土製鏡といわれるもので、ナデでていねいに仕上げている。304はやや平たい棒状の土製品で、指押さえて仕上げている。

ミニチュア土器 (305・306) 305は口径5.8cm、内外面を指押さえて仕上げている。306は外面は横方向のヘラミガキ、内面はナデと指押さえを施す。

古墳時代土師器鉢 (307～310) どれも丸底で、直口縁のものと同外反口縁のものがある。307は直口縁で、復元口径13.6cm、口縁部外面から内面は横ナデ、外面は粗い横方向のハケ目が残る。308はわずかに口縁が外反し、復元口径14.0cm・器高6.0cm、口縁部内外面は横ナデ、体部外面はナデ、体部内面もナデを施している。体部外面一部に黒班が残る。309は口縁が外反し、復元口径13.0cm、口縁部内外面は横ナデ、体部外面は横方向の細かいハケ目、体部内面は

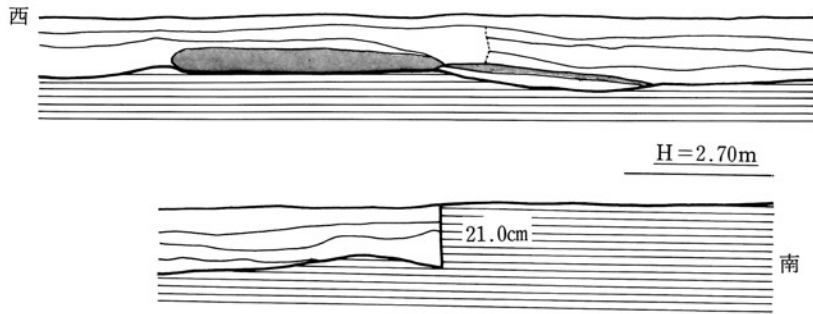
IV. 牟田寄遺跡の記録

E² No.1 南北トレンチ土層図 H=2.7m



- | | |
|----------|-----------------|
| 1層. 黒褐色土 | 6層. |
| 2層. 黒色土 | 7層. 茶褐色土 |
| 3層. 淡黒色土 | 8層. 茶褐色土 |
| 4層. 淡青灰色 | 9層. 黒灰色土 |
| 5層. 黒褐色土 | 10層. 淡黒灰色土 |
| | 11層. 淡青灰色土 (粘質) |

E² No.2 東西トレンチ土層図 H=2.70m



- | | | |
|---------------------|-----------------|--|
| 1層. 黒褐色土 | 6層. 淡青黒灰色土 (粘質) | |
| 2層. 淡黒褐色土 (茶褐色粒子含む) | 7層. 黒灰褐色土 | |
| 3層. 淡黒褐色土 | 8層. 淡黒灰色土 | |
| 4層. 淡青灰色土 (粘質) | 9層. 淡黒色土 (粘質) | |
| 5層. 淡黒褐色土 | 10層. 淡黒灰色土 (暗) | |

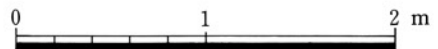


Fig. 103 貝層付近No.1トレンチ検出遺物(2) (S = 1/4)

5. 貝層付近の調査

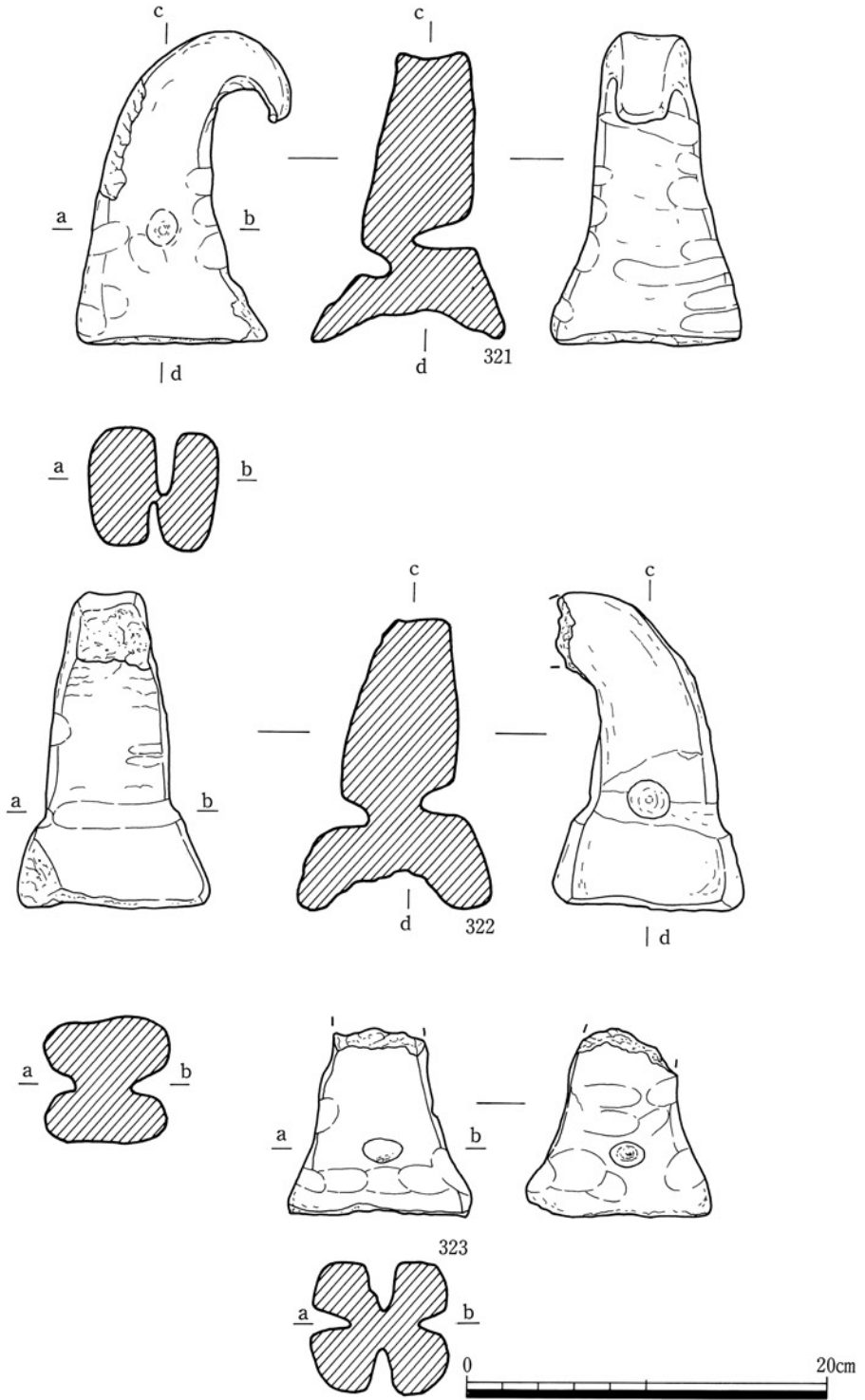


Fig. 104 貝層付近No.1トレンチ検出遺物(3) (S = 1 / 4)

IV. 牟田寄遺跡の記録

ナデを施す。310は口縁が外反し、復元口径12.5cm・器高8.2cm、口縁部内外面は横ナデ、体部内外面はナデで仕上げている。体部外面に黒班が残る。

古墳時代土師器壺 (311) 長頸で球形に近い体部を有する器形の口縁部破片で、復元口径16.5cm、口縁端部から頸部外面は横ナデ、頸部内面はナデと指押さえで仕上げている。

勾玉 (312) 完存品で、石材は不明。全長2.3cm・最大幅1.1cm・最大厚0.5cm・孔径0.15cm。

古墳時代土師器甕 (313～319) 313・314は器壁がやや厚い在地系の長胴甕、315～319は布留系の甕である。313は復元口径17.0cm、口縁部がやや外反し、口縁部内外面は横ナデ、胴部外面はハケ目をナデ消し、胴部内面は粗い斜方向のヘラミガキを施す。314は復元口径18.8cm、口縁部は外反し、口縁部内外面は横ナデ、胴部外面はハケ目をナデ消し、胴部内面は粗い横方向のヘラミガキを施す。315は復元口径17.4cm、口縁部内外面は横ナデ、胴部外面は横方向の細かいハケ目を上部でナデ消し、内面は横方向のていねいなヘラ削りを施す。外面全体に煤が付着する。316は復元口径17.0cm、口縁部内外面横ナデ、胴部外面はハケ目をナデ消し、内面は横方向のヘラミガキを施す。317は復元口径17.2cm、口縁部内外面は横ナデ、胴部外面は粗いハケ目が残りに、内面は横方向のヘラ削りを施す。318は復元口径17.7cm、口縁部内外面は横ナデ、胴部外面はハケ目をナデ消し、胴部内面は横～斜方向のヘラ削りを施す。口縁部内面に黒班が残りに、外面には煤が付着する。319は復元口径18.4cm、口縁部内外面は横ナデ、胴部外面はハケ目をナデ消し、胴部内面は横方向のヘラ削りを施す。

古墳時代須恵器杯蓋 (320) 古式の須恵器で、復元口径11.8cm・器高6.3cm。口縁端部の段は沈線状で、口縁部と天井部の境の稜線は明瞭である。口縁部内外面と体部内面は回転ナデ、天井部外面は大部分が回転ヘラ削りを施している。

古墳時代土製品支脚 (321～323) 表面をナデと指押さえを施し、上端を下方に丸めて仕上げ、基部に近い部分に2ないし4個の貫通しない穿孔がある。321は完存品で、全長17.2cm・最大幅10.5cm。

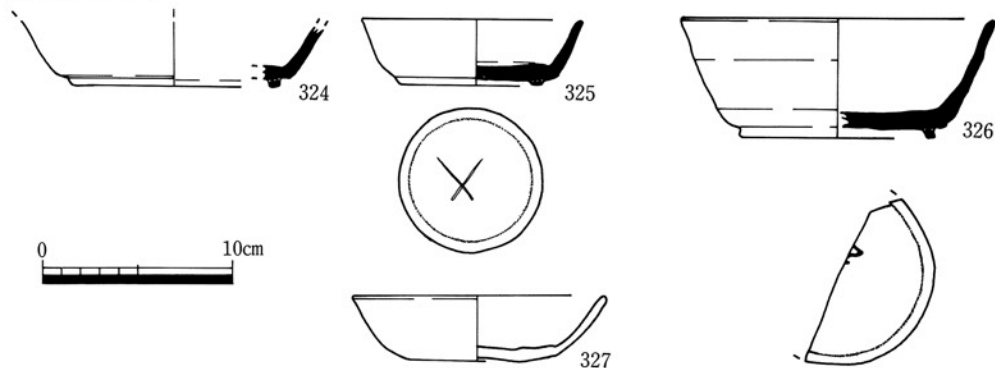


Fig. 105 貝層付近No.1 トレンチ検出遺物(4) (S = 1 / 4)

5. 貝層付近の調査

奈良時代須恵器高台付杯 (324~326) どれも貼り付け高台である。324は復元高台径11.0cm、体部内外面は回転ナデで、高台外端にきついナデをまわし明瞭に段をつけている。325は口径11.5cm・器高3.5cm・高台径7.5cm、体部内外面・内底面は回転ナデ、外底面は回転ヘラ削りを施す。外底面にはヘラ記号が残る。326は復元口径15.3cm・器高6.3cm・復元高台径10.0cm、体部内外面と外底面は回転ナデ、内底面にはナデを加えている。外底面に墨書の痕跡があるが、欠損により判読不能。

奈良時代土師器杯 (327) 口径13.1cm・器高7.8cm・底径3.3cm、体部内外面は回転ナデ、内底面にはナデを加え、外底面は回転ヘラ切り離しで板目圧痕がある。

No. 2 トレンチ検出遺物 (Fig.106~107)

弥生土器壺 (328~331) 328は二重口縁壺の口縁部破片と思われる。復元口径20.7cm、口縁端部はきつく外反し、頸部の段の屈曲は明瞭である。口縁端部は横ナデ、口縁部から頸部内外面はハケ目をナデ消している。329は小破片で、壺の口縁部かと思われる。復元口径26.6cm、口縁端部は横ナデ、頸部外面はハケ目の後に縦方向のヘラ削りを施し、頸部内面は横方向のハケ目をナデ消している。330は復元口径16.8cm、口縁部内外面は横ナデ、胴部外面はハケ目をナ

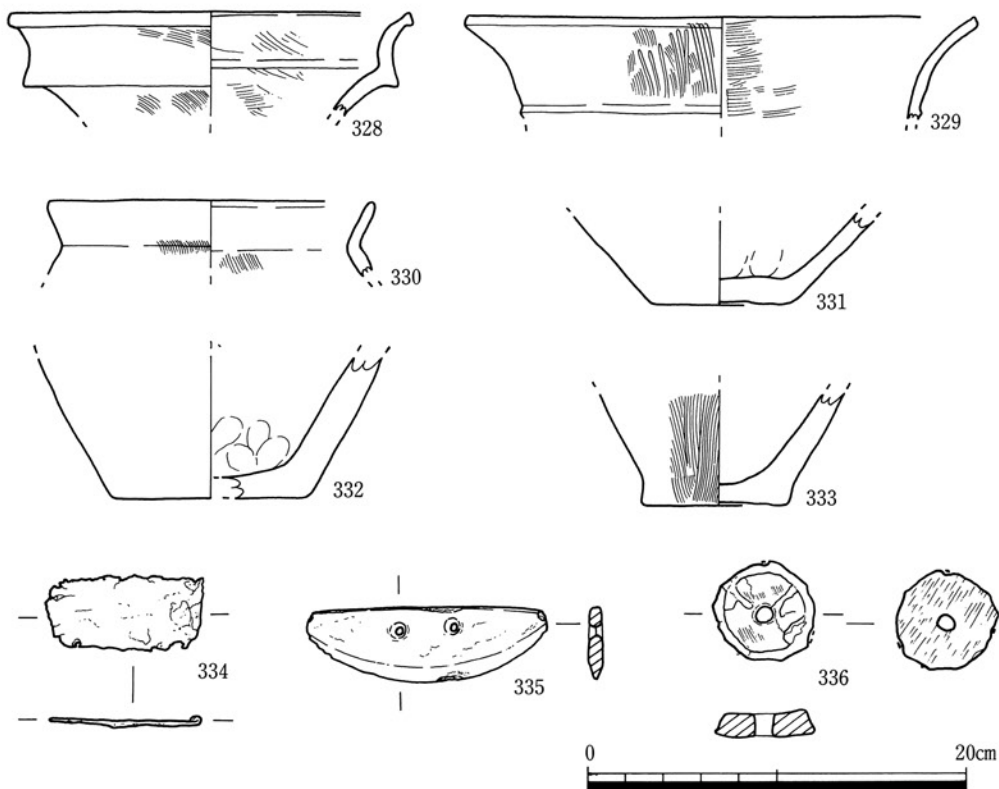


Fig. 106 貝層付近トレンチNo.2 検出遺物(1) (S = 1/4)

IV. 牟田寄遺跡の記録

デ消し、胴部内面は斜方向のハケ目を施す。331は底部破片で、底径7.1cm、胴部内外面はナデを施し、内底面には指頭痕が残る。

弥生土器甕 (332・333) 332は復元底径10.4cm、胴部外面はハケ目をナデ消し、胴部内面から内底面はナデと指押さえを施す。333は底径7.6cm、胴部外面は縦方向のハケ目、胴部内面

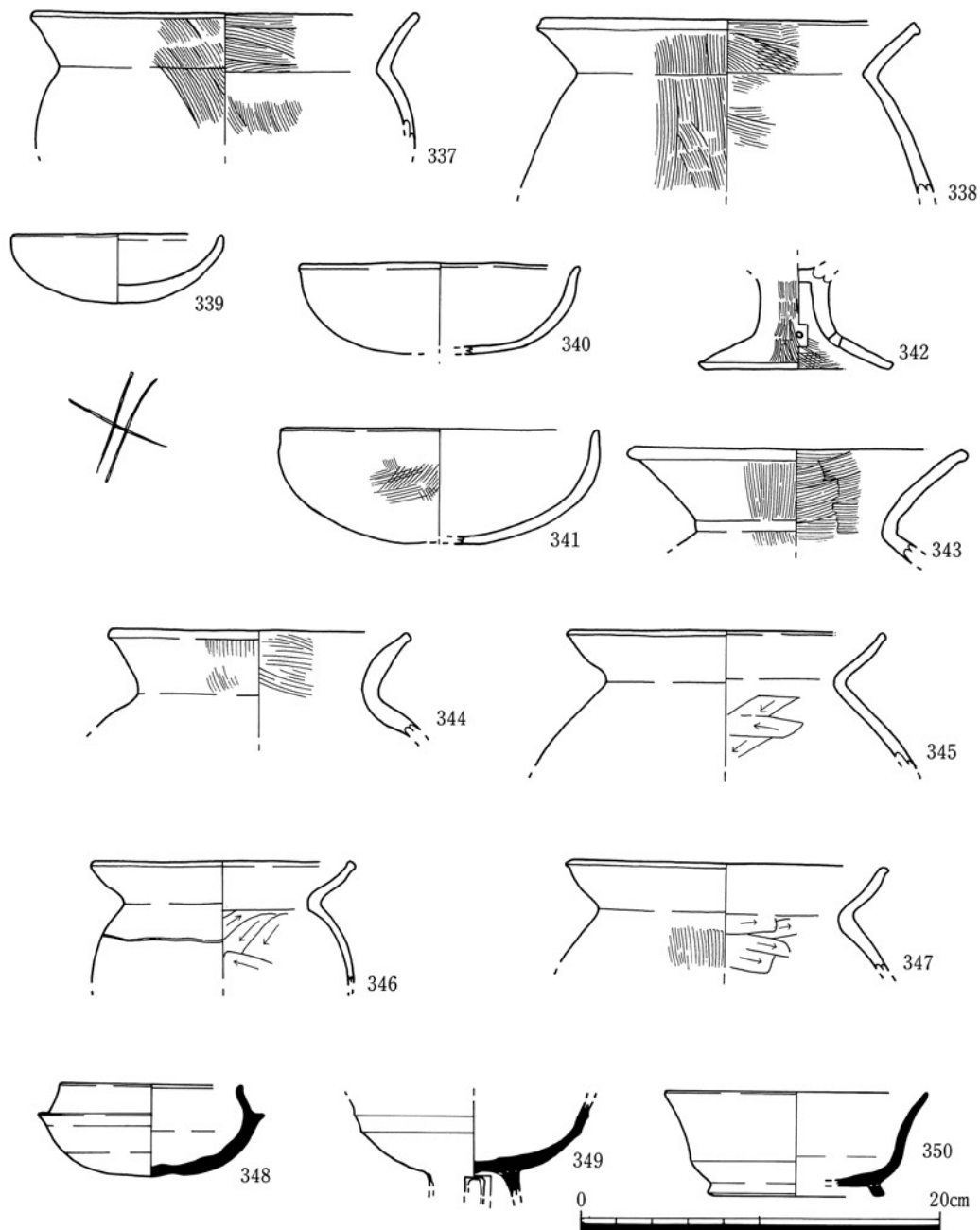


Fig. 107 貝層付近トレンチNo.2 検出遺物(2) (S = 1 / 4)

5. 貝層付近の調査

から内底面はナデを施す。胴部外面には煤が付着する。

不明鉄製品 (334) 残存状態不良で、細部は不明。一端を折り曲げている。

石包丁 (335) ほぼ完存品である。全長12.5cm・最大幅4.0cm・最大厚0.7cm・孔径0.8cm・重量55g。穿孔は鉄器によるものと思われる。

木製紡錘車 (336) 外径5.2cm・最大厚1.3cm・孔径0.9cm。

古墳時代土師器甕 (337・338・344～347) 337・338・344は在地系の甕、345～347は布留系の甕の破片である。337は復元口径21.0cm、口縁端部は横ナデ、頸部外面は斜方向のハケ目、頸部内面は横方向のハケ目、胴部外面は斜方向のハケ目、胴部内面は斜方向のハケ目を上部ではナデ消す。338は復元口径21.5cm、口縁端部は横ナデ、頸部外面は縦方向のハケ目、頸部内面は横～斜方向のハケ目、胴部外面は縦方向のハケ目、胴部内面は横方向のハケ目をナデ消している。344は復元口径16.2cm、口縁端部は横ナデ、頸部から胴部内外面はハケ目をナデ消している。345は復元口径17.2cm、口縁部から頸部内外面は横ナデ、胴部外面はハケ目をナデ消して波状文を施し、胴部内面は斜～横方向のヘラ削り。346は復元口径14.0cm、口縁部から頸部内外面は横ナデ、胴部外面はハケ目をナデ消した後に上部に沈線を施し、内面は斜～横方向のヘラ削り。347は復元口径17.2cm、口縁部から頸部内外面は横ナデ、胴部外面は縦方向のハケ目、内面は横方向のヘラ削りを施す。

古墳時代土師器鉢 (340・341) 340は復元口径15.4cm、口縁端部は横ナデ、体部外面はヘラ削りと思われ、体部内面はナデを施す。341は復元口径17.4cm、口縁部は横ナデ、体部外面はハケ目をナデ消し、体部内面にはナデを施す。

古墳時代土師器高杯 (342) 短脚高杯の脚部破片で、復元底径10.3cm、4方向に径0.6cmほどの円形透かしが入るものと思われる。脚端部は横ナデ、脚部外面は縦方向のヘラミガキ、脚部内面下部は細かい横～斜方向のハケ目で上部はナデを施している。

古墳時代土師器壺 (343) 復元口径18.0cm、口縁部は横ナデ、頸部外面から胴部外面は縦方向のハケ目、頸部内面は横方向のハケ目、胴部内面はハケ目をナデ消している。

古墳時代須恵器杯蓋 (339) 口径11.4cm・器高3.9cm、天井部1/2に回転ヘラ削りを施し、他は回転ナデで仕上げている。天井部にはヘラ記号が残る。

古墳時代須恵器杯 (348) 復元口径10.0cm・器高5.2cm、口縁端部の段は明瞭ではない。底部2/3に回転ヘラ削りを施し、他は回転ナデで仕上げている。

古墳時代須恵器高杯 (349) 無蓋の短脚一段透かしの高杯破片と思われる。杯部外面の1/2以上に回転ヘラ削りを施し、他は回転ナデで仕上げている。

奈良時代須恵器高台付杯 (350) 貼付け高台で、復元口径14.4cm・器高5.8cm・復元高台径8.8cm、体部内面から外底部は回転ナデで、内底面にはナデを加えている。

IV. 牟田寄遺跡の記録

No. 3 トレンチ検出遺物 (Fig.108・109)

弥生土器甕 (351・352) 351は復元口径36.2cm、頸部の屈曲部下に帯状の突帯を有する。口縁端部は横ナデ、頸部外面は縦方向のハケ目、頸部内面は横方向のハケ目、胴部外面突帯の下は縦方向のハケ目、胴部内面はハケ目をナデ消す。352は復元口径18.0cm、口縁端部は横ナデ、頸部外面は縦～斜方向のハケ目、頸部内面は横方向のハケ目、胴部外面は横方向の平行タキ目、胴部内面は縦方向のハケ目を施す。

弥生土器鉢 (354・355) 354は口径14.7cm・器高6.4cm・底径3.1cm、口縁端部は横ナデ、体部内外面はナデを施す。355は平丸底で、口径17.0cm・器高11.5cm・底径5.9cm、口縁端部は横ナデ、頸部外面から胴部外面はハケ目をナデ消し、頸部内面から胴部内面は斜方向のハケ目を施す。

砥石 (356) 砂岩系の石材で、一端を欠損する。2面を使用している。

土製玉 (357～363) 357は外径1.3cm・孔径0.3cm。358は外径1.3cm・孔径0.3cm。359は外径1.5cm・孔径0.2cm。360は外径1.6cm・孔径0.2cm。361は外径1.7cm・孔径0.2cm。362は外径1.9cm・孔径0.2cm。363は外径2.6cm・孔径0.3cm。

土製勾玉 (364～366) どれも一端ないし両端を欠損している。

土製鏡 (367～369) いわゆる土製模造鏡といわれるものである。

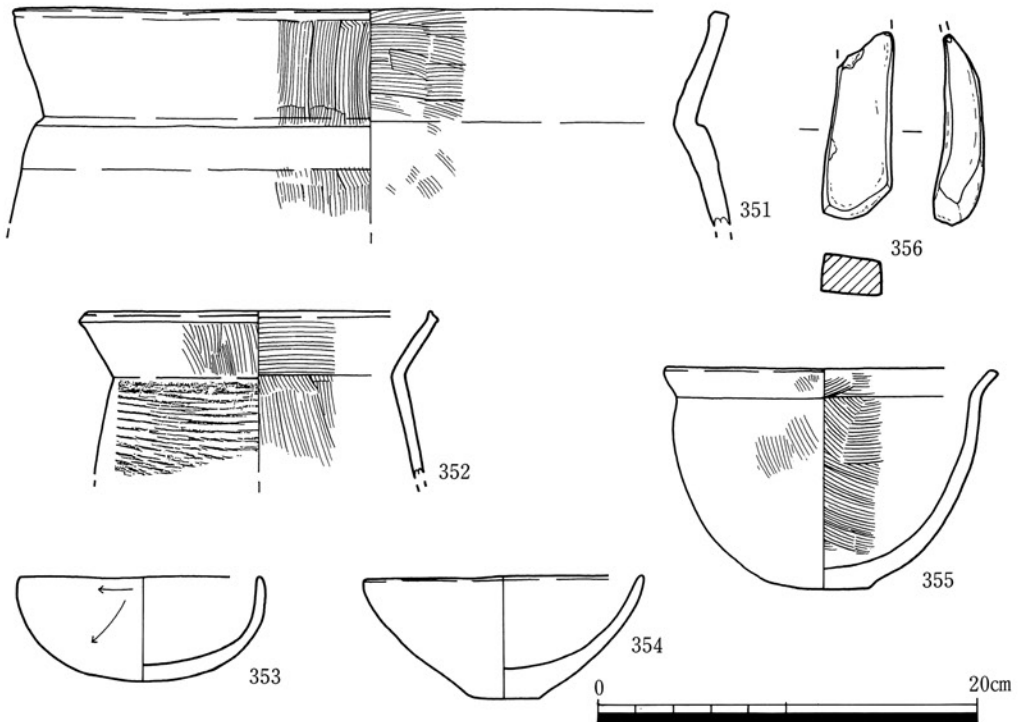


Fig. 108 貝層付近No.3 トレンチ検出遺物(1) (S = 1 / 4)

5. 貝層付近の調査

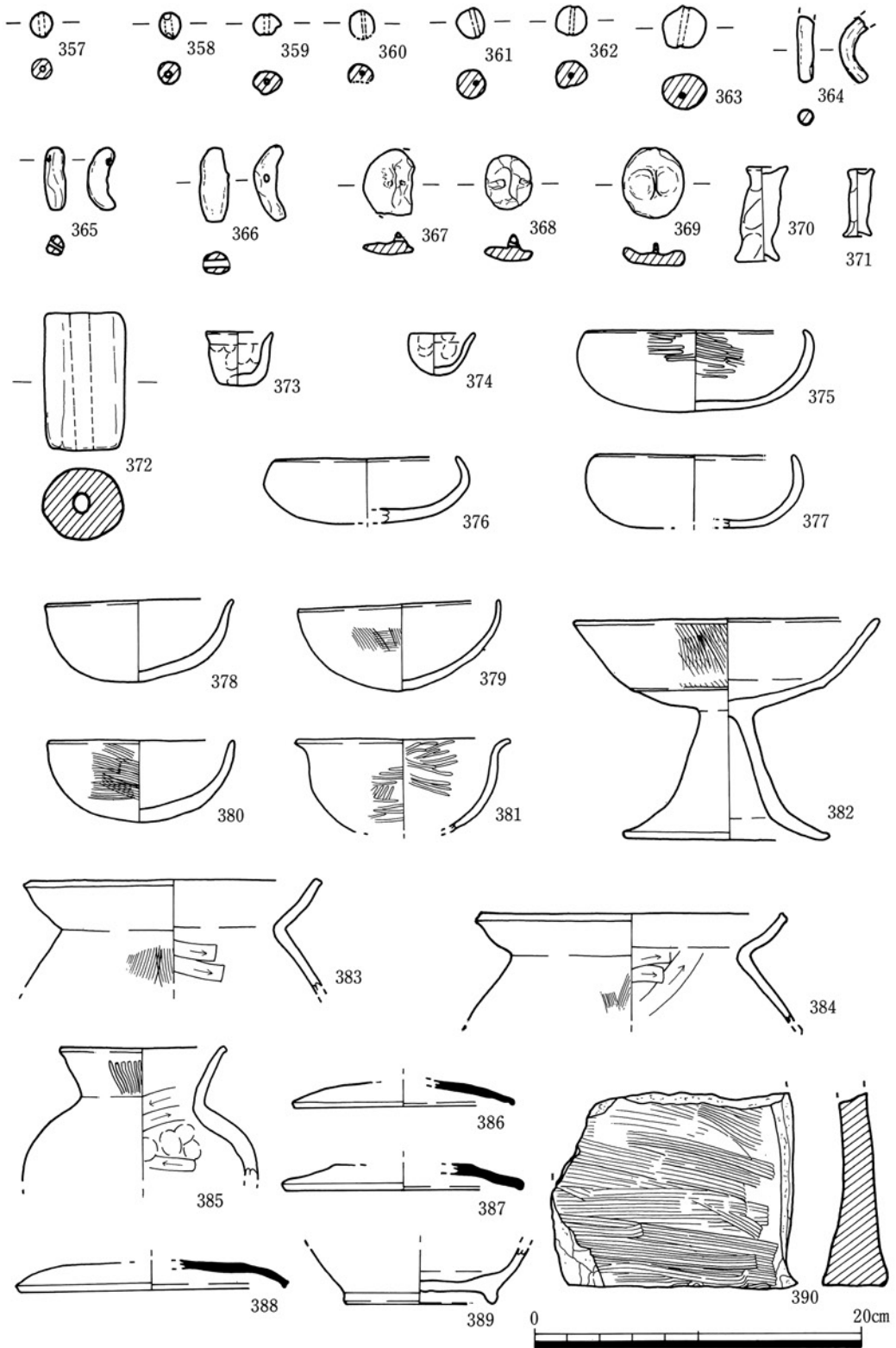


Fig. 109 貝層付近No.3 トレンチ検出遺物(2) (S = 1 / 4)

IV. 牟田寄遺跡の記録

不明土製品 (370・371) 支脚のような形状をなすが、かなり小形である。両端は凹ませている。370は全長5.8cm、371は全長4.1cm。

支脚 (372) 全長8.5cm・外径5.0cm・孔径1.1cm、表面を面取りしている。

ミニチュア土器 (373・374) 373は口径3.9cm・器高3.2cm・底径2.3cm、内外面を指押さえて仕上っている。374は口径3.8cm・器高2.6cm、内外面を指押さえて仕上っている。

古墳時代土師器鉢 (353・375～381) 353は口径12.5cm・器高6.4cm、口縁部内外面は横ナデ、体部内外面はナデで仕上っている。375は口径13.2cm・器高5.0cm、口縁端部は横ナデ、体部内外面は横方向のヘラミガキを施す。376は復元口径11.0cm、口縁部内外面は横ナデ、体部内外面はナデで仕上っている。377は復元口径12.0cm、口縁部内外面は横ナデ、体部内外面はナデで仕上っている。378は口径11.3cm・器高5.0cm、口縁部内外面は横ナデ、体部内外面はナデで仕上っている。379は復元口径11.8cm・器高5.5cm、口縁部内外面は横ナデ、体部外面はハケ目をナデ消し、体部内面はナデで仕上っている。380は復元口径11.2cm・器高5.0cm、口縁端部は横ナデ、体部外面は上部横方向のハケ目で下部はナデ、体部内面はナデで仕上っている。381は復元口径12.8cm、口縁部内外面は横ナデ、体部内外面は横～斜方向のヘラミガキを施す。

古墳時代土師器高杯 (382) 復元口径18.2cm・器高13.5cm・底径12.0cm、杯部外面下位に明瞭な段を有する。口縁部内外面は横ナデ、杯部外面はハケ目をナデ消し、杯部内面はナデ、脚部外面上部はナデで下部は横ナデ、脚端部から脚部内面下部は横ナデで上部は斜方向のヘラ削りを施す。

古墳時代土師器甕 (383・384) 布留系の甕の口縁部破片である。383は復元口径17.4cm、口縁部から頸部内外面は横ナデ、胴部外面は縦方向のハケ目、胴部内面は横方向のヘラ削りを施す。384は復元口径18.2cm、口縁部から頸部内外面は横ナデ、胴部外面はハケ目をナデ消し、胴部内面は横～斜方向のヘラ削りを施す。

古墳時代土師器壺 (385) 球形の胴部を有する器種である。復元口径9.8cm、口縁部内外面は横ナデ、頸部外面は縦方向のヘラミガキ、胴部外面はハケ目をナデ消し、頸部内面は横ナデ、胴部内面は斜～横方向のヘラ削りで一部に指頭痕が残る。

奈良時代須恵器杯蓋 (386～388) どれも口縁端部に明瞭な折り返しはなく、肥厚させるか沈線をまわしている。386は復元口径13.3cm、口縁端部から内外面は回転ナデ仕上っている。387は復元口径14.4cm、口縁端部から内外面は回転ナデ仕上っている。388は復元口径16.2cm、口縁端部から内外面は回転ナデ仕上っている。

奈良時代土師器高台付杯 (389) 高台は貼付けと思われる。高台径9.0cm、体部内外面から外底面は回転ナデ、内底面にはナデを加えている。

移動式カマド (390) カマドの破片と思われる。外面は粗いハケ目で、内面はナデで仕上っている。

5. 貝層付近の調査

貝層付近1区検出遺物 (Fig.110)

古墳時代支脚 (391・392) どちらも端部を欠損し、外面を指押さえて仕上げている。

古墳時代土師器埴 (393~395) 393は復元口径8.8cm・器高8.7cm、口縁端部から頸部外面は横ナデ、頸部内面は斜方向のハケ目、胴部外面はハケ目をナデ消し、胴部内面はナデと指押さえて仕上げる。394は口径6.7cm・器高9.9cm、口縁部内外面は横ナデ、頸部外面から胴部外面はハケ目をナデ消し、頸部内面から胴部内面はナデと指押さえて仕上げる。395は頸部外面から胴部外面はハケ目をナデ消し、頸部内面はナデ、胴部内面はナデと指押さえて仕上げています。

古墳時代土師器甕 (396) 布留系の甕の口縁部破片で、胴部上位に一条の沈線を施す。口縁部から頸部内外面は横ナデ、胴部外面はハケ目をナデ消し、胴部内面は斜方向のヘラ削りを施す。

古墳時代土師器鉢 (397) 復元口径15.0cm・器高5.0cm、口縁部内外面は横ナデ、体部内外面はナデで仕上げている。

古墳時代須恵器杯 (398) 復元口径11.8cm、口縁端部はゆるい段をなし、内外面は回転ナ

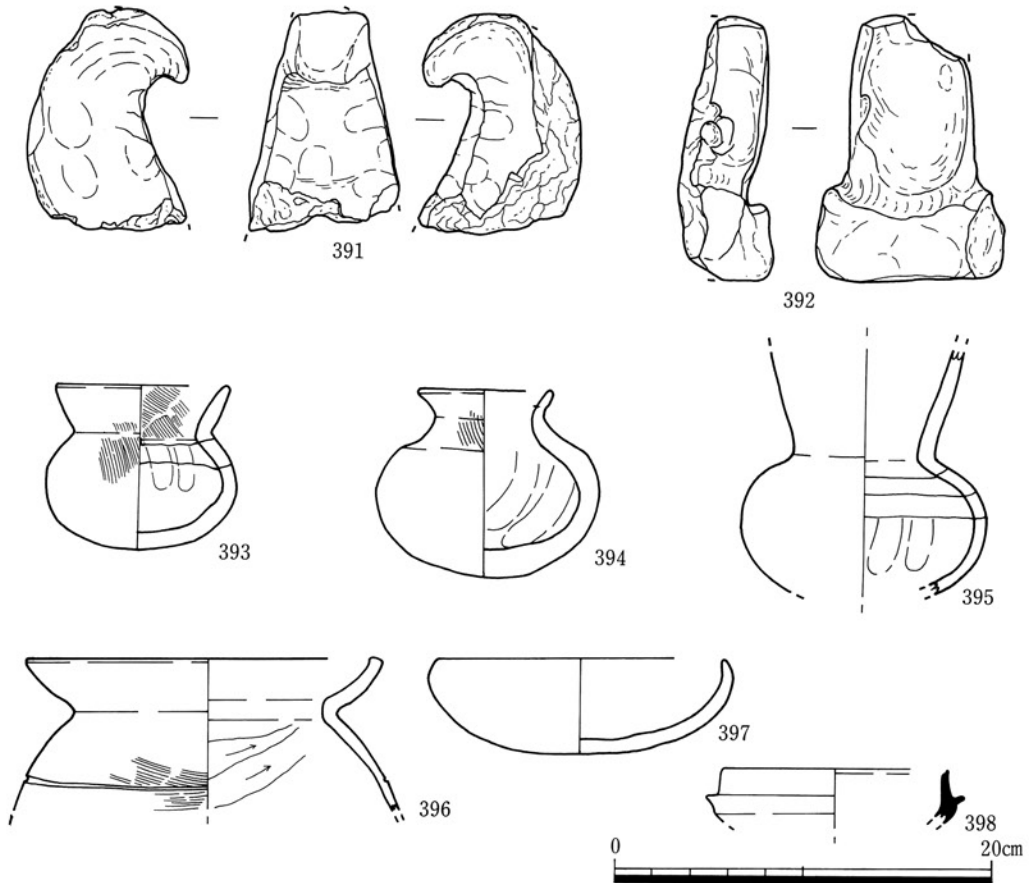


Fig. 110 貝層付近1区検出遺物 (S = 1/4)

IV. 牟田寄遺跡の記録

デで仕上げている。

貝層 2 区検出遺物 (Fig.111)

土製玉 (399~401) 399は径1.5cm・孔径0.2cm。400は径1.6cm・孔径0.2cm。401は径1.8cm・孔径0.3cm。

土製勾玉 (402~404) 402・404は完存、403は一端を欠損している。

土製鏡 (405・406) いわゆる土製模造鏡といわれるものである。

古墳時代須恵器瓦泉 (407) 外面全面に自然釉がかかり、黒灰色で光沢を帯びている。頸部外面にヘラ描きの波状文、胴部上半は二本の沈線の間印刻文を配する。口縁部から胴部上半は回転ナデ、胴部下半は回転ヘラ削りを施していると思われるが、自然釉のために不明である。

古墳時代土師器甕 (408) 在地系の甕で、復元口径20.1cm・器高30.4cm、口縁部から頸部内外面は横ナデ、胴部外面はハケ目をナデ消し、内面は横~斜方向のヘラ削りを施す。

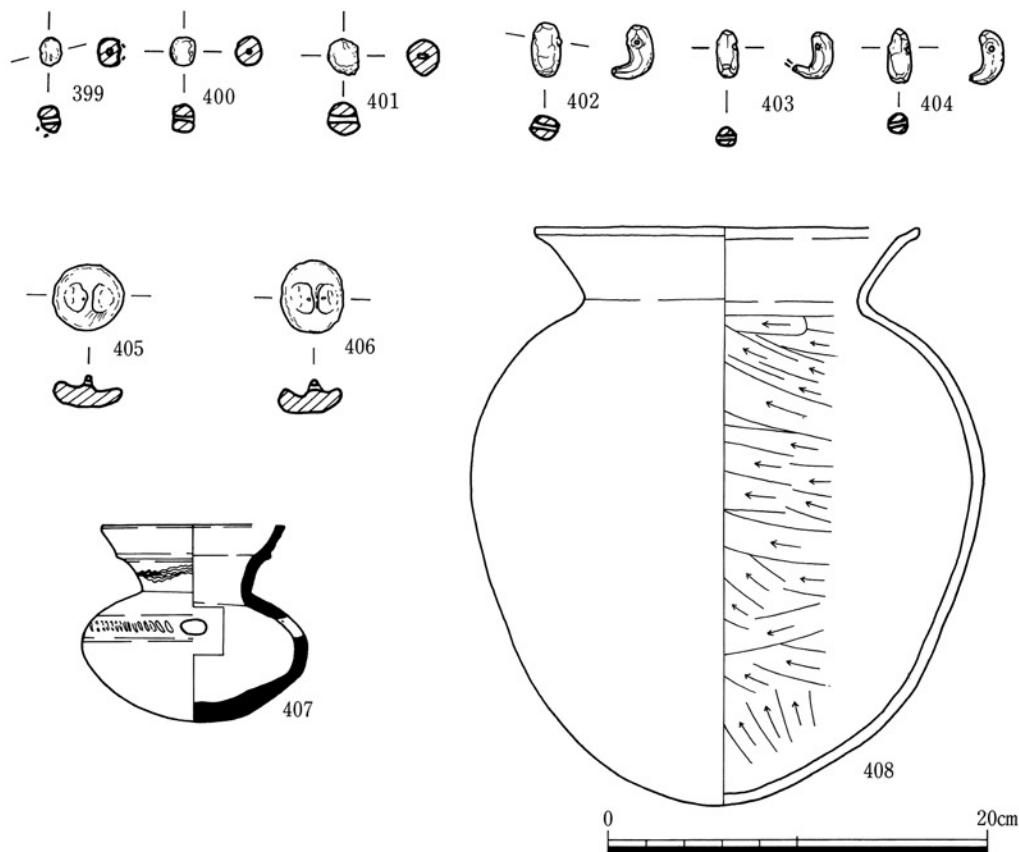


Fig. 111 貝層 2 区検出遺物 (S = 1 / 4)

5. 貝層付近の調査

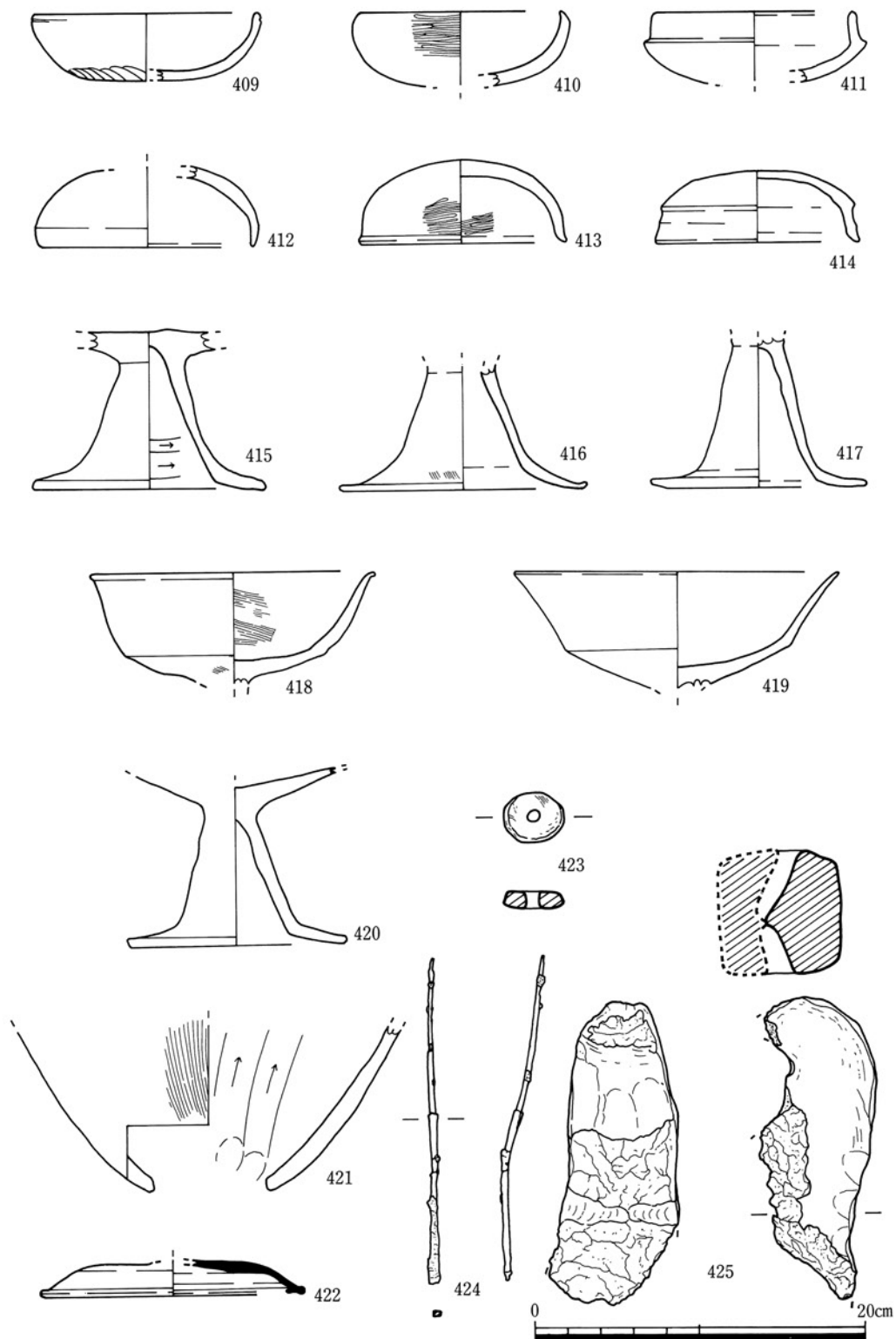


Fig. 112 貝層付近4区検出遺物実測図(2) (S = 1/4)

IV. 牟田寄遺跡の記録

貝層付近4区検出遺物 (Fig.112・113)

弥生土器壺(426) 復元口径23.5cm、口縁端部にはヘラによる細長い刻み目を有する。口縁端部は横ナデ、頸部外面は縦方向のハケ目、頸部内面はハケ目をナデ消し一部に指頭痕が残る。

弥生土器甕(427・428) 427は復元口径18.3cm、口縁端部は横ナデ、頸部内外面はハケ目をナデ消し、胴部外面は縦方向のハケ目、胴部内面は斜方向のハケ目を施す。428は復元口径25.3cm、口縁端部にはヘラによる細長い刻み目、頸部の屈曲にゆるい山形突帯を有する。口縁端部は横ナデ、頸部内外面はハケ目をナデ消し、胴部外面は横方向のタタキ目、胴部内面はハケ目をナデ消す。

弥生土器鉢(429・430) 429は底部に焼成前の穿孔があり、口径14.9cm・器高10.3cm・底径3.4cm、口縁部は指押さえて整形し、体部外面はハケ目をナデ消し、体部内面にはナデを施す。430は口径9.6cm・器高6.0cm・底径4.6cm、口縁部内外面は横ナデ、体部外面はハケ目をナデ消し、体部内面は斜方向のハケ目を施し、外面下部に黒班が残る。

ミニチュア土器(432・433・435~438) 432は口径2.3cm・器高2.7cm、内外面はナデで仕上げている。433は底径3.8cm、外面はナデ、内面は指押さえて仕上げている。435は口径3.6cm・器高4.2cm・底径2.2cm、内外面を指押さえて仕上げている。436は底径4.5cm、外面はナデ、内面は指押さえて仕上げている。437は口径7.1cm・器高7.7cm・底径3.9cm、口縁端部は横ナデ、外面はナデ、内面はナデと指押さえて仕上げている。438は復元口径6.2cm・器高7.4cm、口縁端部は横ナデ、頸部内外面はハケ目をナデ消し、胴部外面はナデ、胴部内面はナデと指押さえて仕上げている。

土製勾玉(431) 全体の1/2以上は欠損している。

不明土製品(434) 全長6.7cm、両端は凹んでいて、外面は指押さえて整形している。

古墳時代土師器罎(439・440) 439は頸部以上を欠損し、胴部外面はハケ目をナデ消し、胴部内面上部は指押さえて下部はナデを施している。外面一部に黒班が残る。440は復元口径8.5cm、器高9.0cm、口縁端部は横ナデ、頸部内外面はハケ目をナデ消し、胴部外面はハケ目をナデ消し、内面は指押さえて仕上げている。

古墳時代土師器鉢(409・410・412・413・441~447) 409は復元口径13.2cm・器高4.0cm、口縁部から体部内外面は横ナデ、外底面はヘラ削り、内底面はナデを加えている。410は復元口径12.2cm、口縁端部は横ナデ体部内面はナデ、体部外面は横方向のヘラミガキを施す。412は復元口径12.7cm、口縁部内外面は横ナデ、体部内外面はナデで仕上げている。413は復元口径12.9cm・器高4.9cm、口縁部内外面は横ナデ、体部内外面に横方向のヘラミガキを施す。441は口径11.7cm・器高4.8cm、口縁端部は横ナデ、体部外面は横方向のヘラミガキ、体部内面はナデと指押さえて仕上げている。442は復元口径11.8cm・器高5.9cm、口縁部内外面は横ナデ、体部内外

5. 貝層付近の調査

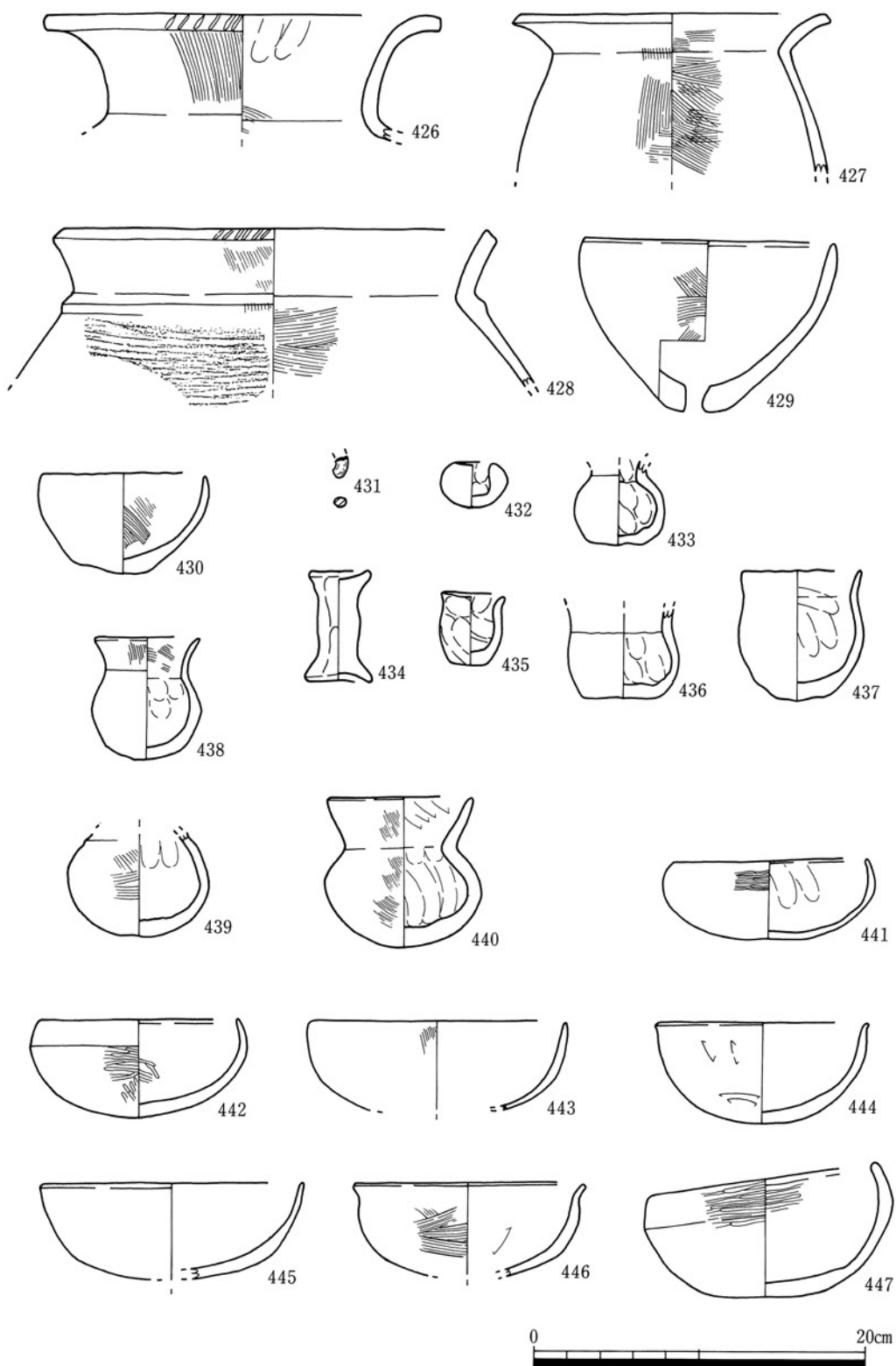


Fig. 113 貝層付近4区検出遺物実測図(1) (S = 1 / 4)

IV. 牟田寄遺跡の記録

面は横～斜方向のヘラミガキを施す。443は復元口径15.4cm、口縁端部は横ナデ、体部内面はナデ、体部外面はハケ目をナデ消している。444は復元口径12.6cm・器高6.1cm、口縁部内外面は横ナデ、体部内外面はナデで仕上げ一部にヘラ状工具の擦過痕が観察できる。445は復元口径15.7cm、口縁部内外面は横ナデ、体部内外面はナデで仕上げている。446は復元口径13.7cm、口縁部内外面は横ナデ、体部外面はハケ目をナデ消し、体部内面はナデで仕上げている。447は口径13.6cm・器高7.3cm、口縁端部は横ナデ、体部外面は横方向のヘラミガキ、外底面はナデ、体部内面から内底面は横方向のヘラミガキを施している。

古墳時代土師器杯蓋(414) 口径12.0cm・器高4.3cm、須恵器の模倣品である。口縁部と天井部の境には稜線が張り出し、口縁部内外面は横ナデ、天井部内面はナデ、天井部外面は不明瞭だがヘラ削りを施したものと思われる。

古墳時代土師器杯(411) 復元口径11.8cm、須恵器の模倣品である。口縁部内外面は横ナデ、底部内外面はナデで仕上げている。

古墳時代土師器高杯(415～420) 415は復元底径12.8cm、脚端部内外面は横ナデ、脚部外面はナデ、脚部内面には横方向のヘラミガキを施している。416は復元底径14.7cm、脚端部から内面下部は横ナデ、内面上部はナデ、外面はハケ目をナデ消している。417は脚部端部内外面は横ナデ、脚部外面はナデ、脚部内面は横方向のヘラ削りを施している。418は復元口径16.9cm、口縁部内外面は横ナデ、杯部外面上部は横ナデで下部はハケ目をナデ消し、杯部内面はハケ目をナデ消している。419は復元口径19.4cm、口縁端部から杯部外面は横ナデ、杯部内面上部は横ナデで下部はナデを施す。420は復元底径12.9cm、脚端部内外面は横ナデ、脚部外面はハケ目をナデ消し、脚部内面は横方向のヘラ削りを施している。

古墳時代土師器甑(421) 底部破片で復元径6.7cmほどの焼成前穿孔があり、外面に煤があつく付着する。胴部外面は縦方向のハケ目、胴部内面は縦方向のヘラ削りを施す。

飛鳥時代須恵器杯蓋(422) 復元口径15.4cm、口縁部から体部内外面を回転ナデで仕上げている。

石製紡錘車(423) 完存品で、外径3.7cm・最大厚1.0cm・重量20g・孔径0.6cm。

不明鉄製品(424) ほぼ完存と思われ、保存状態は良好である。断面はしっかりした長方形をなし、鍛造によるものか。

古墳時代支脚(425) 両端を欠損している。基部近くに貫通しない2個の穿孔がある。

貝層付近4区南検出遺物 (Fig.114)

古墳時代土師器鉢(443) 復元口径11.6cm、口縁端部は横ナデ、体部外面は横～斜方向のハケ目、体部内面はナデを施し一部に指頭痕が残る。

5. 貝層付近の調査

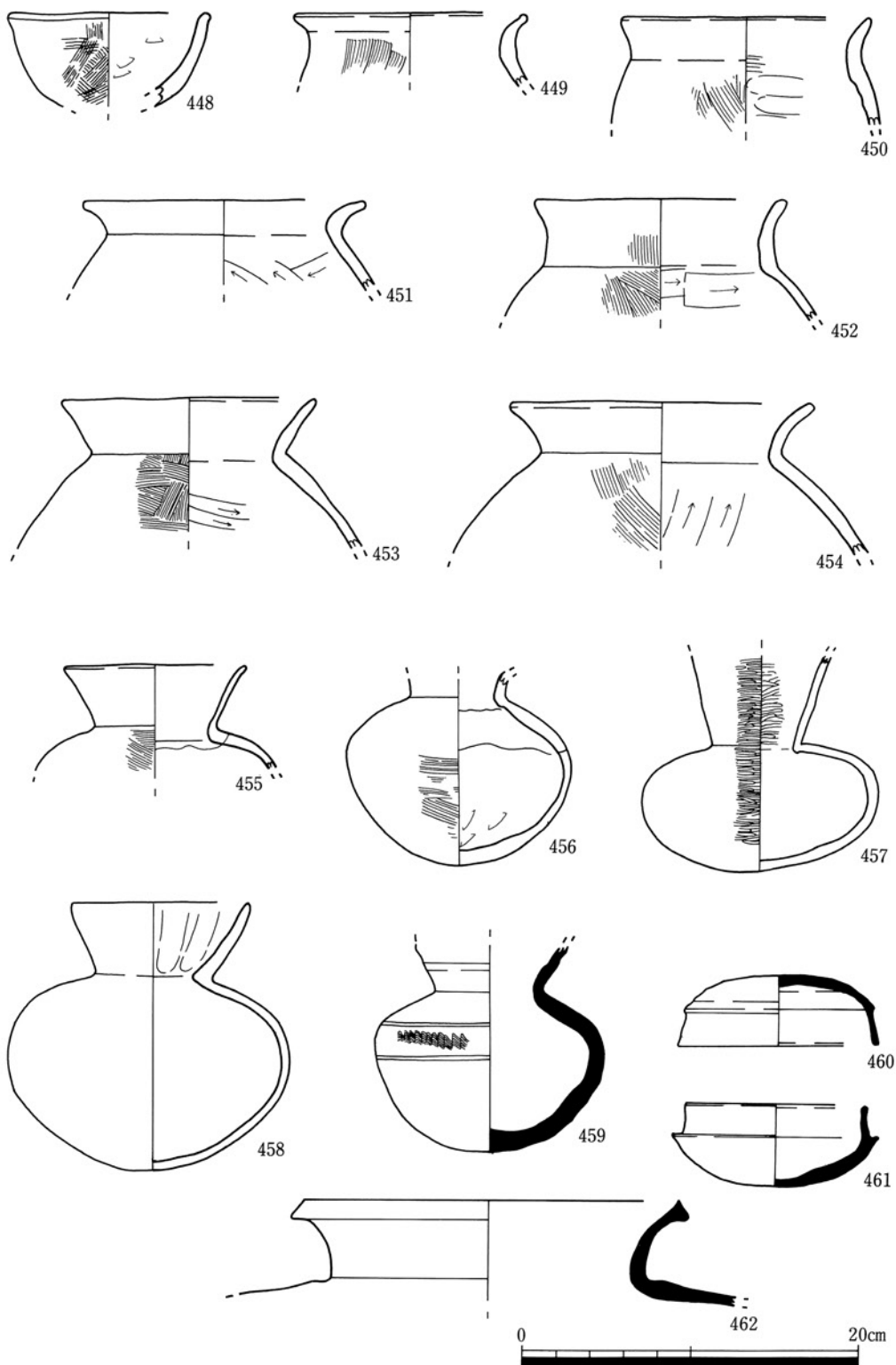


Fig. 114 貝層付近 4 区南検出遺物実測図 (S = 1 / 4)

IV. 牟田寄遺跡の記録

古墳時代土師器甕 (449～454) 449は復元口径13.4cm、口縁部内外面は横ナデ、胴部外面は縦方向のハケ目、胴部内面はハケ目をナデ消している。450は復元口径14.6cm、口縁部内外面は横ナデ、胴部外面は縦～斜方向のハケ目、内面はハケ目をナデ消し一部に指頭痕が残る。胴部外面には煤が付着する。451は復元口径16.4cm、口縁部内外面は横ナデ、胴部外面はハケ目をナデ消し、胴部内面は横～斜方向のヘラ削りを施している。口縁端部から胴部外面にかけて煤が付着する。452は復元口径14.5cm、口縁端部から頸部内面は横ナデ、頸部外面はハケ目をナデ消し、胴部外面は斜方向のハケ目、胴部内面は横方向のヘラ削りを施す。453は復元口径14.7cm、口縁部内外面は横ナデ、胴部外面は横～斜方向のハケ目、胴部内面は横方向のヘラ削りで一部に指頭痕が残る。口縁部外面から胴部外面にかけて一部に黒班が残る。454は復元口径17.4cm、口縁部から頸部内外面は横ナデ、胴部外面はハケ目をナデ消し、胴部内面は縦方向のヘラ削りを施す。

古墳時代土師器埴 (455～458) 復元口径10.8cm、口縁部から頸部内外面は横ナデ、胴部外面はハケ目をナデ消し、胴部内面は横方向のヘラ削りを施す。456は頸部内外面は横ナデ、胴部外面はハケ目をナデ消し、胴部内面は粗いナデで仕上げている。457は頸部内外面は横方向のヘラミガキ、胴部外面は横方向のヘラミガキ、胴部内面はナデと指押さえで仕上げている。胴部外面下部に黒班が残る。458は口径10.4cm・器高16.0cm、口縁端部から頸部外面は横ナデ、頸部内面は指押さえ、胴部外面はハケ目をていねいにナデ消し、胴部内面はナデで仕上げている。胴部外面下部に黒班が残る。

古墳時代須恵器瓦泉 (459) 外面のかなりの部分に自然釉をかぶり、光沢がある黒灰色をなす。胴部外面上部の2本の沈線の間には楡描きの波状文を有する。頸部内外面は回転ナデ、胴部内面はナデと指押さえで仕上げ、自然釉をかぶり不明瞭だが胴部外面下部は回転ヘラ削りを施していると思われる。

古墳時代須恵器杯蓋 (460) 復元口径12.0cm・器高5.2cm、天井部下端の稜線は明瞭だが、口縁端部の段は退化している。口縁部外面と口縁部内面から天井部外面は回転ナデで仕上げ、天井部のほぼ全面に回転ヘラ削りを施している。

古墳時代須恵器杯 (461) 口径11.0cm・器高4.8cm、口縁端部にゆるい段を有する。底部2/3に回転ヘラ削りを施し、他は回転ナデで仕上げている。

古墳時代須恵器甕 (462) 復元口径22.0cm、頸部内面から胴部外面は自然釉をかぶり調整不明、胴部内面は円弧タタキ目が残る。

4. 小 結

6. 小 結

今回の発掘調査では弥生時代後期から中世までの遺物・遺構を検出した。それらの中で特筆すべきものを抽出し、以下に記述する。

弥生時代の掘立柱建物

最終的に掘立柱の柱穴と認定できるものは100基をはるかに超えるものである。このように多数検出しながら実際同一建物の柱穴としてその連続性を認定できたものは4棟程度である。その認定も平成4年度調査のF地区で1間×2間の確実な建物の認定ができたことにより、図上検討で行なったものである。この原因は調査員の力量もさることながら、柱穴が切り合って集中していたこと、柱穴間の距離は妥当性が認められても柱穴横木のレベルがあまりにも隔たりがあり同一建物の柱穴として結びつけるには無理があったことなどが挙げられる。また、建物棟数が平成5年度に検出したものを加えても数棟しかなく、それらの柱穴間の距離（尺度）を普遍的なものとして他の柱穴に当てはめるには分母が小さすぎる。同地区の掘立柱建物の認定は今後の発掘調査によって尺度等の統計的な資料が豊富に得られてから再検討する必要がある。

また、今回の調査で注目できるのはE3区北端で検出した大規模な掘り方をもつ一群の柱穴であろう。残念ながらこれも現段階では一つの建物として建てることはできなかったが、その規模から考えて、他のものとは違う性格を有すると断言しても過言ではないであろう。これらの建物の所属する時期は柱穴埋土中から検出した遺物から判断すると弥生時代後期後半を主体としたものとする。

このような柱穴群は隣接する町ではその例がないと聞いているが、今回の調査で横木が抜かれていたものもあったので、千代田町で検出されたという「板敷土壇」がこれにあたるのではないだろうか。

古墳時代の掘立柱建物

E1・3区で合計7棟検出した。弥生時代のそれと比較すると埋土も黒褐色土系を基調とし、他遺構との切り合い関係も少なく、検出は比較的容易であった。建物の規模はすべて1間×1間であったが若干の規模の違いはある。これらの建物のなかでE3区検出のS B359～362は注目に値する。これらは建物の主軸をほぼ同一とし南西から北東方向に並び建っている。建物の建築時期はその柱穴埋土から検出した土器片で古墳時代と想定したが、細片であることや建物の規則性を考えると若干新しい時代の所産である可能性も考えてみる必要がある。ちなみに奈良時代の所産と連想させ得る傍証的資料は、約300m西方の平成元年度発掘調査地区で同時代の墨書土器を検出している。

遺跡の広がりについて

佐賀県遺跡地図（佐賀県教育委員会 1980）によると牟田寄遺跡はいわゆる牟田寄集落を中

IV. 牟田寄遺跡の記録

心に広がっており、その面積は概算で20ha程度であった。しかし、平成元年度以来の確認調査でその範囲が東方へ約15ha程度拡大した。また東方に隣接していた千住遺跡も西方へ拡大し牟田寄・千住遺跡は接してしまい、同一の遺跡の広がり判断ができるようになってきた。特に弥生時代後期を中心とした集落を考えるならば、建物群は千住遺跡（平成4年度発掘調査、平成5年度報告書刊行予定）にまで及んでおり、相当の広さで集落が存在していたものと考えられる。集落の形態は発掘調査が水路予定地の線的な調査であるため明確ではないが、同時期の大溝も千住遺跡では検出されているのでいわゆる環濠集落の存在も想定できよう。

調査方法等の検討について

同遺跡が所在する兵庫南部の発掘調査はこのE地区の調査で3例目となった。佐賀市域南部の地盤（遺構検出面）については前述のとおりであるが、3例目の調査であっても遺構壁面が果たして確実なものか今だに調査終了後に不安が残る。これは調査員の力量・資質によることが大きいと思うが、やはり比較的新しい時代の堆積土に遺構が掘り込まれていることも調査を難解なものにしている大きな要因にあたるものとする。また、遺構掘り込み面と認識している地盤下層には前時代の遺構は確実になかったものだろうかとの不安もある。これは同町のクリーク浚渫の際縄文時代の土器が出土したと聞くにあたり、その不安はさらに増す。加えて同町より標高は高い地区ではあるが、金立町南端の低湿地地区では縄文時代前期の遺物も採集されている。やはり縄文海退期を考慮すれば調査方法（調査時期・調査費等）を再検討する時期に来ているのではないだろうか。幸い(?)にも農業基盤整備事業に伴う発掘調査地区は水路掘削部分の線的な調査であるから、遺跡の大部分は圃場下に現状保存されている。調査方法については今までの調査結果を基に将来的な調査方法を検討していく必要があるだろう。

あとがきにかえて

この報告書を刊行するにあたり、どうしても記録しておきたい人がいる。牟田裕二君である。彼は平成4年7月10日、享年27才の若さで永眠した。彼が体調保全を図るため、発掘現場に出ず、佐賀市文化財資料館で報告書作成にあたっていた頃のことである。たしか暑い頃であったと記憶しているが、ふらりとこの牟田寄遺跡にやってきて排土の山に登りはじめた。しばらくして、須恵器杯片を手にして戻ってきた。開口一番この遺跡にも5世紀の遺構が必ず存在するとの強硬な意見を言う。その時までは同時期の遺物遺構は全く検出していなかったもので、恐らく氏の見解は外れるだろうと歯牙にもかけていなかったが、果たしてE3区SK338土壌に見る須恵器一括資料を検出してしまった。

牟田君の安らかな眠りを祈りたい。

4. 小 結

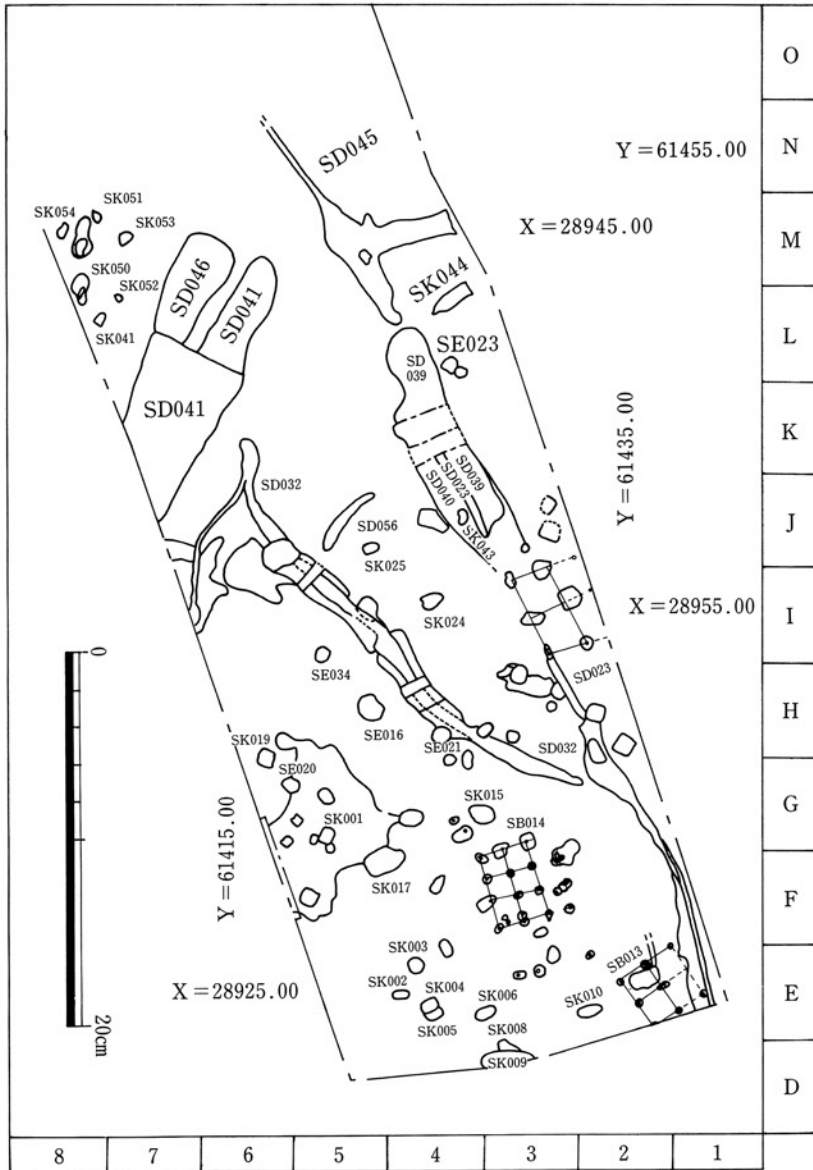


Fig. 115 牟田寄遺跡E 1区遺構配置図 (S = 1/400)

IV. 牟田寄遺跡の記録

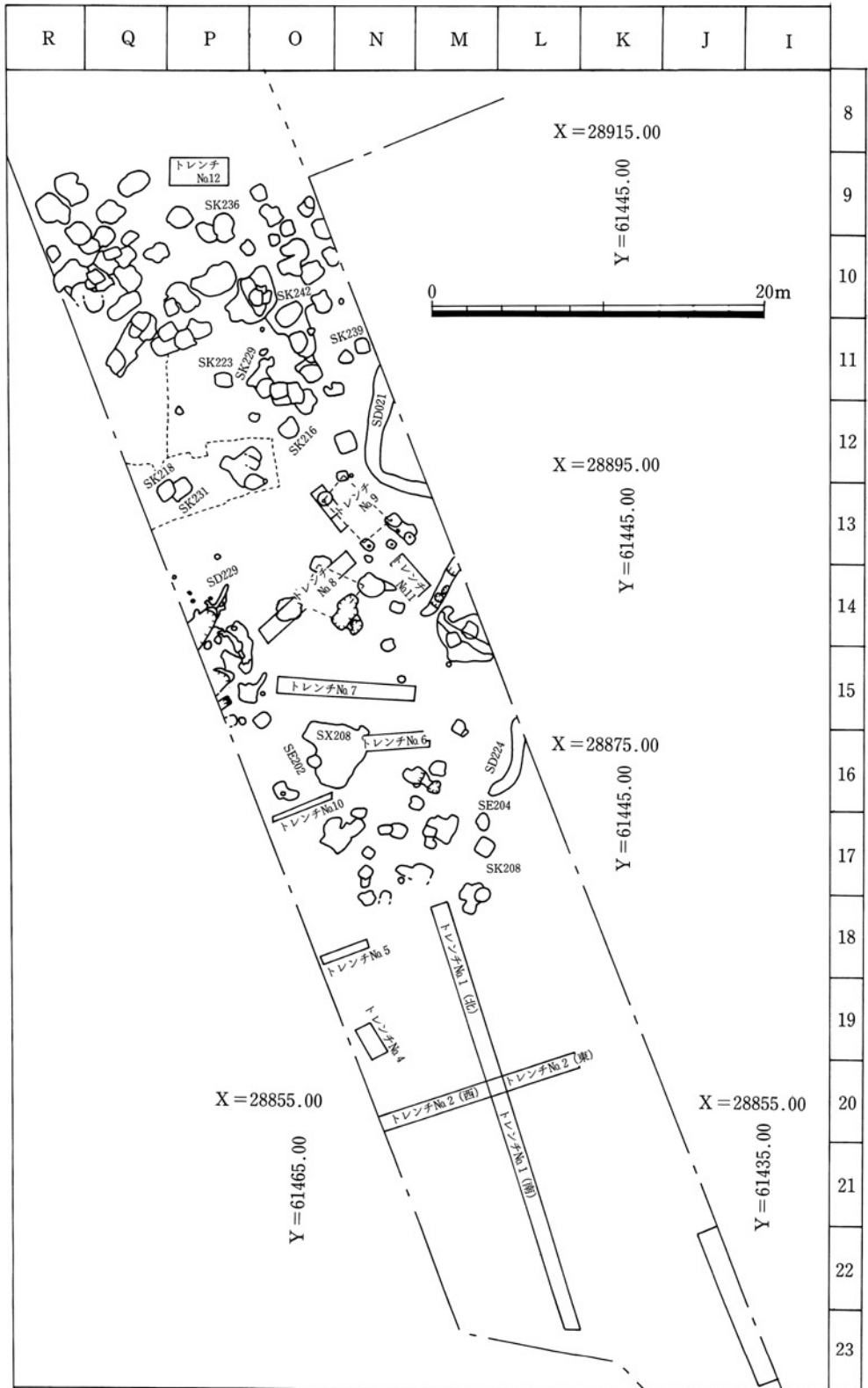


Fig. 116 牟田寄遺跡E 2区遺構配置図 (S = 1/400)

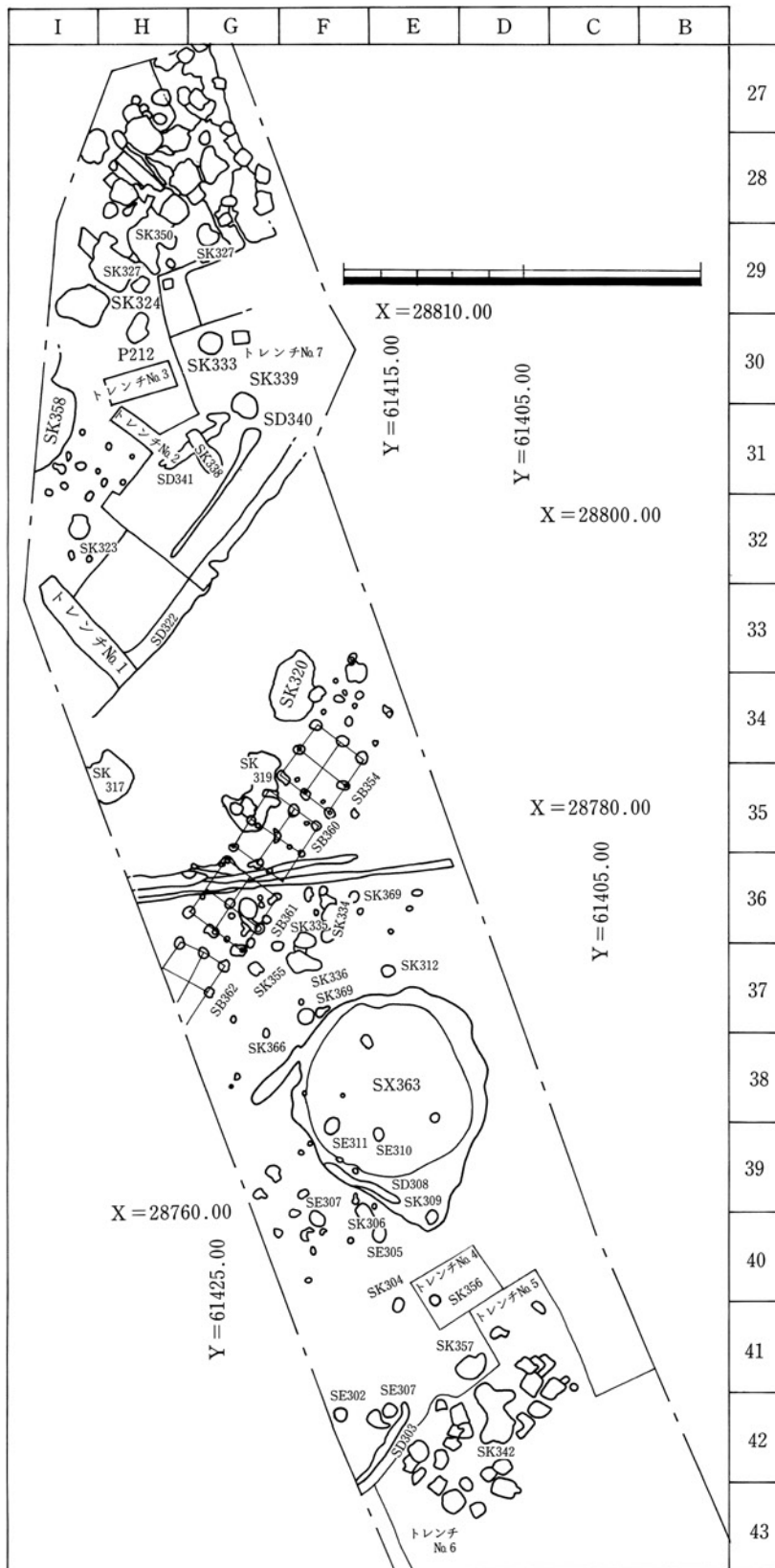
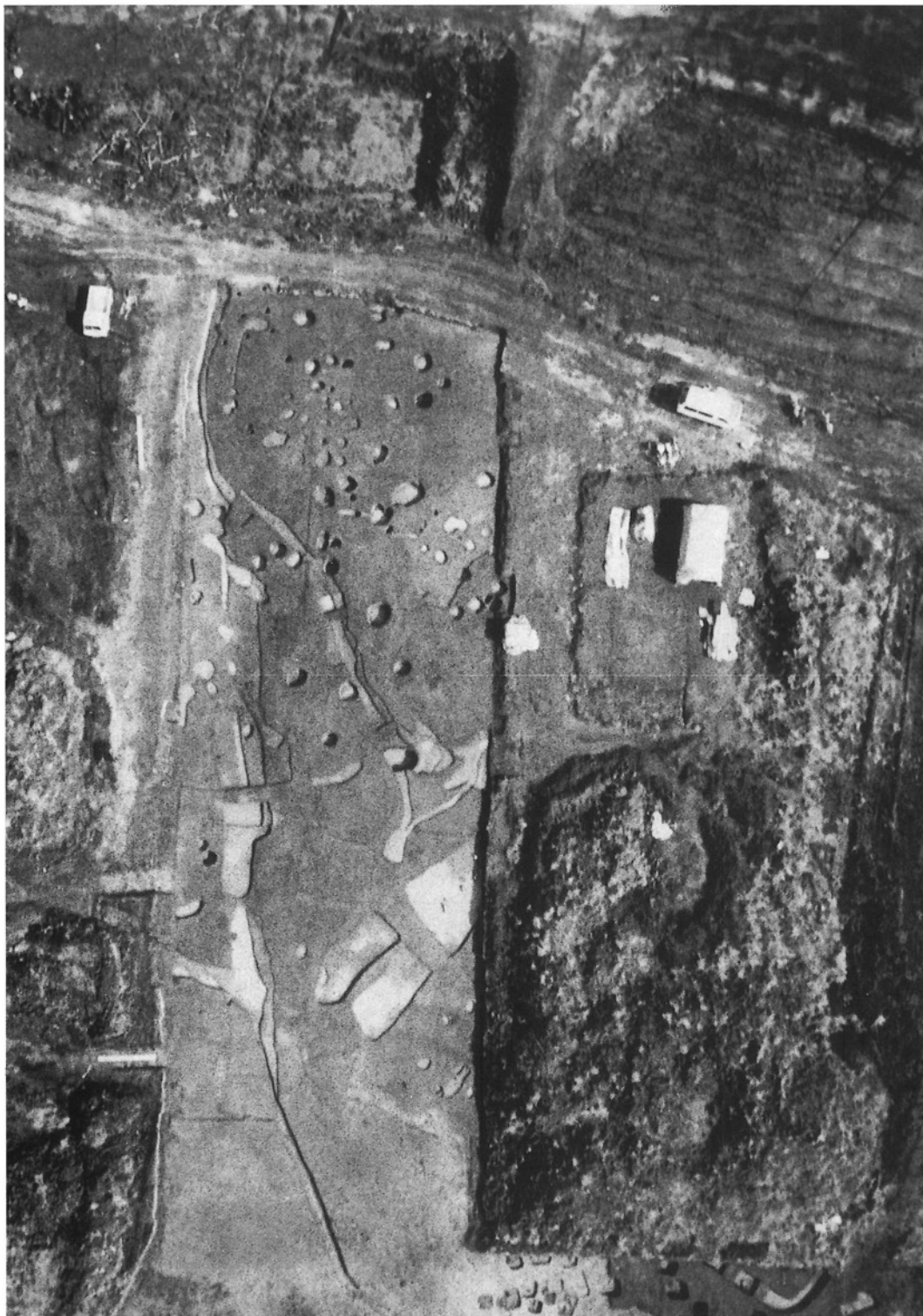


Fig. 117 牟田寄遺跡E区3区遺構配置図 (S = 1/400)

P L

遺物写真は挿図・目録と対照
できるようにした。

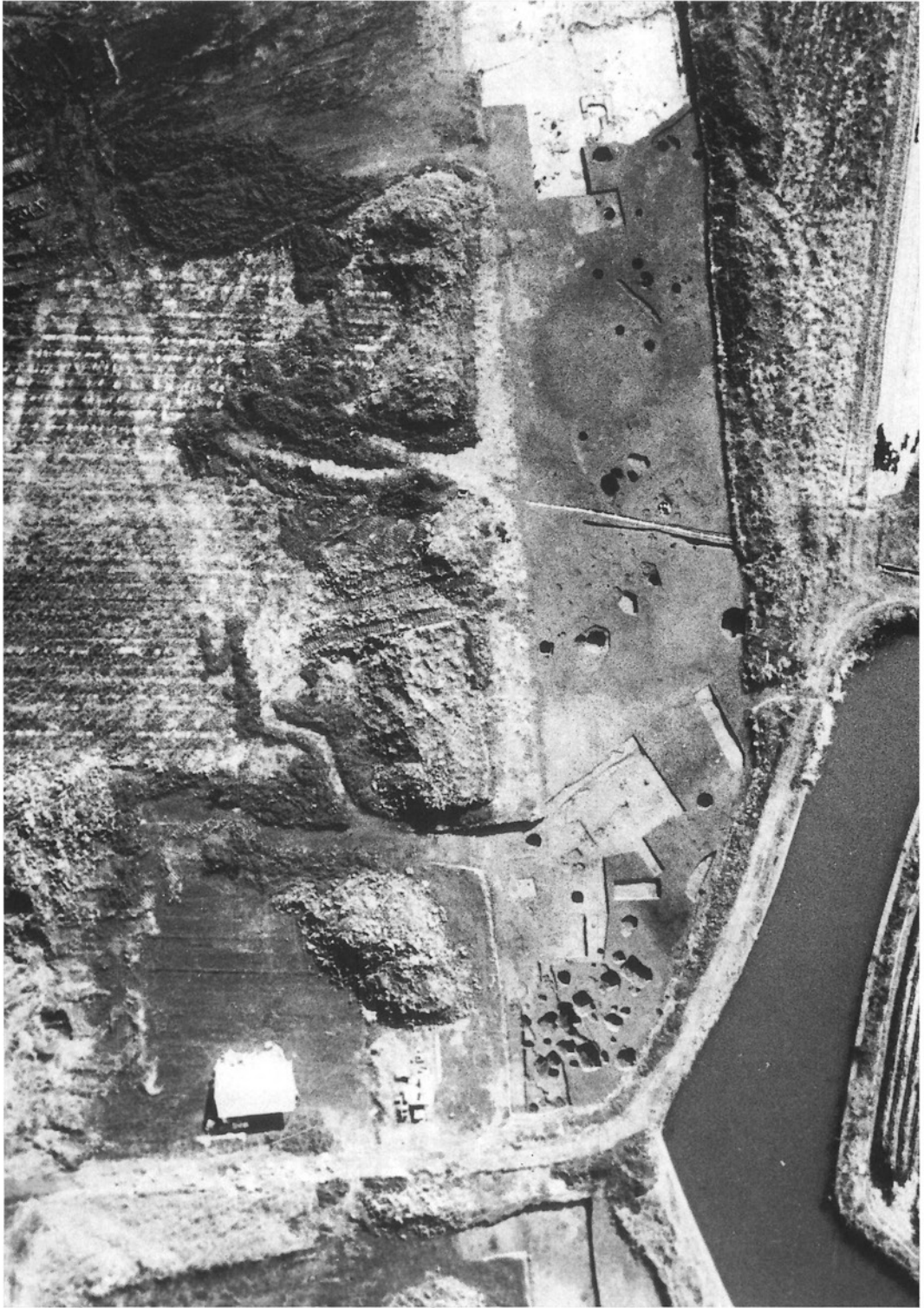
例 $\frac{121}{\text{目録番号}} - \frac{25}{\text{挿図内連番号}}$



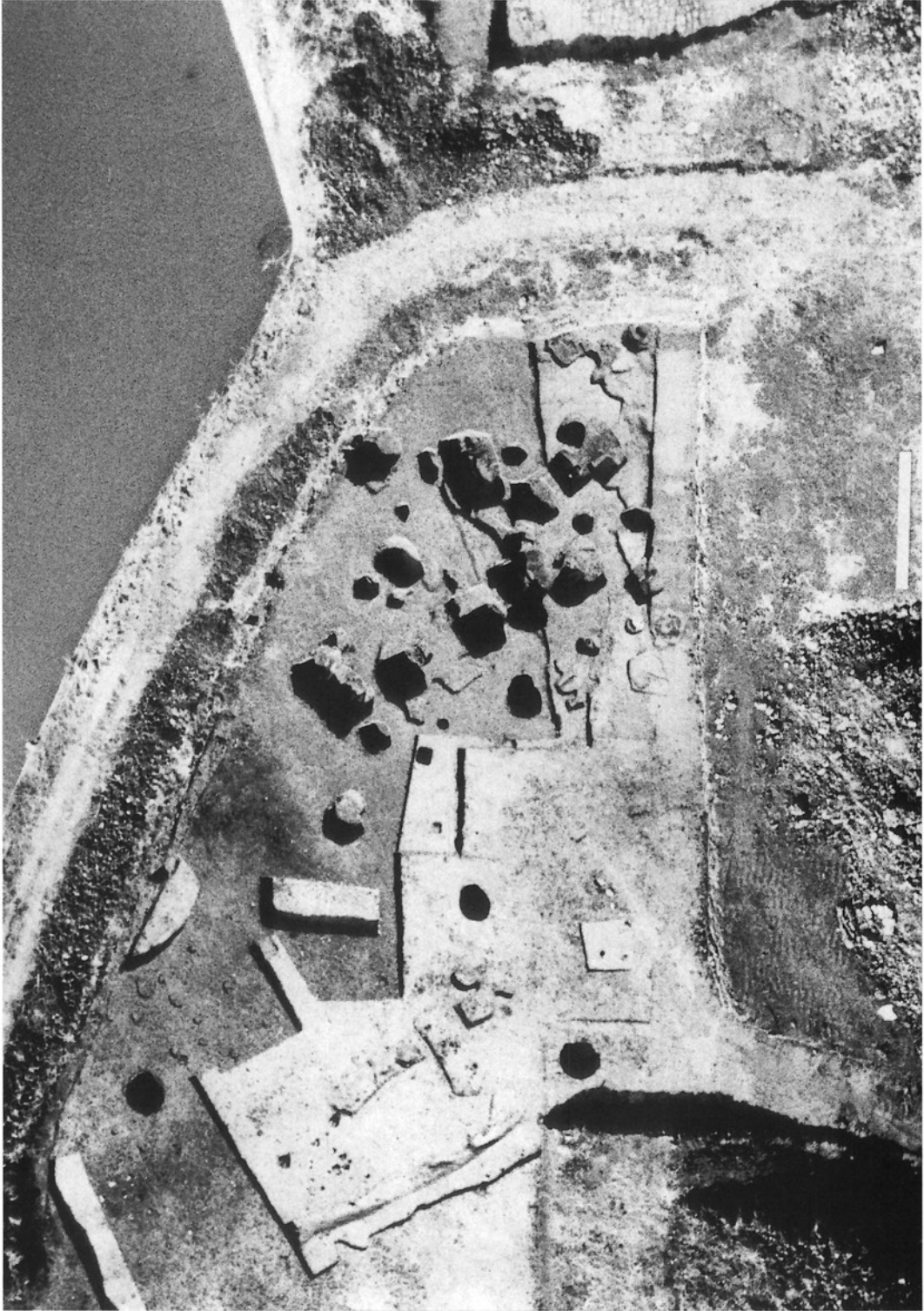
牟田寄遺跡E 1区全景



牟田寄遺跡E 2・3区全景



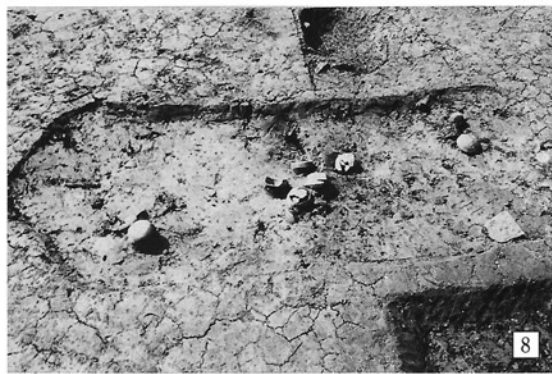
牟田寄遺跡E 3区全景



牟田寄遺跡E 3 区北端



1. SK001土壙
2. SK001拡大



1. E 1. S K 004 • 005

2. E 1. S K 017

3. E 3. S K 323

4. E 3. S K 313

5. E 3. S K 320

6. E 3. S K 334 (上層)

7. E 3. S K 334 (下層)

8. E 3. S K 338

1. E 1. S E016



2. E 1. S E016中層

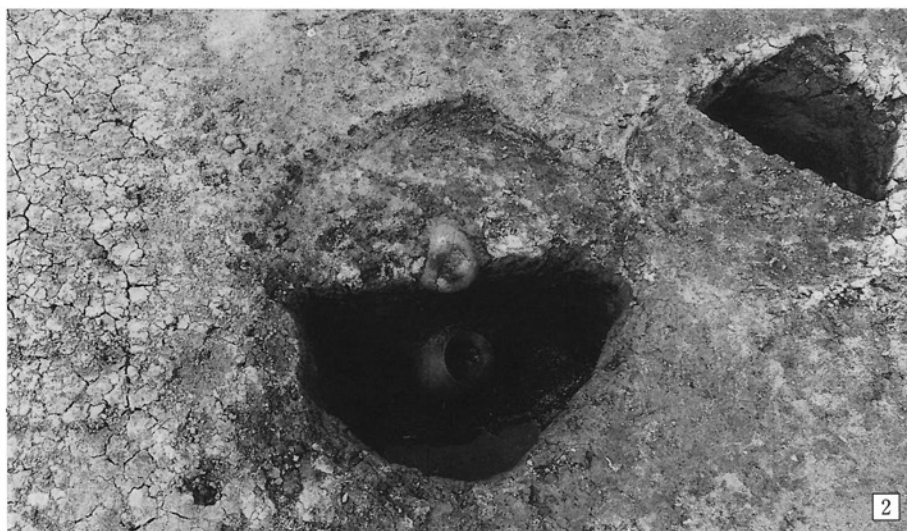


3. E 1. S E016下層





1. E 1. S E 021



2. E 1. S E 028

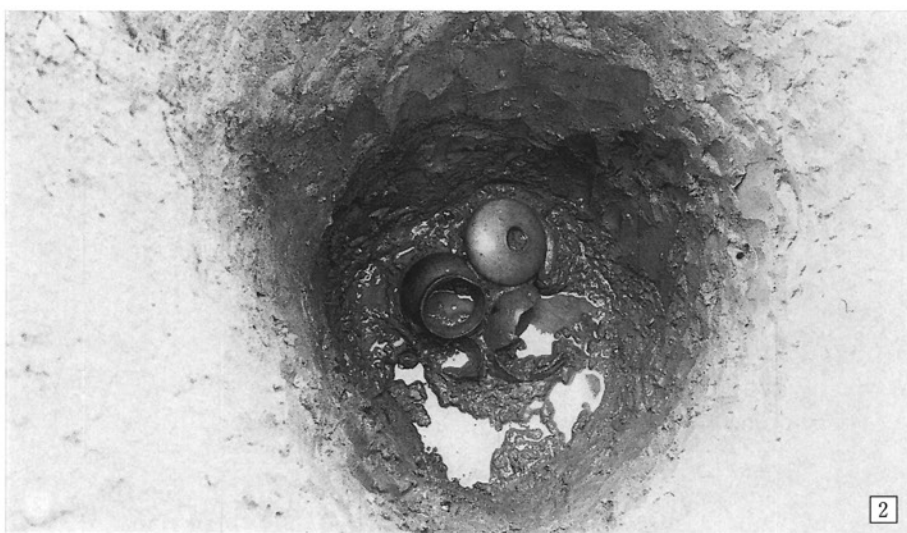


3. E 1. S E 028



1. E 1. S E 034

1



2. E 1. S E 034下層

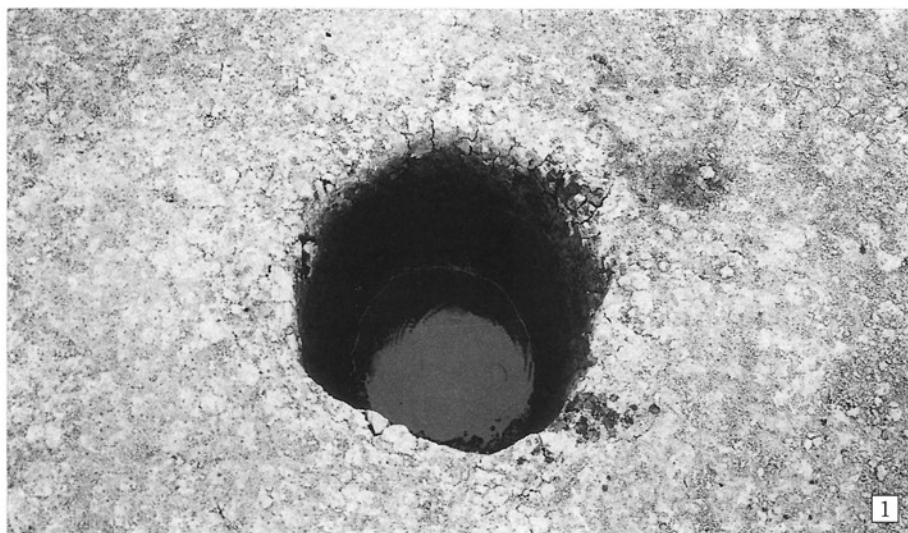
2



3. E 1. S E 034最下層

3

PL.10



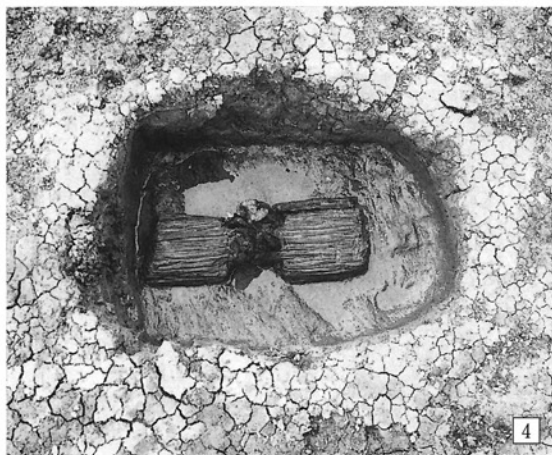
1. E 3. S E309



2. E 3. S E310

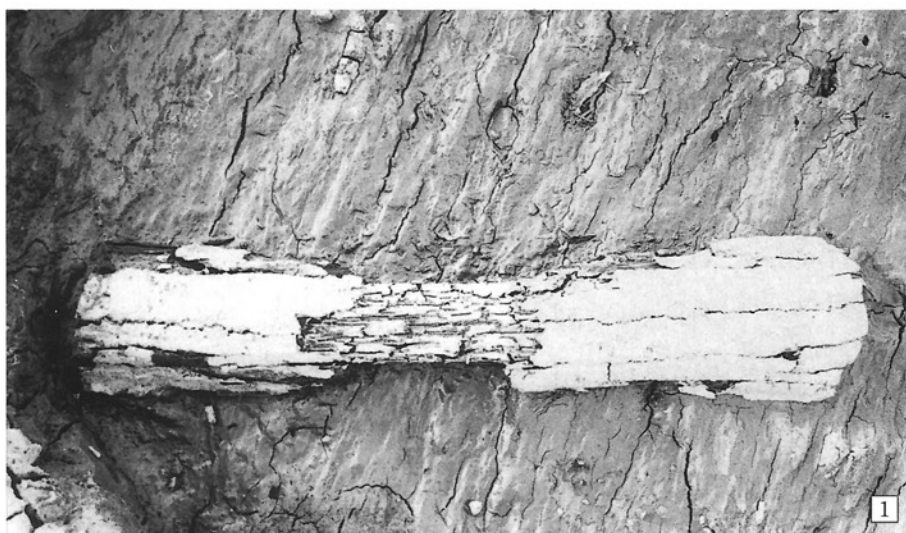


3. E 3. S E311



1. E 3. S X363
2. E 2 柱穴群
3. E 3 柱穴群

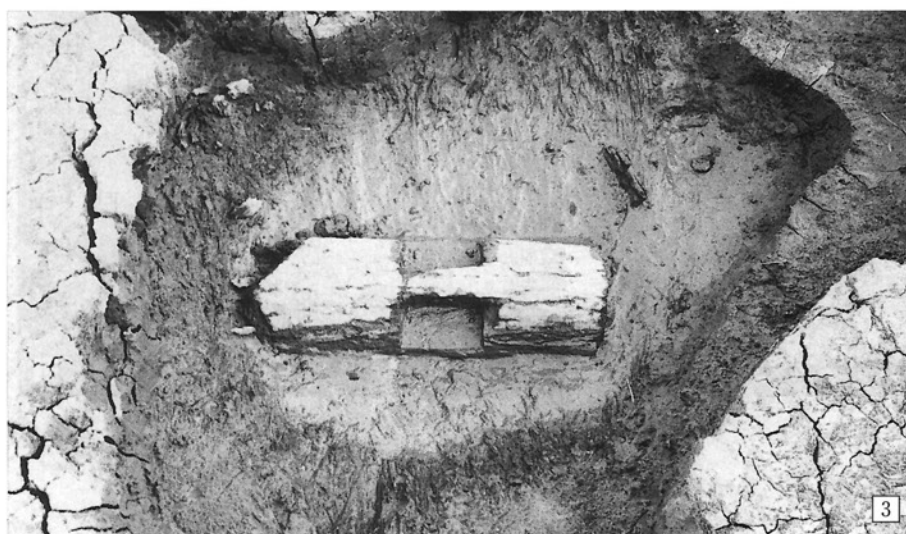
4. E 1. P-10
5. E 1. P-24



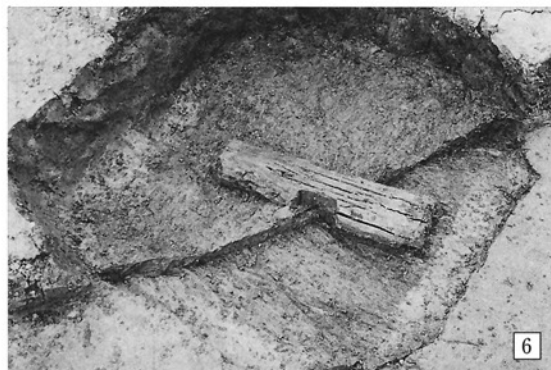
1. E 2. P-138



2. E 2. P-163



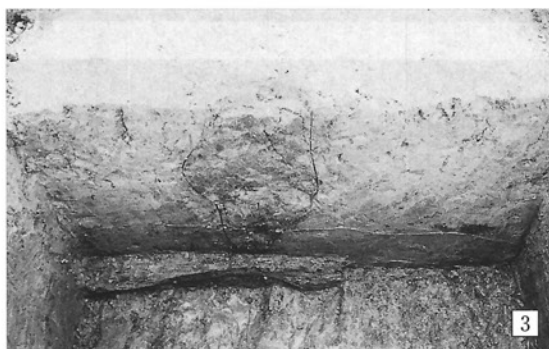
3. E 2. P-165



1. E 3. P-208•207-SK(P)347
 2. E 3. P-208
 3. E 3. P-208

4. E 3. P-208
 5. E 3. P-241•SK(P)345
 6. E 3. P-203

7. E 3. BK(P)347
 8. E 3. P-206



1. E 3. SK(P)343

4. E 3. SK(P)354

7. E 3. SK(P)329

2. 同上

5. SK(P)328

8. E 3. SK(P)331

3. E 3. SK(P)354セクション

6. E 3. SK(P)328



1



5



2



6



3



7



4



8

1. E 1. S B014

2. E 3. S B359・360

3. E 3. S B361

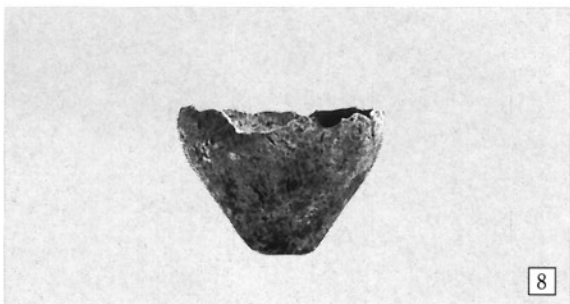
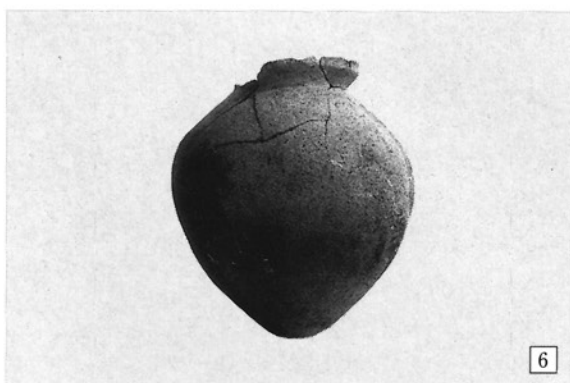
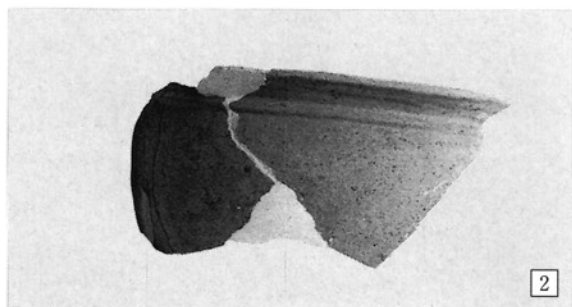
4. E 3. S B362

5. E 3 柱穴群

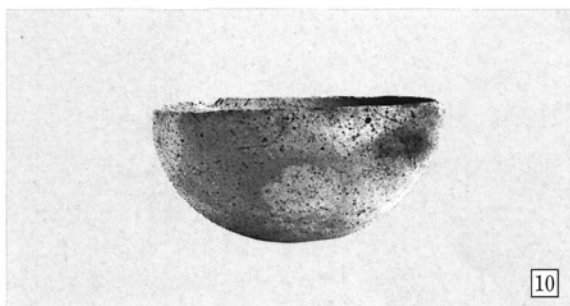
6. E 2 貝層

7. 貝層検査作業状況

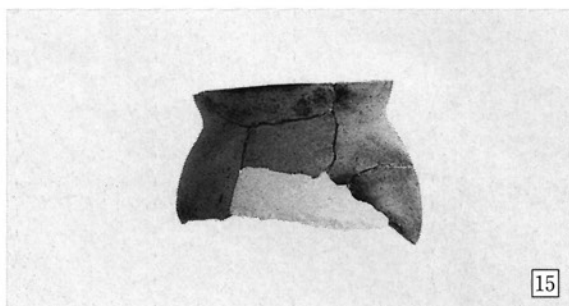
8. 同上



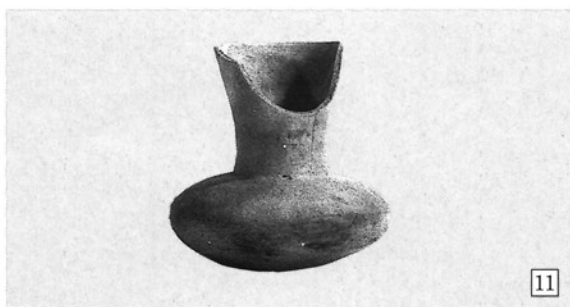
- | | |
|-------------|-------------|
| 1. (018-6) | 6. (366-31) |
| 2. (001-21) | 7. (365-32) |
| 3. (032-25) | 8. (393-36) |
| 4. (025-24) | 9. (401-44) |
| 5. (048-26) | |



10



15



11



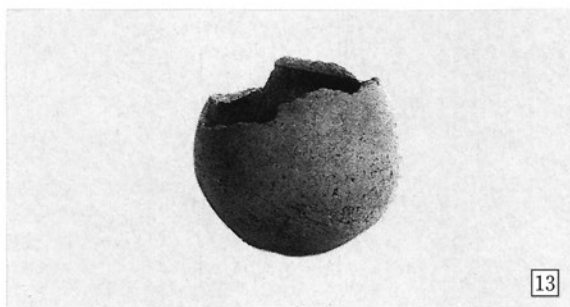
16



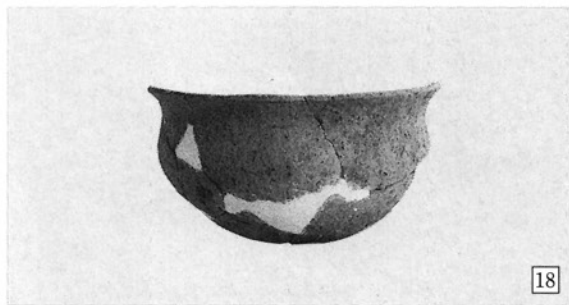
12



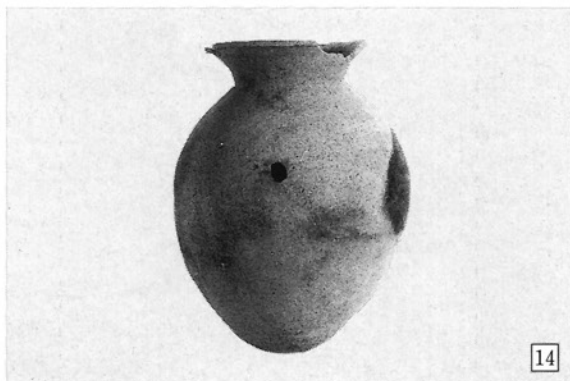
17



13

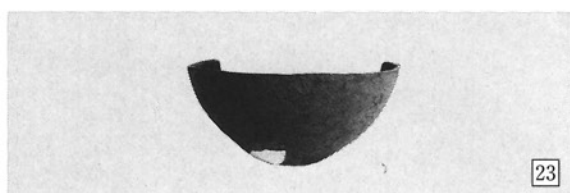
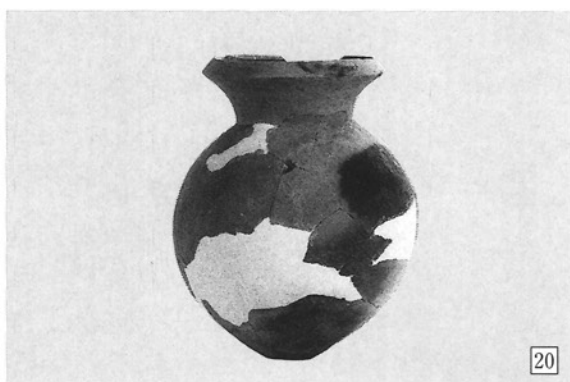
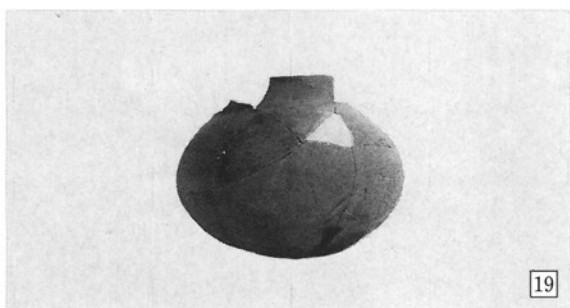


18

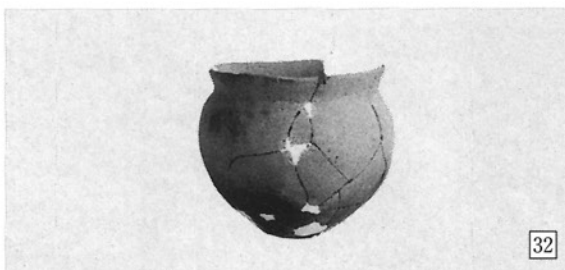
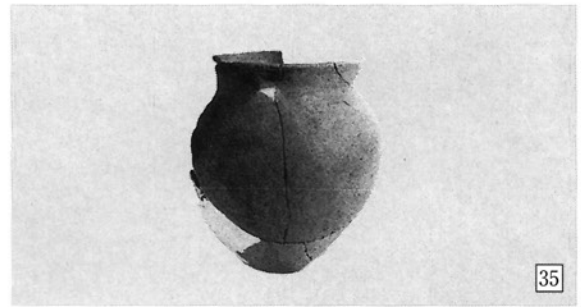
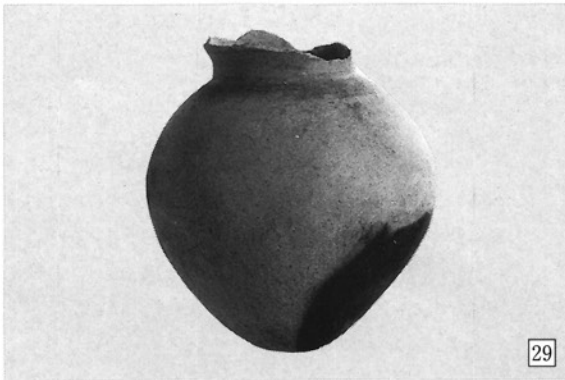
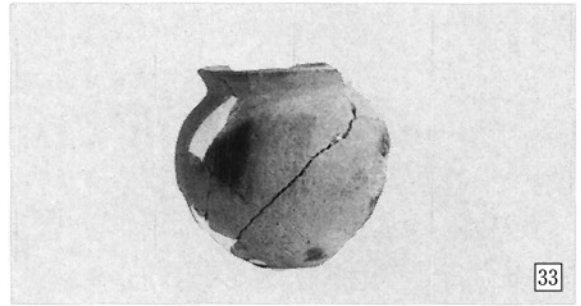
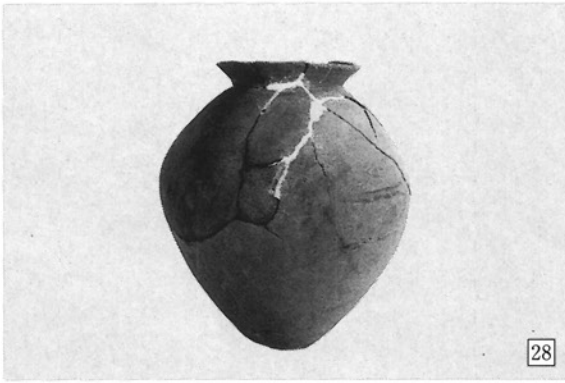


14

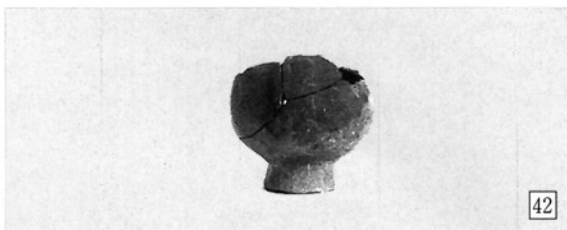
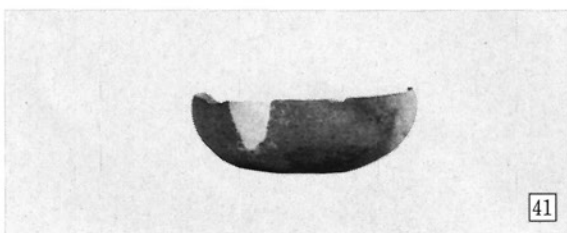
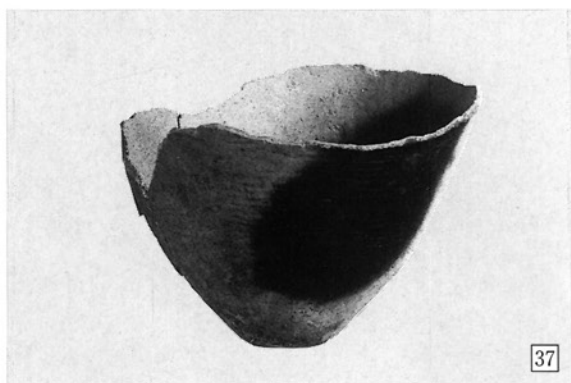
- | | |
|--------------|--------------|
| 10. (404-46) | 15. (035-70) |
| 11. (402-50) | 16. (044-73) |
| 12. (042-63) | 17. (040-74) |
| 13. (045-64) | 18. (059-79) |
| 14. (043-67) | |



- | | |
|--------------|--------------|
| 19. (058-80) | 24. (065-90) |
| 20. (057-81) | 25. (069-91) |
| 21. (055-82) | 26. (073-93) |
| 22. (052-83) | 27. (066-94) |
| 23. (074-87) | |



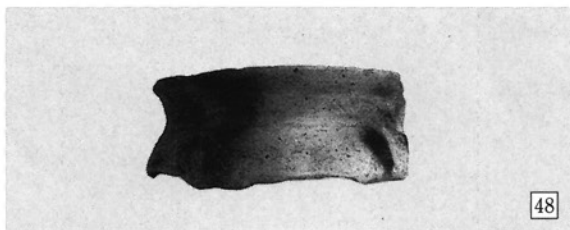
- | | |
|---------------|---------------|
| 28. (067-95) | 33. (081-102) |
| 29. (068-96) | 34. (082-104) |
| 30. (087-99) | 35. (085-105) |
| 31. (086-100) | 36. (083-106) |
| 32. (079-101) | |



- | | |
|---------------|---------------|
| 37. (080-107) | 42. (148-163) |
| 38. (127-112) | 43. (416-223) |
| 39. (126-113) | 44. (417-224) |
| 40. (132-152) | 45. (420-229) |
| 41. (156-161) | 46. (422-227) |



47



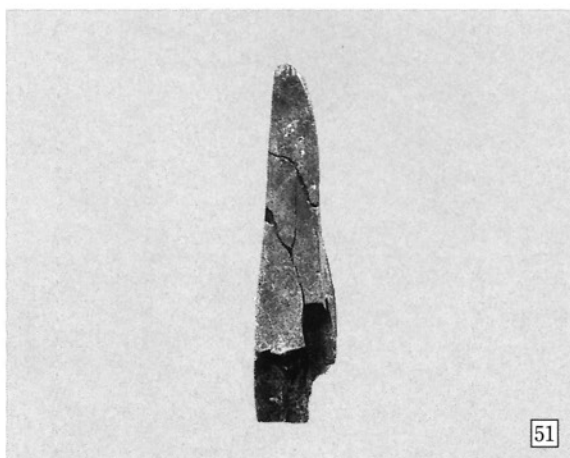
48



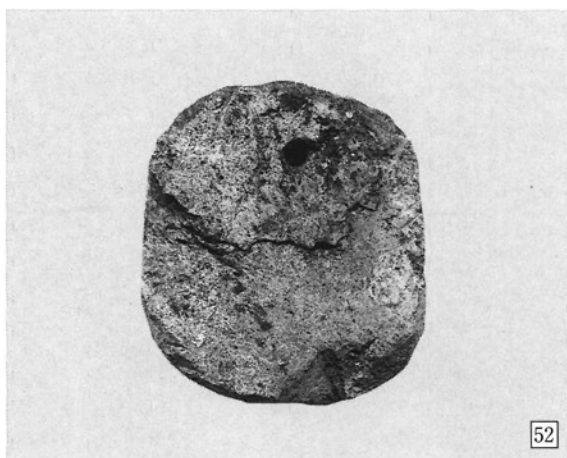
49



50



51



52



53



54



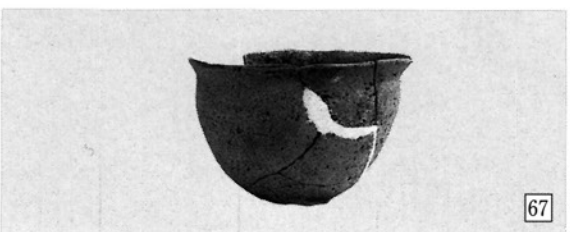
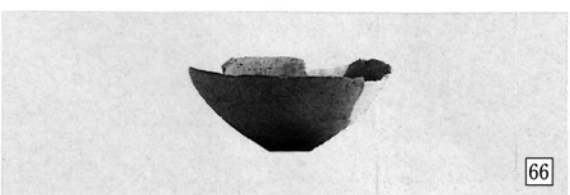
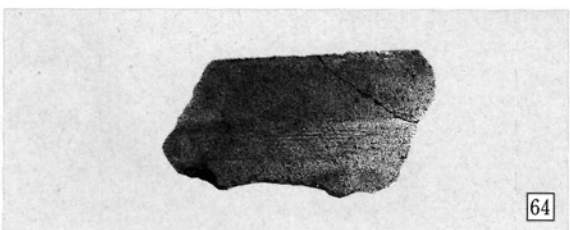
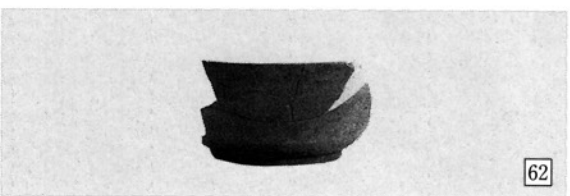
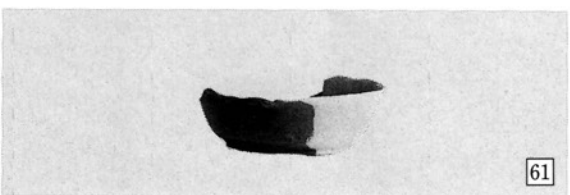
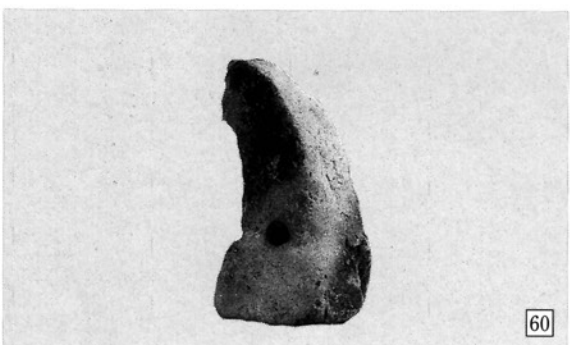
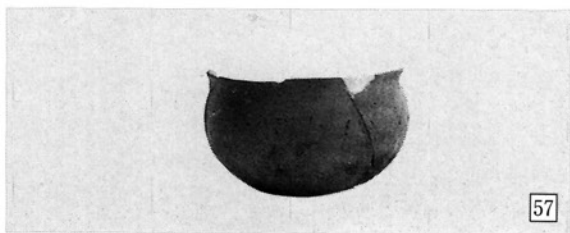
55



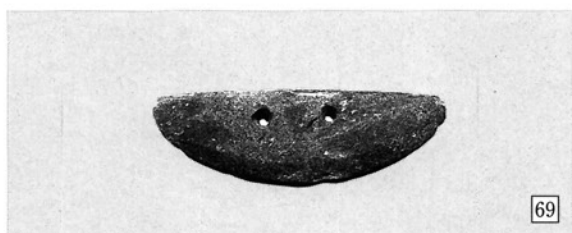
56

- 47. (423-230)
- 48. (378-259)
- 49. (380-226)
- 50. (384-264)
- 51. (90-275)

- 52. (90-276)
- 53. (197-298)
- 54. (191-299)
- 55. (198-300)
- 56. (168-308)



- | | |
|---------------|---------------|
| 57. (167-310) | 63. (159-327) |
| 58. (103-312) | 64. (225-351) |
| 59. (173-321) | 65. (263-353) |
| 60. (174-322) | 66. (260-354) |
| 61. (172-325) | 67. (264-355) |
| 62. (171-326) | 68. (230-378) |



69



70



71



72



73



74



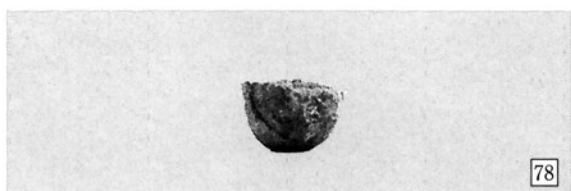
75



76



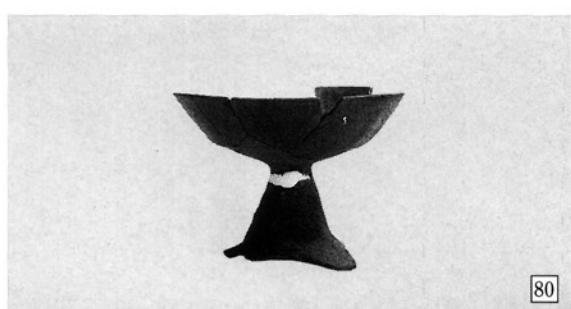
77



78



79

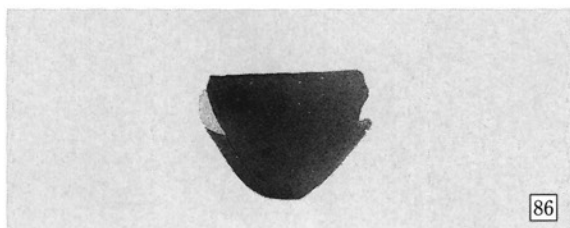
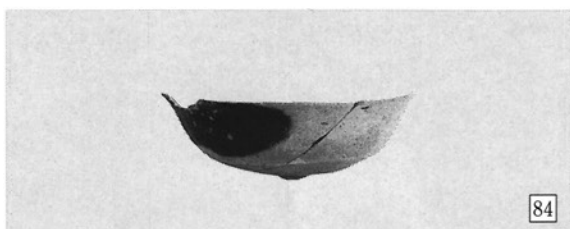
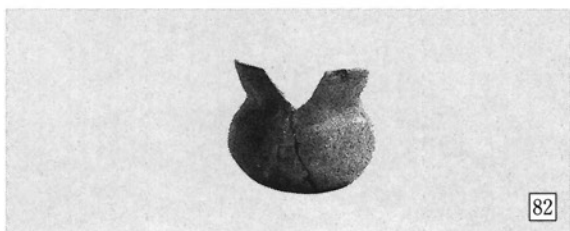


80



81

- | | |
|---------------|---------------|
| 69. (208-335) | 76. (244-371) |
| 70. (227-379) | 77. (241-373) |
| 71. (250-364) | 78. (242-374) |
| 72. (249-365) | 79. (231-380) |
| 73. (248-366) | 80. (228-382) |
| 74. (245-369) | 81. (232-385) |
| 75. (243-370) | |

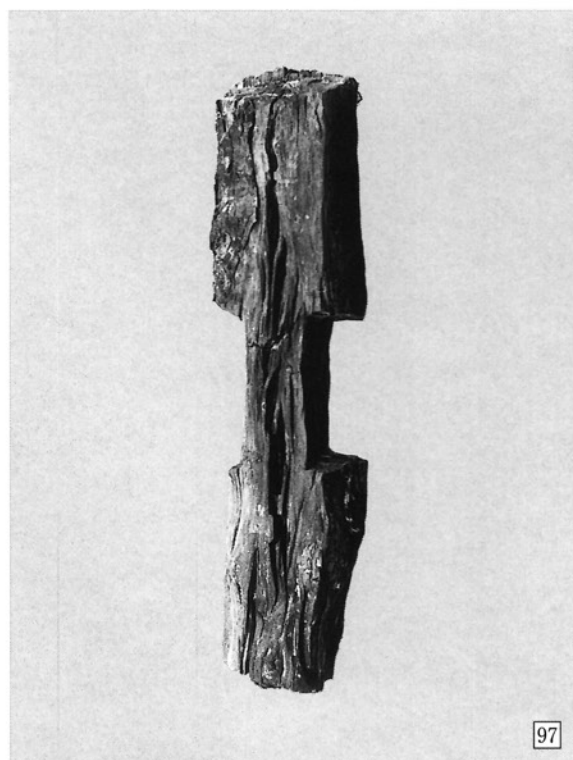


- 82. (322-393)
- 83. (106-407)
- 84. (283-418)
- 85. (296-426)
- 86. (279-429)
- 87. (同上)

- 88. (315-432)
- 89. (289-441)
- 90. (314-435)
- 91. (280-444)
- 92. (304-447)
- 93. (266-454)



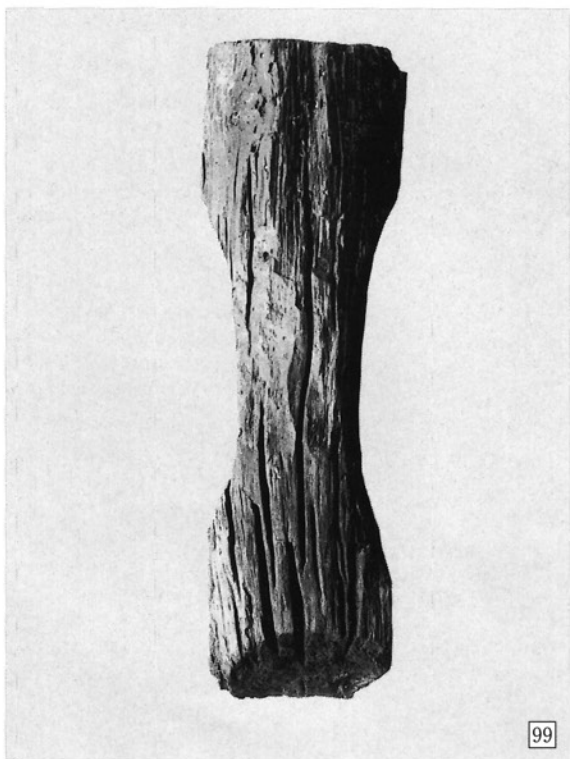
- 94. (275-456)
- 95. (302-458)
- 96. (278-459)



97. (517-120)



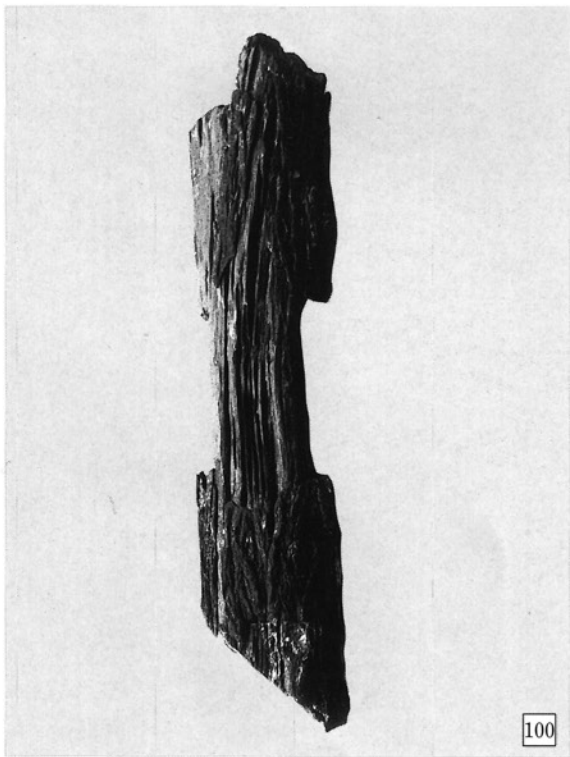
98. (520-121)



99



101



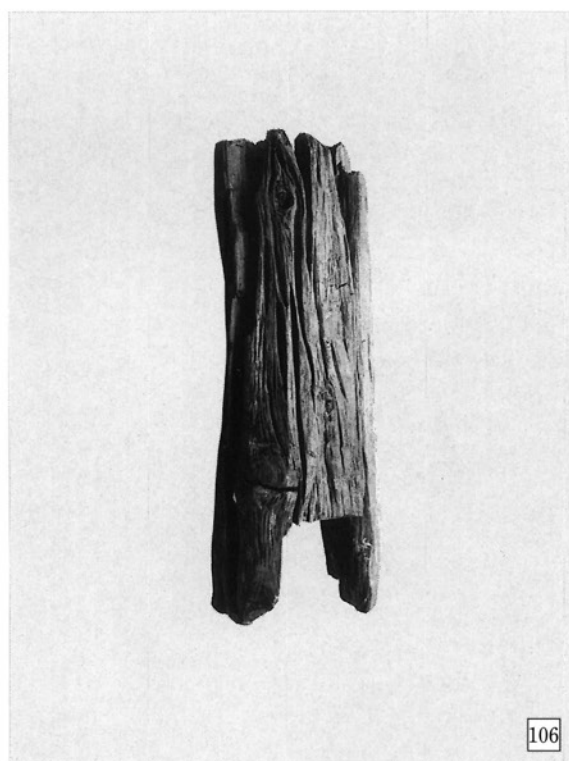
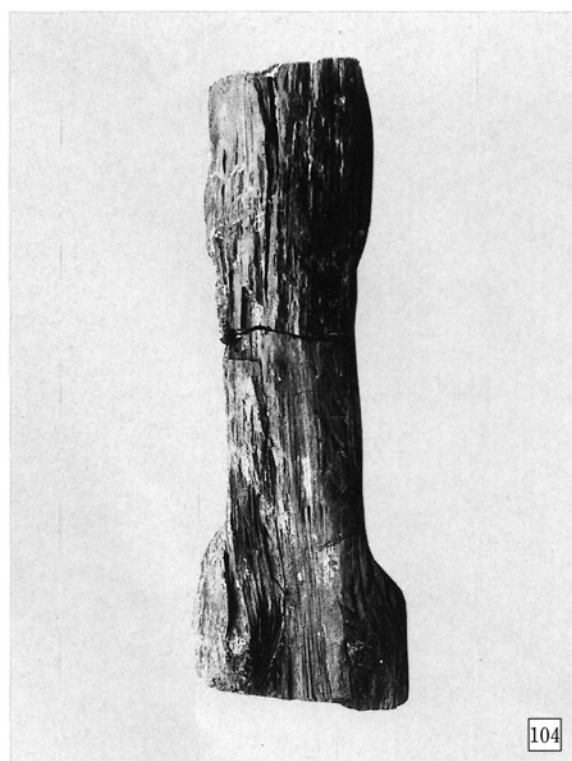
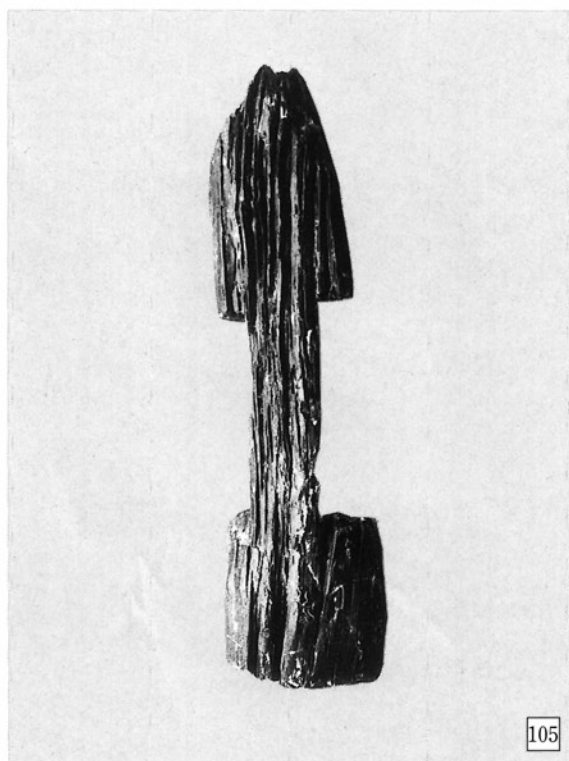
100



102

99. (521-122)
100. (508-124)

101. (509-125)
102. (513-126)



103. (514-127)
104. (515-128)

105. (516-129)
106. (518-131)

车田奇遺跡 (略号 MTY-E¹)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig. 番号	コンテナ番号	A・B
MTY-E ¹ -001	甕	弥生土器	弥生	不明	口径44.6推, 底径9.0, 器高16.5残	SK001	910806	1-001	6-21	101	A
MTY-E ¹ -002	甕	弥生土器	弥生	不明	口径30.0推, 底径—, 器高12.3残	SK001	910806	1-001	6-21	101	A
MTY-E ¹ -003	甕	弥生土器	弥生	不明	口径40.0推, 底径—, 器高9.5残	SK001	910806	2-003	—	101	B
MTY-E ¹ -004	甕	弥生土器	弥生	不明	口径34.0推, 底径—, 器高13.0残	SK001	910806	2-004	5-18	101	A
MTY-E ¹ -005	甕	弥生土器	弥生	不明	口径21.4推, 底径—, 器高11.0残	SK001	910806	3-005	5-14	101	A
MTY-E ¹ -006	鉢	弥生土器	弥生	不明	口径24.0推, 底径—, 器高8.0残	SK001	910806	3-006	4-9	101	A
MTY-E ¹ -007	甕	弥生土器	弥生	不明	口径27.4推, 底径—, 器高15.0残	SK001	910806	3-007	5-15	101	A
MTY-E ¹ -008	甕	弥生土器	弥生	不明	口径22.8推, 底径—, 器高11.2残	SK001	910806	4-008	5-13	101	A
MTY-E ¹ -009	甕	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径7.0, 器高5.3残	SK001	910806	4-009	5-20	101	A
MTY-E ¹ -010	甕	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径7.4, 器高9.6残	SK001	910806	4-010	5-19	101	A
MTY-E ¹ -011	甕	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径9.0推, 器高15.5残	SK001	910806	1-0126	6-22	101	A
MTY-E ¹ -012	壺	弥生土器	弥生	不明	口径17.3推, 底径—, 器高11.3残	SK001	910806	4-011	5-16	101	A
MTY-E ¹ -013	二重口緑壺	弥生土器	弥生	不明	口径14.8, 底径—, 器高81残	SK001	910806	5-012	4-10	101	A
MTY-E ¹ -014	台付鉢	弥生土器	弥生	40%	口径22.0推, 底径12.5, 器高17.5	SK001	910806	5-013	4-8	101	A
MTY-E ¹ -015	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径31.6推, 底径—, 器高8.0残	SK001	910806	5-014	4-1	102	A
MTY-E ¹ -016	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径32.0推, 底径—, 器高8.0残	SK001	910806	6-015	4-2	102	A
MTY-E ¹ -017	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径22.2推, 底径—, 器高4.4残	SK001	910806	6-016	4-3	102	A
MTY-E ¹ -018	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径17.2推, 器高16.0残	SK001	910806	6-017	4-6	102	A
MTY-E ¹ -019	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径15.8推, 器高13.0残	SK001	910806	7-018	4-5	102	A
MTY-E ¹ -020	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径—, 器高14.8残	SK001	910806	7-019	4-7	102	A

车田寄遺跡 (略号 MTY-E¹)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法 量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図 番号	報告書掲載 図番号	コンテナ 番号	A・B
MTY-E ¹ -021	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径15.0, 器高12.6残	SK001	910806	7-020	—	102	B
MTY-E ¹ -022	支脚	弥生土器	弥生	50%	受部径1.6推, 裾部径10.0推, 器高10.0	SK001	910806	7-021	5-12	102	A
MTY-E ¹ -023	支脚	弥生土器	弥生	50%	受部径2.2, 裾部径11.6推, 器高9.5	SK001	910806	8-022	5-11	102	A
MTY-E ¹ -024	くぼみ石	石製品	弥生	100%	最大長10.8, 最大幅6.6, 最大厚5.5	SK001	910806	8-023	6-23	102	A
MTY-E ¹ -025	すき先	銅製品	弥生	不明	最大長8.9, 最大幅5.0, 最大厚1.1	SK001	910806	8-024	6-24	102	A
MTY-E ¹ -026	甗	弥生土器	弥生	40%	口径22.6推, 底径—, 器高21.9残	SK003	910806	9-025	24-58	103	A
MTY-E ¹ -027	壺	弥生土器	弥生	不明	口径16.2推, 底径—, 器高16.4残	SE003	910806	9-026	24-59	103	A
MTY-E ¹ -028	壺	弥生土器	弥生	不明	口径20.8推, 底径—, 器高30.2残	SE003	910806	10-027	25-61	103	A
MTY-E ¹ -029	壺	弥生土器	弥生	70%	口径30.5, 底径5.4, 器高42.0	SE003	910905	11-028	25-62	104	A
MTY-E ¹ -030	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径25.0推, 底径—, 器高5.8残	SE003	910905	12-029	24-57	104	A
MTY-E ¹ -031	甗	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径—, 器高25.5残	SE003	910905	12-030	24-60	104	A
MTY-E ¹ -032	鉢	弥生土器	弥生	100%	口径21.1, 底径6.6, 器高11.8	SK004	910904	13-031	8-25	105	A
MTY-E ¹ -033	壺	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径8.0推, 器高3.2残	SK008	910912	13-032	—	105	B
MTY-E ¹ -034	砥石	石製品	弥生	100%	最大長10.9, 最大幅5.6, 最大厚4.9	SK008	910912	13-033	—	105	B
MTY-E ¹ -035	壺	弥生土器	弥生	不明	口径16.8推, 底径—, 器高14.0残	SE016	910609	14-034	28-70	105	A
MTY-E ¹ -036	甗	弥生土器	弥生	不明	口径26.0推, 底径—, 器高14.8残	SE016	910820	14-035	28-71	105	A
MTY-E ¹ -037	壺	弥生土器	弥生	不明	口径18.6推, 底径—, 器高7.7残	SE016	910820	14-036	28-68	105	A
MTY-E ¹ -038	壺	弥生土器	弥生	90%	口径12.1, 底径—, 器高19.4	SE016	910820	15-037	28-72	105	A
MTY-E ¹ -039	壺	弥生土器	弥生	不明	口径19.2推, 底径—, 器高6.7残	SE016	910820	15-038	28-69	105	A
MTY-E ¹ -040	坏	弥生土器	弥生	70%	口径12.1, 底径—, 器高4.7	SE016	910917	15-039	28-74	105	A

车田寄遺跡 (略号 MTY-E¹)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm、g)	遺構名	出土年月	実測図 番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ 番号	A・B
MTY-E ¹ -041	石包丁	石製品	弥生	不明	残存長5.0, 最大幅5.0, 最大厚0.7	SE016	910820	16-125	28-75	105	A
MTY-E ¹ -042	壺	弥生土器	弥生	90%	口径20.0, 底径—, 器高37.0	SE016, 4層	910918	17-040	27-67	106	A
MTY-E ¹ -043	壺	弥生土器	弥生	100%	口径13.5, 底径5.8, 器高24.8	SE016, 4層	910918	16-041	27-63	105	A
MTY-E ¹ -044	壺	弥生土器	弥生	70%	口径19.4推, 底径5.2, 器高35.3	SE016	910828	18-042	28-73	107	A
MTY-E ¹ -045	壺	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径—, 器高18.3残	SE016, 4層	910918	19-043	27-64	107	A
MTY-E ¹ -046	壺	弥生土器	弥生	不明	口径16.8, 底径—, 器高62残	SE016, 4層	910918	19-044	27-66	107	A
MTY-E ¹ -047	鉢	弥生土器	弥生	不明	口径10.2推, 底径—, 器高11.7残	SE016, 4層	910918	19-045	27-65	107	A
MTY-E ¹ -048	鉢	弥生土器	弥生	90%	口径17.9, 底径4.4, 器高7.9	SK017	910912	20-046	10-26	108	A
MTY-E ¹ -049	鉢	弥生土器	弥生	30%	口径20.2推, 底径—, 器高8.4	SK018	910917	20-047	12-27	108	A
MTY-E ¹ -050	甕	弥生土器	弥生	不明	口径17.2推, 底径—, 器高6.8残	SE021	910912	20-048	—	108	B
MTY-E ¹ -051	壺	弥生土器	弥生	不明	口径38.6推, 底径—, 器高4.6残	SE021, 1層	910912	20-049	30-77	108	A
MTY-E ¹ -052	甕	弥生土器	弥生	70%	口径19.4推, 底径3.7, 器高27.7	SE021, 3層	910912	21-050	31-83	108	A
MTY-E ¹ -053	甕	弥生土器	弥生	不明	口径25.2, 底径—, 器高21.1残	SE021, 3層	910912	21-051	31-85	108	A
MTY-E ¹ -054	甕	弥生土器	弥生	不明	口径17.1, 底径—, 器高21.6残	SE021, 3層	910912	22-052	31-84	109	A
MTY-E ¹ -055	甕	弥生土器	弥生	50%	口径15.3, 底径—, 器高21.0	SE021, 3層	910912	22-053	31-82	109	A
MTY-E ¹ -056	甕	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径4.0, 器高4.0残	SE021, 3層	910912	23-054	31-86	109	A
MTY-E ¹ -057	壺	弥生土器	弥生	90%	口径16.9, 底径—, 器高31.8	SE021, 3層	910912	23-055	30-81	109	A
MTY-E ¹ -058	壺	弥生土器	弥生	61%	口径13.0推, 底径—, 器高14.4	SE021, 3層	910912	24-056	30-80	110	A
MTY-E ¹ -059	鉢	弥生土器	弥生	50%	口径19.6推, 底径—, 器高10.1	SE021, 3層	910912	24-057	30-79	110	A
MTY-E ¹ -060	鉢	弥生土器	弥生	60%	口径13.1, 底径—, 器高5.5	SE021, 3層	910912	24-058	30-78	110	A

牟田寄遺跡 (略号 MTY-E¹)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法 量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図 番号	報告書掲載 Fig. 番号	コンテナ 番号	A・B
MTY-E ¹ -061	壺	須恵器	弥生 平安	不明	口径一, 底径14.0推, 器高7.8残	SD023	910913	25-059	90-274	110	A
MTY-E ¹ -062	砥石	石製品	弥生 平安	90%	最大長11.8, 最大幅2.6, 最大厚1.3	SD023	910913	25-060	90-275	110	A
MTY-E ¹ -063	石鏟	石製品	弥生 平安	90%	最大長10.3, 最大幅8.7, 早大厚1.5, 重さ280g	SD023	910913	25-061	90-276	110	A
MTY-E ¹ -064	鉢	弥生土器	弥生	不明	口径20.0推, 底径一, 器高12.0残	SK024	910829	26-062	—	110	B
MTY-E ¹ -065	甕	弥生土器	弥生	50%	口径7.6推, 底径丸底, 器高9.4	SE028	9108	27-63	33-90	110	A
MTY-E ¹ -066	壺	弥生土器	弥生	完存	口径16.3, 底径5.0, 器高26.6	SE028	9109	27-64	33-94	110	A
MTY-E ¹ -067	壺	弥生土器	弥生	90%	口径11.9推, 底径6.3, 器高29.4残	SE028	9109	28-65	34-95	111	A
MTY-E ¹ -068	壺	弥生土器	弥生	95%	口径一, 底径8.7, 器高33.7残	SE028	9109	29-66	34-96	112	A
MTY-E ¹ -069	長頸壺	弥生土器	弥生	完存	口径10.2, 底径丸底, 器高19.5	SE028	9109	30-67	33-91	111	A
MTY-E ¹ -070	長頸壺	弥生土器	弥生	完存	口径9.4, 底径丸底, 器高16.5	SE028	9109	30-68	33-92	111	A
MTY-E ¹ -071	甕	弥生土器	弥生	不明	口径34.8推, 底径一, 器高8.3残	SE028	9109	31-69	33-89	111	A
MTY-E ¹ -072	甕	弥生土器	弥生	不明	口径23.3推, 底径一, 器高7.6残	SE028	9109	31-70	33-88	111	A
MTY-E ¹ -073	壺	弥生土器	弥生	95	口径16.4推, 底径5.7, 器高19.0	SE028	9109	32-71	33-93	112	A
MTY-E ¹ -074	鉢	弥生土器	弥生	70%	口径16.2推, 底径3.4推, 器高8.1	SE028	9109	31-72	33-87	112	A
MTY-E ¹ -075	壺	弥生土器	弥生	不明	口径21.8推, 底径一, 器高8.1残	SD032	9109	32-73	64-197	112	A
MTY-E ¹ -076	壺 (底部)	弥生土器	弥生	不明	口径一, 底径5.8, 器高6.0残	SD032	9109	32-74	64-196	112	A
MTY-E ¹ -077	高坏 (坏部)	弥生土器	弥生	不明	口径30.0推, 底径一, 器高4.2残	SD032	9109	33-75	64-195	112	A
MTY-E ¹ -0078	器台	弥生土器	弥生	50%	受部径5.6推, 裾部径9.6諸, 器高6.9残	SD032	9109	33-76	64、194	112	A
MTY-E ¹ -079	壺	弥生土器	弥生	85%	口径17.3, 底径一, 器高16.6	SE034	9109	33-77	36-101	113	A
MTY-E ¹ -080	甕 (底部)	弥生土器	弥生	不明	口径一, 底径8.9, 器高26.1残	SE034	9109	34-78	37-107	113	A

牟田寄遺跡 (略号 MTY-E¹)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告記載F取番号	コンテナ番号	A・B
MTY-E ¹ -081	壺	弥生土器	弥生	90%	口径16.0㎝底径4.6推, 器高19.7	SE034	9109	35-79	36-102	113	A
MTY-E ¹ -082	壺	弥生土器	弥生	98%	口径13.0, 底径4.5, 器高16.9	SE034	9109	35-80	36-104	114	A
MTY-E ¹ -083	壺	弥生土器	弥生	90%	口径17.0推, 底径6.1, 器高34.5	SE034	9109	36-81	37-106	114	A
MTY-E ¹ -084	壺 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径15.1, 底径—, 器高3.6残	SE034	9109	36-82	36-103	113	A
MTY-E ¹ -085	壺	弥生土器	弥生	70%	口径16.6, 底径5.5, 器高22.2	SE034	9109	37-03	36-105	115	A
MTY-E ¹ -086	長頸壺	弥生土器	弥生	ほぼ完形	口径10.8, 底径丸底, 器高17.8	SE034	9109	37-84	36-100	114	A
MTY-E ¹ -087	台付長頸壺	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径—, 器高10.0残	SE034	9109	38-85	36-99	115	A
MTY-E ¹ -088	鉢	弥生土器	弥生	50%	口径7.5推, 底径丸底, 器高6.6残	SE034	9109	38-86	36-98	114	A
MTY-E ¹ -089	台付壺	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径16.6換, 器高8.3残	SE034	9109	38-87	36-97	114	A
MTY-E ¹ -090	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径31.6推, 底径—, 器高18.3残	SD041	9109	39-88	56-139	115	A
MTY-E ¹ -091	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径24.2推, 底径—, 器高8.5残	SD041	9109	39-89	56-140	115	A
MTY-E ¹ -092	壺	弥生土器	弥生	不明	口径20.0推, 底径—, 器高9.3残	SD041	9109	39-90	56-142	115	A
MTY-E ¹ -093	壺 (底部)	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径7.2推, 器高5.7残	SD041	9109	40-91	56-141	115	A
MTY-E ¹ -094	石包丁	石器	弥生	不明	長さ3.0残, 幅4.8残, 厚さ0.6断	SD041	9109	40-92	56-143	115	A
MTY-E ¹ -095	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径21.4推, 底径—, 器高11.2残	SD045	9111	40-93	65-200	115	A
MTY-E ¹ -096	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径22.0推, 底径—, 器高7.1残	SD045	9111	40-94	65-198	115	A
MTY-E ¹ -097	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径28.0推, 底径—, 器高8.4残	SD045	9111	41-95	65-199	115	A
98	甕 (底部)	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径6.6推, 器高8.5残	SD045	9111	41-96	65-201	116	A
MTY-E ¹ -099	器台	弥生土器	弥生	不明	受部径—, 裾部径14.2推, 器高17.8残	SD045	9111	41-97	—	116	B
MTY-E ¹ -100	甕 (底部)	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径7.0推, 器高4.5残	SD046	9109	41-98	58-145	116	A

车田奇遺跡 (略号 MTY-E¹・E²)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図 番号	報告書掲載 Fig. 番号	コンテナ 番号	A・B
MTY-E ¹ -101	甕 (底部)	弥生土器	弥生	不明	口径一, 底径7.4推, 器高4.3残		SD046	9109	42-99	57-144	116	A
MTY-E ¹ -102	壺	弥生土器	弥生	不明	口径14.0推, 底径一, 器高7.5残		SD046	9109	42-100	57-147	116	A
MTY-E ¹ -103	二重口縁壺	弥生土器	弥生	不明	口径20.0推, 底径一, 器高7.7残		SD046	9109	42-101	57-146	116	A
MTY-E ¹ -104	石包丁	石製品	弥生	不明	長さ4.5残, 幅7.0残, 厚さ0.7断		A地点	9108	42-102	67-221	116	A
MTY-E ¹ -105	石包丁	石製品	弥生	80%	長さ50, 幅9.2残, 厚さ0.8断		M-8	9109	42-103	67-220	116	A
MTY-E ¹ -106	土	須恵器	古墳	ほぼ 完存	口径9.6, 底径4.7, 器高10.3		貝層2区	9111	43-482	111-407	116	A
MTY-E ¹ -107	土製鏡	土製品	古墳	完存	長さ3.5, 幅3.7, 厚さ1.7		貝層2区	9111	44-483	111-405	116	A
MTY-E ¹ -108	土製鏡	土製品	古墳	完存	長さ3.8, 幅3.2, 厚さ1.7		貝層2区	9111	44-484	111-406	116	A
MTY-E ¹ -109	勾玉	土製品	古墳	完存	長さ2.3, 幅1.2, 厚さ1.1断		貝層2区	9111	44-485	111-404	116	A
MTY-E ¹ -110	勾玉	土製品	古墳	完存	長さ2.3, 幅1.5, 厚さ1.2断		貝層2区	9111	44-486	111-402	116	A
MTY-E ¹ -111	勾玉	土製品	古墳	ほぼ 完存	長さ2.4, 幅1.1, 厚さ1.0断		貝層2区	9111	44-487	111-403	116	A
MTY-E ¹ -112	玉	土製品	古墳	完存	長さ1.8, 幅1.6, 厚さ1.7断		貝層2区	9111	44-488	111-401	116	A
MTY-E ¹ -113	玉	土製品	古墳	完存	長さ1.5, 幅1.3, 厚さ1.5断		貝層2区	9111	44-489	111-400	116	A
MTY-E ¹ -114	玉	土製品	古墳	ほぼ 完存	長さ1.5, 幅1.2, 厚さ1.4断		貝層2区	9111	44-490	111-399	116	A
MTY-E ¹ -115	坏蓋	須恵器	古墳	不明	口径10.9推, 底径一, 器高4.0残		表深	9107	45-491	75-232	116	A
MTY-E ² -116	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径20.4推, 底径一, 器高5.4残		P-108	9111	46-104	54-137	117	A
MTY-E ² -117	甕 (底部)	弥生土器	弥生	不明	口径一, 底径9.0推, 器高5.0残		P-156	9111	46-105	54-136	117	A
MTY-E ² -118	鉢 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径28.0推, 底径一, 器高3.7残		P-156	9111	46-106	54-134	117	A
MTY-E ² -119	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径13.9推, 底径一, 器高2.9残		P-158	9111	46-107	54-133	117	A
MTY-E ² -120	土玉	土製品	弥生	完存	長さ1.8, 幅1.8, 厚さ1.7断		P-170	9111	46-108	54-135	117	A

车田奇1区, 2区遺跡 I種

车田寄遺跡 (略号 MTY-E²)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番	報告書掲載 Fig. 番号	コンテナ番号	A・B
MTY-E ² -121	坏	弥生土器	弥生	95%	口径110.一, 底径丸底, 器高4.8	P-175	9112	46-109	54-132	117	A
MTY-E ² -122	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径30.8推, 底径—, 器高9.0残	SK222	9110	47-110	—	117	B
MTY-E ² -123	巫 (底部)	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径6.0推, 器高9.6残	SK222	9110	47-111	—	117	B
MTY-E ² -124	器台	弥生土器	弥生	不明	受部径16.2推, 裾部径—, 器高12.7残	SK222	9110	47-112	—	117	B
MTY-E ² -125	砥石	石製品	弥生	ほぼ完存	長さ8.6, 幅4.6, 厚さ1.3断	SD229	9110	48-113	—	117	B
MTY-E ² -126	甕	弥生土器	弥生	完存	口径10.8, 底径丸底, 器高25.0	SE240	9111	48-114	39-113	118	A
MTY-E ² -127	壺	弥生土器	弥生	完存	口径12.1, 底径丸底, 器高10.3	SE240	9111	48-115	39-112	118	A
MTY-E ² -128	高坏 (坏部)	弥生土器	弥生	不明	口径37.2推, 底径—, 器高8.0残	SE240	9111	49-116	39-109	118	A
MTY-E ² -129	甕	弥生土器	弥生	不明	口径47.6推, 底径—, 器高8.5残	SE240	9112	50-117	39-108	118	A
MTY-E ² -130	甕	弥生土器	弥生	不明	口径22.6推, 底径—, 器高5.8残	SE240	9112	49-118	39-110	118	A
MTY-E ² -131	台付鉢	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径—, 器高5.7残	SE240	9112	49-119	39-111	118	A
MTY-E ² -132	甕	土師器	古墳	60%	口径25.6推, 底径5.4, 器高41.5	SD241	9112	51-120	59-152	118	A
MTY-E ² -133	甕	土師器	古墳	不明	口径18.0推, 底径—, 器高14.6残	SD241	9112	52-121	59-154	119	A
MTY-E ² -134	巫 (底部)	土師器	古墳	不明	口径—, 底径4.0, 器高13.3残	SD241	9112	52-122	59-155	119	A
MTY-E ² -135	甕	土師器	古墳	不明	口径20.1推, 底径—, 器高12.3残	SD241	9112	53-123	59-153	119	A
MTY-E ² -136	壺	土師器	古墳	不明	口径17.4推, 底径—, 器高12.5残	SD241	9112	53-124	60-173	119	A
MTY-E ² -137	甕 (口縁~肩部)	土師器	古墳	口30	口径15.7推, 底径—, 器高8.7残	4区 SD241	911216	54-127	60-171	120	A
MTY-E ² -138	甕 (口縁)	土師器	古墳	口25	口径20.3推, 底径—, 器高6.7残	4区 SD241	911216	54-128	60-168	120	A
MTY-E ² -139	甕 (口縁~肩部)	土師器	古墳	口50	口径16.8, 底径—, 器高6.8残	4区 SD241	911216	54-129	60-172	120	A
MTY-E ² -140	壺 (口縁~体部)	土師器	古墳	不明	口径15.4推, 底径—, 器高12.0残	4区 SD241	911216	55-130	60-167	120	A

车田奇遺跡 (略号 MTY-E2)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番	報告掲載 Fig. 番号	コンテナ番号	A・B
MTY-E ² -141	壺 (口縁)	土師器	古墳	不明	口径17.0推, 底径—, 器高6.1残	4区 SD241	911216	55-131	60-166	120	A
MTY-E ² -142	壺 (口縁~体部)	土師器	古墳	不明	口径14.5推, 底径—, 器高11.0残	4区 SD241	911216	55-132	60-170	120	A
MTY-E ² -143	壺 (口縁~体部)	土師器	古墳	不明	口径13.5推, 底径—, 器高9.9残	4区 SD241	911216	55-133	59-156	120	A
MTY-E ² -144	鉢 (口縁~底部)	土師器	古墳	30	口径10.3推, 底径—, 器高8.6残	4区 SD241	911216	56-134	59-158	120	A
MTY-E ² -145	壺 (口縁~体部)	土師器	古墳	30	口径14.0推, 底径—, 器高9.6残	4区 SD241	911216	56-135	59-157	120	A
MTY-E ² -146	二重口縁壺 (口縁)	土師器	古墳	口80	口径17.5, 底径—, 器高3.3残	4区 SD241	911216	56-136	59-159	120	A
MTY-E ² -147	二重口縁壺 (口縁)	土師器	古墳	不明	口径18.8推, 底径—, 器高7.2残	4区 SD241	911216	56-137	60-169	120	A
MTY-E ² -148	台付壺	土師器	古墳	60	口径—, 底径5.0, 器高9.1残	4区 SD241	911216	57-138	60-163	120	A
MTY-E ² -149	壺 (長頸壺の底部か?)	土師器	古墳	40	口径—, 底径九底, 器高5.2残	4区 SD241	911216	57-139	59-160	120	A
MTY-E ² -150	高坏 (脚部)	土師器	古墳	脚部のみのみ	口径—, 脚部径11.4, 器高6.2残	4区 SD241	911216	57-140	60-165	120	A
MTY-E ² -151	高坏 (脚部)	土師器	古墳	100% 脚部	口径—, 脚部径7.2推, 器高6.2残	4区 SD241	911216	57-141	60-164	120	A
MTY-E ² -152	高坏 (脚部)	弥生土器	弥生	25	口径—, 脚部径15.2推, 器高13.7残	4区 SD241	911216	57-142	58-151	120	A
MTY-E ² -153	高坏 (柱状部)	弥生土器	弥生	25	口径—, 底径—, 器高11.4残	4区 SD241	911216	58-143	58-150	120	A
MTY-E ² -154	器台 (破片)	弥生土器	弥生	不明	受部径—, 裾部径—, 器高11.3残	4区 SD241	911219	58-144	58-149	120	A
MTY-E ² -155	器台	弥生土器	弥生	不明	受部径—, 裾部径19.0推, 器高10.3残	4区 SD241	911219	58-145	58-148	120	A
MTY-E ² -156	坏	土師器	古墳	50	口径12.0, 底径九底, 器高4.7	4区 SD241	911216	58-146	59-161	120	A
MTY-E ² -157	壺	手捏土器	古墳	80	口径—, 底径3.8, 器高3.8残	4区 SD241	911216	58-147	60-162	120	A
MTY-E ² -158	坏	土師器	古墳	20	口径6.8推, 底径—, 器高4.2	No1 トレンチ南	910920	60-150	103-314	120	A
MTY-E ² -159	坏	土師器	古墳	80	口径13.1, 底径7.8, 器高3.3	No1 トレンチ南	910920	60-150	103-314	120	A
MTYE ² -160	甕 (口縁部~肩部)	土師器	古墳	口30	口径堆18.8, 底径—器高残6.7	No1 トレンチ南	910920	60-150	103-314	120	A

牟田寄遺跡 (略号 MTY-E²)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図 番号	報告書掲載 F図番号	コンテナ 番号	A・B
MTY-E ² -161	甕	土師器	古墳	25	口径17.0推, 底径—, 器高8.0残	No.1トレンチ 南	910920	60-151	103-313	120	A
MTY-E ² -162	甕	土師器	古墳	25	口径17.2推, 底径—, 器高6.7残	No.1トレンチ 南	910920	60-152	103-317	120	A
MTY-E ² -163	甕	土師器	古墳	20	口径17.0推, 底径—, 器高6.8残	No.1トレンチ 南	910920	60-153	103-316	120	A
MTY-E ² -164	坏蓋	須恵器	古墳	25	口径11.8推, 天井径—, 器高6.3	No.1トレンチ 南	910920	61-154	103-320	120	A
MTY-E ² -165	支脚	土製品	古墳	50	長さ10.2残, 幅7.0, 厚み7.4	No.1トレンチ 南	910920	61-155	104-323	120	A
MTY-E ² -166	壺 (口縁部)	土師器	古墳	25	口径16.5推, 底径—, 器高7.9残	No.1トレンチ 南上層	910920	62-156	103-311	120	A
MTY-E ² -167	鉢	土師器	古墳	50	口径12.5推, 底径丸底, 器高8.2	No.1トレンチ 南上層	910920	62-157	103-310	120	A
MTY-E ² -168	鉢	土師器	古墳	50	口径14.0推, 底径丸底, 器高6.7	No.1トレンチ 南上層	910920	62-158	103-307	120	A
MTY-E ² -169	鉢	手捏土器	古墳	90	口径5.4, 底径丸底, 器高5.4	No.1トレンチ 南上層	910920	62-173	103-305	120	A
MTY-E ² -170	器台	手捏土器	古墳	80	受部径—, 裾部径—, 器高4.9残	No.1トレンチ 南上層	910920	62-174	103-304	120	A
MTY-E ² -171	坏	須恵器	奈良	20	口径15.3推, 高台径10.0推, 器高6.3	No.1トレンチ 南上層	910920	63-175	105-326	120	A
MTY-E ² -172	坏	須恵器	奈良	50	口径11.5, 高台径7.5, 器高3.5	No.1トレンチ 南上層	910920	63-176	105-325	120	A
MTY-E ² -173	支脚	土製品	奈良	90	最長17.2, 最大幅10.5, 厚み9.2	No.1トレンチ 南上層	910920	64-177	104-321	120	A
MTY-E ² -174	支脚	土製品	奈良	80	長さ17.5, 幅10.5, 厚み10.1	No.1トレンチ 南上層	910920	65-178	104-322	120	A
MTY-E ² -175	砥石	石製品	奈良	不明	長さ11.7残, 幅4.3, 厚み3.2	No.1トレンチ 南上層	910920	66-179	—	120	B
MTY-E ² -176	勾玉	石製品	奈良	完存	最大長2.3, 最大幅1.1, 最大厚0.5, 重さ2g	No.1トレンチ 南上層	910920	67-180	103-312	120	A
MTY-E ² -177	装飾品	骨製品	不明	完存	最大幅3.2, 最大厚0.4, 重量2g	No.1トレンチ 南貝層	910920	67-181	—	120	B
MTY-E ² -178	鉢	土師器	古墳	25	口径13.0推, 底径—, 器高5.7残	No.1トレンチ 南第2貝層	910921	68-182	103-309	120	A
MTY-E ² -179	鉢	須恵器	奈良	不明	口径—, 高台径11.0推, 器高3.1残	No.1トレンチ 南1層	911205	69-183	105-324	120	A
MTY-E ² -180	土製鏡	土製品	古墳	80	長さ3.2, 幅2.9推, 厚さ0.95	No.1トレンチ 南1層	911205	69-184	103-303	120	A

牟田寄遺跡 (略号 MTY-E²)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 F図番号	コンテナ 番号	A・B
MTY-E ² -181	小型丸底埴	手捏土器	古墳	体80	口径一, 底径丸底, 器高4.6残	No1トレンチ 南5層	911205	70-185	103-306	120	A
MTY-E ² -182	甕	弥生土器	弥生	不明	口径12.6推, 底径一, 器高12.0残	No1トレンチ 南6層A	911206	70-186	102-292	120	A
MTY-E ² -183	高坏	土師器	古墳	脚50	口径一, 脚部径16.0推, 器高8.7残	No1トレンチ 南6層A	911209	70-187	—	120	A
MTY-E ² -184	甕	土師器	古墳	口25	口径17.4推, 底径一, 器高9.2残	No1トレンチ 南1層	910924	71-159	103-315	120	A
MTY-E ² -185	甕	土師器	古墳	口20	口径18.4推, 底径一, 器高6.5残	No1トレンチ 南2層	910924	71-160	103-319	120	A
MTY-E ² -186	甕	土師器	古墳	口20	口径17.7推, 底径一, 器高6.0残	No1トレンチ 南2層	910924	71-161	103-318	120	A
MTY-E ² -187	壺	弥生土器	弥生	口30	口径14.4推, 底径一, 器高4.7残	No1トレンチ 南2層	910924	71-162	102-294	120	A
MTY-E ² -188	坏	弥生土器	弥生	25	口径11.1推, 底径丸径, 器高5.3	No1トレンチ 南2層	910924	72-163	102-297	120	A
MTY-E ² -189	器台	弥生土器	弥生	ほぼ 完存	受部径6.5外, 裾部径10.3, 器高10.9	No1トレンチ 南2層	910924	72-164	102-300	120	A
MTY-E ² -190	甕	弥生土器	弥生	不明	口径26.0推, 底径一, 器高7.8残	No1トレンチ 北4・5層	910926	73-165	102-290	121	A
MTY-E ² -191	鉢	弥生土器	弥生	90	口径14.3, 底径2.5, 器高10.6	No1トレンチ 北4・5層	910926	73-166	102-299	121	A
MTY-E ² -192	台付甕	弥生土器	弥生	台100	口径一, 台部径15.3, 器高7.8残	No1トレンチ 4・5層	910926	73-167	102-293	121	A
MTY-E ² -193	石包丁	石製品	弥生	50	長さ5.4残, 幅4.5, 厚0.6, 重19g	No1トレンチ 北4・5層	910926	73-168	102-301	121	A
MTY-E ² -194	甕	弥生土器	弥生	不明	口径24.3推, 底径一, 器高6.0残	No1トレンチ 南鎌周辺	910924	74-169	102-291	121	A
MTY-E ² -195	二重口縁壺	弥生土器	弥生	不明	口径13.2推, 底径一, 器高8.3残	No1トレンチ 南鎌周辺	910924	74-170	102-295	121	A
MTY-E ² -196	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径30.2推, 底径一, 器高3.8残	No1トレンチ 南鎌周辺	910924	74-171	102-296	121	A
MTY-E ² -197	高坏	弥生土器	弥生	脚部 60	口径一, 脚部径19, 器高19.6残	No1トレンチ 南鎌周辺	910924	75-172	102-298	121	A
MTY-E ² -198	甕 (底部)	弥生土器	弥生	不明	口径一, 底径7.7, 器高5.1残	No2トレンチ 西部	910920	76-188	—	121	A
MTY-E ² -199	甕	土師器	古墳	口30	口径14.0推, 底径一, 器高6.8残	No2トレンチ 西部	910920	76-189	102-346	121	A
MTY-E ² -200	鉢	土師器	古墳	40	口径17.4推 丸底, 器高6.3残	No2トレンチ 西部	910920	76-190	102-341	121	A

车田寄遺跡 (略号 MTY-E²)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	集測図番号	報告書掲載F図番号	コンテナ番号	A・B
MTY-E ² -201	坏	土師器	古墳	40	口径15.4推, 丸底, 器高5.0残	No2トレンチ西部	910920	76-191	102-340	121	A
MTY-E ² -202	坏	須恵器	古墳	不明	口径—, 底径8.8, 器高1.8残	No2トレンチ西部下層	910920	77-192	—	121	B
MTY-E ² -203	甕 (底部)	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径3.7, 器高6.4残	No2トレンチ西1層	910925	78-193	—	121	B
MTY-E ² -204	甕 (底部)	弥生土器	弥生	底80	口径—, 底径7.1, 器高4.5残	No2トレンチ西1層	910925	78-194	106-331	121	A
MTY-E ² -205	高坏	須恵器	古墳	不明	口径—, 脚部径—, 器高5.3残	No2トレンチ西上層	910920	79-195	102-349	121	A
MTY-E ² -206	坏	須恵器	奈良	不明	口径14.4推, 高台径8.8, 器高5.8	No2トレンチ西上層	910920	79-196	102-350	121	A
MTY-E ² -207	坏身	須恵器	古墳	30	口径10.0推, 底径—, 器高5.2	No2トレンチ西上層	910920	79-197	102-348	121	A
MTY-E ² -208	石包丁	石製品		完形	長さ12.5, 幅4.0, 厚さ0.7, 重さ55	No2トレンチ西2層	910924	80-195	106-335	121	A
MTY-E ² -209	甕 (口)	弥生土器	弥生	不明	口径16.8推, 底径—, 器高3.7残	No2トレンチ西8層	910924	81-199	106-330	121	A
MTY-E ² -210	壺	弥生土器	弥生	不明	口径26.6推, 底径—, 器高5.4残層	No2トレンチ西8層	910924	81-200	106-329	121	A
MTY-E ² -211	二重口縁壺	弥生土器	弥生	不明	口径20.7推, 底径—, 器高5.5残	No2トレンチ西8層	910924	81-201	106-328	121	A
MTY-E ² -212	甕 (底)	弥生土器	弥生	底100	口径—, 底径7.6, 器高5.8残	No2トレンチ西8層	910924	81-202	106-333	121	A
MTY-E ² -213	坏	土師器	古墳	60	口径14.8, 底径10.7, 器高3.9	No2トレンチ西8層	910924	81-203	—	121	B
MTY-E ² -214	甕 (口)	須恵器	古墳	不明	口径16.2推, 底径—, 器高5.5残	No2トレンチ西10層	910921	82-204	102-344	121	A
MTY-E ² -215	甕 (底)	弥生土器	弥生	底40	口径—, 底径10.4推, 器高7.4残	No2トレンチ西11層	910925	82-205	106-332	121	A
MTY-E ² -216	坏 (蓋)	須恵器	古墳	ほぼ完形	口径11.45, 丸底, 器高3.9	No2トレンチ中央	910920	83-206	102-339	121	A
MTY-E ² -217	甕	須恵器	古墳	口縁30	口径20.5推, 底径—, 器高9.4残	No2トレンチ中央6層	910924	84-207	102-338	121	A
MTY-E ² -218	甕 (口)	土師器	古墳	不明	口径21.0推, 底径—, 器高7.5残	No2トレンチ中央6層	910924	85-208	102-337	121	A
MTY-E ² -219	甕 (口)	土師器	古墳	不明	口径17.2推, 底径—, 器高6.9残	No2トレンチ中央6層	910924	85-209	102-347	121	A
MTY-E ² -220	甕 (口)	土師器	古墳	不明	口径17.2推, 底径—, 器高7.6残	No2トレンチ中央6層	910921	85-210	102-345	121	A

车田寄遺跡 (略号 MTY-E²)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig. 番号	コンテナ番号	A・B
MTY-E ² -221	壺	土師器	古墳	不明	口径18.0推, 底径一, 器高5.4残	No2トレンチ中央6層	910921	85-211	102-343	121	A
MTY-E ² -222	高坏	土師器	古墳	脚部50	口径一, 脚部径10.3推, 器高5.7残	No2トレンチ中央6層	910924	85-212	102-342	121	A
MTY-E ² -223	甕(口)	土師器	古墳	不明	口径16.6推, 底径一, 器高4.3残	No2トレンチ9層貝層	910921	86-213	—	121	A
MTY-E ² -224	台付鉢	土師器	古墳	不明	口径一, 脚部径13.1推, 器高8.4残	No2トレンチ東貝5層	910924	86-214	—	121	A
MTY-E ² -225	甕(口)	弥生土器	弥生	不明	口径36.2推, 底径一, 器高11.3残	No3トレンチ	911016	87-215	108-351	121	A
MTY-E ² -226	甕(口)	弥生土器	弥生	不明	口径18.0推, 底径一, 器高8.5	No3トレンチ	911016	7-216	108-352	121	A
MTY-E ² -227	坏	土師器	古墳	60	口径11.8推, 丸底, 器高5.5	No3トレンチ	911016	7-217	109-379	121	A
MTY-E ² -228	高坏	土師器	古墳	60	口径18.2推, 脚部径12.0, 器高13.5	No3トレンチ	911016	8-218	109-382	121	A
MTY-E ² -229	坏	土師器	古墳	60	口径13.2, 丸底, 器高5.0	No3トレンチ	911016	8-219	109-375	121	A
MTY-E ² -230	坏	土師器	古墳	95	口径11.3, 丸底, 器高5.0	No3トレンチ	911016	8-220	109-378	121	A
MTY-E ² -231	坏	土師器	古墳	不明	口径11.2推, 丸底, 器高5.0	No3トレンチ	911016	8-221	109-380	121	A
MTY-E ² -232	壺	土師器	古墳	口径98	口径9.85, 底径一, 器高8.2残	No3トレンチ上層	910926	89-222	109-385	122	A
MTY-E ² -233	坏	土師器	奈良	器 ₁₀₀	口径一, 高台径9.0, 器高3.35残	No3トレンチ上層	910926	89-223	109-389	122	A
MTY-E ² -234	坏蓋	須惠器	奈良	不明	口径16.2推, 底径一, 器高1.75残	No3トレンチ上層	910926	89-224	109-388	910924	A
MTY-E ² -235	坏蓋	須惠器	奈良	不明	口径13.3推, 底径一, 器高1.55残	No3トレンチ上層	910926	89-225	109-386	122	A
MTY-E ² -236	坏蓋	須惠器	奈良	不明	口径14.4推, 底径一, 器高1.6残	No3トレンチ上層	910926	89-226	109-387	122	A
MTY-E ² -237	坏身	土師器	古墳	40	口径11.0推, 丸径一, 器高3.9残	No3トレンチ上層	910926	89-227	109-376	122	A
MTY-E ² -238	坏身	土師器	古墳	35	口径12.0推, 丸底, 器高4.45残	No3トレンチ上層	910926	89-228	109-377	122	A
MTY-E ² -239	鉢	土師器	古墳	不明	口径12.8推, 底径一, 器高5.7残	No3トレンチ上層	910926	89-229	109-381	122	A
MTY-E ² -240	カマド	土師器	不明	不明	最長11.8推, 最幅14.6推, 最厚4.0	No3トレンチ上層	910926	90-230	109-390	122	A

車田寄遺跡 (略号 MTY-E²)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 F図番号	コンテナ 番号	A・B
MTY-E ² -241	鉢	手捏土器	古墳	90	口径3.9, 底径2.35, 器高3.2	No3トレンチ 上層	910926	90-231	109-373	122	A
MTY-E ² -242	鉢	手捏土器	古墳	ほぼ 完形	口径3.8, 丸底, 器高2.6	No3トレンチ 上層	910926	90-232	109-374	122	A
MTY-E ² -243	器台	土製品	古墳	ほぼ 完形	受部径2.4, 裾部径2.3, 器高5.8	No3トレンチ 上層	910926	90-233	109-370	122	A
MTY-E ² -244	器台	土製品	古墳	完形	受部径1.4, 裾部径1.6, 器高4.1	No3トレンチ 上層	910926	90-234	109-371	122	A
MTY-E ² -245	土製鏡	土製品	古墳	ほぼ 完形	長さ4.4, 幅3.75, 厚さ1.4, 重さ17.0	No3トレンチ 上層	910926	91-235	109-369	122	A
MTY-E ² -246	土製鏡	土製品	古墳	完形	長さ3.3, 幅2.8, 厚さ1.7, 重さ0.8	No3トレンチ 上層	910926	91-236	109-368	122	A
MTY-E ² -247	土製鏡	土製品	古墳	70	長さ4.0推, 幅2.7推, 厚さ1.4, 重さ0.8	No3トレンチ 上層	910926	91-237	—	122	A
MTY-E ² -248	勾玉	土製品	古墳	完形	長さ4.5, 幅1.7, 厚さ1.35, 重さ0.8	No3トレンチ 上層	910926	91-238	109-366	122	A
MTY-E ² -249	勾玉	土製品	古墳	完形	長さ3.8, 幅1.2, 厚さ1.15, 重さ0.6	No3トレンチ 上層	910926	91-239	109-365	122	A
MTY-E ² -250	勾玉	土製品	古墳	80	長さ4.0推, 幅1.0, 厚さ0.9, 重さ0.3	No3トレンチ 上層	910926	91-240	109-364	122	A
MTY-E ² -251	土製丸玉	土製品	古墳	完形	長さ2.55, 幅2.65, 厚さ2.0, 重さ12.0	No3トレンチ 上層	910926	91-241	109-363	122	A
MTY-E ² -252	土製丸玉	土製品	古墳	完形	長さ1.8, 幅1.8, 厚さ1.7, 重さ0.3	No3トレンチ 上層	910926	91-242	109-361	122	A
MTY-E ² -253	土製丸玉	土製品	古墳	完形	長さ1.3, 幅1.7, 厚さ1.4, 重さ0.2	No3トレンチ 上層	910926	91-243	109-359	122	A
MTY-E ² -254	土製丸玉	土製品	古墳	80	長さ1.85推, 幅1.55, 厚さ1.05, 重さ0.2	No3トレンチ 上層	910926	91-244	109-360	122	A
MTY-E ² -252	土製丸玉	土製品	古墳	完形	長さ1.7, 幅1.3, 厚さ1.35, 重さ0.1	No3トレンチ 上層	910926	91-245	109-358	122	A
MTY-E ² -256	土製丸玉	土製品	古墳	完形	長さ1.6, 幅1.35, 厚さ1.25, 重さ0.1	No3トレンチ 上層	910926	91-246	109-357	122	A
MTY-E ² -257	土製丸玉	土製品	古墳	完形	長さ1.85, 幅1.85, 厚さ1.5, 重さ0.7	No3トレンチ 上層	910926	91-247	109-362	122	A
MTY-E ² -258	甕(口)	土師器	古墳	不明	口径18.2推, 底径—, 器高6.5残	No3トレンチ 貝層	910926	92-248	109-384	122	A
MTY-E ² -259	甕(口)	土師器	古墳	不明	口径17.4推, 底径—, 器高6.5残	No3トレンチ 貝層	910926	92-249	109-383	122	A
MTY-E ² -260	鉢	弥生土器	弥生	70	口径14.7, 底径3.1, 器高6.4	No3トレンチ 貝層	910926	92-250	108-354	122	A

牟田寄遺跡 (略号 MTY-E²)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ番号	A・B
MTY-E ² -261	砥石	石製品	不明	不明	長さ10.0推, 幅3.6, 厚さ2.0, 重さ110	No3トレンチ貝層	910926	92-251	108-356	122	A
MTY-E ² -262	垂	石製品	不明	完形	長さ8.4, 幅5.0, 厚さ4.4, 重さ250	No3トレンチ貝層	910926	92-252	109-372	122	A
MTY-E ² -263	坏			70	口径12.5, 丸底, 器高6.4	No3トレンチ貝層	910926	93-253	108-353	122	A
MTY-E ² -264	鉢	弥生土器	弥生	70	口径17, 底径5.9, 器高11.5	No2トレンチ	911031	93-254	108-355	122	A
MTY-E ² -265	甕	土師器	古墳	口の部	口径13.4, 底径—, 器高3.9残	4区	911218	93-255	114-449	122	A
MTY-E ² -266	甕	土師器	古墳	口の部	口径17.4推, 底径—, 器高9残	4区	911218	93-256	114-454	122	A
MTY-E ² -267	甕	土師器	古墳	口の部	口径14.55推, 底径—, 器高7.3残	4区	911218	94-257	114-452	122	A
MTY-E ² -268	甕	土師器	古墳	口の部	口径16.4推, 底径—, 器高5.3残	4区	911218	94-258	114-451	122	A
MTY-E ² -269	甕	須恵器	古墳	口の部	口径22推, 底径—, 器高6.2残	4区	911218	94-259	114-462	122	A
MTY-E ² -270	壺	土師器	古墳	体の部 100	口径—, 丸底, 器高6.2残	4区	911218	94-260	112-439	122	A
MTY-E ² -271	壺	手捏土器	古墳	60	口径7.1, 底径3.9, 器高7.7	4区	911218	94-261	112-437	122	A
MTY-E ² -272	壺	手捏土器	古墳	30	口径6.2推, 丸底, 器高7.4	4区	911218	94-262	112-438	122	A
MTY-E ² -273	壺	手捏土器	古墳	体の部 100	口径—, 底径4.5, 器高5.4	4区	911218	95-263	112-436	122	A
MTY-E ² -274	壺	手捏土器	古墳	体の部 100	口径—, 底径3.8, 器高5残	4区	911218	95-264	112-433	122	A
MTY-E ² -275	壺	土師器	古墳	体の部 100	口径—, 底径丸底, 器高11.4残	4区	911218	95-265	114-456	122	A
MTY-E ² -276	壺	土師器	古墳	体の部	口径10.5推, 底径—, 器高6.1残	4区	911218	95-266	114-455	122	A
MTY-E ² -277	長頸壺	土師器	古墳	70	口径—, 丸底, 器高12.8残	4区	911218	95-267	114-457	122	A
MTY-E ² -278	壺	須恵器	古墳	70	口径—, 丸底, 器高12.3残	4区	911218	96-268	114-459	122	A
MTY-E ² -279	鉢	弥生土器	弥生	40	口径14.9, 底径3.4, 器高10.3	4区	911218	96-269	112-429	122	A
MTY-E ² -280	鉢	土師器	古墳	75	口径12.6推, 丸底, 器高6.1	4区	911218	96-270	112-444	122	A

车田寄遺跡 (略号 MTY-E²)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig. 番号	コンテナ番号	A・B
MTY-E ² -281	鉢	弥生土器	弥生	70	口径9.6推, 底径4.6, 器高6	4区	911218	96-271	112-430	122	A
MTY-E ² -282	鉢	土師器	古墳	30	口径13.7推, 底径—, 器高5.6残	4区	911218	96-272	112-446	122	A
MTY-E ² -283	高坏 (坏)	土師器	古墳	坏部の60	口径16.9, 脚部径—, 器高6.6残	4区	911218	97-273	113-418	122	A
MTY-E ² -284	高坏 (坏)	土師器	古墳	坏部の60	口径19.4推, 脚部径—, 器高7.8残	4区	911218	97-274	113-419	123	A
MTY-E ² -285	高坏 (脚部)	土師器	古墳	脚部の40	口径—, 脚部径12.9推, 器高10.6推	4区	911218	97-275	113-420	123	A
MTY-E ² -286	高坏 (脚部)	土師器	古墳	脚部の90	口径—, 脚部径13.1, 器高8.9残	4区	911218	97-276	113-417	123	A
MTY-E ² -287	高坏 (脚部)	土師器	古墳	脚部の60	口径—, 脚部径13.8推, 器高9.5残	4区	911218	97-277	113-415	123	A
MTY-E ² -288	高坏 (脚部)	土師器	古墳	脚部の70	口径—, 脚部径14.7, 器高7.4残	4区	911218	98-278	113-416	123	A
MTY-E ² -289	坏	土師器	古墳	99	口径11.7, 丸底, 器高4.8	4区	911218	98-279	112-441	123	A
MTY-E ² -290	坏			25	口径15.7推, 丸底, 器高5.8	4区	911218	98-280	113-445	123	A
MTY-E ² -291	坏	土師器	古墳	30	口径15.4推, 丸底, 器高5.3残	4区	911218	98-281	113-443	123	A
MTY-E ² -292	不明	土師器	古墳		—	4区	911218	99-492	—	123	B
MTY-E ² -293	坏	土師器	古墳	20	口径11.8推, 丸底, 器高5.9	4区	911218	98-282	112-442	123	A
MTY-E ² -294	坏蓋	須恵器	古墳	60	口径11.8, 底径—, 器高4.2	4区	911218	98-283	114-460	123	A
MTY-E ² -295	坏身	須恵器	古墳	40	口径10.5, 丸底, 器高4.8	4区	911218	99-284	114-461	123	A
MTY-E ² -296	甕	弥生土器	弥生	口縁のみ	口径23.5, 底径—, 器高7.6残	4区南	911217	100-285	112-426	123	A
97	甕	土師器	古墳	不明	口径14.7推, 底径—, 器高8.9残	4区南	911217	100-286	114-453	123	A
MTY-E ² -298	甕	弥生土器	弥生	不明	口径25.3推, 底径—, 器高9.5残	4区南	911217	100-287	112-428	123	A
MTY-E ² -299	甕	弥生土器	弥生	不明	口径18.3推, 底径—, 器高9.7残	4区南	911217	100-288	112-427	123	A
MTY-E ² -300	甕	土師器	古墳	不明	口径14.6推, 底径—, 器高6.3残	4区南	911217	101-289	114-450	123	A

牟田寄遺跡 (略号 MTY-E²)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法 量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載FIG番号	コンテンツ番号	A・B
MTY-E ² -301	甌	土師器	古墳	不明	口径—, 底径7.4推, 器高9.9残	4区南	911217	101-290	112-421	123	A
MTY-E ² -302	壺	土師器	古墳	90%	口径10.4推, 底径—, 器高15.8	4区南	911217	102-291	114-458	123	A
MTY-E ² -303	壺	土師器	古墳	70%	口径8.5推, 底径—, 器高9.0	4区南	911217	102-292	113-443	123	A
MTY-E ² -305	鉢	弥生土器	弥生	不明	口径11.6推, 底径—, 器高5.6残	4区南	911217	102-294	114-448	123	A
MTY-E ² -306	坏蓋	黑色土器	古墳	不明	口径11.8推, 底径—, 器高4.2残	4区南	911217	103-295	113-412	123	A
MTY-E ² -307	坏	土師器	古墳	25%	口径13.2推, 底径—, 器高4.0	4区南	911217	103-296	113-409	123	A
MTY-E ² -308	坏	土師器	古墳	不明	口径12.2推, 底径—, 器高5.0残	4区南	911217	103-297	113-410	123	A
MTY-E ² -309	坏	土師器	古墳	90%	口径12.0, 底径—, 器高4.3	4区南	911217	103-298	113-413	123	A
MTY-E ² -310	坏	黑色土器	古墳	25%	口径2.6推, 底径—, 器高4.9	4区南	911217	103-299	113-414	123	A
MTY-E ² -311	坏	黑色土器	古墳	不明	口径11.8推, 底径—, 器高4.2残	4区南	911217	103-300	113-411	123	B
MTY-E ² -312	坏	須恵器	古墳	40%	銼径—, 口径15.4推, 器高2.1	4区南	911217	104-301	113-422	123	B
MTY-E ² -313	支脚	土製品	奈良	不明	最大長17.9残, 最大幅7.1残, 最大厚7.3残	4区南	911217	104-302	113-425	123	A
MTY-E ² -314	ミニチュア壺	手捏	古墳	完形	口径3.6, 底径2.2, 器高4.2	4区南	911217	103	112-435	123	A
MTY-E ² -315	ミニチュア壺	手捏	古墳	完形	口径2.3, 底径—, 器高2.7	4区南	911217	104-304	112-432	123	A
MTY-E ² -316	ミニチュア器台	手捏	古墳	95%	受部径3.4推, 裾部径3.8, 器高6.7	4区南	911217	104-305	112-434	123	A
MTY-E ² -317	勾玉	ガラス製	古墳	不明	最大長1.2残, 最大厚0.5残, 重さ2g	4区南	911217	104-307	112-431	123	A
MTY-E ² -319	甌	土師器	古墳	不明	口径18.0推, 底径—, 器高8.0残	4区南 I区	911218	105-308	110-396	123	A
MTY-E ² -3320	壺	土師器	古墳	95%	口径6.7, 底部—, 器高9.9	4区南 I区	911218	105-309	110-394	123	A

牟田寄2区遺跡 I種

车田寄遺跡 (略号 MTY-E²・E³)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	集測図 番号	報告書掲載 Fig番号	コンテナ 番号	A・B
MTY-E ² -321	壺	土師器	古墳	不明	口径一, 底径一, 器高13.3残	4区員 層1区	911218	105-310	110-395	123	A
MTY-E ² -322	壺	土師器	古墳	60%	口径8.8推, 底径一, 器高8.7	4区員 層1区	911218	105-311	110-393	123	A
MTY-E ² -33	坏	土師器	古墳	25%	口径15.0推, 底径一, 器高5.0	4区員 層1区	911218	105-312	110-397	123	A
MTY-E ² -324	坏(身)	須惠器	古墳	不明	口径11.8推, 底径一, 器高2.8残	4区員 層1区	911218	106-313	110-398	124	A
MTY-E ² -325	支脚	土師器	奈良	不明	最大長10.8(残), 最大幅7.0, 最大厚6.5	4区員 層1区	911218	106-314	110-392	124	A
MTY-E ² -326	支脚	土師器	奈良	不明	最大長13.4, 最大幅8.0, 最大厚4.2残	4区員 層1区	911218	106-315	110-391	124	A
MTY-E ² -327	有孔円盤	滑石製	古墳	90%	最大幅4.4, 最大厚0.6, 重さ25g	P14G	911105	107-316	67-222	124	A
MTY-E ² -328	鉢	弥生土器	弥生	25%	口径14.8推, 底径一, 器高4.6	P15G	911031	107-317	67-214	124	A
MTY-E ² -329	石鍋	滑石製	鎌倉	不明	口径30.0推, 底径一, 器高11.0残	SE301	911015	108-318	92-277	124	A
MTY-E ³ -330	石鍋	滑石製	鎌倉	不明	残存長10.5, 残存厚3.1	SE301	911015	108-319	92-278	124	A
MTY-E ³ -331	坏	土師器	奈良 平安	90%	口径12.2, 底径6.6, 器高3.5	SE302	911015	109-320	89-268	124	A
MTY-E ³ -332	高台付 椀	黑色土器	奈良 平安	90%	口径15.6, 底径8.2, 器高7.5	SE302	911015	109-321	89-273	124	A
MTY-E ³ -333	高台付 椀	土師器	奈良 平安	90%	口径13.2, 底径7.0, 器高6.1	SE302	911015	109-322	89-272	124	A
MTY-E ³ -334	高台付 椀	土師器	奈良 平安	不明	口径一, 底径8.5, 器高4.0残	SE302	911015	109-323	89-269	124	A
MTY-E ³ -335	高台付 椀	土師器	奈良 平安	70%	口径12.3, 底径7.9推, 器高6.2	SE302	911015	109-324	89-271	124	A
MTY-E ³ -336	高台付 椀	土師器	奈良 平安	不明	口径一, 底径7.0, 器高4.7残	SE302	911015	109-325	89-270	124	A
MTY-E ³ -337	坏	土師器	平安	95%	口径11.4, 底径6.5, 器高3.5	SE305	911015	110-326	—	124	B
MTY-E ³ -338	高台付 椀	黑色土器	平安	不明	口径一, 底径8.6, 器高3.8残	SE305	911015	110-327	—	124	B
MTY-E ³ -339	石鍋	滑石製	不明	不明	—	SE305	911015	110-328	—	124	B
MTY-E ³ -340	不明石製品	滑石製	不明	不明	最大長6.5, 最大幅6.6, 最大厚1.1	SE305	911015	110-329	—	124	B

车田寄2区, 3区遺跡 I種

车田寄遺跡 (略号 MTY-E³)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載FIG番号	コンテナ番号	A・B
MTY-E ³ -341	壺	土師器	古墳	100%	口径5.7, 底径—, 器高5.3	SE307	911015	111-330	77-240	124	A
MTY-E ³ -342	高台付 壺	須恵器	古墳	不明	口径—, 底径9.0, 器高6.0(残)	SE307	911015	111-331	77-242	124	A
MTY-E ³ -343	坏	土師器	奈良	50%	口径12.1推, 底径7.1, 器高3.1	SE307	911015	111-332	77-241	124	A
MTY-E ³ -344	高台付 椀	瓦器	鎌倉	不明	口径—, 底径7.4, 器高3.6残	SE309	911015	112-333	94-280	124	A
MTY-E ³ -345	高台付 椀	瓦器	鎌倉	不明	口径—, 底径7.3「器高1.6残	SE309	911015	112-334	94-279	124	A
MTY-E ³ -346	不明土器	土師器	鎌倉	不明	口径—, 底径2.6, 器高1.4残	SE309	911015	112-335	—	124	B
MTY-E ³ -347	高台付 椀	須恵器	奈良	90%	口径16.0, 底径8.4, 器高6.1	SE310	911015	113-336	79-245	124	A
MTY-E ³ -348	高台付 椀	須恵器	奈良	50%	口径12.6推, 底径6.7推, 器高4.6	SE310	911015	113-337	79-244	124	A
MTY-E ³ -349	坏	土師器	奈良	70%	口径12.8推, 底径7.8, 器高4.6	SE310	911015	113-338	79-243	124	A
MTY-E ³ -350	甕	弥生土器	弥生	不明	口径30.0推, 底径—, 器高7.0残	SE311	911015	113-339	81-247	124	A
MTY-E ³ -351	甕	土師器	奈良	不明	口径25.4推, 底径—, 器高7.2残	SE311	911015	113-340	81-246	124	A
MTY-E ³ -352	高台付 椀	陶器	江戸	不明	口径—, 底径3.8, 器高2.9残	SD315	911029	114-341	—	124	B
MTY-E ³ -353	壺	瓦器	鎌倉	不明	口径25.8推, 底径—, 器高7.0残	SK316	911029	114-342	—	124	B
MTY-E ³ -354	甕	土師器	奈良	不明	口径22.0推, 底径—, 器高7.5残	SK317	911029	114-343	83-248	124	A
MTY-E ³ -355	高坏	土師器	奈良	不明	口径—, 底径9.3推, 器高5.0残	SK317	911029	114-344	83-250	124	A
MTY-E ³ -356	高参付 坏	須恵器	奈良	90%	口径11.8, 底径8.6, 器高3.2	SK317	911029	115-345	83-253	124	A
MTY-E ³ -357	坏	土師器	奈良	25%	口径14.0推, 底径9.8, 器高5.0	SK317	911029	115-346	83-249	124	A
MTY-E ³ -358	坏壺	須恵器	奈良	20%	口径—, 口径15.0推, 器高2.3残	SK317	911029	115-347	83-251	124	A
MTY-E ³ -359	坏壺	須恵器	奈良	30%	口径—, 口径14.8推, 器高2.2残	SK317	911029	115-348	83-252	124	A
MTY-E ³ -360	甕	弥生土器	弥生	不明	口径25.4推, 底径, 器高8.0残	SK318	911015	116-349	14-28	124	A

车田寄遺跡 (略号 MTY-E³)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	集測図番号	報告書掲載頁番号	コンテナ番号	A・B
MTY-E ³ -361	甕	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径9.8, 器高5.0残	SK318	911015	116-350	14-29	124	A
MTY-E ³ -362	甕	須惠器	奈良	不明	口径16.4推, 底径—, 器高4.2残	SK320 SK320	901015	116-351	85-258	124	A
MTY-E ³ -363	坏	須惠器	奈良	25%	口径14.8推, 底径11.6推, 器高2.5	SK320	901015	116-352	85-257	124	A
MTY-E ³ -364	甕	弥生土器	弥生	不明	口径29.4推, 底径—, 器高4.3残	SK321	901015	117-353	16-30	124	A
MTY-E ³ -365	壺	弥生土器	弥生	60%	口径23.2推, 底径—, 器高37.6	SK321	901015	117-354	16-32	125	A
MTY-E ³ -366	壺	弥生土器	弥生	80%	口径16.4推, 底径3.7, 器高28.2	SK321	901015	118-355	16-31	126	A
MTY-E ³ -367	高坏? 高付鉢?	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径8.7, 器高5.4残	SK321	911204	118-356	—	126	B
MTY-E ³ -368	甕	弥生土器	弥生	不明	口径16.0推, 底径—, 器高7.5残	SD322	911204	119-357	61-180	126	A
MTY-E ³ -369	壺	弥生土器	弥生	50%	口径8.8推, 底径—, 器高8.8	SD322	911204	119-358	61-175	126	A
MTY-E ³ -370	器台	弥生土器	弥生	不明	受部径16.8推, 裾部径—, 器高14.0残	SD322	911204	119-359	61-179	126	A
MTY-E ³ -371	宕甕	弥生土器	弥生	不明	口径24.6推, 底径—, 器高15.0残	SD322	911204	120-360	61-182	126	A
MTY-E ³ -372	甕	弥生土器	弥生	不明	口径28.6推, 底径—, 器高15.0残	SD322	911204	120-361	61-181	126	A
MTY-E ³ -373	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径17.0推, 底径—, 器高16.6残	SD322	911204	120-362	61-176	126	A
MTY-E ³ -374	坏	弥生土器	弥生	不明	口径8.6, 底径—, 器高3.9	SD322	911204	120-363	61-174	126	A
MTY-E ³ -375	器台	弥生土器	弥生	30%	受部径6.6推, 裾部径10.8推, 器高14.0	SD322	911204	121-364	61-178	126	A
MTY-E ³ -376	器台	弥生土器	弥生	不明	受部径—, 裾部径—, 器高6.4残	SD322	911204	121-365	61-177	126	A
MTY-E ³ -377	石包丁	石製品	弥生	不明	最大長5.1, 最大幅4.6, 最大厚0.6	SD322	911204	121-366	61-183	126	A
MTY-E ³ -378	甕	土師器	奈良	不明	口径21.4推, 底径—, 器高7.6残	SK323	911015	122-367	87-259	126	A
MTY-E ³ -379	鉢	土師器	奈良	40%	口径16.0推, 底径11.0推, 器高7.0	SK323	911015	122-368	87-261	126	A
MTY-E ³ -380	高台付 椀	須惠器	奈良	90%	口径13.5, 底径8.3, 器高5.0	SK323	911015	122-369	87-266	126	A

车田奇遺跡 (略号 MTY-E³)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図 番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ 番号	A・B
MTY-E ³ -381	高台付 椀	須恵器	奈良	30%	口径—, 底径10.0推, 器高2.5残	SK323	911015	123-370	87-265	126	A
MTY-E ³ -382	坏	須恵器	奈良	不明	口径—, 底径8.0推, 器高4.6残	SK323	911015	123-371	87-267	126	A
MTY-E ³ -383	坏蓋	須恵器	奈良	不明	鈕径2.7, 領径—, 器高1.2残	SK323	911015	123-372	817-263	126	A
MTY-E ³ -384	坏蓋	須恵器	奈良	不明	鈕径2.7, 口径14.1, 器高3.7	SK323	911015	123-373	87-264	126	A
MTY-E ³ -385	坏蓋	須恵器	奈良	不明	鈕径2.3, 口径—, 器高0.7残	SK323	911015	123-374	87-262	126	A
MTY-E ³ -386	土製鏡	土製品	奈良	不明	長さ3.9推, 幅3.8, 厚さ1.6残	SK323	9110	124-375	87-260	127	A
MTY-E ³ -387	壺	弥生土器	弥生	不明	口径23.2推, 底径—, 器高9.5残	SK331	9110	124-387	—	127	B
MTY-E ³ -388	壺	弥生土器	弥生	不明	口径22.2推, 底径—, 器高5.8残	SK331	9110	124-388	—	127	B
MTY-E ³ -389	壺	弥生土器	弥生	完存	口径10.9, 底径7.7, 器高12.4	SK333	9110	124-376	—	127	A
MTY-E ³ -390	鉢	弥生土器	弥生	完存	口径6.2, 底径5.3, 器高4.6	SK333	9110	125-377	18-34	127	A
MTY-E ³ -391	石包丁	石製品	弥生	98%	長さ4.5, 幅8.4, 厚さ0.7断	SK333	9110	125-378	18-41	127	A
MTY-E ³ -392	砥石	石製品	弥生	不明	長さ4.1残, 幅4.3残, 厚さ1.7断	SK333	9110	125-379	—	127	B
MTY-E ³ -393	鉢	弥生土器	弥生	ほぼ 完存	口径10.0, 底径3.4, 器高7.8	SK333	9110	125-380	18-36	127	A
MTY-E ³ -394	鉢	弥生土器	弥生	60%	口径12.6, 底径6.7, 器高6.6	SK333	9110	125-381	18-35	127	A
MTY-E ³ -395	甕	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径9.3推, 器高7.0残	SK333	9110	126-382	18-39	127	A
MTY-E ³ -396	壺	弥生土器	弥生	不明	口径20.0推, 底径—, 器高5.6残	SK333	9110	126-383	18-40	127	A
MTY-E ³ -397	鉢	弥生土器	弥生	60%	口径18.0, 底径—, 器高9.4	SK333	9110	126-385	18-37	127	A
MTY-E ³ -398	高坏	弥生土器	弥生	不明	口径—, 脚部径17.4, 器高16.4残	SK333	9110	126-384	18-38	127	A
MTY-E ³ -399	支脚	弥生土器	弥生	不明	長さ6.8残, 幅9.3残, 厚さ5.3断	SK333	9110	127-386	—	127	B
MTY-E ³ -400	壺	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径3.7, 器高15.6残	SK334	9112	127-389	20-52	127	A

车田奇遺跡 (略号 MTY-E³)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図 番号	報告書掲載 Fig番号	コンテナ 番号	A・B
MTY-E ³ -401	壺	弥生土器	弥生	不明	口径一, 底径3.7, 器高15.6残	SK334	9112	127-390	20-44	127	A
MTY-E ³ -402	長頸壺	弥生土器	弥生	90%	口径10.8換, 底径丸底, 器高18.1	SK334	9112	128-391	20-50	127	A
MTY-E ³ -403	長頸壺	弥生土器	弥生	不明	口径13.8, 底径一, 器高8.0残	SK334	9110	128-392	20-51	127	A
MTY-E ³ -404	鉢	弥生土器	弥生	ほぼ 完存	口径24.3, 底径丸底, 器高12.0	SK334	9112	128-393	20-46	127	A
MTY-E ³ -405	鉢	弥生土器	弥生	85%	口径11.7推, 底径一, 器高8.6残	SK334	9110	129-394	20-43	127	A
MTY-E ³ -406	鉢	弥生土器	弥生	不明	口径19.2推, 底径一, 器高9.3残	SK334	9110	129-395	20-45	127	A
MTY-E ³ -407	鉢	弥生土器	弥生	不明	口径一, 底径一, 器高4.6残	SK334	9110	129-396	20-42	127	A
MTY-E ³ -408	高坏 (坏部)	弥生土器	弥生	不明	口径34.6推, 底径一, 器高7.1残	SK334	9110	130-397	20-48	127	A
MTY-E ³ -409	鉢	弥生土器	弥生	不明	口径24.4推, 底径一, 器高9.4残	SK334	9110	129-398	20-47	127	A
MTY-E ³ -410	高坏 (脚部)	弥生土器	弥生	不明	口径一, 底径15.3, 器高13.1	SK334	9110	130-399	20-49	127	A
MTY-E ³ -411	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径28.1推, 底径一, 器高8.7残	SK335	9110	131-400	41-117	128	A
MTY-E ³ -412	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径26.6推, 底径一, 器高9.1残	SK335	9110	131-301	41-118	128	A
MTY-E ³ -413	壺	弥生土器	弥生	90%	口径14.0推 [底径9.2, 器高30.9	SK335	9110	132-402	41-116	128	A
MTY-E ³ -414	壺	弥生土器	弥生	35%	口径14.3推, 底径丸底, 器高16.9残	SK335	9110	130-403	41-115	128	A
MTY-E ³ -415	坏	弥生土器	弥生	55%	口径9.3推, 底径丸底, 器高3.5残	SK335	9110	131-404	41-114	128	A
MTY-E ³ -416	坏蓋	須惠器	古墳	完存	底径12.0, 器高5.1	SK338	9110	131-405	69-223	128	A
MTY-E ³ -417	坏蓋	須惠器	古墳	80%	底径12.7, 器高5.0	SK338	9110	131-406	69-224	128	A
MTY-E ³ -418	坏蓋	須惠器	古墳	60%	底径13.0推, 器高4.5	SK338	9110	133-407	69-225	128	A
MTY-E ³ -419	坏蓋	須惠器	古墳	55%	底径12.0推, 器高4.5	SK338	9110	133-408	69-222	128	A
MTY-E ³ -420	坏身	須惠器	古墳	ほぼ 完形	口径11.0, 底径一, 器高5.4	SK338	9110	133-409	69-229	128	A

车田奇遺跡 (略号 MTY-E³)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig. 番号	コンテナ番号	A・B
MTY-E ³ -421	坏身	須惠器	古墳	完存	口径10.4, 底径—, 器高5.1	SK338	9110	133-410	69-228	128	A
MTY-E ³ -422	坏身	須惠器	古墳	ほぼ完存	口径11.1, 底径—, 器高4.9	SK338	9110	134-411	69-227	128	A
MTY-E ³ -423	坏身	須惠器	古墳	80%	口径10.9, 底径—, 器高5.6	SK338	9110	134-412	69-230	128	A
MTY-E ³ -424	坏身	須惠器	古墳	80%	口径10.2, 底径—, 器高4.7	SK338	9110	134-413	69-226	128	A
MTY-E ³ -425	甕	弥生土器	弥生	不明	口径21.4推, 底径—, 器高5.7	SK339	9110	134-414	62-184	128	A
MTY-E ³ -426	甕	弥生土器	弥生	不明	口径17.8推, 底径—, 器高6.8残	SK339	9110	134-415	62-185	128	A
MTY-E ³ -427	壺	弥生土器	弥生	不明	口径21.4推, 底径—, 器高8.5残	SD340	9112	135-416	62-186	128	A
MTY-E ³ -428	鉢	弥生土器	弥生	不明	口径23.3推, 底径—, 器高6.6残	SD340	9112	135-417	62-187	128	A
MTY-E ³ -429	高坏 (脚部)	弥生土器	弥生	不明	口径—, 底径12.9推, 器高3.6残	SD340	9112	135-418	62-188	128	A
MTY-E ³ -430	石包丁	石製品	弥生	70%	長さ4.3, 幅5.8残, 厚さ0.6断	SD340	9112	135-419	62-189	128	A
MTY-E ³ -431	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径25.2推, 底径—, 器高5.5残	SD341	9110	136-420	63-191	128	A
MTY-E ³ -432	壺 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径17.2推, 底径—, 器高5.6	SD341	9110	136-421	63-193	128	A
MTY-E ³ -433	壺 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径16.7推, 底径—, 器高4.7残	SD341	9110	136-422	63-192	128	A
MTY-E ³ -434	坏	弥生土器	弥生	完存	口径12.9, 底径9.8, 器高3.7	SD341	9110	136-423	63-190	128	A
MTY-E ³ -435	碗	磁器	鎌倉	35%	口径10.8推, 底径4.4, 器高4.0	SK342	9111	136-424	97-287	128	A
MTY-E ³ -436	碗	磁器	鎌倉	25%	口径14.7推, 底径6.0推, 器高6.0	SK342	9111	136-425	97-288	128	A
MTY-E ³ -437	坏	土師器	鎌倉	不明	口径—, 底径—, 器高2.5残	SK342	9111	137-426	97-285	128	A
MTY-E ³ -438	坏	土師器	鎌倉	不明	口径—, 底径—, 器高2.1残	SK342	9111	137-427	97-283	128	A
MTY-E ³ -439	坏	土師器	鎌倉	不明	口径—, 底径—, 器高4.3残	SK342	9111	137-428	97-286	128	A
MTY-E ³ -440	坏	土師器	鎌倉	不明	口径—, 底径7.4, 器高7-429	97-284	128				A

车田寄遺跡 (略号 MTY-E³)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	集測図 番号	報告書掲載 Fig. 番号	コンテナ 番号	A・B
MTY-E ³ -441	砥石	石製品	鎌倉	ほぼ 完存	長さ9.6, 幅7.0, 厚さ2.5断	SK342	9111	137-430	90-289	129	A
MTY-E ³ -442	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径23.4推, 底径—, 器高10.5残	SK344	9110	138-431	20-55	129	A
MTY-E ³ -443	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径20.2推, 底径—, 器高8.7残	SK344	9110	138-432	20-54	129	A
MTY-E ³ -444	高坏 (坏部)	弥生土器	弥生	不明	口径23.3推, 底径—, 器高6.8残	SK344	9110	139-433	20-53	129	A
MTY-E ³ -445	砥石	石製品	弥生	不明	長さ4.6残, 幅1.5, 厚1.2	SK344	9110	139-434	20-56	129	A
MTY-E ³ -446	坏	須恵器		25	口径16.5推, 底径13.0推, 器高2.1	SK347	9110	140-435	—	129	B
MTY-E ³ -447	高坏 (脚部)	須恵器		不明 (脚部)	口径—, 脚部径8.7推, 器高8.6残	SK347	9110	140-436	—	129	B
MTY-E ³ -448	坏	土師器	倉庫	60	口径13.4推, 底径8.0, 器高4.2	SK356	1991.12	141-437	96-282	129	A
MTY-E ³ -449	坏	土師器	鎌倉	不明	口径12.4推, 底径6.4推, 器高3.7残	SK356	1991.12	141-438	96-281	129	A
MTY-E ³ -450	椀	瓦器	鎌倉	60	口径15.2推, 高台径8.4, 器高6.9	SK357	1991.10	142-439	—	129	A
MTY-E ³ -451		石製品	鎌倉	不明	長さ6.75推, 最大幅4.3, 早大厚2.8, 重 さ100	SL-360 P.No.4	1991.12	143-440	—	129	B
MTY-E ³ -452	甕 (口)	土師器	古墳	不明	口径—, 高台径—, 器高—	SB362	1991.12	144-441	74-231	129	A
MTY-E ³ -453	坏 (高台付)	土師器	奈良	60	口径12.2推, 高台径—, 器高4.6残	SK364	1991.12	145-442	—	129	B
MTY-E ³ -454	坏 (高台付)	土師器	奈良	50	口径13.4推 高台径—, 器高4.5残	SK364	1991.12	145-443	—	129	B
MTY-E ³ -455	甕	土師器	奈良	不明	口径17.6推, 底径—, 器高6.9残	SK365	1991.12	146-444	—	129	B
MTY-E ³ -456	蓋	須恵器	奈良	55	口径13.3推, つまち径1.9, 器高3.9	SK369	1991.12	147-445	—	129	B
MTY-E ³ -457	鉢	土師器	古墳	45	口径14.8推, 丸底—, 器高6.55残	P220	1991.11	148-446	—	129	B
MTY-E ³ -458	甕 (口)	土師器	古墳	不明	口径26.4推, 底径—, 器高7.6	No.トレンチ	1991.10	149-447	—	129	B
MTY-E ³ -459	壺	土師器	古墳	不明	口径15.8推, 底径—, 器高6.2	No.トレンチ	1991.10	149-448	—	129	B
MTY-E ³ -460	壺	土師器	古墳	45	口径—, 丸底, 器高6.9残	No.トレンチ	1991.10	—	129	B	B

牟田寄遺跡 (略号 MTY-E³)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法	量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載Fig番号	コンテナ番号	A・B
MTY-E ³ -461	不明	土師器	古墳	不明	口径27.2推, 底径—, 器高3.8残		No1トレンチ	1991.10	149-450	—	129	B
MTY-E ³ -464	鉢	手捏土器	古墳	90	口径5.0, 底径2.7, 器高4.6		No1トレンチ	1991.10	149-451	—	129	B
MTY-E ³ -463	鉢	手捏土器	古墳	40	口径7.4推, 底径2.6, 器高4.8		No1トレンチ	1991.10	149-452	—	129	B
MTY-E ³ -464	高坏	土師器	古墳	不明	口径20.8推, 脚部径, 器高4.6残		No1トレンチ	1991.10	150-453	—	129	B
MTY-E ³ -465	台付	土師器	古墳	脚部100	口径, 脚部径15.2, 器高6.2残		No1トレンチ	1991.10	150-454	—	129	B
MTY-E ³ -466	砥石	石製品	古墳	不明	長さ9.3推, 最大幅3.7, 最大厚3.1, 重さ11.3推		No1トレンチ	1991.10	150-455	—	129	B
MTY-E ³ -467	石包丁	石製品	古墳	50	長さ0.8推, 幅3.5, 厚さ0.7, 重さ3.0		No1トレンチ	1991.10	150-456	—	129	B
MTY-E ³ -468	坏	土師器	奈良	50	口径14.7, 底径6.9, 器高5.2		G877/17	1991.10	151-457	75-237	129	A
MTY-E ³ -469	皿	瓦器	鎌倉	不明	口径12.5推, 底径10.4推, 器高0.3		G877/17	1991.10	151-458	75-239	129	A
MTY-E ³ -470	坏蓋	須恵器	奈良	20	口径16.2推, 底径—, 器高1.6		G877/17	1991.10	151-459	75-233	129	A
MTY-E ³ -471	台付皿	土師器	奈良	25	口径15.3推, 底径—, 器高3.9		G877/17	1991.10	151-460	75-238	129	A
MTY-E ³ -472	支脚	弥生土器	弥生	完形	口径3.6, 脚部径10.0, 器高10.1		H, I 32.33 グリット	1991.10	152-461	66-206	129	A
MTY-E ³ -473	甕	弥生土器	弥生	不明	口径47.4推, 底径—, 器高10.1残		H, I 32.33 グリット	1991.11	153-462	66-202	129	A
MTY-E ³ -474	甕	須恵器	奈良	不明	口径22推, 底径—, 器高8.8		H, I 32.33 グリット	1991.11	153-463	75-236	129	A
MTY-E ³ -475	甕	弥生土器	弥生	底部50	口径—, 底径9.8, 器高9.8残		H, I 32.33 グリット	1991.11	154-464	66-203	129	A
MTY-E ³ -476	壺	弥生土器	弥生	不明	口径14.8推, 底径—, 器高5.6		H, I 32.33 グリット	1991.11	154-465	66-211	129	A
MTY-E ³ -477	壺	弥生土器	弥生	不明	口径10推, 底径—, 器高5.8		H, I 32.33 グリット	1991.11	154-466	66-212	129	A
MTY-E ³ -478	短頸壺	須恵器	奈良	不明	口径11.4推, 底径—, 器高4.2残		H, I 32.33 グリット	1991.11	154-467	75-235	129	A
MTY-E ³ -479	壺	弥生土器	弥生	不明	口径18.3推, 底径—, 器高7.7残		H, I 32.33 グリット	1991.11	155-468	66-209	129	A
MTY-E ³ -480	鉢	手捏土器	弥生	ほぼ完形	口径7.4, 底径2.1, 器高4.4		H, I 32.33 グリット	1991.11	155-469	66-213	129	A

牟田寄遺跡 (略号 MTY-E³・E²)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法量 (cm, g)	遺構名	出土年月	実測図番	報告書掲載 Fig 番号	コンテナ番号	A・B
MTY-E ³ -481	坏蓋	須恵器	奈良	40	口径14.6推、つまみ径2.4推、器高1.85	H, I32.33 グリップ	1991.11	155-470	75-237	129	A
MTY-E ³ -482	器台	弥生土器	弥生	裾部20	受部径一推、裾部径1.9推、器高11.7残	H, I32.33 グリップ	1991.11	155-471	66-207	129	A
MTY-E ³ -483	器台	弥生土器	弥生	不明	受部径一, 裾部径18.3推、器高15.8	H, I32.33 グリップ	1991.11	156-472	66-208	129	A
MTY-E ³ -484	把手	土師器	古墳	不明	長さ11.3残, 幅6.1, 厚み	H, I32.33 グリップ	1991.11	156-473	66-210	129	A
MTY-E ³ -485	支脚	弥生土器	弥生	不明	口径4.0, 穿孔2.0, 脚部径一, 器高7.4残	H, I32.33 グリップ	1991.11	154-474	66-205	129	A
MTY-E ³ -486	支脚	弥生土器	弥生	完形	口径3.1, 脚部径6.4, 器高6.2	H, I32.33 グリップ	1991.11	154-475	66-204	129	A
MTY-E ³ -487	管玉	土製品	弥生	ほぼ完形	長さ3.7, 幅1.0, 重さ3g	H, I32.33 グリップ	1991.11	156-476	66-215	129	A
MTY-E ³ -488	石庖丁	石製品	弥生	不明	残存長7.6, 幅4.8, 厚0.5, 重さ31残	H, I32.33 グリップ	1991.11	156-477	67-219	129	A
MTY-E ³ -489	石庖丁	石製品	弥生	60	長さ6.0残, 幅3.85, 厚0.8, 重さ29残	H, I32.33 グリップ	1991.11	157-478	67-217	129	A
MTY-E ³ -490	石庖丁	石製品	弥生	不明	長さ6.0残, 幅4.6, 厚さ0.6残	H, I32.33 グリップ	1991.11	157-479	67-216	129	A
MTY-E ³ -491	石庖丁	石製品	弥生	不明	長さ4.5残, 幅5.1, 厚さ0.65, 重さ23残	H, I32.33 グリップ	1991.11	158-480	67-218	129	A
MTY-E ³ -492	甕	土師器	古墳	70	口径20.1復, 見底, 器高30.4	貝層2区	1991.11	159-481	111-408	130	A
MTY-E ² -493	鎌	青銅品	弥生	完形	全長3.0, 最大幅0.6, 最大厚0.3	SK232	911106	160-49	55-138	131	A
MTY-E ² -494	鎌	鉄器	弥生	不明	長17.5(残), 幅3.1(残), 原0.35(残)	No.トレンチ 掘削2区	910924	160.493	102-302	131	A
MTY-E ² -495	鋤先	鉄器	弥生	不明	長8.2(残), 幅3.9(残), 厚0.4(残)	No.トレンチ 西11層	910925	160-493	102-302	131	A
MTY-E ² -496	不明	木製品	弥生	不明	長さ1.6(残), 幅2.3(残), 厚0.2(残)	No.トレンチ 中央6層	911024	161-495	—	—	B
MTY-E ² -497	紡錘車	木製品	弥生	不明	長さ5.2(残), 厚1.3(残)	No.トレンチ 奴層	910925	162-496	106-336	131	A
MTY-E ³ -498	不明	銅製品	本明	不明	19.6(残), 幅0.7	貝層4区	911219	163-497	113-424	〃	A
MTY-E ³ -499	不明	木製品	弥生	不明	長さ2.5(残), 幅3.2(残), 厚6.6(残)	SK312	911015	164-498	—	—	B
MTY-E ³ -500	曲物か底板	木製品	奈良	不明	長さ16.1(残), 幅10.2(残), 厚0.7	SK317	911029	164-499	83-245	—	A

车田寄遺跡 (略号 MTY-E³)

番号	名称	種別	時代	残存率 (%)	法 量 (cm、g)	遺構名	出土年月	実測図 番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ 番号	A・B
MTY-E ³ -501	鍬か鋤の柄?	木製品	奈良	不明	長27.8(残), 幅2.8(残), 厚み2.1	SK317	911015	165-502	—	—	B
MTY-E ³ -502	不明	木製品	奈良	不明	長14.4(残), 幅5.5(残)	SK317	911015	165-501	—	—	B
MTY-E ³ -503	不明	木製品	奈良	不明	長4.4(残), 幅2.8(残)	SK317	911015	165-502	—	—	B
MTY-E ³ -504	不明	木製品	奈良	不明	長6.1(残), 片面3.4	SK317	911015	165-503	—	—	B
MTY-E ³ -505	不明	木製品	奈良	不明	長19.2(残), 幅4.5(残), 厚2.2(残)	SK317	911015	166-504	83-255	—	A
MTY-E ³ -506	不明	木製品	奈良	不明	長4.8(残), 幅4.1(残), 厚3.7(残)	SK317	911015	166-505	—	—	B
MTY-E ³ -507	横木	木製品	弥生	—	長75.7, 幅27.6, 厚14.1	SK328	911209	167-506	-123	—	A
MTY-E ³ -508	横木	木製品	弥生	—	長87.8, 幅20.3, 厚13.7	SK329	?	168-507	-124	—	A
MTY-E ³ -509	横木	木製品	弥生	—	長75.7, 幅27.6 厚15.1	SK331	911209	169-508	-125	—	A
MTY-E ³ -510	不明	木製品	弥生	—	長19.9(残), 幅5.3(残), 厚3.6(残)	SK333	911023	170-509	—	—	A
MTY-E ³ -511	不明	木製品	弥生	—	長16.7(残), 幅2.1(残), 厚2.0(残)	SK333	911023	170-510	—	—	A
MTY-E ³ -512	鍬か鋤の柄?	木製品	弥生	—	長28.8(残), 幅2.8(残), 厚2.3(残)	SK333	911023	171-511	—	—	A
MTY-E ³ -513	横木	木製品	弥生	—	長89.8, 幅34.0, 厚18.2	SK343	911209	172-512	-126	—	A
MTY-E ³ -514	横木	木製品	弥生	—	長78.9, 幅28.0, 厚12.5	(1)SK345	?	173-513	-127	—	A
MTY-E ³ -515	横木	木製品	弥生	—	長75.4, 幅16.7, 厚10.9	(2)SK345	?	174-514	-128	—	A
MTY-E ³ -516	横木	木製品	弥生	—	長73.5, 幅20.0, 厚9.6	SS353	?	175-515	-129	—	A
MTY-E ³ -517	横木	木製品	弥生	—	長75.2, 幅19.8, 厚13.1	P206	911209	176-516	-120	—	A
MTY-E ³ -518	横木	木製品	弥生	—	長55.3, 幅20.5, 厚17.0	P208	?	177-517	-131	—	A
MTY-E ³ -519	柱	木製品	弥生	—	長77.5, 幅20.3, 厚11.2	P208	911209	178-518	-130	—	A
MTY-E ³ -520	横木	木製品	弥生	—	長97.3, 幅24.7, 厚12.3	P209	911209	179-519	-121	—	A

车田奇遺跡 (略号 MTY-E₁)

地区名	種別	時代	遺構	名	出土年月	コンテナ番号	袋数	備考
MTY-E ₁	弥生土器		SK001		1991・9	1	5	
	弥生土器		SK001		1991・9	2	5	
	弥生土器		SK001		1991・9	3	6	
	弥生土器		SK001, SK001周辺		1991・9	4	5	
	弥生土器, 石製品		SK001		1991・9	5	6	
	弥生土器		SK001周辺, SK001・No.1, SK001No.2		1991・9	6	5	
	弥生土器		SE003, 1層, SE003, 2.3層, SK001・No.2, SK001・No.3, SE003		1991・10	7	7	
	弥生土器, 石製品		SE003, 4層, SK004, SK006, SK008, SK007		1991・10	8	9	
	弥生土器		SE008, SK012, SB013, P1, P2, SB014, P2, P3, P5, P12, P15, P16, SB014, SK015, SE016		1991・10	9	16	
	弥生土器		SE016, SE016, 1層, SE016, 2層		1991・10	10	6	
	弥生土器		SE016, 2層		1991・10	11	6	
	弥生土器, 須恵器破片		SE016, 2層, 3層, 4層, SK017		1991・10	12	7	
	弥生土器		SK018, SE021, 1層, 2層, 3層, SK002, SD023		1991・10	13	8	
	弥生土器		SD023		1991・10	14	6	
	弥生土器, 須恵器破片		SK024, SK026, SE028, SK029, SB030, P1, P2, P4, P5, P6, SK031		1991・10	15	12	
	弥生土器		SK031, SD032		1991・10	16	6	
	弥生土器		SK033, SE034, 3層, SK035, SK036, SK037, SK038		1991・10	17	9	
	弥生土器, 須恵器破片		SK038, SD039, SD040, SD041		1991・10	18	6	
	弥生土器		SD041		1991・10	19	5	
	弥生土器		SD041		1991・10	20	6	

牟田寄遺跡 (略号 MTY-E₁・E₂)

地区名	種別	時代	遺構	名	出土年月	コンテナ番号	袋数	備考
MTY-E ₁	弥生土器		SD041, SK042, SD043, SK044, SD045		1991・	21	7	
	弥生土器		SD046, SK047, SK049, SK050, SK057, A地点		1991・	22	10	
	弥生土器		A地点		1991・8	23	6	
	弥生土器		調査已中央南端, 不明		1991・8	24	6	
	弥生土器		E-3G, F-3G, G-2G, G-4G, H-2G, I-4G		1991・9	25	10	
	弥生土器		I-4G 北東		1991・9	26	6	
	弥生土器		J-4G, J-5G, J-7G, K-5G, L-5G, L-6G, M-5G, M-7G, 表土下層		1991・9	27	13	
	弥生土器		M-7G, P-2, P-4, P-5, P-10, P-11, P-12, P-15, P-17, P-20, P-23, P-24		1991・9	28	19	
			P-26, P-28, P-29			28		
	MTY-E ₃	弥生土器		SD201, SK211, SK216, SE202, SK203, SK205, SK207, SK210, SK212, SK213, SK214, SK215, SK217, SK218, SK219, SK221, SK220, SK233, SK235, SK236, SK237, SK238, SK239, SE237, SD240		1991・	29	23
弥生土器			SD240, SD241		1991・11	30	21	
弥生土器			SD240, SD241		1991・12	31	6	
弥生土器			SD241		1991・12	32	6	
弥生土器			SD241		1991・12	33	7	
弥生土器			SD241		1991・12	34	5	
弥生土器			SD241		1991・12	35	5	
弥生土器			SD241		1991・12	36	6	
弥生土器			SD241		1991・12	37	6	
弥生土器			SD241, No.1 トレンチ 鎌周辺		1991・9	38	6	
	弥生土器		鎌周辺 No.1 トレンチ 南, No.1 トレンチ層		1991・9	39	8	

牟田寄遺跡 (略号MTY-E₂)

地区名	種別	時代	遺構	名	出土年月	コンテナ番号	袋数	備考
MTY-E ₂	弥生土器		No.1トレンチ南上層, No.1トレンチ南下層		1991・9	40	6	
	弥生土器		No.1トレンチ南下層		1991・9	41	6	
	弥生土器		No.1トレンチ南1層, 2層, 3層, 4層, 5層, 6層		1991・12	42	10	
	弥生土器		No.1トレンチ南7層, 第1貝層下, 2貝層中央南部貝層北端, 第1貝層		1991・9	43	7	
	弥生土器		No.1貝層		1991・9	44	6	
	弥生土器		No.トレンチ南貝層, 第2貝層, 第2貝層下		1991・9	45	7	
	弥生土器		No.1トレンチ北4.5層, 上層		1991・9	46	7	
	弥生土器		No.2トレンチ中央6層		1991・9	47	6	
	弥生土器		No.2トレンチ中央6層		1991・9	48	5	
	弥生土器		No.2トレンチ中央6層		1991・9	49	6	
	弥生土器		No.2トレンチ中央6層		1991・9	50	6	
	弥生土器		No.2トレンチ中央 No.2トレンチ東部		1991・9	51	6	
	弥生土器		No.2トレンチ東2層, 3層, 4層, 4.5層, 5層		1991・9	52	8	
	弥生土器		No.2トレンチ西部, No.2トレンチ1層 No.2トレンチ西上層		1991・9	53	6	
	弥生土器		No.2トレンチ西1層, No.2トレンチ9層 No.2トレンチ西8層, No.2トレンチ10層		1991・9	54	7	
	弥生土器		No.2トレンチ西, No.2トレンチ西端 No.2トレンチ西10層, No.2トレンチ		1991・9	55	6	
	弥生土器		No.3トレンチ, No.3トレンチ上層		1991・9	56	6	
	弥生土器		No.3トレンチ上層 No.3トレンチ貝層		1991・9	57	5	
	弥生土器		No.3トレンチ貝層, No.6トレンチ No.3トレンチ貝層下, No.7トレンチ		1991・9	58	7	
	弥生土器		No.8トレンチ, No.12トレンチ, 1区貝層下 No.10トレンチ, 1区		1991・10	59	8	

车田寄遺跡 (略号 MTY-E₂・E₃)

地区名	種別	時代	遺構	名	出土年月	コンテ番号	袋数	備考	
MTY-E ₂	弥生土器		2区 2区貝層		1991・12	60	7		
	弥生土器, 須惠器破片		4区南貝層		1991・12	61	6		
	弥生土器		4区南貝層		1991・12	6	5		
	弥生土器		4区南貝層		1991・12	63	6		
	弥生土器		4区南貝層		1991・12	64	6		
	弥生土器		4区南貝層		1991・12	65	6		
	弥生土器		4区南貝層		1991・12	66	6		
	弥生土器		4区南, 4区北面		1991・12	67	6		
	弥生土器		4区北面貝層		1991・12	68	6		
	弥生土器		4区北面貝層		1991・12	69	5		
	弥生土器		4区貝層		1991・12	70	5		
	弥生土器		4区貝層		1991・12	71	6		
	弥生土器		4区貝層		1991・12	72	6		
	弥生土器		4区貝層		1991・12	73	6		
	弥生土器		4区貝層		1991・12	74	10		
	MTY-E ₃	弥生土器		P101, P103, P103, P105, P107 P108, 110, 113, 115, 118, 122, 124, 126, 129, P130, 131, 132, 137, 138, 141, 142, 145, 146, P147, 148, 150, 154, 155, 156, 157, 158, 159		1991・12	75	42	
		弥生土器		P160, 161, 162, 163, 167, 168, 169, P170, 172, 174, 177, 179, 180, 181		1991・12	75	14	
弥生土器			L17G, L18G, N16G, N11G, N13G, N17G, M16 G, M19G, O11G, O10G, O12G, O14G, O15G, O16 G, O17G		1991・12	76	19		
弥生土器			P10G, P11G, P12G, P14G, P15G, Q8G, Q10G, Q11 G, R180		1991・12	77	22		
弥生土器			SE301, SK304, SE307, SE310, SE302, SE305, SO308, SD303, SK306, SK309		1991・10	77		MTY-E ₃	

遺跡 II種

车田奇遺跡 (略号 MTY-E₃)

地区名	種別	時代	遺構	名	出土年月	コンテナ番号	袋数	備考
MTY-E ₃	弥生土器			SE311, SD315, SK318, SK321, SK312, SK316, SK319, SK313, SK317, SK320	1991・10	78	10	
	弥生土器			SD322	1991・12	79	5	
	弥生土器			SD322	1991・12	80	6	
	弥生土器			SD322	1991・12	81	5	
	弥生土器			SD322, SD322, No.2 トレンチ	1991・10	82	6	
	弥生土器			SD322, No.2 トレンチ	1991・10	83	6	
	弥生土器			SD322, No.2 トレンチ	1991・10	84	6	
	弥生土器			SD322, No.2 トレンチ, SK327, SK323, SK325, SK328, SK324, SK326	1991・10	85	10	
	弥生土器, 須恵器破片			SK328, SK332, SK335, SK329, SK333, 4層, SK336, SK331, SK334, SK338	1991・10	86	13	
	弥生土器			SK329, SD340, SD341	1991・10	87	5	
	弥生土器			SD341, SK342, SK343, SK344	1991・10	88	8	
	弥生土器			SK345, SK347, SK353, SK356, SK346, SK349, SK354, SK357, SK347上層, SK352, SK355, SB859, 4ヒョット	1991・10	89	31	
	弥生土器			SB359, No.5, No.6, No.7, No.8, No.1, No.2, No.3, No.4, No.6, No.7, No.8, No.9	1991・10	89	15	
	弥生土器			SK363, SK367, No.1 トレンチ, SK365, SK368, SK366, SK369	1991・10	90	10	
	弥生土器			No.1 トレンチ	1991・10	91	5	
	弥生土器			P201, P236, P206, P209, P220, P228, P231, P234, P203, P207, P214, P221, P229, P232, P235, P204, P208, P216, P226, P230, P233, P237	1991・10	92	25	
	弥生土器			B42G, D41G, E43G, C41G, D42G, G28G, O40G	1991・10	93	9	
	弥生土器			G28G, H27G, H36G, G36G, G29G, H28G, I30G, H30G, G29G, H29G, G35G, H36G	1991・10	94	11	
	弥生土器			IH31G, H32, 33 } グリッド I32, 33 }	1991・10	95	6	
	弥生土器			H32, 33 } グリッド I32, 33 }	1991・11	96	6	

牟田客遺跡 (略品 MTY-E₃)

地区名	種別	時代	遺構	名	出土年月	コンテナ番号	袋数	備考
MTY-E ₃	弥生土器		H32, 33 } I 32, 33 }	グリッド	1991・10	97	6	
	弥生土器		H32, 33 } I 32, 33 }	グリッド	1991・11	98	6	
	弥生土器		H32, 33 } I 32, 33 }	グリッド	1991・10	99	6	
	弥生土器		I 32, 33 } H32, 33 }	グリッド 貝塚1区	1991・11	100	2	

遺跡 II種

佐賀市文化財調査報告書第49集

牟田寄遺跡

—E 1・2・3地区の調査—

平成5年3月31日

発行 佐賀市教育委員会
佐賀市栄町1番1号

印刷 (株)昭和堂印刷
佐賀市神野西4丁目1-32